

# 伊藤田城山窯跡群

大分県中津市大字伊藤田4095番地所在遺跡の調査  
中津市文化財調査報告第5集

## 伊賀田城山窯跡群 正誤表

| 頁    | 行   | 誤        | 正                               |
|------|-----|----------|---------------------------------|
| 序文   | 6   | 形成に次くことが | 形成に次くことが                        |
| 例言七. | 13  | 発掘技行課発室長 | 発掘技術開発室長                        |
| 挿図目次 | 2   | 地跡図      | 地形図                             |
| 6    | 17  | T地区      | J地区                             |
| 7    | 136 | 立ち割り状況   | 断ち割り状況                          |
| 11   | 17  | 床面体に     | 床面に                             |
| 11   | 22  | 2目       | 2回目                             |
| 11   | 27  | 10.4m    | 0.4m                            |
| 15   | 24  | 考えられる。   | 考えられる。以下上層(○層)<br>下層(Ⅲa,b層)とする。 |
| 52   | 26  | は 度      | は21度                            |
| 54   | 27  | しにくい遺物   | しにくい。遺物                         |
| 89   | 9   | 関係や不明確   | 関係が不明確                          |
| 90   | 12  | 瓶天井部     | 天井部                             |
| 99   | 26  | 考察       | 考慮                              |
| 108  | 26  | 千倍       | 4倍                              |
| 117  | 14  | 筑紫国造     | 筑紫國造                            |

伊藤田駕跡群全景

卷頭図版1





卷頭図版2

伊藤田城山窯跡群B地区2号窯跡

## 序 文

中津市は大分県の西北端にあり、山国川をへだてて福岡県と境を接しており、南は下毛郡三光村、東は宇佐市に隣接し、北は周防灘を望んでおります。温暖な気候と、母なる河山国川によって形成された肥沃な牛座基盤（沖代平野）を有し、故に古来より数多くの人々が生活を営んでまいりました。これら、人々の生活の跡は痕跡として十中に埋蔵されており、今般その中の一つを発掘調査いたしました。この遺跡は伊藤田城山窯跡群と名付けられているものであり、当地に現在の最先端技術である L S I 工場用地造成が行なわれるために調査が実施されたものであります。窯跡も当時としては最先端技術の工場であり、一千数百年をへだてて同じ地に古代と現代の最先端の工場が建つことは誠に奇縁であります。

この報告書は、中津市教育委員会が中津市土地開発公社より依頼されて昭和58年度に実施した中津市大字伊藤田所在の伊藤田城山窯跡群の発掘調査の記録であります。

報告書を刊行するに当り、この報告書が学術的に活用されることはもちろんのこと、埋蔵文化財の保護と理解、普及、そして郷土の歴史研究の一助となれば幸いであります。

最後に、この調査に際し終始指導いただきました大分県教育庁文化課をはじめ関係各位、並びに諸先生方、また現場にて快く御協力いただいた関係業者各位、さらに炎天下で調査に携わっていたいただいた地元の方々に対して心より感謝の意を表する次第であります。

昭和 60 年 3 月 31 日

中津市教育委員会

教育長 古野代代

## 序 文

中津市は大分県のテクノポリス構想によりノースウイングと呼ばれる地域の中核都市として位置づけられていますが、この構想に沿い市の中心部から東南へ7kmの城山丘陵地に城山地区農村工業用地造成を計画した中津市から、中津市土地開発公社に用地の取得、並びに造成の依頼がありました。当、土地開発公社はこれを受け造成に先立ち埋蔵文化財の事前発掘調査を中津市教育委員会に委託しました結果、計画区域内に遺跡が発見されるにおよび、埋蔵文化財が地域の歴史や文化の形成に次ぐことが出来ず、先祖の貴重な遺産を後世に残す事は現世代の責務であるという考え方方に立脚し、大分県教育委員会や関係者各位の御指導、御協力のもとに、市教育委員会に発掘調査を実施していただきました。調査の結果は本書に述べられているように素晴らしいものであります。

私共はこのような調査に寄与できた事を誇りに考え、今後とも一層文化財の保護に努力致したいと考えております。この度の調査報告書の発刊を心からお慶び申し上げますとともに、本書の活用を大いに仰ぎ文化財保護の一助となれば幸甚であります。

終りに、調査にあたり終始熱心に取り組んでいただいた中津市教育委員会担当職員の方々、並びに御指導いただいた諸先生方、さらに大分県教育委員会文化課をはじめ関係者各位に対し深甚の謝意を表する次第であります。

昭和60年3月31日

中津市土地開発公社

理事長 江利角末好

## 〔例 言〕

- 一、本書は中津市土地開発公社による農村工業団地（造成後大分日本電気株式会社に譲渡）の敷地造成工事に伴い実施された、伊藤田城山窓跡群の緊急発掘調査報告書である。
- 二、調査は中津市土地開発公社の委託を受けた中津市教育委員会が主体となり、大分県教育庁管理部文化課の指導を受け実施した。
- 三、調査期間は次の通りである。

昭和58年4月23日～6月10日 予備調査

昭和58年6月15日～12月2日 本調査

昭和58年12月4日～昭和60年3月31日 整理作業

- 四、調査期間中下記の方々には現地にて御指導、御助言をいただいた。

別府大学教授 賀川光夫氏・北九州市立考古博物館長 小田富士雄氏・奈良大学教授 水野正好氏・九州大学助教授 西谷 正氏・別府大学助教授 橋 昌信氏・立正大学講師 池上悟氏・大分県文化課文化財専門員 後藤宗俊氏・同主任 清水宗昭氏（現主査）・同主任 村上久和氏・同主任 芝 敏氏・同主任 小林昭彦氏・大分県立宇佐風土記の丘調査民俗資料館 調査課長 甲斐忠彦氏・同学芸課研究員 山田折伸氏・同 岩木仁蔵氏（県人分工業高校教諭）・福岡県立戸畠商業高校教諭 米田欽也氏

この他大分県文化課をはじめ大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館の方々には整理作業中有意義な御助言をいただいた。

- 六、調査員の構成は次の通りである。

調査主体 中津市教育委員会

調査責任者 教育長 江藤 覚（昭和59年11月まで）

古野代代（昭和59年1月4日より）

庶務 中津市土地開発公社 理事長 八並操五郎（昭和59年3月31日まで）

江利角末好（昭和59年4月1日より）

常務理事 植山香月

事務局長 稻付文夫（昭和59年3月31日まで）

小林正夫（昭和59年4月1日より）

事務員 小原明美

中 清二（昭和59年1月31日まで）

若山 優（昭和58年10月31日まで）

建設部上木課 課長 渡辺 修

技師 寺本英隆

中津市教育委員会 社会教育課長 大木代一（昭和59年3月31日まで）

同 係 長 原田知宣（ 同 ）  
主 事 上田恵利子（ 同 ）  
“ 奥田吉弘（ 同 ）  
市民文化センター館長 阿知波豊明（昭和59年4月1日より）

調 査 員 大分県文化課 主 任 洪谷忠章（現主任）  
“ 玉永光洋  
主 事 小柳和宏  
嘱 託 江田 雄（現主任）  
中津市教育委員会 主 事 田中布由彦  
嘱 託 栗焼憲児

調査補助員 別府大学学生 上居和幸

七、磁気探査については奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター研究指導部発掘技術開発室長西村康氏の手をわざらわせ、併せて調査結果について執筆をお願いした。

八、熱残留磁気の測定では島根大学理学部物理学科時枝克安。伊藤晴明尚氏の手をわざらわせ、併せて調査結果について執筆をお願いした。

九、整理作業については我毛温子、秋吉三和子、の協力があった。

十、本書の編集、執筆は主として栗焼が行ない、一部田中が行なった。写真撮影は小野が行ない、その他細部については県文化課諸氏の御指導をうけた。

十一、尚、調査にあたっては現場工事を担当した豊洋土建株式会社（代表 烟迫強）、田村建設株式会社（代表 村口猛俊）、鎮西建設有限会社（代表 鎮西邦宏）、株式会社中山組（代表 中山正徳）、有限会社真辯組（代表 真辯和人）には作業員等について多大な協力を得た。また現地では大下信生氏（豊洋土建株式会社）をはじめ各現場監督の方々に大変お世話になった。さらに福岡県立築上西高校考古学部（顧問 座小川勉）、三保の文化財を守る会（会長 藤永義高）、中津市文化財調査委員会の方々には終始御協力をいただいた。記して感謝する次第である。

十三、また、本文中の土器観察表の備考欄のAは色調、Bは硬度、Cは残存率を表わす。法量の( )内は推定値である。

## 目 次

|   |     |
|---|-----|
| 第1章 地理と歴史的環境 .....                            | 1   |
| 第2章 調査の経過.....                                | 6   |
| 第3章 調査の概要.....                                | 9   |
| 第4章 遺構と遺物.....                                | 11  |
| 1. A地区.....                                   | 11  |
| 2. B地区.....                                   | 50  |
| 3. J地区.....                                   | 82  |
| 4. O地区.....                                   | 86  |
| 第5章 まとめ.....                                  | 89  |
| 1 遺物の分類.....                                  | 89  |
| 2 考察.....                                     | 99  |
| 3 結果.....                                     | 103 |
| 付論 1. 磁気探査の結果.....                            | 108 |
| 付論 2. 伊藤田城山窯跡A地区2号窯及び<br>3号窯の考古地磁気年代について..... | 115 |

## 插 图 目 次

|      |                                    |    |
|------|------------------------------------|----|
| 図1   | 中津市内遺跡分布図                          | 2  |
| 図2-1 | A地区 地跡図 ( $S=1/300$ )              | 折込 |
| 図2-2 | A地区 2号窯跡実測図 ( $S=1/60$ )           | 13 |
| 図3   | A地区 2号窯跡灰原土層図                      | 14 |
| 図4   | A地区 3号窯跡実測図 ( $S=1/60$ )           | 14 |
| 図5   | A地区 1号土塙実測図・土層断面図                  | 15 |
| 図6   | A地区 2号土塙実測図・土層断面図                  | 16 |
| 図7   | A地区 灰原出土土器実測図(1) ( $S=1/6$ )       | 19 |
| 図8   | A地区 灰原出土土器実測図(2) ( $S=1/6$ )       | 23 |
| 図9   | A地区 灰原出土土器実測図(3) ( $S=1/6$ )       | 24 |
| 図10  | A地区 灰原出土土器実測図(4) ( $S=1/6$ )       | 26 |
| 図11  | A地区 2号窯体内、灰原出土土器実測図 ( $S=1/6$ )    | 28 |
| 図12  | A地区 1号土塙上層出土土器実測図(1) ( $S=1/6$ )   | 30 |
| 図13  | A地区 1号土塙上層出土土器実測図(2) ( $S=1/6$ )   | 34 |
| 図14  | A地区 1号土塙上層出土土器実測図(3) ( $S=1/6$ )   | 35 |
| 図15  | A地区 1号土塙下層出土土器実測図(1) ( $S=1/6$ )   | 38 |
| 図16  | A地区 1号土塙下層出土土器実測図(2) ( $S=1/6$ )   | 42 |
| 図17  | A地区 1号土塙下層出土土器実測図(3) ( $S=1/6$ )   | 43 |
| 図18  | A地区 1号土塙下層出土土器実測図(4) ( $S=1/6$ )   | 45 |
| 図19  | A地区 2号土塙出土土器実測図 ( $S=1/6$ )        | 47 |
| 図20  | A地区 2号、3号窯跡窯体内出土土器実測図 ( $S=1/6$ )  | 49 |
| 図21  | B地区 地形図 ( $S=1/300$ )              | 50 |
| 図22  | B地区 1号窯跡実測図 ( $S=1/60$ )           | 51 |
| 図23  | S地区 2号窯跡実測図 ( $S=1/60$ )           | 53 |
| 図24  | B地区 灰原土層図                          | 55 |
| 図25  | B地区 灰原土層図                          | 56 |
| 図26  | B地区 2号窯跡、窯体内出土土器実測図(1) ( $S=1/6$ ) | 59 |
| 図27  | B地区 2号窯跡、窯体内出土土器実測図(2) ( $S=1/6$ ) | 61 |
| 図28  | B地区 2号窯跡、排水溝出土土器実測図 ( $S=1/6$ )    | 62 |

|     |   |     |
|-----|---|-----|
| 図29 | B地区 灰原出土土器実測図(1) (S=1%)                   | 65  |
| 図30 | B地区 灰原出土土器実測図(2) (S=1%)                   | 69  |
| 図31 | B地区 灰原出土土器実測図(3) (S=1%)                   | 71  |
| 図32 | B地区 灰原出土土器実測図(4) (S=1%)                   | 75  |
| 図33 | B地区 灰原出土土器実測図(5) (S=1%)                   | 77  |
| 図34 | B地区 灰原出土土器実測図(6) (S=1%)                   | 79  |
| 図35 | J地区 地形図 (S=1/800)                         | 82  |
| 図36 | J地区 灰原出土土器実測図 (S=1%)                      | 83  |
| 図37 | J地区 灰原出土瓦実測図(1) (S=1%)                    | 84  |
| 図38 | J地区 灰原出土瓦実測図(2) (S=1%)                    | 85  |
| 図39 | O地区 地形図 (S=1/800)                         | 86  |
| 図40 | O地区 出土土器実測図 (S=1%)                        | 87  |
| 図41 | 須恵器型式分類図 (1)                              | 91  |
| 図42 | 須恵器型式分類図 (2)                              | 92  |
| 図43 | A地区 灰原 坏長巾指數分布図                           | 100 |
| 図44 | A地区 1号土塗上層 坏長巾指數分布図                       | 100 |
| 図45 | A地区 1号土塗下層 坏長巾指數分布図                       | 101 |
| 図46 | A地区 2号土塗 坏長巾指數分布図                         | 101 |
| 図47 | B地区 2号窯体内 坏長巾指數分布図                        | 102 |
| 図48 | B地区 灰原 坏長巾指數分布図                           | 102 |
| 図49 | 探査結果 (1)                                  | 112 |
| 図50 | 探査結果 (2)                                  | 113 |
| 図51 | 探査結果 (3)                                  | 114 |
| 図52 | A地区 2号、3号窯跡の試料採取場所                        | 119 |
| 図53 | 熱残留磁気測定結果                                 | 120 |
| 図54 | 西日本における地磁気年変化と<br>A地区 2号及び3号窯跡の熱残留磁気の平均方向 | 120 |
| 別図  | 伊藤田城山窯跡群地形図 (S=1/1000)                    |     |

## 図 版 目 次

- 巻頭図版 1 伊藤田窯跡群全景
- 巻頭図版 2 伊藤田城山窯跡群B地区 2号窯跡
- 図版 1 伊藤田城山窯跡群全景（南から）
- 図版 2 全 景
- 1) 調査前（西から）
  - 2) 現状（大分日本電機株式会社）（北から）
- 図版 3 調査風景
- 1) 試掘調査
  - 2) 磁気探査
- 図版 4 A地区的調査 (1)
- 1) A地区検出状況（西から）
  - 2) A地区完掘状況（西から）
  - 3) A地区灰原（西から）
- 図版 5 A地区的調査 (2)
- 1) A地区 2号窯跡検出状況（西から）
  - 2) A地区 2号窯跡完掘状況（西から）
  - 3) A地区 2号窯跡土馬出土状況
- 図版 6 A地区的調査 (3)
- 1) A地区 3号窯跡検出状況（西から）
  - 2) A地区 3号窯跡完掘状況（西から）
  - 3) A地区 2号窯跡熱残留磁気の測定用サンプル採集状況
- 図版 7 A地区的調査 (4)
- 1) A地区 1号土塙検出状況
  - 2) A地区 1号土塙（西から）
  - 3) A地区 2号土塙完掘状況（西から）
- 図版 8 B地区的調査 (1)
- 1) B地区検出状況（西から）
  - 2) B地区完掘状況（西から）

図版9 B地区の調査 (2)

- 1) B地区 1号窯跡検出状況（西から）
- 2) B地区 1号窯跡完掘状況（西から）
- 3) B地区 1号窯跡窯体断面（西から）

図版10 B地区の調査 (3)

- 1) B地区 2号窯跡遺物出土状況（西から）第1次床面と第2次床面
- 2) B地区 2号窯跡遺物出土状況（正面から）第1次床面と第2次床面
- 3) B地区 2号窯跡 第1次床面遺物出土状況

図版11 B地区の調査 (4)

- 1) B地区 2号窯跡 土層断面（北から）
- 2) B地区 2号窯跡 土層断面（北から）
- 3) B地区 2号窯跡 第1次床面B類坏検出状況

図版12 B地区的調査 (5)

- 1) B地区 2号窯跡 第2次床面検出状況（西から）
- 2) B地区 2号窯跡 第1次床面と第2次床面の比較（正面から）
- 3) B地区 2号窯跡 第1次床面検出状況（西から）

図版13 B地区的調査 (6)

- 1) B地区 2号窯跡 壁面成形痕（南から）
- 2) B地区 2号窯跡 第1次壁面と第2次壁面（岩石で代用）の比較（北から）
- 3) B地区 2号窯跡 溝土層断面

図版14 B地区的調査 (7)

- 1) B地区 2号窯跡及び溝完掘状況（西から）
- 2) B地区 2号窯跡 第1次床面完掘状況（西から）
- 3) B地区 2号窯跡 第1次床面完掘状況（正面から）

図版15 B地区的調査 (8)

- 1) B地区 灰原遺物検出状況（西から）
- 2) B地区 2号窯跡焚口付近灰原遺物検出状況
- 3) B地区 2号窯跡焚口付近灰原遺物検出状況

図版16 J地区、O地区的調査

- 1) J地区 灰原検出状況(北から)
- 2) O地区 全景(西から)
- 3) O地区 I号土塁検出状況

図版17 A地区出土土器 (1)

図版18 A地区出土土器 (2)

図版19 A地区出土土器 (3)

図版20 A地区出土土器 (4)

図版21 A地区出土土器 (5)

図版22 A地区出土土器 (6)

図版23 A地区出土土器 (7) B地区出土土器 (1)

図版24 B地区出土土器 (2)

図版25 B地区出土土器 (3)

図版26 B地区出土土器 (4)

図版27 B地区出土土器 (5)

図版28 B地区出土土器 (6)

図版29 B地区出土土器 (7) J地区出土土器及び瓦 (1)

図版30 J地区出土瓦 (2) O地区出土土器

## 第1章 地理と歴史的環境

伊藤田城山窯跡群は中津市の東南部、中津市大字伊藤田4095番地に所在する。

大分県は現在、県北テクノポリス構想に伴う道路大系の整備や、先端技術産業の誘致、さらに通信網の整備などが進められている。中津市もこれらテクノポリス構想のノース・ウイングの一翼をなす地方中核都市としての位置づけがなされ、国道10号線北大バイパス道路中津ルートの建設が急ピッチで進められている。そして、今回発掘調査を実施した伊藤田4095番地に建設された大分日本電気株式会社（社長、山本三郎）は県北テクノポリスの中心的存在として内外の関心を集めている。

このように県北テクノポリス構想の一翼をなす中津市は大分県の北端、山国川を挟んで福岡県と接する地方中核都市である。この山国川の下流域に広がる沖代平野は県北最大の平野であり、中央部を山国川の支流である鶴瀬川と白見川が流れ肥沃な土地を形成している。この沖代平野が中津地方の古代社会に与えた恩恵は計り知れないものがあり、特に律令時代においてはその経済基盤となる条里制が敷かれ当時の最も重要な地域として確立されていたと考えられる。この沖代平野の東には広大な洪積台地が広がる。下毛郡三光村大字下深水の御峰に端を発する犬丸川は八面山の北東部を北西に流れ中津市黒水付近で大きく迂回した後この洪積台地を分断する様に北東へ流れ、周防灘に注ぐ。この犬丸川より西を下毛原台地と呼び東を長峰原台地と言う。これら洪積台地上には多くの古代遺跡、特に縄文時代～古墳時代のものが多く認められる。この洪積台地を壠うように八面山(659m)から舌状台地がなだらかなスロープを描きながら延び、入り組んだ大小の谷を形成している。伊藤田城山窯跡群の所在する伊藤田地区は、まさに八面山から伸びる標高約40mの舌状台地と前面に広がる長峰原台地とが接する地域である。さらに付近は、中央部を犬丸川が下毛原台地と東西して北東へと流れ、この犬丸川と長峰原台地がもたらす肥沃な風土をもとに水田が広がり闊な田園地帯を形成している。年間の平均気温は16℃前後、降水量は1400mm前後と比較的穏やかな気候である。

この様な地形を有する中津市では現在市内78カ所で古代遺跡の確認がなされている。次にこれら遺跡について概観してみたい。

旧石器時代について現在確かなものは2カ所にすぎない。1カ所は相原で発見されたが詳細は不明である。もう1カ所は洞ノ上地区の才木遺跡で発見されており、これは無斑昌流紋岩を素材とした剣片であり、周縁部に若干の鉄こぼれが認められる。しかし、周辺地域、特に隣接する宇佐市などではまとまった資料が得られており、中津市でも今後の調査に期待したい。

次に縄文時代の遺跡についてみると、大分県下の縄文時代研究において、大きな成果を上げた植野貝塚、入須貝塚、高畠遺跡などがみられる。

圖 物 品



図1 中津市内遺跡分布図

| No | 遺跡名      | 種別  | 所在地 | No | 遺跡名      | 種別    | 所在地 |
|----|----------|-----|-----|----|----------|-------|-----|
| 1  | 鍋島古墳     | 古墳  | 今津  | 40 | 下池水遺跡    | 散布地   | 池永  |
| 2  | 鍋島遺跡     | 散布地 | *   | 41 | 全德遺跡     | 散布地   | 合馬  |
| 3  | 若葉古墳     | 古墳  | 今津  | 42 | 相原庵寺     | 寺院    | 相原  |
| 4  | 植野貝塚     | 貝塚  | 植野  | 43 | 三口遺跡     | 包含地   | 上ノ原 |
| 5  | 植野御陵遺跡   | 散布地 | *   | 44 | 七万田遺跡    | 包含地   | 万田  |
| 6  | 植野古城遺跡   | 散布地 | *   | 45 | 高瀬遺跡     | 包含地   | 高瀬  |
| 7  | 野依古墳     | 古墳  | 野依  | 46 | 高畑遺跡     | 包含地   | *   |
| 8  | 松尾遺跡     | 散布地 | *   | 47 | 豊田小学校遺跡  | 包含地   | 豊田町 |
| 9  | 是則塚      | 古墳  | *   | 48 | 龜山古墳(消滅) | 古墳    | 合馬  |
| 10 | 黒川古墳     | 古墳  | 伊藤田 | 49 | 沖代条里遺構   | 条里    | 沖代町 |
| 11 | 大池窯跡     | 窯跡  | 野依  | 50 | 野依条里遺構   | 条里    | 野依  |
| 12 | 瓦ヶ迫窯跡    | 窯跡  | *   | 51 | 大悟法条里遺構  | 条里    | 大悟法 |
| 13 | 野依追ノ谷遺跡  | 散布地 | *   | 52 | 大池窯跡     | 窯跡    | 野依  |
| 14 | 越ヶ迫窯跡群   | 窯跡  | *   | 53 | 草場窯跡     | 散布地   | 伊藤田 |
| 15 | 穂谷窯跡群    | 窯跡  | *   | 54 | 草場窯跡     | 窯跡    | 伊藤田 |
| 16 | 野依烽火台    | 烽火台 | *   | 55 | 城山窯跡群    | 窯跡    | 伊藤田 |
| 17 | ゴンゲ遺跡    | 散布地 | *   | 56 | 大谷窯跡群    | 窯跡    | 伊藤田 |
| 18 | 大谷窯跡群    | 窯跡  | *   | 57 | 才木遺跡     | 散布地   | *   |
| 19 | 城山横穴群    | 横穴  | 伊藤田 | 58 | 洞ノ上窯跡    | 窯跡    | *   |
| 20 | 城山古墳群    | 古墳  | *   | 59 | 入堀貝塚     | 貝塚    | 福島  |
| 21 | 洞ノ上横穴群   | 横穴  | 伊藤田 | 60 | 棒垣遺跡     | 包含地   | *   |
| 22 | 城土遺跡     | 散布地 | 伊藤田 | 61 | 福島地下式横穴  | 横穴    | *   |
| 23 | 福島遺跡     | 包含地 | 福島  | 62 | 北原第3遺跡   | 散布地   | 北原  |
| 24 | 三保遺跡     | 包含地 | *   | 63 | 大悟法窯跡    | 散布地   | 大悟法 |
| 25 | 田丸遺跡     | 城跡  | *   | 64 | 中原遺跡     | 散布地   | 中原  |
| 26 | 長久寺貝塚    | 貝塚  | *   | 65 | 上池永遺跡    | 散布地   | 池永  |
| 27 | 北原遺跡     | 散布地 | 北原  | 66 | 西永添遺跡    | 散布地   | 永添  |
| 28 | 北原第2遺跡   | 散布地 | *   | 67 | 勘助野地遺跡   | 填墓    | 上ノ原 |
| 29 | 土木貝塚     | 貝塚  | *   | 68 | 上ノ原横穴群   | 横穴    | *   |
| 30 | 定留貝塚     | 貝塚  | 定留  | 69 | 沖代小学校遺跡  | 水田跡?  | 沖代町 |
| 31 | 黒水遺跡     | 散布地 | 加米  | 70 | 合馬遺跡     | 散布地   | 合馬  |
| 32 | 上ノ原遺跡    | 包含地 | 上ノ原 | 71 | ガラヌノ遺跡   | 古墳・墓跡 | 合馬  |
| 33 | 帶旗郡古墳    | 古墳  | *   | 72 | 舞手橋東段上遺跡 | 住居跡?  | 田尻  |
| 34 | 相原古墳1、2号 | 古墳  | *   | 73 | 是能遺跡     | 散布地   | 定留  |
| 35 | 坂手隈横穴群   | 横穴  | *   | 74 | 和間貝塚     | 貝塚    | 定留  |
| 36 | 坂手前横穴    | 横穴  | *   | 75 | 諸田遺跡     | 散布地   | 今津  |
| 37 | 吉遺跡      | 散布地 | *   | 76 | 中津城跡     | 城跡    | 二ノ丁 |
| 38 | 永添中岡遺跡   | 包含地 | 永添  | 77 | 停車場遺跡    | 散布地   | 今津  |
| 39 | 梶屋遺跡     | 散布地 | *   | 78 | 植野遺跡     | 散布地   | 植野  |

表1 中津市内遺跡地名表

昭和24年、中津南高校クランド整備中発見された高畠遺跡は、当時九州で最初の土偶出土遺跡として注目された。作出した土器からすれば後期後半の時期が考えられるが、遺構など詳細は不明である。

中津市大字植野に所在する植野貝塚は昭和30年、別府大学賀川光夫教授らにより調査がなされ、縄文時代後期の有望な貝塚であることが確認された。出土した遺物をみると、土器は所謂磨削縄文土器であり瀬戸内海地域の影響を予想させる。またこの他石器や貝類（ハマグリ、シジミ、など）獸骨（イノシシ、ニホンジカ、ヤマイヌ等）、魚骨（マダイ、クロダイ）などが発見されている。昭和46年には入垣貝塚（大字福島）の調査も行なわれ、やはり植野貝塚とほぼ同様の結果を得ている。さらにこの入垣貝塚のある丘陵上（標高23m）から昭和55年、開発に伴い縄文時代の住居址が発見された。棒坑遺跡と名付けられたこの遺跡は、本米入垣貝塚と同一の遺跡として考えるべきであり、住居址の中からは埋葬された縄文人骨が発見され、麻屋埋葬とも言うべき状況であった。

この他、市内では何ヵ所かの縄文時代遺跡が知られるがほとんどが後期の遺跡である。その中で昨年度調査された才木遺跡では古い様相をもつ石器が検出されているが、土器が伴出してない為明確ではない。これら縄文時代遺跡の分布をみると、高畠遺跡を除き、全て下毛原、長峰原両洪積台地に立地していることが指摘できる。

この様な縄文時代遺跡に対し弥生時代の遺跡は山国川西岸の自然堤防上を中心に分布する。高畠遺跡、豊田小学校遺跡、上万田遺跡などが知られるが、いずれも詳細は不明である。その中で一応調査が行なわれた上万田遺跡を中心にその概略をみると、前期はその存在は認められるものの内容的には全く不明と言わざるをえない。ただ山国川を挟んだ対岸の福岡県筑上郡新吉富村中綱野遺跡では前期末～中期初に至る良好な資料が得られており、今後中津市でも注意しなければならない。中期になると高瀬遺跡を中心に広範囲にわたり遺物の分布が認められる。また三保地区でも断片的に資料が出土しており、これらはいずれも須恵式土器の影響を強く受けている。後期では上万田遺跡などで良好な資料が得られる。資料はカメ棺などが出土しており、刻目宽带を有し、複合口縁のものも認められる。底面は平底が多い。これらをみると、豊前埴輪と豊後地域いずれの伝統も残されているが、全体的な傾向は整理が不十分なため判明しない。

上万田遺跡では、別に古墳時代前期の資料も認められている。これらは一般に豊後地域のごとく、在地系要素が強いタイプとは異なり、より畿内系要素が強く現れている。これは一つに瀬戸内海に接する地理的条件と、豊前という地域の社会情勢を強く反映しているものとして考えることができる。時期的には布留式の新段階であり、北部九州では次第に在地系土器の伝統が失われてゆく時期と考えられる。

この上万田遺跡に先行する時期として考えられるのが豊田小学校遺跡である。資料は校舎増築の際に発見され現在並が1点のみ同校に保管されている。これは分割成形技法を用いた球茎を有するもので庄内式の時期と考えられ、中津地方で最古式の土師器である。これら上万田、豊田小学校両遺

跡について、内容は十分調査されていないが、いずれも住居址群が存在していた可能性が強い。このことからすれば、山国川東岸の自然堤防上には櫛文時代後期から、古墳時代にかけて中津地方の中心的地区であったと言えよう。また、墓制については不明な部分が多くたが、近年県文化課によって調査された上ノ原横穴墓群や勘助野地遺跡によってその実態が明らかになりつつある。両遺跡は県道を隔て接しており、現在の行政区画では上ノ原横穴墓群は下毛郡三光村になる。これらの変遷をみるとまず5世紀中頃に勘助野地で方形周溝墓が造られ、後半になると上ノ原第Ⅰ期の横穴墓が造営される。その後6世紀前～中頃に第Ⅱ期、6世紀後半に第Ⅲ期の造営が行なわれ、この時点で横穴墓の造営は終り、後は7世紀前半まで追善が行なわれるにすぎない。恐らく中津地方においてはこうした横穴墓の造営がさかんに行なわれ、6世紀後半にその最盛期を迎えると言ってよい。これは高冢古墳の数が少ない事から導き出されるものであるが、事実、現在破壊されたものも含めて推定される古墳の数は約40基ほどにすぎず、これに対し横穴墓は約400基以上にのぼると考えられる。6世紀以降になるとこの様な墓制に関する追跡に対し、これらを残した人々の集落についてはほとんどその調査例をみない。わずかに昭和57年に調査された草場遺跡の例があるが、単発的なものであり、集落の形態などを把握することはできなかった。また昭和59年度実施された洞ノ上地区的調査でもその尖鋸は捉えられなかった。

これら集落址の尖鋸が不明にもかかわらず、窯業跡の調査は近年さかんに進められている。本書で取り扱う城山窯跡群をはじめ、草場窯跡、瓦ヶ迫窯跡、夜鳴池西窯跡、踊ヶ迫窯跡など所謂伊藤田窯跡群の実態が序々に解明されつつある。伊藤田窯跡群は昭和33年、別府大学賀川光夫教授らにより踊ヶ迫窯跡の調査がなされてから広く一般に知られるようになった。現在までの調査の結果、6世紀後半には少なくとも開窯され、その後8世紀後半～9世紀まで操業が行なわれたと考えられる。また窯数については明確でないものの全体で約50基程度であろうと考えられる。

この後、中津地方では相原庵寺と垂水庵寺が相次いで創建され、沖代平野を中心として条里制が施行される。また駅制も施行されており、宇佐神宮へ向う勅使街道を含め古代の交通を知る上で重要である。勅使街道については『奈多八幡宮 古跡資料』によれば、山国川を渡った後、高瀬、湯屋、大貞、福島、野依を経て宇佐へ向うことが知られる。これと関連して大貞の薦神社が注目されるが、古文書等、資料が散逸しているため詳細は不明である。

これら奈良時代以降の遺跡についても今後調査の待たれるところであるが、現状ではその概要を知るにすぎない。

以上、中津市内を中心としてその概略を述べたが、今後に残される課題は多く今回調査された伊藤田城山窯跡群も伊藤田窯跡群全体の窯跡群の動向の中で捉える必要がある。

## 第2章 調査の経過

県北テクノポリス構想を推進する大分県は先端企業の誘致を進めていたが、昭和57年8月19日、日本電気株式会社(NEC)が中津市大字伊藤田の県立宇佐農業高校実習果樹園への進出を決定し、報道機関への発表がなされた。工事は昭和58年9月から中津市土地開発公社(以下開発公社)による用地造成を行ない、昭和59年度工場建設着手、昭和60年度操業開始とされた。

これをうけて、中津市教育委員会(以下、市教委)では対象地区(115,123m<sup>2</sup>)における埋蔵文化財の取扱いについて大分県教育厅管理部文化課(以下、県文化課)と協議し、必要な措置をとることとした。

昭和58年4月15日、県文化課にて、市教委、開発公社の三社で協議を行ない ①費用については開発公社が負担する ②試掘調査は市教委が行なう ③遺構の確認がなされた場合、関係各課は速やかに協議を行う、以上3点について確認をした。

以下、調査の経過を記す。

### 一、試掘調査

昭和58年 4月18日 現地観察。

4月19日 県文化課にて調査区を設定、A～K地区の10地区とする。

4月23日 試掘調査開始。

4月26日 T地区で須恵質瓦検出。

5月9日 A区で灰原検出。

5月18日 B地区で窯体検出。

5月19日 県文化課市教委、市関係各課で協議 ①造成工事と調査を併行して行なえるか。②試掘調査期間の延長。③関係各課の連絡を密にする。

5月31日 奈良国立文化財研究所に磁気探査を依頼。

6月2日 磁気探査の準備。

6月3日 別府大学飯川光夫教授、県文化課後藤宗俊専門員視察。

6月4日 A地区で窯体検出。

6月6日 奈良国立文化財研究所、西村麻氏来訪。磁気探査開始(M地区)

6月10日 磁気探査終了(J、N、L、B地区)。試掘調査終了。

6月11日 機材搬出。

6月14日 中津市役所にて県文化課、県工芸課、市教委、開発公社、市総務部長、市産業振興部長、市企画課、市商工観光課で、試掘調査の結果をふまえて今後の取扱いを協議。その結果、①A、B、J地区について本調査を実施 ②工事計画と発掘調査計画の調整 ③県文化課より職員の派遣 ④調査費

用の算定を確認する。

## 二、本調査

- 6月15日 本調査区伐採開始。
- 7月20日 伐採終了。
- 8月1日 本調査開始。A地区表土剥ぎ（重機）
- 8月4日 A地区調査開始。
- 8月5日 A-1号窯跡検出。天井部陥没。
- 8月10日 A-2号窯跡検出。
- 8月19日 別府大学賀川光夫教授、県文化課後藤宗俊専門員来訪。工事工程の都合でB地区も併行して調査を行なうこととする。
- 8月22日 B地区表土剥ぎ開始。北九州考古博物館小田富士雄氏来訪。
- 8月26日 B-1号窯跡検出。A地区杭打ち。
- 9月3日 B地区で磁気探査によるマーク地点の確認を行なうが、窓体は検出されなかった。
- 9月6日 A地区地形測量開始。B地区灰原表土剥ぎ開始。
- 9月7日 B地区灰原Grid設定。
- 9月8日 A地区地形測量終了。B地区灰原掘り下げ。
- 9月9日 B地区地形測量開始。
- 9月14日 B-1号窯跡掘り下げ。
- 9月16日 B-3号窯跡検出。
- 9月21日 B-1号窯跡土層断面図作成。
- 9月24日 J地区表土剥ぎ開始（重機）
- 9月29日 J地区Grid設定。掘り下げ。
- 10月1日 B-2号窯跡掘り下げ。B-1号窯実測。
- 10月3日 追加買収の地区について、重機による試掘を開始。  
北九州考古博物館々長小田富士雄氏來訪。
- 10月4日 J地区灰原写真撮影、地形測量及び灰原範囲丈測。  
追加買収地区（O地区）の取扱いについて開発公社と協議。
- 10月6日 J地区斜面について窓体の確認作業を行うが、すでに削平されており調査を終了する。B-2号窯跡で2回の探査を確認。
- 10月11日 O地区取扱いについて県文化課、開発公社を交え協議を行う。その結果、当該地区では遺物包含層は認められるものの、造構の検出がなされないとなどから、埋蔵保存とし、埋立を行うこととした。
- 10月12日 O地区調査終了。九州大学西谷正助教授來訪。
- 10月14日 B-2号窯跡出土状況写真撮影実測。B-1号窯北側落ち込み部分実測。
- 10月15日 B地区灰原出土状況写真撮影。取り上げ、B-1号窯跡立ち割り状況写真撮影。
- 10月17日 B-1号窯跡全体写真。B-2号窯跡出土状況写真撮影。出土状態実測

- (平面、断面見通し)。排水溝出土状態実測(平面断面見通し)。
- 10月18日 B地区灰原完掘。全景写真。
- 10月21日 A地区築構検出状況全景写真。  
B—2号窓跡1回目床面検出。
- 10月22日 A地区について保存等協議(開発公社)その結果3号窓跡については完掘1号窓跡と2号窓跡の一部については現状保存とする。  
A—1号土塁検出。
- 10月24日 B地区灰原上層断面図作成。  
A地区灰原(水田部分)Grid設定後掘り下げ。
- 10月25日 B—2号窓1回目床面遺物出土状況実測後、取り上げ。
- 10月26日 B地区灰原土層Sectionが除去。
- 10月28日 B地区全景写真、調査終了。  
A地区灰原掘り下げ(焚口付近)
- 10月31日 A地区灰原(焚口付近)完掘。焚口付近では農道により灰層は削平されており、1、2号窓跡焚口と3号窓跡縫道部分も失なわれていた。
- 11月11日 A地区灰原(水田部分)掘り下げ完了。水田部分については遺物は多量に遺存するが、陶磁器等が混入していることから擾乱による2次堆積と断定。立正大学池上悟氏來訪。
- 11月14日 A—2号窓跡検出状況写真。掘り下げ。
- 11月16日 A—3号窓跡検出状況写真、掘り下げ。奈文研、西村康氏來訪。
- 11月19日 A—1号土塁掘り下げ。
- 11月22日 A—2、3号窓跡土層図作成。  
別府大学、樋畠信助教授來訪。
- 11月24日 A—2、3号窓跡上層Section除去、写真撮影。
- 11月25日 A—2、3号窓跡熱残留磁気測定の為、島根大学時枝教授、伊藤助教授來訪。
- 11月26日 A—2号窓跡平面図作成。
- 11月28日 A—3号窓跡平面図作成。A—2号窓跡断ち割り。
- 11月29日 A—1号土塁土層断面図作成。  
A—2号土塁検出、掘り下げ。
- 11月30日 A—2、3号窓跡断ち割り土層図作成。  
A—2号土塁上層断面図作成。
- 12月1日 A—2、3号窓跡全体写真。  
A—1、2号土塁遺物取り上げ。
- 12月2日 A—1、2号土塁平面図作成。  
写真撮影。  
A地区全景写真撮影。  
午後機材撤収。

### 第3章 調査の概要

調査は昭和58年4月23日～6月10日まで予備調査を行ない、次いで同年6月15日～12月2日まで本調査を行った。

#### 予 備 調 査

先ず調査区全体をA～H区までの都合14区に分けて試掘調査を行なった。試掘区域の設定については、対象地域が大分県立宇佐農業高校の実習農園として利用されていたため旧地形が著しく変更されていた部分が多く、これを考慮して行った。したがってすでに削平されていた部分については表面観察にとどめて、また試掘調査区については万余を期するために6ヶ所で磁気探査による調査を行ない、奈良国立文化財研究所の西村康氏に協力いただいた。この磁気探査については後述の付論に詳報を譲りたい。

この結果、A、B、J地区で窯の存在が予想されるに至り、この3地区について本調査を行なうこととした。また、用地買収の関係で一部調査が出来ない地区が生じたため、その部分については本調査を併行して買収が終り次第調査を行うこととした。

#### 本 調 査

昭和58年8月1日より開始された本調査では、途中工事を併行して行われるため、これを考慮してB地区→J地区→A地区の順で作業を行なうこととした。また、未買収地区についてはB地区と併行して行なった。(O地区)

##### ① B地区の調査

B地区では試掘調査で林道により生じたガケ面から窯跡！基が検出されており、前面に灰原が広がることが予想されていた。調査はまず、この窯跡の検出から始められ、これをB-1号窯跡とした。B-1号窯の存在する部分は農園造成の際堆積とした二次堆積上が認められ、燃焼付近では約1m近くにも達した。このB-1号窯跡は窯全体のほぼ4分の1程度が林道建設による削平で尖なわれており、焚口、及び燃焼部は存在しなかった。灰原については全体に2×2mのグリッドを設定し、B-1号窯跡の主軸線を基準として南側にS1～S6、北側にN1～N8とし、灰原斜面上部から下部にかけてα、β、a～iとした。この灰原調査中にB-1号窯跡の斜前方、林道の辺部から小型の窯跡が検出されたため、これをB-2号窯跡とした。B-2号窯跡も1号と同様、林道による削平がなされており、焼成部途中から煙道にかけてと、焚口部が一部失なわれていた。この他、B地区では磁気探査の際注意された地点があったが、この部分について窯跡は確認されなかった。また試掘の際林道中央部で確認された落込みについては、農園を営んでいた頃のものと判明した。

##### ② J地区の調査

J地区では試掘の時点で須恵質瓦が検出されており、これに伴う灰原が確認されていた。従って調査はこの灰原の範囲を把握し、さらに上方に広がる斜面について窯体の検出に努めた。

灰原の調査では前方の斜面に直交する形で $2 \times 2$ mのグリッドを設定し、各々縦方向にA～G、横方向に1～14とした。これは試掘段階で前方の斜面に窓体が存在する可能性が極めて低い状況にあったため、事実、斜面は農園造成の際、段々畝状に削平がなされており、窓体は検出できなかった。

また、灰原の末端部分は後世の水田開発の際にかなりの削平をうけていたことが判明し、結局、J地区では灰原のみがベルト状に残されていたにすぎなかった。

#### ④ A地区の調査

A地区では試掘により窓1基が確認されていた。これを中心として原地形を保つと考えられる斜面全域について調査を行ない、窓跡3基、土塙2基、溝1本を確認した。窓跡は南側よりA-1号、2号、3号窓跡とし、土塙は北側よりA-1号、2号上塙とした。灰原部分については後世の水田開発により大きく削平されていた。しかし、調査の万余を崩すためにA-2号窓跡の主軸線を基準として $2 \times 2$ mのグリッドを設定し、南側からa、b、c、……sとし焚口より下方に1～4とした。しかし、水田からはやはり2次堆積による資料が得られたにすぎなかった。

土塙はいずれも水田側半分が削平された状況であったが、灰原の堆積状況は良好であり、土器留と考えられた。

1号、2号窓跡は斜面下部を遮る林道により焚口を削平されていたが、窓体上部は比較的良く遺存していた。3号窓跡は焚口を水田開発により削平され、焼道は林道により失なわれていた。

A地区についての計画上では緑地帯となっていたため、極力保存に努めたが、造成地周辺の保安道路建設との関係で現状保存ができたのは1号窓跡だけであった。

#### ⑤ O地区の調査

O地区は頃初の造成には含まれていなかったが、後に追加買収がなされたため、試掘調査を行なった後、本調査とした。このO地区は丘陵地形であるため上位の比較的平坦な面を中心に造構の検出に努め、斜面については窓体の確認に努めた。その結果、丘陵上では開墾等による削平がなされていたらしく、造構は検出できなかった。また斜面では窓体は確認されなかったが、上下2層の包含層が認められ、上層では須恵器、下層では弥生式土器の一括資料が検出された。これらの結果をもとにO地区では包含層の範囲の確認を行ない、基礎的資料の把握に努めた。

以上、各地区の概要を記したが、やはり前述の如く農園造成による遺跡の破壊は著しく、窓跡が検出されたのはわずかに原地形を保っていた地区のみであった。したがって、農園の造成以前にはまだ多くの窓跡が存在していた可能性を指摘でき、今後に残された課題が多い。

## 第4章 遺構と遺物

### 1. A 地区

#### 1号窯跡

現状保存のため未掘であるが、検出時全長11.8m最大巾1.7mを測る。検出した窯壁から判断すれば8m程度の窯2基が重複していると考えられ、仮に上方を1a窯、下方を1b窯とした場合、1a窓が1b窓を切っており前後関係の把握が可能である。また窯跡の左側部には排水溝と思われる溝を確認しており、共有もしくは1a窓に付随するものと考えられる。焚口部分は農道により削平されており、おそらく燃焼部途中で消失していると考えられる。床面の傾斜角は不明であるが、地山面の角度から判断すれば約20度程度と思われる。主軸方向はN-55°33'-Eである。

#### 2号窯跡

全長9.81m、最大巾1.3mを測る。褐色の火山灰（那馬溪起源）層に掘り込まれた、半地下式無階無段登窯の構造を有するものである。主軸はN-50°03'-Eを示し、変換点の床面傾斜角は17度である。窯体は焼成部途中で膨らみ燃焼部途中で扁し焚口に向ってやや開いており、いわゆる德利形を呈する。また天井部は全て陥落している。

焚口部分は農道によりやや削平されており、灰原へ続く土壠は確認できなかった。現存での床巾は0.89mを有し燃焼部にかけて凹穴を有する。

燃焼部は途中で屈曲し、床巾0.85mと最小になる。燃焼部は床面体に巾0.87×縦1.45mの楕円形の凹穴を有し、含土に若干カーボンが混入する。焼成部へ向う床面傾斜の変換点は比較的ゆるやかに変化し不明瞭である。焼成部との境は床巾1.13mを測り、焼成部に向って開き気味に延びる。尚、燃焼部から焼成部にかけ1.5mにわたり右壁面に補修の痕が認められ、このことからすれば、2号窯については最低2回以上の操業がなされたと考えられる。ただ窯全体に及ぶ補修は認められず、極めて部分的である。また、凹穴については床面を切って掘られており、含土の状況からみて2日以降の最終操業時のものと考えられる。

焼成部はしだいに膨らみ最大で床巾1.3mを測り、しだいにすぼみながら煙道付近では0.67mにまで縮少する。床面傾斜は29度を測り、やや開みながら煙道に至る。

煙道は前平されており明確ではないが、地山に被熱の痕跡が認められる。これより判断すれば長10.4m、最大巾0.4mの規模を有していたと考えられる。

灰原は農道によって大部分は削平されていたが、わずかに土層図で灰層の堆積が確認された。これによれば、焚口から約2mの地点で巾3mにわたり灰層がレンズ状に堆積している。しかし、焚口方向では次第に不明瞭になり、灰原もこの先1m弱でガケ状に削平されているため、前後関係は全く不明である。ただ、少なくともこのレンズ状堆積を基準として扇状に灰原を形成していたこと

は看取でき、焚口から灰原にかけてかなりの削平がなされていることが認められる。事実、削平後水田として利用されている部分からは多量の須恵器片の2次堆積がみられ、包含層とも言うべき状況を保している。これについては近世陶磁器を含むことや、土層の状況から明らかに2次堆積と判断しうるものである。これら水田での分布状況をみると、灰原は焚口から7mの地点で巾約14m程度の広がりをもつものと考えられるが、タテの広がりについては調査対象地区外にまで及ぶため不明である。

### 3号窯跡

現存長3.92m、床面最大巾1.07mを測る。2号窯と同じく褐色の火山灰土に掘り込まれており、燃焼部では一部粘土層に及ぶ、焚口部及び煙道は削平されて存在しないが、推定で全長4.5m前後に及ぶと考えられる。天井部についても全て陥没して存在しないが壁面の形状をみると、かなりオーバーハングしている状況が認められる。このことからすれば構造として地下式無階無段落窯であった可能性があり、他の窯体とは大きな相異点として指摘することができる。また壁面について床面傾斜の変換点付近で部分的な補修が認められ、最低2回以上の操業が考えられる。主軸方向N-53°11' Eである。

焚口部については削平されて存在しないが、燃焼部からほぼ直線的に延びると考えられ最大巾0.8m前後と推定される。

燃焼部については床面最大巾0.79mを測り、床面はごくゆるやかな傾斜をもつ、焼成部との床面傾斜の変換点は不明瞭で漸次的に移行する状況を呈している。床面は燃焼部で巾が最少となり、焚口部へほぼ直線的に延びる。

焼成部は床面変換点から次第に開き最大巾0.98mを測る。床面傾斜は16度を測り、若干凹みながら煙道へと至る。焼成部の上方では床面に弧状の溝を有した後、高約30cm程度の段をもち煙道へとする。これが階段状の構造を示すものかは断定できないが、何らかの意味で無階無段の構造をもつものとは一線を画する可能性がある。また床面には台石と思われる自然石が検出されたが原位置は保っていない。

煙道は農道により削平されており存在しない。ただ、煙道と思われる20cm程度の立ち上りが床面で認められ、ほぼ垂直に近い状況であったと考えられる。

### 1号土塙

最大巾4.7mの不定形土塙で、断面はスリ鉢状となる。底面には不規則に2本の溝（巾約0.3m、深さ約0.15m）が検出されたが用途については不明である。土塙は全体の%程度を水田開発により削平されているが、土層の観察により窯跡との関係が指摘できる。I層は明赤褐色を呈し一括埋土と考えられるもので、遺物はほとんど含まない。II層は褐色で焼土ブロックを含む。遺物は少

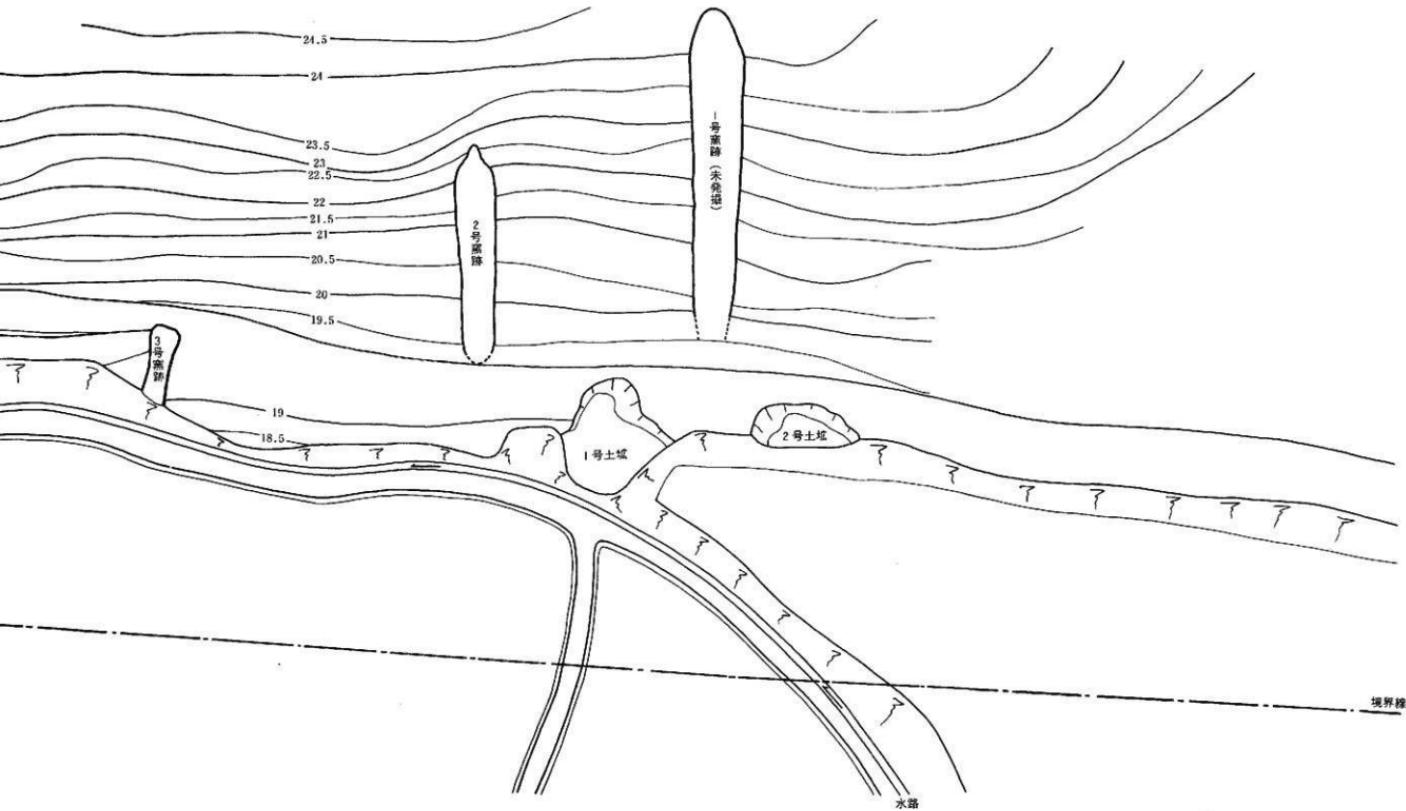


图 2-1 A 地区地形图 ( $1:500$ )

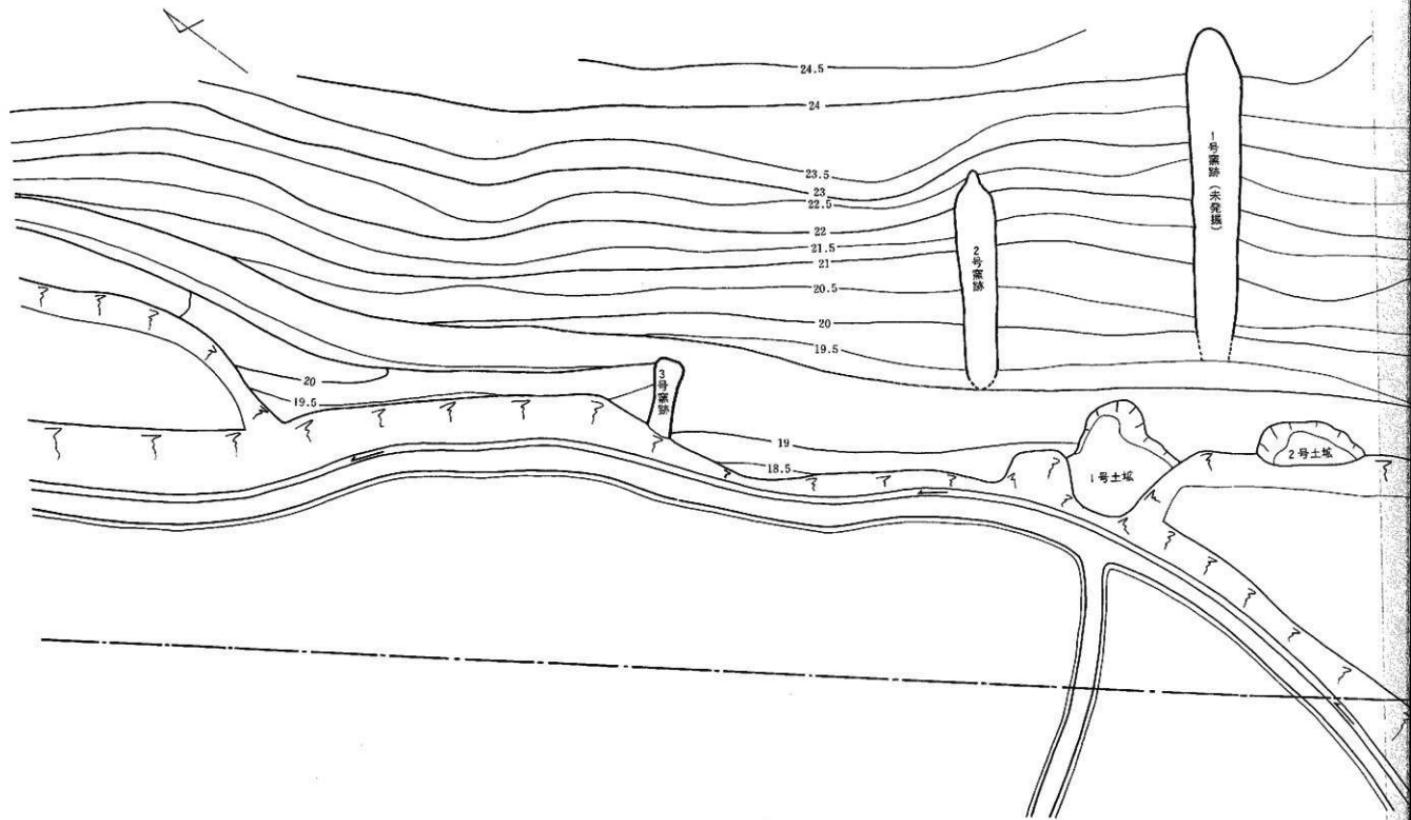


图 2-1 A 地区地形图 ( $5\%$ )

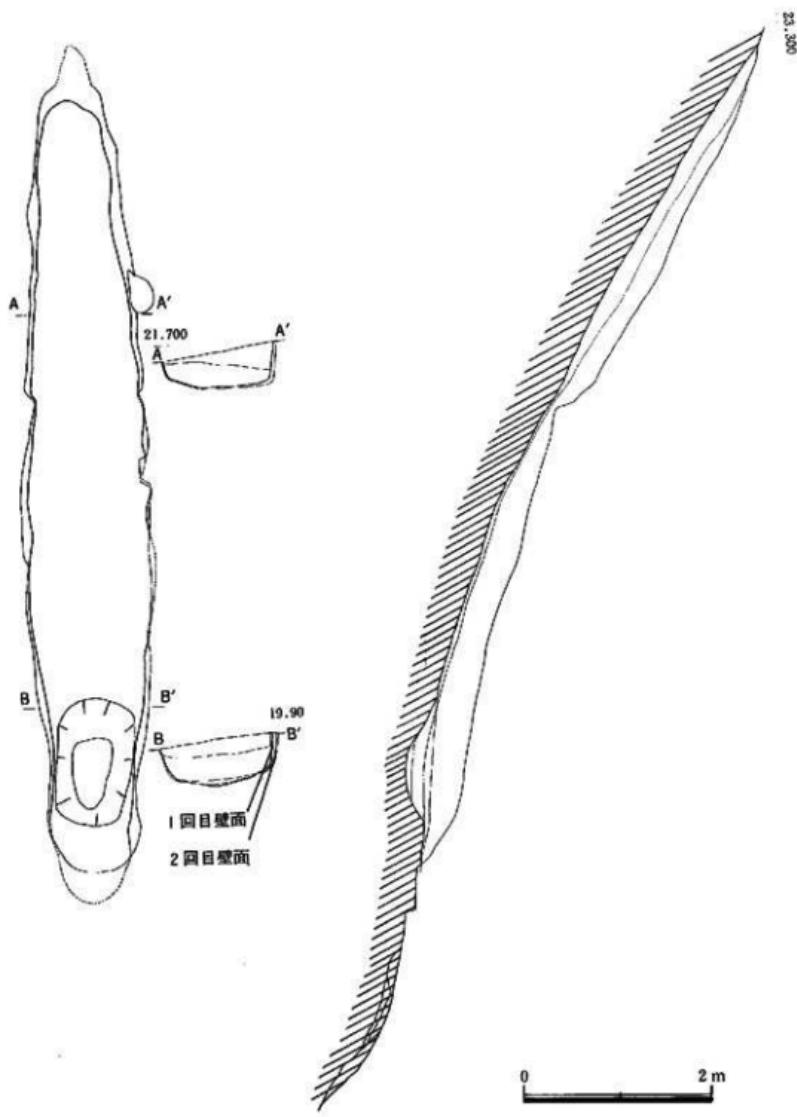


図 2-2 A 地区 2 号窯跡断面図 ( $S=1/50$ )

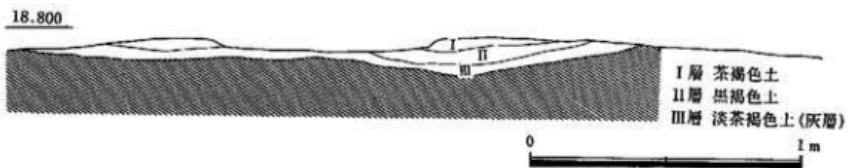


図3 A地区 2号窯跡灰原土層図

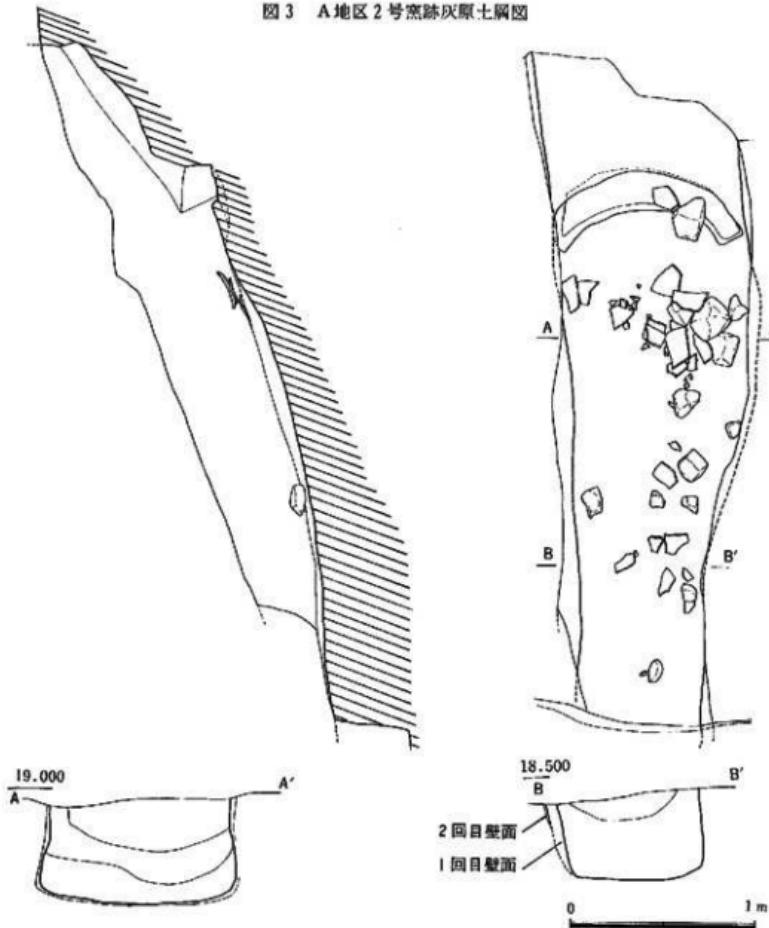


図4 A地区 3号窯跡実測図 ( $S=1/30$ )

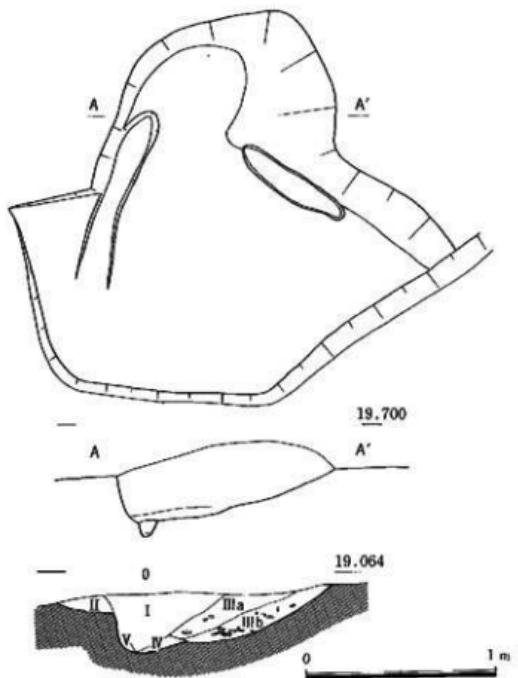


図5 A地区 1号土塹実測図・土層断面図

なく、2号窯の方向からの流入土である。IIIa層は焼土を多く含み、若干の土器を含む。1号窯方向からの流れ込みである。IIIb層は茶褐色土で土器、窓体片を最も多く含む。最大厚0.25mを測り、地山に直する。IV層は焼土層であり、若干の遺物を含む。V層は明褐色を呈し、遺物は少ない。以上のうち、I層については一括埋土であり、II、V層については2号窯焚口方向からの流れ込み、IIIa、b、IV層については1号窯焚口方向からの流れ込みである。またこれとは別に土塹の検出段階で全面にかなり多量の遺物が検出されている。これらは土層面で判断すれば一部はI～IIIb層に含まれると思われるが、I層が遺物を多く含まないことを考えれば別個の遺物包含層が存在していたと

考えられる。(O層)したがって、1号土塹ではおおまかにO層とIIIb層に遺物が集中し、IIIb層については1号窯跡に関連した遺物のあり方が考えられる。

## 2号 土 塹

1号土塹と同様にはば46程度を削平される。規模は長4.16m、巾は推定で約3m程度と考えられ、梢円形を呈する。土層はI層が黒褐色土で、炭化物、焼土を含むII層は暗茶褐色土で遺物はほとんど含まない。IIIa層は茶褐色を呈し、炭化物、焼土をブロック状に含むIIIb層はIIIa層と同様であるが、炭化物、焼土ブロックを含まず、遺物もほとんど含まない。IV層は茶褐色を呈し、炭化物、焼土ブロックを多く含む。また遺物を最も多く含むのはこのIV層である。V層は褐色の焼土層で若干遺物を含む。VI層は横断面上に部分的にみられ、炭化物、焼土ブロックを多く含む黒褐色土である。

土層についてみると、I～IIIb 層まではほぼレンズ状の堆積を示し、土塙の発達後の堆積と考えられる、これに対し、IV～VII 層については 1 号窯焚口方向からの流れ込みと考えられ、特に IV 層を中心と遺物を多く含む。また、VI、VII 層は焼上層であることから、1 号窯に付随する土器層と考えられる。

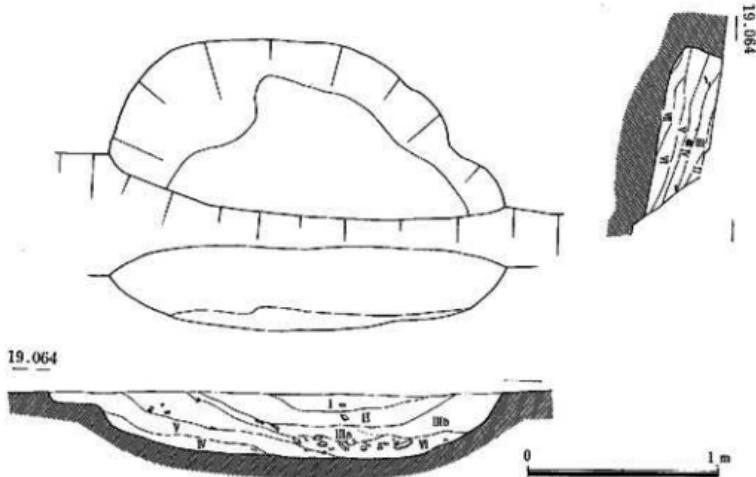


図 6 A 地区 2 号土塙実測図・土層断面図

### 灰原

灰原については大まかには前述の通りである。大部分は水田開発による削平で失なわれており、水田部分に 2 次堆積の状態で遺物のみを検出することができた。また、2 号窯焚口付近でわずかにベルト状に残された灰原を確認している。これらから考えると、本地区山地形は窯体部分よりやや緩やかな傾斜を持ちながら延びていたと考えられ、これら削平した際後世の資料を混入して水田部分に 2 次堆積したと思われる。

## A地区 灰原出十七器観察表

| No | 器種 | 出土地点 | 法量                      | 形 動  | 技 法   | 備 考                                 | 分類  |
|----|----|------|-------------------------|--|---|-------------------------------------|-----|
| 1  | 环壺 | 灰原   | 口 径 10.5<br>器 高 3.3     | 天井部は付着物のためやや突起する。端部でゆるやかに屈曲し、端部は垂直に降下する。                           | 付着物が多く明確ではないが、天井部は巻き上げ痕が認められるところから、切り放し後未調整と考えられる。他はヨコナデ。 | A.暗茶褐色<br>B.硬質<br>C.80%             | A-2 |
| 2  | #  | #    | 口 径 9.2<br>器 高 3.2      | 天井部は平坦で体部にかけて屈曲し内湾気味に下方へ降下する。端部は丸くやや内傾。                            | 天井部はヘラ切り後若干ナデ。他はヨコナデ。                                     | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.40%              | A-1 |
| 3  | #  | #    | 口 径 (9.6)<br>器 高 3.4    | 天井部は平坦で体部は、ゆるやかに外方へ降下し、端部近くで屈曲し垂下する。                               | 天井部不明。他はヨコナデ。   | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.20%              | A-3 |
| 4  | #  | #    | 口 径 11.2<br>器 高 2.4     | 天井部から内湾気味に外方へ降下する全体にやや厚手で、端部は丸い。器高は低い。                             | 天井部は手持ちヘラケズリ、他はヨコナデ。                                      | A.灰茶褐色<br>B.若干軟質<br>C.60%           | A-1 |
| 5  | #  | #    | 口 径 (11.4)<br>器 高 (2.8) | 天井部は平坦であり、体部は、ほぼ直線的に外方へ降下する。口縁部附近で屈曲し垂下する。器高は低い。                   | 天井部はヘラ切り後若干ナデ。他はヨコナデ。                                     | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.40%              | A-3 |
| 6  | #  | #    | 口 径 (10.3)<br>器 高 3.0   | 天井部は平坦で体部はほぼ直線的に外方へ降下する。体部途中で一条の浅い凹縫を有し、口縁部近くで屈曲し垂下する。端部は丸く仕上げられる。 | 天井部はヘラ切り後若干ナデ。他はヨコナデ。                                     | A.(表)暗灰色<br>(裏)淡灰色<br>B.硬質<br>C.30% | A-3 |
| 7  | #  | #    | 口 径 (10.0)<br>器 高 3.8   | 天井部は丸く、体部は内湾し球状を呈する。端部はかなり薄手で外形はやや内傾する。端部は尖る。器高は高い。                | 天井部手持ちヘラケズリ。体部との境は軽い回転ヘラケズリを行ない、他はヨコナデ。但し内面頂部はナデ。         | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.60%              | A-2 |
| 8  | #  | #    | 口 径 10.8<br>器 高 3.4     | 天井部と体部の境は段上をなし、体部はほぼ直線的に外方へ降下する。端部は丸く、やや厚手。                        | 天井部はヘラ切り後若干ナデ。他はヨコナデ、内面頂部のみナデ。                            | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.40%              | A-2 |
| 9  | #  | #    | 口 径 (11.0)<br>器 高 3.5   | 天井部は平坦で、体部は外方へ降下し口縁部近くで屈曲し端部はわずかに外反する。                             | 天井部はヘラ切り後若干ナデ。他はヨコナデ。                                     | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.40%              | A-1 |
| 10 | #  | #    | 口 径 (18.8)<br>器 高 3.9   | 天井部はほぼ平坦で、体部は内湾しながら外方へ降下する。口縁部附近で屈曲し垂下する。端部はやや尖り気味。器高は高い。          | 天井部はヘラ切り後若干ナデ。他はヨコナデ。                                     | A.灰 色<br>B.硬質<br>C.60%              | A-1 |
| 11 | #  | #    | 口 径 (11.2)<br>器 高 3.4   | 天井部は平坦で体部はやや内湾しながら外方へ降下する。口縁部近くで屈曲し垂下する。端部は丸い。                     | 天井部はヘラ切り後若干ナデ。他はヨコナデ。                                     | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.30%              | A-1 |
| 12 | #  | #    | 口 径 (12.2)<br>器 高 (3.5) | 天井部はほぼ平坦で体部はやや内湾しながら外方へ降下する。口縁部近くで屈曲しやや外反しながら端部へ至る。端部は丸い。          | 天井部ヘラ切り後未調整。体部先端程度手持ちヘラケズリで他はヨコナデ。                        | A.灰 色<br>B.硬質<br>C.20%              | A-3 |
| 13 | #  | #    | 口 径 (11.2)<br>器 高 3.6   | 天井部は丸く、体部は内湾しながら外方へ降下し、端部はやや内傾。                                    | 天井部ヘラ切り後未調整。他はヨコナデ。                                       | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.20%              | A-1 |
| 14 | #  | #    | 口 径 (12.0)<br>器 高 3.7   | 天井部は平坦で、体部は直線気味に外方へ降下し、口縁部附近で屈曲し若干外反気味で端部へ至る。                      | 天井部中央はヘラ切り未調整で周辺は手持ちヘラケズリを行う。他はヨコナデ。内面ヘラ記号。               | A.灰 色<br>B.硬質<br>C.30%              | A-3 |
| 15 | #  | #    | 口 径 (11.8)<br>器 高 一     | 天井部は欠失して不明であるが、体部は内湾気味に外方へ降下し、口縁部附近で屈曲し後垂下する。                      | 体部先端程度手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。                                    | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.20%              | A-3 |

## A地区 灰原出土土器観察表

| No | 器種 | 出土地点 | 法<br>量  | 形<br>態  | 技<br>法   | 備<br>考                 | 分類  |
|----|----|------|---|---|--|------------------------|-----|
| 16 | 环蓋 | 灰原   | 口 径 (12.4)<br>器 高 3.7                               | 天井部と体部の境は段をなす。体部は内湾気味に外方へ降下し、口縁付近で屈曲し外方へ開く。                   | 天井部へラ切り後若干ナデ。他はヨコナデ。                           | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.30% | A-3 |
| 17 | "  | "    | 口 径 (13.2)<br>器 高 3.3                               | 天井部は平坦で体部との境は段をなす。体部は内湾しながら降下しそのまま端部に至る。                      | 天井部へラ切り後未調整。他はヨコナデ。                            | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.20% | A-1 |
| 18 | "  | "    | 口 径 (12.4)<br>器 高 一                                 | 天井部は欠失。体部はほぼ直線的に外方へ降下し、口縁付近で稍曲し、内傾した後端部は若干外方へくびれる。            | 体部ヨコナデ。  | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.10% | A-4 |
| 19 | "  | "    | 口 径 (11.0)<br>器 高 (2.7)                             | 天井部は欠失するが若干凹むと思われる。体部は内傾しながら外方へ降下し口縁付近で撇下する。端部は丸い。            | 体部ヨコナデ。  | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.30% | A-1 |
| 20 | "  | "    | 口 径 (13.0)<br>器 高 (3.3)                             | 天井部はほぼ平坦で、体部は上部でやや凹み端部外形はやや内傾する。内面の断面形は直状で端部は尖り気味。            | 天井部へラ切り後未調整。他はヨコナデ。                            | A.灰色<br>B.硬質<br>C.25%  | A-4 |
| 21 | 环身 | "    | 口 径 8.8<br>立ち上がり高 0.6<br>受け部径 10.4<br>器 高 3.3       | 立ち上がりはやや内傾し、端部は尖る。受け部は上外方にのび、体部は湾曲しながら下方へ降下し底部は平坦となる。         | 底部中央は手持ちへラケズリを行ない周辺は粗い圓板へラケズリを行う。他の外面と内面はヨコナデ。 | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.80% | A-1 |
| 22 | "  | "    | 口 径 (7.0)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (9.2)<br>器 高 (2.6)  | 立ち上がりは内傾ながら内傾する。受け部は上外方にのび、体部は湾曲しながら下方へ降下し底部は平坦となる。           | 底部外面はへラ切り後若干ナデ。他はヨコナデ。                         | A.明灰色<br>B.硬質<br>C.25% | A-1 |
| 23 | "  | "    | 口 径 (8.6)<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 (10.4)<br>器 高 (3.2) | 立ち上がりは内傾するが、受け部とはほぼ一体化した状態であり断面は三角形を呈する。体部はほぼ直線的にのび、底部は平坦である。 | 外面底部下半は粗い手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。                      | A.灰色<br>B.硬質<br>C.40%  | A-4 |
| 24 | "  | "    | 口 径 (9.8)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (11.6)<br>器 高 3.2   | 立ち上がりはほぼ直立し、受け部は上外方にのびる。体部はゆるやかなカーブを描き、底部はやや丸味をおびる。           | 外面底部はへラ切り後若干ナデ。内面中央部はナデを行ない他はヨコナデを行なう。         | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.45% | A-1 |
| 25 | "  | "    | 口 径 (9.6)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (11.6)              | 立ち上がりはやや内傾し端部は尖り気味。受け部は上外方にのびや厚く端部は丸い。体部との境は不明瞭。              | 内、外面ともヨコナデ。                                    | A.明灰色<br>B.硬質<br>C.10% | A-1 |
| 26 | "  | "    | 口 径 (10.0)<br>立ち上がり高 0.7<br>受け部径 (12.0)<br>器 高 3.1  | 立ち上がりは外反気味に内傾する。受け部は上外方にのび体部はほぼ直線的にのびる。底部はほぼ平坦。先端丸い。          | 外面底部は粗い手持ちヘラケズリで他はヨコナデ。へラ記号あり。                 | A.灰色<br>B.硬質<br>C.40%  | A-2 |
| 27 | "  | "    | 口 径 (9.4)<br>立ち上がり高 (0.6)<br>受け部径 (11.8)            | 立ち上がりは内傾し端部は丸い。受け部は上外方にのび端部はやや角ばる。                            | 外面底部下半は粗い手持ちヘラケズリ?他はヨコナデ。                      | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.20% | A-2 |
| 28 | "  | "    | 口 径 (8.6)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 (10.8)<br>器 高 2.9   | 立ち上がりは内傾し端部は尖る。受け部は上外方につまみ上げたようにのび端部は角ばる。底部は平坦である。            | 外面底部は付着物のため不明。他はヨコナデ。                          | A.暗灰色<br>B.硬質<br>C.30% | A-2 |
| 29 | "  | "    | 口 径 9.8<br>立ち上がり高 0.6<br>受け部径 11.2<br>器 高 2.8       | 立ち上がりは外反気味に直立し、端部は丸い。受け部は上外方にのび端部は丸い。体部は直線的で、底部は平坦である。        | 外面底部はへラ切り後ナデ。他はヨコナデ。立ち上がりは折り込み。                | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.55% | A-2 |

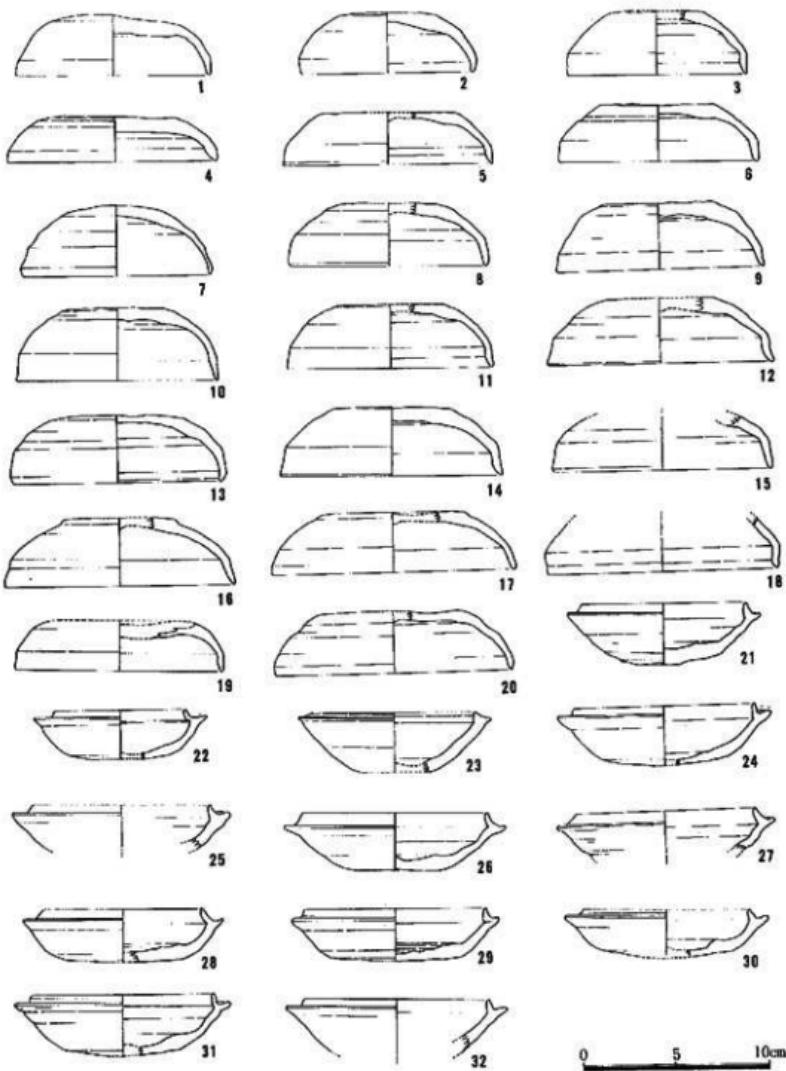


図7 A地区 灰原出土土器実測図 (1) (S-1/3)

A地区 灰原出土土器観察表

| No. | 器種 | 出土地点 | 法 量  | 形 態   | 技 法                                      | 備 考                          | 分類  |
|-----|----|------|--|---|--|------------------------------|-----|
| 30  | 环身 | 灰 原  | 口 径 (8.8)<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 (11.0)<br>器 高 (2.6)  | 立ち上がりは内傾し途中一度屈折する。受け部はやや厚く、上外方にのびる。いすれも端部は丸い。底部は丸味をもち、体部は途中屈折する。            | 外面底部は粗い手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。                  | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 20%     | A-1 |
| 31  | "  | "    | 口 径 (9.8)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (11.6)<br>器 高 (3.4)  | 立ち上がりはほぼ直立し端部は尖り気味。受け部は湾曲気味に上外方へのびる。体部はやや湾曲し、底部はやや丸味をおびる。                   | 外面底部ヘラ切り後ナデ。他はヨコナデ。                      | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 40%     | A-2 |
| 32  | "  | "    | 口 径 (10.0)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (12.0)<br>器 高 (3.3) | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は上外方にのび、体部との境は明確でない。端部は尖り気味。底部は欠損。                       | 内、外面ともヨコナデ。                              | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 5%     | A-2 |
| 33  | "  | "    | 口 径 9.6<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 11.6<br>器 高 (3.3)      | 立ち上がりは内傾し、端部はやや尖り、断面三角形を呈する。受け部はほぼ水平に外方へのび端部は角ばる。体部はやや湾曲し、底部は半坦。            | 外面底部ヘラ切り後若干ナデ。他はヨコナデ。                    | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 50%     | A-2 |
| 34  | "  | "    | 口 径 (10.0)<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 (12.2)<br>器 高 (3.1) | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は上外方へのび、端部は角ばる。体部はゆるやかに湾曲し、底部との境は不明瞭である。                 | 外面底部ヘラ切り後若干ナデ。他はヨコナデ。                    | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 40%    | A-1 |
| 35  | "  | "    | 口 径 9.0<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 10.8<br>器 高 3.3        | 立ち上がりは内傾し、端部は尖る。受け部は上外方へのび端部は丸い。体部は湾曲し、底部は平坦。                               | 底部外面はヘラ切り後未調整。他はヨコナデ。                    | A. 茶褐色<br>B. 若干軟質<br>C. 100% | A-2 |
| 36  | "  | "    | 口 径 (9.8)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (11.8)<br>器 高 (2.7)  | 立ち上がりは外反気味に内傾し、端部は丸い。受け部は上外方にのび、端部は尖る。体部はやや湾曲し、底部はほぼ平坦。                     | 外面底部は粗い手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。                  | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 35%    | A-2 |
| 37  | "  | "    | 口 径 (10.0)<br>立ち上がり高 0.1<br>受け部径 (11.8)<br>器 高 3.0   | 立ち上がりは内傾し、端部はやや尖り気味。受け部は薄く、上外方へ急角度でのびる。体部は大きなカーブを描き、底部はほぼ平坦。                | 外面底部ヘラ切り後若干ナデ。外面体部下半程度は再転ヘラケズリ。他はヨコナデ。   | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 35%     | A-3 |
| 38  | "  | "    | 口 径 (9.6)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 (11.2)<br>器 高 (2.7)  | 立ち上がりは外反気味に直立し、端部は丸い。受け部と体部の境はなく、ほぼ直線的に受け部に至り、断面形は水平に外方へのびる。底部はやや丸味をもつ。     | 外面底部は粗い手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。                  | A. 茶褐色<br>B. 若干軟質<br>C. 35%  | A-3 |
| 39  | "  | "    | 口 径 (9.6)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (11.6)<br>器 高 (2.6)  | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は上外方にのび、端部は丸い。体部は途中大きく述べ込み、受け部付近では厚くなる。底部は平坦で体部との境は段を有す。 | 外面底部ヘラ切り後未調整。他はヨコナデ。                     | A. 灰褐色<br>B. 硬質<br>C. 35%    | A-2 |
| 40  | "  | "    | 口 径 (9.8)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 (12.2)<br>器 高 (2.5)  | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は上外方に若干湾曲しながらのび端部はやや角ばる。体部は大きなカーブを描き、底部は平坦。              | 外面底部ヘラ切り後未調整。他はヨコナデ。                     | A. 青灰色<br>B. 硬質<br>C. 25%    | A-3 |
| 41  | "  | "    | 口 径 (10.4)<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 (12.6)<br>器 高 (2.9) | 立ち上がりは内傾し、端部は尖り気味。受け部は上外方にのび、端部は丸い。体部は緩やかにカーブし、底部は平坦。全体にかなり歪む。              | 外面底部ヘラ切り後未調整。外側底部下半は手持ちヘラケズリ(粗い)。他はヨコナデ。 | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 35%     | A-2 |

## A地区 灰原出土土器観察表

| No. | 器種 | 出土地点 | 法 量   | 形 态   | 性 法                                      | 備 考                                     | 分類  |
|-----|----|------|---|---|--|---|-----|
| 42  | 环身 | 灰 原  | 口 径 (9.6)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (11.6)<br>器 高 (2.8) | 立ち上がりは若干内傾し、端部は丸い。受け部は上外方にのび端部は丸い。体部は直線的で、受け部との境は明瞭ではない。底部は中央で若干凹む。 | 外反底部はヘラ切り後若干ナデ他はヨコナデ。                    | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 35%               | A-2 |
| 43  | 环盖 | "    | 口 径 (10.4)<br>器 高 (2.4)                             | 天井部は丸く体部へと緩やかなカーブを描く。端部は丸い。かえりはやや外反気味に内傾をし、端部で接地する。端部は尖り気味。         | 外両天井部は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。                    | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 30%                | B-5 |
| 44  | *  | "    | 口 径 (10.2)<br>器 高 (2.5)                             | 天井部から腰部へは変化なく丸味をもつ。端部は丸い。かえりは内傾し、端部で接地し、尖り気味。                       | 天井部不明(欠損)。他はヨコナデ。                        | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 30%                | B-5 |
| 45  | *  | "    | 口 径 (10.4)<br>器 高 (2.05)                            | 天井部から受け部にかけて途中で凹線を一条有し受け部では屈折する。端部は丸い。かえりは外反気味に内傾し、端部は尖り気味で、接地する。   | 外両の天井部上部弓は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。                | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 20%               | B-5 |
| 46  | *  | "    | 口 径 (13.6)<br>器 高 (1.3)                             | 天井部上部は平円で器高は低い。端部はやや角ばる。かえりは大きく内傾し、端部で接地する。端部は丸い。                   | 天井部外側の平坦部は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。                | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 30%               | B-3 |
| 47  | *  | "    | 口 径 (9.4)<br>器 高 2.2<br>つまみ径 1.8<br>つまみ高 0.3        | 天井部は丸く、端部で屈曲して外方へのびる。かえりはやや外反気味に内傾し、端部は尖る。天井部には扁平なつまみがつき中央は凹む。      | 天井部外側の上部弓程度は回転ヘラケズリ。つまみはナデを行ない龍はヨコナデ。    | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 40%               | B-5 |
| 48  | *  | "    | 口 径 (9.2)<br>器 高 2.7<br>つまみ径 1.2<br>つまみ高 0.7        | 天井部は丸く、端部は厚手で丸い。かえりはほぼ垂下し、端部は尖る。天井部には宝珠つまみがつく。                      | 天井部外側の上部弓程度は回転ヘラケズリ。つまみ部分はナデを行ない。他はヨコナデ。 | A. 暗茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 30%              | B-5 |
| 49  | 环身 | "    | 口 径 9.0<br>器 高 (3.6)                                | 体部は口縁から底部にかけて変化することなくゆるやかなカーブを描き下降する。底部は丸く、端部も丸い。                   | 外面体部下半から底部は長い手持ちヘラケズリを行う。他はヨコナデ。         | A. 暗色<br>B. やや軟質<br>C. 95%              | B-1 |
| 50  | *  | "    | 口 径 9.6<br>器 高 4.0                                  | 体部は直線気味に内傾しながら下降し屈曲して底部へ至る。端部は尖り気味。底部は平底である。                        | 体部下半弓程度回転ヘラケズリを行ない。底部はヘラ切り後若干のヘラケズリを行う。  | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 60%               | B-1 |
| 51  | *  | "    | 口 径 (8.8)<br>器 高 (3.6)                              | 底部欠損。体部はゆるやかなカーブを描き中程で屈曲し外反して颈部に至る。端部は丸い。                           | 内、外面ともヨコナデ。                              | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 30%               | B-2 |
| 52  | *  | "    | 口 径 (10.2)<br>器 高 (4.3)                             | 底部は平底で、体部は上外方にやや湾曲しながらのび、途中で大きく屈曲する。端部は丸い。                          | 底部外側はヘラ切り後未調整。他はヨコナデ。                    | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 20%                | B-3 |
| 53  | 高环 | "    | 脚 部 径 8.7<br>脚 部 高 2.7                              | 环は上部弓程度欠損。脚はゆるやかに下外方にのび、途中中断三三角形の突唇を有する。端部はゆるやかにのび丸くなる。             | 杯下端外面回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。                     | A. 白灰色<br>B. 若干軟質<br>C. 脚部100%<br>環部20% | B   |
| 54  | 楕  | "    | 口 径 11.0<br>器 高 5.0                                 | 底部は平底で体部にかけてゆるやかに湾曲し立ち上がる。体部中位に一条の凹線を有し、これから口縁に向いほぼ直線に外反する。         | 底部外側は手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。                    | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 100%<br>歪         | A   |
| 55  | 高环 | "    | 脚 部 径 8.3<br>脚 部 高 2.4                              | 环は弓程度上部欠損。脚はゆるやかに下外方にのび、端部では水平にのびた。後接地する。端部は丸くなる。                   | 环部下端外面は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。                   | A. 暗灰色<br>B. 硬質<br>C. 脚部100%<br>環部 30%  | B   |

A 地区 灰原出土土器観察表

| No. | 器種 | 出土地点 | 法 量                            | 形 态                           | 技 法  | 備 考                              | 分類                           |   |
|-----|----|------|--------------------------------|-------------------------------|--|----------------------------------|------------------------------|---|
| 56  | 高杯 | 灰原   | 脚 部 径<br>脚 部 高                 | 8.1<br>3.6                    | 环は上部少程度欠損。脚は縦やかに下外方にのび、接地してさらに若干上方に上る。环は脚部径より大きくなく聞く。                  | 环下端は回転ヘラケズリ。<br>ヨコナデ             | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 30%     | B |
| 57  | "  | "    | 环部口径<br>环部器高<br>脚 部 径<br>脚 部 高 | (11.2)<br>(3.7)<br>8.0<br>3.1 | 环は口縫部欠損。环は複合部より縦やかに上外方に凸曲しながらび口縫付近で屈曲し外反しながら聞く。脚は縦やかに開き、接地した後若干上方へのひび。 | 环部下端回転ヘラケズリ。他はヨコナデ               | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 80%     | B |
| 58  | "  | "    | 脚 部 径<br>脚 部 高                 | 11.4<br>(4.2)                 | 环は欠損。脚は縦やかに開き端部で接地する。端部は角張り内側へ傾斜する。                                    | 内、外面ともヨコナデ。                      | A. 茶灰色<br>B. 硬質<br>C. 脚部100% | H |
| 59  | "  | "    | 脚 部 径<br>脚 部 高                 | 11.2<br>3.5                   | 环は欠損。脚は縦やかに開き端部で接地する。端部は上、下方にやや開き外形でリング状を呈する。                          | 内、外面ともヨコナデ。                      | A. 茶灰色<br>B. 硬質<br>C. 脚部100% | B |
| 60  | "  | "    | 口 径                            | (11.0)                        | 脚は欠損。环は端部から接合部にかけて縦やかにカーブを描く、端部は丸い。                                    | 环部下端は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。             | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 口部 50%  |   |
| 61  | "  | "    | 口 径                            | (11.6)                        | 脚は欠損。环は口縫近くで屈曲し外反しながら聞く。   | 环部下端は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。             | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 口部 40%  |   |
| 62  | "  | "    | 口 径                            | (12.2)                        | 脚は欠損。环は縦やかに凸曲し、端部は尖り気味。  | 环部下端は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。             | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 口部 20%  |   |
| 63  | "  | "    | 脚 部 径<br>脚 部 高                 | 8.0<br>2.7                    | 环は欠損。脚は縦やかに開き、端部で接地する。端部はやや上方に上り、内側に傾斜する。                              | 外面シボリ。内面ヨコナデ。                    | A. 深灰色<br>B. 硬質<br>C. 脚部100% | B |
| 64  | "  | "    | 脚 部 径<br>脚 部 高                 | 6.8<br>3.0                    | 环は欠損。脚は直線気味に下外方に開き、端部にかけて水平にのび接地する。端部は角張り外観はリング状。                      | 内、外面ともヨコナデ。                      | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 脚部100%  | B |
| 65  | "  | "    | 脚 部 径<br>脚 部 高                 | 6.0<br>2.4                    | 环は上部少程度欠損。脚は途中で縦り外方へ開いて端部で接地する。端部はやや上方に開き尖り気味。                         | 环部下端は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。             | A. 青灰色<br>B. 硬質<br>C. 45%    | B |
| 66  | "  | "    | 口 径                            | (11.6)                        | 脚は欠損。环は縦やかに凸曲し、端部に至る。端部は丸く、环は深い。                                       | 环部下端が程度は回転ヘラケズリで中でも上部は細い。他はヨコナデ。 | A. 深灰色<br>B. 硬質<br>C. 口部 50% |   |
| 67  | "  | "    | 脚 部 径<br>脚 部 高                 | 7.8<br>3.4                    | 环は欠損。脚は縦やかに下外方に開き端部近くで断面三角形の突部を有した後、端部で接地する。端部は丸い。                     | 内、外面ともヨコナデ。                      | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 脚部100%  | B |
| 68  | "  | "    | 脚 部 径                          | 9.2                           | 环は欠損。脚はゆるやかに下外方に開き、端部で上、下方にのび接地する。端部は角張り内側に傾斜する。                       | 内、外面ともヨコナデ。                      | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 脚部 80%  | B |
| 69  | "  | "    | 脚 部 径<br>脚 部 高                 | 8.0<br>3.5                    | 环は欠損。脚は縦やかに下外方に開き端部近くで若干水平にのび接地する。端部は角ばる。                              | 内、外面ともヨコナデ。                      | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 脚部100%  | B |
| 70  | "  | "    | 脚 部 径<br>脚 部 高                 | (10.4)<br>7.0                 | 环は欠損。脚は縦やかに下外方に開き端部は上、下方にのびる。端部で接地する。                                  | 内、外面ともヨコナデ。                      | A. 青灰色<br>B. 硬質<br>C. 脚部 40% | A |
| 71  | "  | "    | 脚 部 径<br>脚 部 高                 | 10.7<br>8.5                   | 环は欠損。脚は縦やかに開き、下端で屈曲した後、接地して若干水平にのびる。端部は上方にのび尖り気味。                      | 外面ヨコナデ、内面上部シボリ。下部ヨコナデ。           | A. 青灰色<br>B. 硬質<br>C. 脚部100% | A |

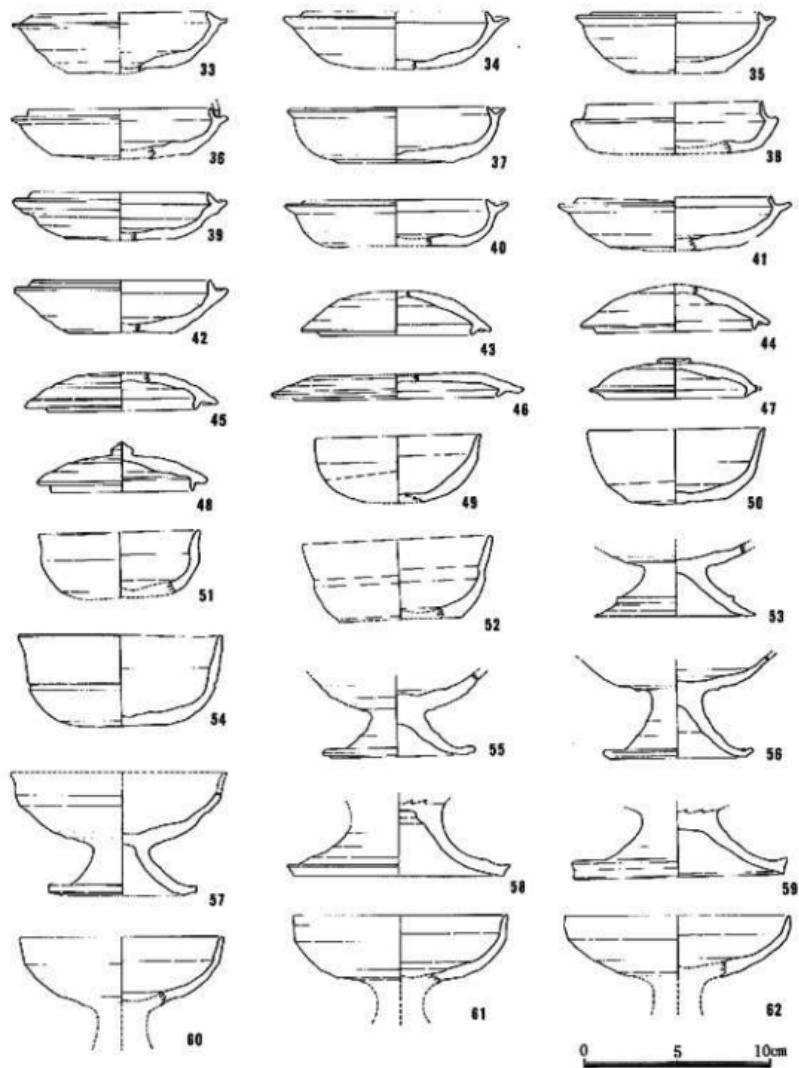


図8 A地区 灰原出土土器実測図 (2) ( $S = \frac{1}{2}$ )

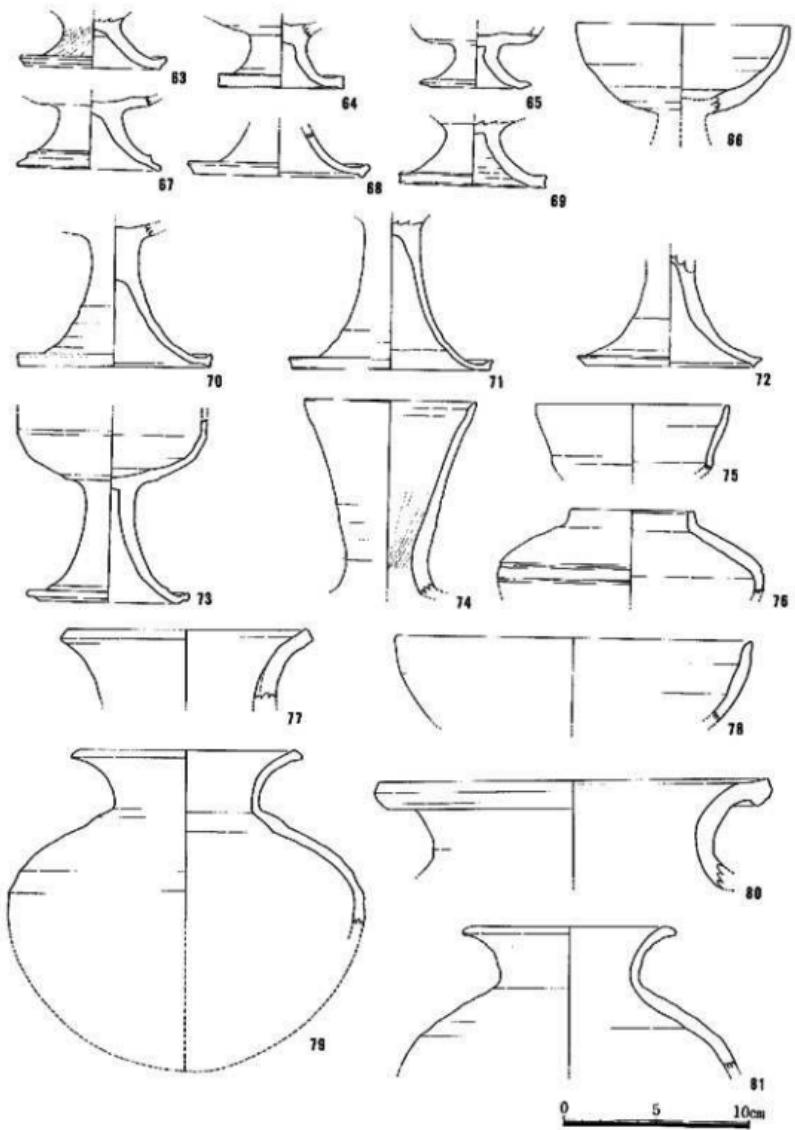


図9 A地区 灰原出土土器実測図 (3) ( $S=1/8$ )

## A地区 灰原出土土器観察表

| No | 器種  | 出土地点 | 法 番                                      | 形 猪   | 性 法                                | 備 考                            | 分類 |
|----|-----|------|--|---|------------------------------------|--------------------------------|----|
| 72 | 高环  | 灰原   | 脚部深 (9.2)                                | 环は欠損。脚は緩やかに下外方に開き、端部でやや下方に突出して接地する。端部は角張り内側に傾斜する。                             | 内、外面ともヨコナデ。                        | A. 青灰色<br>B. 硬 度<br>C. 脚部50%   | A  |
| 73 | #   | "    | 口 深 (10.2)<br>脚部深 (8.3)<br>脚部高 6.5       | 环口縁部を欠く。环は緩やかに上外方に開き、口縁近くで弧曲ししば垂直に口縁に至る。脚は緩やかに開き接地した後若干上方にのびる。端部は角張る。         | 全てヨコナデ。                            | A.暗灰色<br>B. 硬 质<br>C. 70%      | A  |
| 74 | 長腰壺 | "    | 口 深 9.2<br>頭基部 4.4<br>口頭部高 10.3          | 体底部は欠損。口頭部は上外方にのび、口縁部でやや内傾し折屈する。端部はやや尖り気味。                                    | 外面はヨコナデ。内面下部はシボリ。上部はヨコナデ。          | A. 青灰色<br>B. 硬 度<br>C. 口頭部100% | F  |
| 75 | 高环  | "    | 口 深 (10.4)                               | 体底部欠損。体底部下部で切曲し直線的に上外方にのび、口縁部で若干内傾へ屈折。端部は丸い。                                  | 内、外面ともヨコナデ。                        | A. 灰 色<br>B. 硬 质<br>C. 10%     |    |
| 76 | 壺   | "    | 口 深 (6.8)<br>重体脚最大径 (14.4)               | 体底部は欠損。脚部最大径を体部中位にもち、直線気味に内傾した後、屈曲して垂直に立ち上がり口縁へ至る。口頭部は短く、体部中位に二条の刻線を有する。      | 内、外面ともヨコナデ。                        | A. 青灰色<br>B. 硬 质<br>C. 10%     |    |
| 77 | 壺   | "    | 口 深 13.0                                 | 口頭部は一部粘土を貼りつけている。端部は方形を呈する。体部欠損。  | 内、外面ともヨコナデ。                        | A. 暗灰色<br>B. 硬 质<br>C. 口頭部90%  | A  |
| 78 | 壺   | "    | 口 深 (19.2)                               | 端部は丸い。湾曲しながら底部に向い接地すると考えられる。  | 内、外面ともヨコナデ。                        | A. 灰 色<br>B. 硬 质<br>C. 20%     |    |
| 79 | 壺   | "    | 口 深 (11.6)<br>重体脚最大径 (19.2)<br>頭部深 (7.8) | 体底部下半は欠損。端部は方形をなす。脚部最大径を底体部中位にもつ。   | 内、外面ともヨコナデ。                        | A. 灰 色<br>B. やや軟質<br>C. 30%    | A  |
| 80 | 壺   | "    | 口 深 (21.0)                               | 体底部欠損。口縁部は外反しながら開き、端部でやや下方にのびる。端部は角張る。  | 内、外面ともヨコナデ。                        | A. 灰 色<br>B. 硬 质<br>C. 5%      | A  |
| 81 | 壺   | "    | 口 深 (11.6)<br>頭部深 (7.5)                  | 口縁部は外反しながら底部で水平に直くなる。端部は丸くやや尖がる。  | 内、外面ともヨコナデ。                        | A. 暗茶灰色<br>B. 硬 质<br>C. 20%    | A  |
| 82 | 円窓壺 | "    | 口 深 (15.4)                               | 窓面は海から陸の部分へと盛り上がり、跡は中程に向い次第に凹む。脚部上端には二条の帯突を有し、上端部は丸い。脚の大部分は欠損しており孔の有無は明らかでない。 | 内、外面とヨコナデを行ない、窓面の内面は一部シボリ状。        | A. 灰 色<br>B. 硬 质<br>C. 10%     |    |
| 83 | 盤   | "    | 口 深 25.9<br>器 高 4.6                      | 端部は丸く、断下した後屈曲し、丸味をもつ底部を有する。   | 底部中央は手持らヘラケズリ。内面中央部はナデを行ない他はヨコナデ。  | A. 青灰色<br>B. 硬 质<br>C. 55%     |    |
| 84 | 甕   | "    | -  | 口頭部は直線的に開き、端部で弧状に張り出す。  | 内、外面ともヨコナデを行ない。外面上には四条の彫刻波状文を施す。   | A. 暗灰色<br>B. 硬 质<br>C. 口頭部10%  | B  |
| 85 | #   | "    | 口 深 (6.5)<br>口頭部深 (19.2)                 | 口縁部は直線的に開き、端部で張り出す。   | 口頭部内、外面ともヨコナデ。体部外表面はタタキ、内面は同心円タタキ。 | A. 青灰色<br>B. 硬 质<br>C. 口頭部50%  | A  |
| 86 | #   | "    | -  | 口縁部は直線的に開き、端部で張り出す。   | 外外面ともヨコナデ。口咎部と口頭部に各一条の彫刻波状文を有する。   | A. 茶灰色<br>B. 硬 质<br>C. 口頭部5%   | B  |

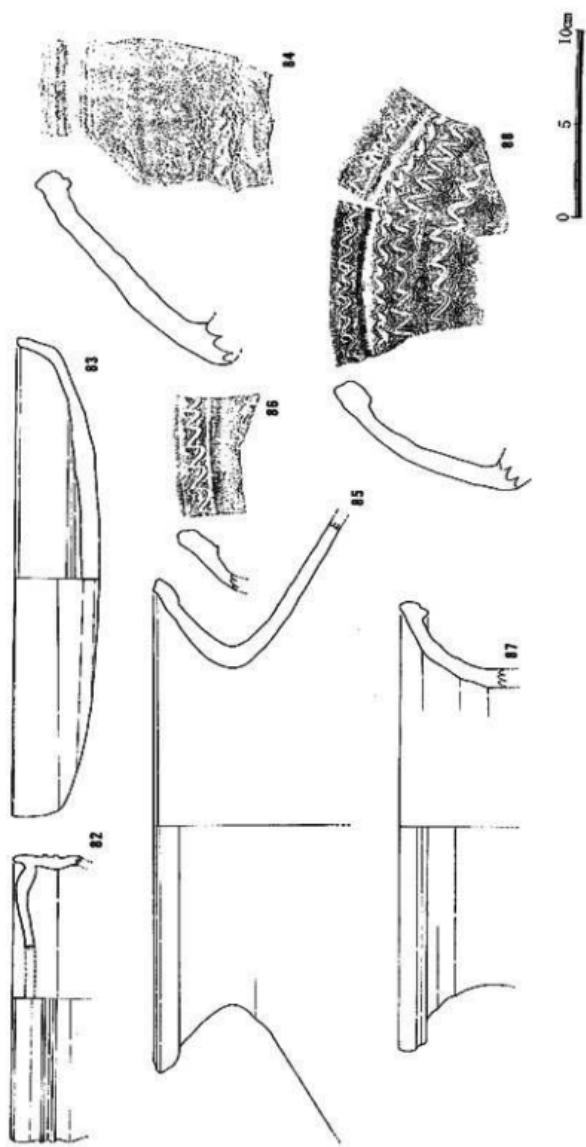


图10 A地区 碗原出土器物图 (S=1%) (4)

## A地区 灰原・2号窯灰原・1号土壇上壙出十七器観察表

| No  | 器種 | 出土地点  | 法　景  | 形　態  | 技　法   | 備　考                        | 分類  |
|-----|----|-------|--|--|---|----------------------------|-----|
| 87  | 甕  | 灰原    | 口 径 (23.7)   | 口頸部は外反して開き、端部でやや下方に張り出す。                                 | 内、外面ともヨコナデ。商福波状文は口唇部に一条、口頭部に三條施す。                 | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.口頭部30% | A   |
| 88  | #  | #     | -  | 口頸部は直線に上方方に開き、端部でやや外方に屈折し、さらに下方に張り出す。                    | 内、外面ともヨコナデ。商福波状文は口唇部に一条、口頭部に三條施す。                 | A.暗灰色<br>B.硬 質<br>C.口頭部10% | B   |
| 89  | 环壺 | 2号窯灰原 | 口 径 (10.8)<br>器 高 3.9                              | 天井部は丸く下外方にのび、口縁近くで屈曲し外反しながら開く。端部は丸い。                     | 天井部へラ切り未調整。他はヨコナデ。                                | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.45%    | A-3 |
| 90  | 环身 | #     | 口 径 (10.6)<br>立ち上がり高 0.9<br>受け部径 (12.4)            | 立ち上がりは外反しながら内傾する。端部は丸い。受け部は水平に外方にのび端部は丸い。体部は直線的に降下する。    | 内、外面ともヨコナデ。立ち上がりは折込みによる。                          | A.茶灰色<br>B.硬 質<br>C.5%     | A-5 |
| 91  | #  | #     | 口 径 (10.7)<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 (12.4)            | 立ち上がりは内傾し端部は尖る。受け部は上方にのび端部は丸い。体部との境は明瞭ではなく、湾曲しながら底部に至る。  | 内、外面ともヨコナデ。                                       | A.暗褐色<br>B.やや軟質<br>C.10%   | A-7 |
| 92  | #  | #     | 口 径 (10.7)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 (12.0)<br>器 高 2.7 | 立ち上がりは外反気味に内傾し、端部は丸い。受け部は上方にのび端部は角ばる。底部は平坦。              | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデ。                                | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.70%    | A-2 |
| 93  | 环盖 | #     | 口 径 (9.2)<br>器 高 1.7<br>つまみ径 1.6<br>つまみ高 0.5       | 天井部は丸く、端部も丸い。かえりは垂下し、端部は丸い。天井部中央には扁平なつまみがつき、中央部はやや盛り上がる。 | 天井部上部は回転ヘラケズリ。つまみはナデ。                             | A.茶灰色<br>B.硬 質<br>C.30%    | B-5 |
| 94  | 椀  | #     | 口 径 (12.3)<br>器 高 (5.1)                            | 底部はほぼ平坦で体部は直線的にやや開き端部は丸い。                                | 内、外面ともヨコナデ。                                       | A.灰褐色<br>B.硬 質<br>C.40%    | A   |
| 95  | 高环 | #     | 脚 部 径 8.0<br>脚 部 高 2.7                             | 环部は大きく欠損。脚は緩やかに開き端部は接地した後や上方にのびる。端部はやや尖る。                | 环部下端は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。                              | A.暗灰色<br>B.硬 質<br>C.60%    | B   |
| 96  | #  | #     | 脚 部 径 7.4<br>脚 部 口 3.1                             | 环は上部少程度欠損。脚は緩やかに開き、端部で接地する。端部は3方にのび外形は「M」字状を呈する。         | 环下端は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。                               | A.茶灰色<br>B.硬 質<br>C.80%    | B   |
| 97  | 甕  | #     | 口 径 (20.8)   | 口頸部は外反しながら開き、端部はやや下方に張り出し角ばる。                            | 内、外面ともヨコナデ。                                       | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.口頭部20% | A   |
| 98  | #  | #     | -  | 口頸部は外反した後内反気味に屈曲する。                                      | 内、外面ともヨコナデ。口縁部に二条の突唇を有し、口頭部は三条の筋隔波状文を施し、各々を沈紋で画す。 | A.茶褐色<br>H.やや軟質<br>C.口頭部5% | B   |
| 99  | 环壺 | 1号土壇上 | 口 径 (10.8)<br>器 高 (3.8)                            | 天井部平坦。体部下外方に緩やかに降下し、端部でやや厚厚する。端部は尖る。全体に厚手。               | 天井部へラ切り未調整。他はヨコナデ。                                | A.褐 色<br>B.やや軟質<br>C.30%   | A-1 |
| 100 | #  | #     | 口 径 11.0<br>器 高 3.5                                | 天井部は平坦で、屈曲して下外方に緩やかに降下し、口縁部でさらに屈折し垂下する。端部は丸い。            | 天井部へラ切り後手持ちヘラケズリ、体部上部は回転ヘラケズリ後若干手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。  | A.茶褐色<br>B.硬 質<br>C.80%    | A-1 |
| 101 | #  | #     | 口 径 10.2<br>器 高 3.2                                | 天井部は丸味をもち、体部は緩やかに下外方に降下し口縁部近くで屈曲し内傾する。端部は丸い。             | 天井部へラ切り未調整。他はヨコナデ。                                | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.90%    | A-4 |

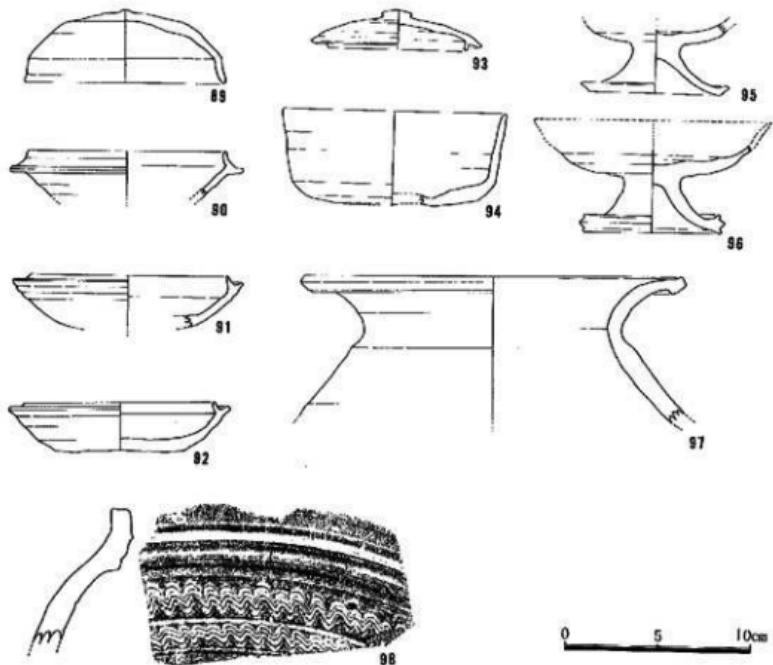


図11 A地区 2号窯体内 灰原出土土器実測図 (S-1)

A地区1号土坡上層出土土器観察表

| No. | 器種 | 出土地点                | 法<br>量                | 形<br>態  | 技<br>法   | 備<br>考                    | 分類  |
|-----|----|---------------------|-----------------------|---|--|---------------------------|-----|
| 102 | 壺  | 1号土坡<br>上<br>層<br>器 | 径 (10.0)<br>高 3.5     | 天井部は平坦で体部は緩やかに下外方へ降下し、端部は屈折してやや内傾する。端部は尖り気味。  | 天井部へラ切り未調整。他はヨコナデ。                             | A. 茶灰色<br>B. 硬質<br>C. 25% | A-2 |
| 103 | "  | "                   | 口 径 (10.8)<br>器 高 3.5 | 天井部は平坦。体部は緩やかに下外方へ降下し端部へ至る。端部はやや尖がり気味でやや肥厚する。 | 天井部へラ切り後手持ちへラケズリ。底部上半身程度回転へラケズリを行ない他はヨコナデ。     | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 40%  | A-1 |
| 104 | "  | "                   | 口 径 (10.4)<br>器 高 3.4 | 天井部は若干凹み。口縁はやや内傾する。端部は尖り気味。                   | 天井部へラ切り未調整。他はヨコナデ。                             | A. 青灰色<br>B. 硬質<br>C. 40% | A-4 |
| 105 | "  | "                   | 口 径 (12.0)<br>器 高 3.3 | 天井部はやや凹む。口縁は屈曲しやや内傾する。端部は丸い。                  | 天井部はヘラ切り未調整。他はヨコナデ。                            | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 40%  | A-4 |
| 106 | "  | "                   | 口 径 (11.8)<br>器 高 3.6 | 天井部は若干凹む。体部は直線的に下外方に降下し、口縁付近で屈曲し端部に至る。端部は丸い。  | 天井部はヘラ切り後手持ちへラケズリを行なう。他はヨコナデ。<br>天井部へラ記号「メ」あり。 | A. 茶灰色<br>B. 硬質<br>C. 35% | A-3 |

A地区1号土壇上層出上土器観察表

| No. | 器種 | 出土地点      | 法<br>量  | 形<br>態   | 技<br>法                        | 備<br>考                        | 分類  |
|-----|----|-----------|---|--|-------------------------------|-------------------------------|-----|
| 107 | 环盡 | 1号土壇<br>上 | 口 径 (12.2)<br>器 高 3.5                               | 天井部は若干西む。体部との境は段をなし、口縁付近で彎曲し垂下する。端部は丸い。                            | 天井部はヘラ切り未調整。他はヨコナデ。           | A.灰<br>色<br>B.硬<br>質<br>C.40% | A-1 |
| 108 | "  | "         | 口 径 (11.8)<br>器 高 (3.7)                             | 天井部はやや丸く、体部は直線的に下方へ降下し、口縁付近で彎曲し端部へ至る。端部は丸い。                        | 天井部は不明。他はヨコナデ。                | A.淡褐色<br>B.硬質<br>C.40%        | A-2 |
| 109 | "  | "         | 口 径 (9.2)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 (11.0)<br>器 高 2.7   | 立ち上がりは直立し、端部は丸い。受け部は上外方にのび、端部はやや角ぼる。底部は平坦。                         | 底部ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。             | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.15%        | A-2 |
| 110 | "  | "         | 口 径 9.0<br>立ち上がり高 0.6<br>受け部径 10.6<br>器 高 2.9       | 立ち上がりは外反気味に内傾し、端部は尖がる。受け部は内湾気味に上外方にのび、端部は尖がる。底辺はほぼ平坦になる。           | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデ。            | A.茶褐色<br>B.硬質<br>C.45%        | A-2 |
| 111 | "  | "         | 口 径 (9.4)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 (11.2)<br>器 高 (2.2) | 立ち上がりや内傾し、端部は尖がり気味。受け部は上外方にのび、端部は丸い。底部は平坦。                         | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデ。            | A.茶褐色<br>B.硬質<br>C.25%        | A-3 |
| 112 | "  | "         | 口 径 (9.4)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 11.2<br>器 高 2.7     | 立ち上がりは外反気味に内傾し、端部はやや尖がり気味。端部は上外方にのび端部はやや角ぼる。底部は平坦で中央部はやや盛り上がる。     | 底部はヘラ切り未調整。立ち上がりは詰り付け。他はヨコナデ。 | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.60%        | A-2 |
| 113 | "  | "         | 口 径 (9.8)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (11.4)<br>器 高 (2.4) | 立ち上がりは直立し、端部は丸い。受け部は上外方にのび、端部は丸く肥厚する。底部は平坦。                        | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデ。            | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.30%        | A-2 |
| 114 | "  | "         | 口 径 (8.5)<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 (10.8)<br>器 高 2.3   | 立ち上がりはやや内傾し、端部は丸くなる。受け部は上外方にのび端部は方形をなす。底部は平坦。                      | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデ。            | A.茶褐色<br>B.硬質<br>C.15%        | A-2 |
| 115 | "  | "         | 口 径 (9.8)<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 (11.4)<br>器 高 (2.3) | 立ち上がりはやや内傾し、端部は丸くなる。受け部は上外方にのび端部は丸くなる。                             | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデ。            | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.40%        | A-2 |
| 116 | "  | "         | 口 径 (9.2)<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 (10.8)<br>器 高 (2.5) | 立ち上がりはやや内傾し、端部は丸くなる。受け部は上外方にのび、端部は丸い。底部は平坦になる。                     | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデ。            | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.40%        | A-2 |
| 117 | "  | "         | 口 径 (9.2)<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 (11.6)<br>器 高 2.1   | 立ち上がりはやや外反気味に内傾し、端部は丸い。受け部は上外方にのび、端部はやや尖がる。底部は平圧。                  | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデ。            | A.茶褐色<br>B.硬質<br>C.20%        | A-6 |
| 118 | "  | "         | 口 径 (9.8)<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 (11.0)<br>器 高 (3.0) | 立ち上がりは内傾し、端部は尖がる。断面三角形を呈す。受け部は水平に外方へのび、端部は尖がり気味。底部はやや丸く、段を有す。      | 底部はヘラ切り後若干ナデを行なう。他はヨコナデ。      | A.茶褐色<br>B.硬質<br>C.30%        | A-4 |
| 119 | "  | "         | 口 径 (9.8)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (11.2)<br>器 高 3.4   | 立ち上がりは直立し、端部は丸い。受け部も水平にのび端部は丸い。金体に肥厚寸詰まりの感をうける。底部はやや丸く、体部との境は段をなす。 | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデ。            | A.茶褐色<br>B.硬質<br>C.35%        | A-1 |

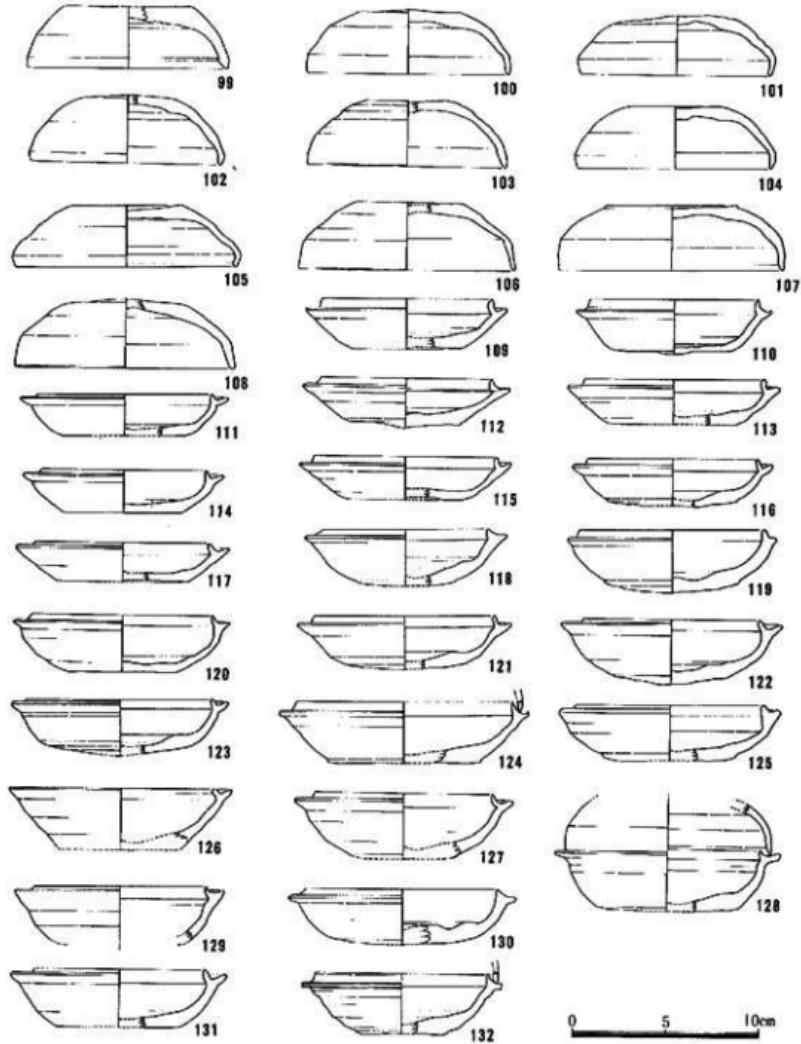


図12 A地区 1号土塚 上層出土土器実測図 (1) ( $S = \frac{1}{6}$ )

A地区1号土塁上層出上上器觀察表

| No. | 器種   | 出土地点  | 法量   | 形態  | 技法  | 備考                                       | 分類  |
|-----|------|-------|--|---|---|--|-----|
| 120 | 环身   | 1号土塁上 | 口 径 (9.8)<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 (11.6)<br>器 高 3.1                    | 立ち上がりは外反気味に内傾し、端部は尖る。受け部は上外方に開き、端部は方形をなす。底部は若干凹み気味になる。  | 底部へラ切り未調整でヘラ記号<br>他はヨコナデ。                   | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 35%                | A-2 |
| 121 | "    | "     | 口 径 (9.6)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (11.6)<br>器 高 2.9                    | 立ち上がりは内傾し端部は丸い。受け部は上外方にのび端部は方形を呈する底部は若干丸味をもつ。   | 底部手持ちヘラケズリ。体部と<br>の境部分は粗いヘラケズリで、<br>他はヨコナデ。 | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 45%                | A-1 |
| 122 | "    | "     | 口 径 (9.4)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 (12.0)<br>器 高 3.5                    | 立ち上がりは内傾し、端部は尖がり氣味。受け部は上外方に大きくのび、端部は方形をなす。底部は丸味をもつ。   | 底部はヘラ切り後ナデを行なう。<br>他はヨコナデ。                  | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 35%                | A-1 |
| 123 | "    | "     | 口 径 (10.0)<br>立ち上がり高 0.1<br>受け部径 (11.6)<br>器 高 (3.0)                 | 立ち上がりは内傾し、端部は角ばる。<br>受け部は上外方にのび、端部は丸い。<br>底部はやや丸くなる。  | 底部へラ切り未調整。他はヨコ<br>ナデ。                       | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 40%                | A-2 |
| 124 | "    | "     | 口 径 (11.6)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 (13.4)<br>器 高 (3.2)                 | 立ち上がりは内傾し、端部は鋭く尖がる。受け部は水平にのび、端部は方形をなす。底部は平底で、体部との境に明瞭な段を有する。                                    | 底部へラ切り未調整。他はヨコ<br>ナデ。                       | A. (表) 暗灰色<br>(裏) 暗灰色<br>B. 硬質<br>C. 20% | A-5 |
| 125 | "    | "     | 口 径 (10.0)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 (12.0)<br>器 高 3.0                   | 口縁から端部にかけて体部途中から一<br>体化してのびる。立ち上がりと受け部<br>は断面三角形をなし、肥厚する。底部<br>は平底で体部との境には明瞭な段を有<br>する。         | 底部へラ切り未調整。他はヨコ<br>ナデ。                       | A. 暗灰色<br>B. 硬質<br>C. 40%                | A-4 |
| 126 | "    | "     | 口 径 (9.8)<br>立ち上がり高 0<br>受け部径 12.0                                   | 立ち上がりは内傾し、端部は尖がり氣<br>味。受け部は体部より変化なく上外方<br>にのび、端部は丸い。双方の端部は同<br>一レベルをなし、外観で立ち上がりは<br>見えない。底部は欠損。 | 内、外側ともヨコナデ。                                 | A. 暗灰色<br>B. 硬質<br>C. 30%                | A-6 |
| 127 | "    | "     | 口 径 9.6<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 11.8<br>器 高 (3.5)                      | 立ち上がりは外反しながら内傾し、端<br>部は尖がる。受け部は上外方にのび、<br>角ばる。底部はわずかに残り、体部と<br>の境は段をなす。                         | 底部は粗い手持ちヘラケズリ。<br>他はヨコナデ。                   | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 30%                | A-2 |
| 128 | 环(注) | "     | 口径(蓋) (11.0)<br>(身) (10.0)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 (12.2)<br>器 高 (3.4) | 立ち上がりは直立し、端部は丸い。受<br>け部は上外方にのび、端部は丸い。底<br>部は平底である。受け部には蓋環が溶<br>接しており、体部は緩やかに降下し端<br>部は鋭く尖がる。    | 底部はヘラ切り未調整。他はヨ<br>コナデ。                      | A. (表) 暗灰色<br>(裏) 暗灰色<br>B. 硬質<br>C. 40% | A-2 |
| 129 | 环身   | "     | 口 径 (9.2)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 (11.2)                               | 立ち上がりは外反気味に内傾し、端部<br>は尖がる。受け部は上外方にのび、や<br>角ばる。底部は欠損。  | 体部下半は一部粗い回転ヘラケ<br>ズリを行ない。他はヨコナデ。            | A. (表) 暗灰色<br>(裏) 暗灰色<br>B. 硬質<br>C. 10% | A-2 |
| 130 | "    | "     | 口 径 (10.4)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (12.4)<br>器 高 3.0                   | 立ち上がりは内傾し、断面三角形、端<br>部は丸い。受け部はほぼ水平に外方へ<br>のび端部は丸い。底部はほぼ平底にな<br>る。                               | 底面粗い手持ちヘラケズリ。他<br>はヨコナデ。                    | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 30%                | A-4 |
| 131 | "    | "     | 口 径 (9.0)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 (11.6)<br>器 高 (3.1)                  | 立ち上がりは内傾し、端部は尖がり氣<br>味。受け部は上外方にのび端部は丸く<br>なる。底部は平底。   | 底面は付着物のため不明。他は<br>ヨコナデ。                     | A. 淡灰色<br>B. やや軟質<br>C. 30%              | A-2 |

A 地区 1 号土塁上層出土土器観察表

| No. | 器種 | 出土地点  | 法量   | 形態   | 技法                       | 備考                       | 分類  |
|-----|----|-------|--|--|--------------------------|--------------------------|-----|
| 132 | 环身 | 1号土塁上 | 口 径 (9.4)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部徑 (10.8)<br>器 高 (3.3)  | 立ち上がりは直立し、端部は方形をなす。受け部は水平に外方へのび、端部は方形をなす。底部は平坦で体部との境は段をなす。                           | 底部はへら切り未調整。他のヨコナデ。       | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.20%   | A-3 |
| 133 | "  | "     | 口 径 (10.0)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部徑 (11.8)<br>器 高 (3.0) | 立ち上がりは内傾し、端部は尖がり気味。受け部は水平に外方へのび、端部は丸い。底部は平坦。   | 底部は手持ちヘラケズリ。他のヨコナデ。      | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.40%   | A-2 |
| 134 | "  | "     | 口 径 (9.4)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部徑 (11.6)<br>器 高 (3.0)  | 立ち上がりは外反気味に内傾し、端部は尖がる。受け部は上方にのび端部は角ぼる。底部は欠損。   | 底部近くの外面は手持ちヘラケズリ、他のヨコナデ。 | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.30%   | A-2 |
| 135 | "  | "     | 口 径 (8.8)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部徑 (10.7)<br>器 高 (3.0)  | 立ち上がりは途中屈曲し内傾し、端部は尖がり気味。受け部は上方にのび端部は角ぼる。底部は平坦で体部との境は段を有す。                            | 底部はへら切り未調整。他のヨコナデ。       | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.20%   | A-2 |
| 136 | "  | "     | 口 径 (7.6)<br>立ち上がり高 0.<br>受け部徑 (9.0)<br>器 高 (2.4)    | 立ち上がりは内傾し、端部は尖がり気味。受け部は体部からほとんど変化なく上方へのび端部は角ぼる。相互の端部はほぼ同一レベルで外形では立ち上がりは見えない。底盤はやや丸い。 | 底盤斜い手持ちヘラケズリ。他のヨコナデ。     | A.灰 色<br>B.硬質<br>C.40%   | A-1 |
| 137 | 环盖 | "     | 口 径 11.0<br>器 高 2.4                                  | 天井部は丸く、端部近くで屈曲し盛り上る。端部は尖る。かえりは外反しながらや内傾し、端部は尖る。                                      | 底盤斜い手持ちヘラケズリ。他のヨコナデ。     | A.暗灰色<br>B.硬質<br>C.100%  | B-4 |
| 138 | "  | "     | 口 径 (9.4)<br>器 高 2.0<br>つまみ径 (1.6)<br>つまみ高 0.2       | 天井部は丸く、端部でやや屈曲。端部は丸い。かえりは削下し、断面三角形で端部は丸い。頂部には扁平なつまみがつく。                              | 天井部上半は粗い回転ヘラケズリ。他のヨコナデ。  | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.25%   | B-5 |
| 139 | "  | "     | 口 径 (9.3)<br>器 高 1.7<br>つまみ径 1.8<br>つまみ高 0.4         | 頂部は平坦で端部にかけて緩やかに降下し、端部は丸い。かえりは内傾し、端部は尖り気味。頂部には扁平なつまみがつき、つまみ中央部はやや盛り上がる。              | 天井部平坦部分は回転ヘラケズリ。他のヨコナデ。  | A.茶灰色<br>B.若干軟質<br>C.20% | B-5 |
| 140 | "  | "     | 口 径 10.0<br>器 高 2.4<br>つまみ径 1.9<br>つまみ高 0.2          | 天井部は丸いが、頂部は平川。端部は丸く、かえりはやや内傾し端部は丸い。頂部には扁平なつまみをもち、つまみの中央部は凹む。                         | 天井頂部は回転ヘラケズリ。他のヨコナデ。     | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.50%   | B-5 |
| 141 | "  | "     | 口 径 (9.6)<br>器 高 2.3<br>つまみ径 (1.9)<br>つまみ高 0.3       | 天井部は平坦で緩やかに降下し端部に至る。端部は丸く、かえりはやや内傾し端部は丸い。頂部には扁平なつまみをもち、全体にやや厚手。                      | 天井部上半は粗い回転ヘラケズリ。他のヨコナデ。  | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.20%   | B-5 |
| 142 | "  | "     | 口 径 (10.0)<br>器 高 (2.8)                              | 天井部は丸く、端部でやや外方へ屈曲する。端部はやや尖り気味。かえりはほぼ削下し、端部は尖り気味。頂部は欠損するが、つまみをもつと思われる。                | 天井部上半は粗い回転ヘラケズリ。他のヨコナデ。  | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.30%   | B-5 |
| 143 | "  | "     | 口 径 (10.6)<br>器 高 (2.5)                              | 天井部は丸く、端部は屈曲してやや盛り上がる。端部はやや角ぼり肥厚するかえりは外反気味に内傾し、端部は丸い。つまみは欠損。                         | 天井部外側は回転ヘラケズリ。他のヨコナデ。    | A.灰 色<br>B.硬質<br>C.35%   | B-5 |

A 地区 1 号上塙土層出土七器観察表

| No. | 器種          | 出土地点      | 法 量  | 形 素   | 技 法                                | 備 考                        | 分類  |
|-----|-------------|-----------|--|---|------------------------------------|----------------------------|-----|
| 144 | 环甌          | 1号上塙<br>上 | 口 深 (10.3)<br>器 高 (2.4)                            | 天井部は丸く途中で彎曲し縫部にかけて盛り上がる。縫部は丸く肥厚する、かえりは外反しながら内側し、端部は丸い。肩部欠損。         | 天井部凹程度は回転ヘラケズリ。<br>他はヨコナデ。         | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.30%    | B-5 |
| 145 | "           | "         | 口 深 (11.2)<br>器 高 (2.1)                            | 天井部上面は平坦で、端部で彎曲しやや盛り上がる。縫部は丸い。かえりはやや内側し縫部は尖り気味。肩部欠損。                | 天井部凹程度は回転ヘラケズリ。<br>他はヨコナデ。         | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.10%    | B-5 |
| 146 | "           | "         | 口 深 (11.8)<br>器 高 (2.7)                            | 天井部上面はやや平坦で途中やや凹み縫部でやや盛り上がる。縫部は丸い。かえりは外反気味にはば直立し、端部は丸い。つまみは欠損。      | 天井部凹程度は回転ヘラケズリ。<br>他はヨコナデ。         | A.淡灰色<br>B.硬 質<br>C.20%    | B-5 |
| 147 | 高环          | "         | 脚 部 径 8.2<br>脚 部 高 2.7                             | 环欠損。脚は緩やかに開き、縫部で若干下降し接地する。縫部はさらに上方にのび、内側に傾斜する。                      | 内、外面ともヨコナデ。                        | A.青灰色<br>B.硬 質<br>C.脚部90%  | B   |
| 148 | "           | "         | 脚 部 径 11.0<br>脚 部 高 (5.5)                          | 环欠損。脚はゆるやかに開き、接地した後水平にのび縫部は下方にのびる。脚中段には五ヶ所の孔を穿ち、斜めに切り込み。            | 内面の孔から接地部分まで手持ちヘラケズリを行ない、他はヨコナデ。   | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.脚部100% | A   |
| 149 | "           | "         | 脚 部 径 9.8<br>脚 部 高 (6.5)                           | 环欠損。脚はゆるやかに開き、接地した後水平にやや開き、若干上方にのびる。                                | 内、外面ともヨコナデ。                        | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.脚部100% | A   |
| 150 | "           | "         | 脚 部 径 8.0<br>脚 部 高 2.7                             | 环欠損。脚はゆるやかに開き、縫部近くで水平にのび縫部で上、下にのび接地する。                              | 内、外面ともヨコナデ。                        | A.青灰色<br>B.硬 質<br>C.脚部100% | B   |
| 151 | "           | "         | 脚 部 径 10.0<br>脚 部 高 7.5                            | 环欠損。脚は上位で一度絞った後ゆるやかに開き縫部で接地する。縫部は方形をなす。脚はほぼ中位に一條の沈線を有する。            | 内、外面ともヨコナデ。                        | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.脚部100% | A   |
| 152 | "           | "         | 脚 部 径 9.0<br>脚 部 高 (7.5)                           | 环欠損。脚は上端で縦り緩やかに開き縫部で接地する。縫部は方形をなし、若干上方にのびる。                         | 内面上半はシボリを行ない。他はヨコナデ。               | A.暗灰色<br>B.硬 質<br>C.脚部100% | A   |
| 153 | "           | "         | 脚 部 径 9.3<br>脚 部 高 8.0                             | 环欠損。脚は接合部から垂下し、中程から緩やかに開き、縫部で接する。縫部はやや上方にのびや尖がる。                    | 内面上半はシボリを行ない。他はヨコナデ。               | A.青灰色<br>B.硬 質<br>C.脚部80%  | A   |
| 154 | "           | "         | 口 深 (11.0)<br>器 高 (10.5)<br>脚 部 径 9.4<br>脚 部 高 6.3 | 環口縫部欠損。脚は緩やかに開き接地してやや上方にのびる。縫部は方形をなす。环は外方にのび縫部近くではほぼ直立する。           | 环下端は回転ヘラケズリ。脚内面上半はシボリを行ない他はヨコナデ。   | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.70%    | A   |
| 155 | "           | "         | 口 径 12.6<br>器 高 11.7<br>脚 部 径 (10.2)<br>脚 部 高 7.0  | 环は上方にのび、途中大きくなり外反しながら開く。縫部は丸い。脚は接合部から垂下し、中程から緩やかに開き縫部で若干上、下にのび接地する。 | 内、外面ともヨコナデ。接合部は厚く3.5cmになる。         | A.青灰色<br>B.硬 質<br>C.60%    | A   |
| 156 | 白<br>付<br>壺 | "         | 脚 部 最大径 15.6<br>脚 部 径 (9.0)<br>脚 部 高 2.0           | 体部上半欠損。脚は外方にのび接地して脚部は上方にのびる。体部はほぼ中程で最大径をもつ。                         | 外表面脚部下半は頗る回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。          | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.30%    | G   |
| 157 | す<br>り<br>鉢 | "         | 底 部 径 (11.4)                                       | 体部欠損。底部はほぼ平底で縫部は方形をなす。体部は上方方に開く。                                    | 底部張り出し部は貼り付け、裏面外面は手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。 | A.淡灰色<br>B.硬 質<br>C.10%    | B   |

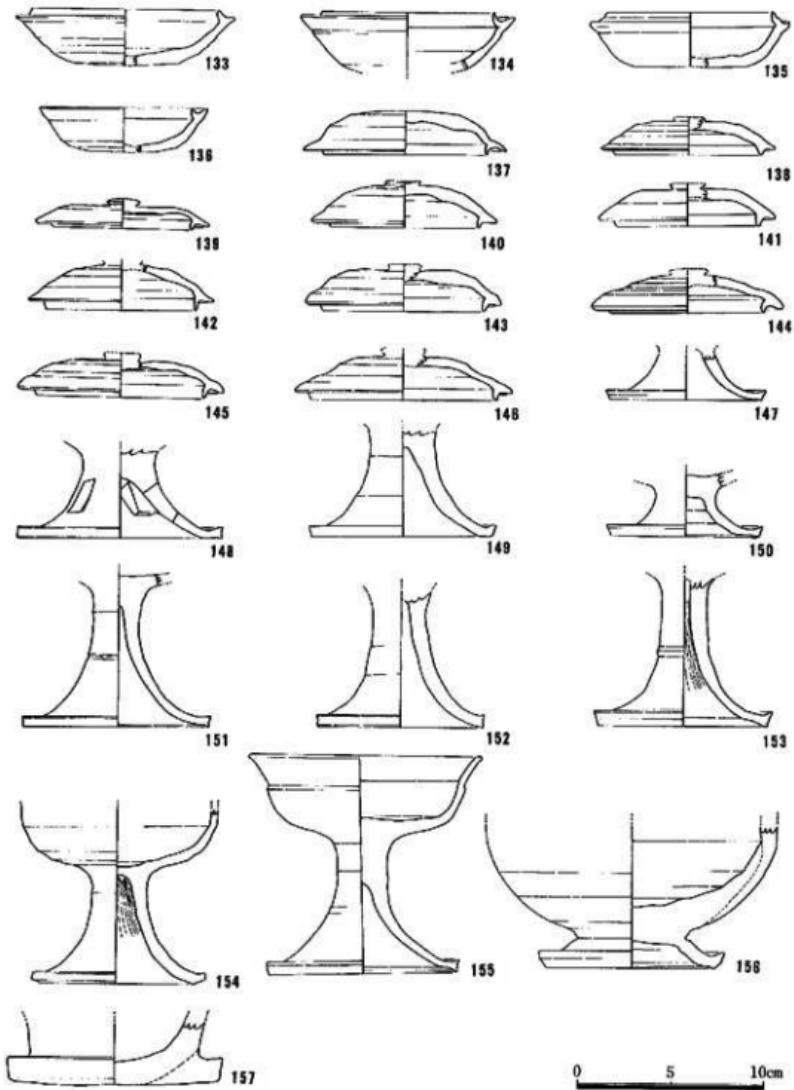


图13 A地区 1号土坡上出土土器实测图 (2) ( $S=1/2$ )

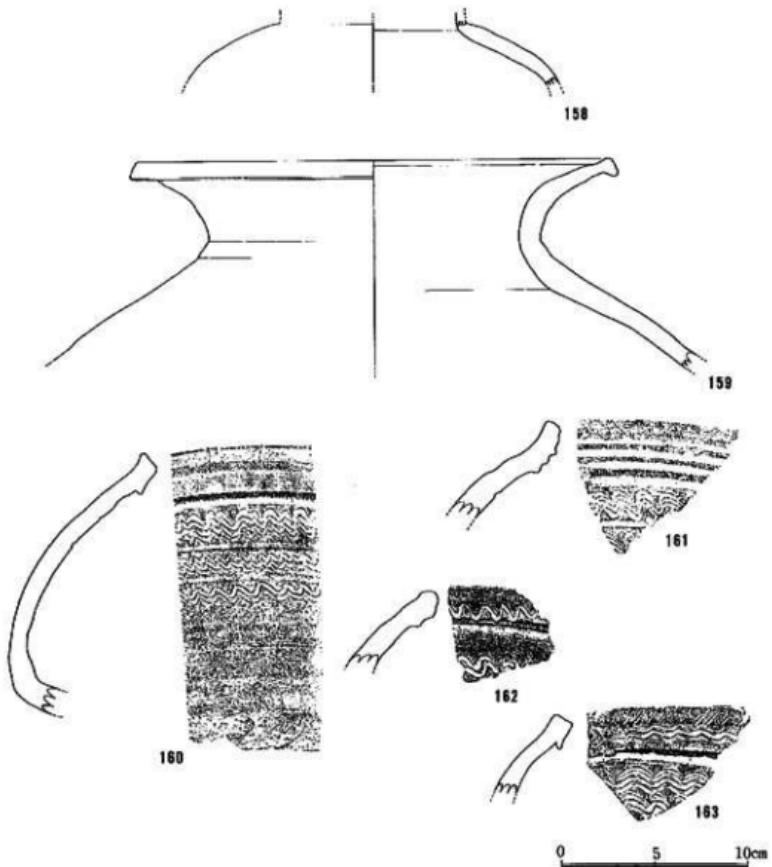


図14 A地区 1号土塚 上層出土土器実測図 (3) ( $S = \frac{1}{2}$ )

A地区 1号土塚上層出土土器観察表

| No. | 器種 | 出土地点       | 法 量                                   | 形 異   | 技 法                                     | 備 考                   | 分類 |
|-----|----|------------|---------------------------------------|---|---|-----------------------|----|
| 158 | 壺  | 1号土塚<br>上層 | 頸部 横 (10.0)                           | 体部上半のみで、口部部、部下半は欠損する。体部上半は直線的に内傾し頸部で捺まり口縁へ向う。       | 内、外面ともヨコナデ。                             | A.灰色<br>B.硬質<br>C.10% | A  |
| 159 | 甌  | #          | 口 径 (25.5)<br>頸部 横 (17.7)<br>頸部 高 4.3 | 体部は欠損。口頭部は外反しながら開き端部でやや陥下する。体部はかなり直線的に開くが、下半部は欠損する。 | 口頭部内、外面ヨコナデ。体部<br>外面タキ、内面同心円タキ<br>を行なう。 | A.灰色<br>B.硬質<br>C.10% | A  |

A地区1号土塙上・下層出土土器観察表

| No. | 器種 | 出土地點       | 法量                      | 形態   |   | 技法  | 備考                           | 分類  |
|-----|----|------------|-------------------------|--|---|---|------------------------------|-----|
|     |    |            |                         | 身  | 底 |   |                              |     |
| 160 | 甕  | 1号土塙<br>上層 | -                       | 口縁部は緩やかに外反しながら開き、<br>底部でやや張り出し断面方形をなす。<br>口縁部は二条の沈様を有する。 |   | 内、外側ともヨコナデ。外側には三条の横捺波状文を施し、間を沈線で隔てる。                            | A. 淡灰褐色<br>B. 硬質<br>C. 口径部5% | B   |
| 161 | "  | "          | -                       | 口縁部のみで、やや直線的に上外方に<br>のび、端部は屈曲し内返気味に聞く。                   |   | 内、外側ともヨコナデ。端部外<br>面は三条の沈様を有し、口縁部には二条以上の横捺波状文を施し、内、外側とも間を沈線で隔てる。 | A. 淡黄褐色<br>B. 硬質<br>C. 口径部5% | B   |
| 162 | "  | "          | -                       | 口底部のみで、直線的にのび端部で厚<br>く折角がある。                             |   | 内、外側ともヨコナデ。外側口<br>脣部と口底部に各々横捺波状文<br>を有する。                       | A. 茶灰色<br>B. 硬質<br>C. 口底部5%  | B   |
| 163 | "  | "          | -                       | 口底部のみで外反気味に聞き端部で垂<br>下し方形をなす。                            |   | 内、外側ともヨコナデ。外側口<br>脣部には刻目、底部と口底部には一<br>条及び二条の横捺波状文を施す。           | A. 青灰色<br>B. 硬質<br>C. 口底部5%  | B   |
| 164 | 环甕 | 1号土塙<br>下層 | 口 径 (9.8)<br>器 高 3.0    | 天井部は平坦で下外方に陥り、口縁<br>部で屈曲し垂下する。端部は丸い。                     |   | 天井部上面はへラ切り未調整。<br>他はヨコナデ。                                       | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 40%    | A-3 |
| 165 | "  | "          | 口 径 (10.2)<br>器 高 (3.6) | 天井部は平坦でやや直線的に下外方に<br>陥り、底部で屈曲し内返する。<br>端部は丸い。            |   | 天井部外面が程度手持ちへラケ<br>ズリ。他はヨコナデ。                                    | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 40%    | A-1 |
| 166 | "  | "          | 口 径 (10.2)<br>器 高 3.1   | 天井部は平坦で下外方に渦曲しながら<br>陥り、底部で屈曲し垂下する。端部は<br>丸い。            |   | 天井部上面手持ちへラケズリ。<br>内面底部ナデを行ない他はヨコ<br>ナデ。                         | A. 灰茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 55%   | A-1 |
| 167 | "  | "          | 口 径 11.2<br>器 高 3.5     | 天井部は丸く、そのまま端部に至る。<br>端部は丸い。                              |   | 天井部上面は粗い手持ちへラケ<br>ズリ。他はヨコナデ。                                    | A. 灰茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 55%   | A-2 |
| 168 | "  | "          | 口 径 (10.6)<br>器 高 3.3   | 天井部上面はほぼ平坦で大きく渦曲し<br>端部に至る。端部は丸く全体にやや厚<br>手。             |   | 天井部上面粗い手持ちへラケズリ。<br>他はヨコナデ。                                     | A. 茶灰色<br>B. 硬質<br>C. 45%    | A-1 |
| 169 | "  | "          | 口 径 (11.0)<br>器 高 3.0   | 天井部上面は平坦で、直線的に下外方<br>にのび口縁で屈曲しやや内傾する。<br>端部は丸い。          |   | 天井部上面は手持ちへラケズリ。<br>他はヨコナデ。                                      | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 25%     | A-3 |
| 170 | "  | "          | 口 径 11.0<br>器 高 3.0     | 天井部上面はほぼ平坦で、直線的に下<br>外方にのび口縁で屈曲しやや内傾する。<br>端部は丸い。        |   | 天井部上面はへラ切り後ナデ調<br>整。他はヨコナデ。                                     | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 95%     | A-4 |
| 171 | "  | "          | 口 径 (11.0)              | 天井部上面欠損。口縁部で屈曲し垂下<br>する。端部は丸い。                           |   | 内、外側ともヨコナデ。   | A. 茶灰色<br>B. 硬質<br>C. 10%    | A-3 |
| 172 | "  | "          | 口 径 (10.6)<br>器 高 3.2   | 天井部上面は平坦で直線的に下外方に<br>のび、屈曲して垂下する。                        |   | 天井部上面へラ切り未調整。他<br>はヨコナデ。  | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 45%    | A-3 |
| 173 | "  | "          | 口 径 (11.4)<br>器 高 3.4   | 天井部上面は平坦で、直線的に下外方<br>へ聞き、口縁部で屈曲しやや外方にの<br>びる。端部は尖がる。     |   | 天井部上面へラ切り未調整。他<br>はヨコナデ。  | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 60%     | A-3 |
| 174 | "  | "          | 口 径 (11.0)<br>器 高 3.2   | 天井部上面は平坦で、渦曲しながら端<br>部に至る。端部は丸い。                         |   | 天井部上面へラ切り未調整。他<br>はヨコナデ。  | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 25%     | A-1 |

A地区1号土器下層出土土器観察表

| No. | 器種 | 出土地点       | 法量   | 形態   | 技法                          | 備考                       | 分類  |
|-----|----|------------|--|--|-----------------------------|--------------------------|-----|
| 175 | 壺  | 1号上地<br>下層 | 口 径 (11.4)<br>器 高 3.1                              | 天井部上面は平坦で湾曲し端部へと至る。端部は尖る。                                | 天井部上面ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。        | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.40%  | A-2 |
| 176 | #  | #          | 口 径 (11.6)<br>器 高 2.9                              | 天井部上面はほぼ平坦で若干凹む。端部に向い緩やかに降下し器壁は非常に薄くなる。端部は丸い。            | 天井部上面ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。        | A.茶灰色<br>B.硬 質<br>C.40%  | A-1 |
| 177 | #  | #          | 口 径 (11.6)<br>器 高 3.4                              | 天井部上面はほぼ平坦で粘土痕を残す。端部に向けて緩やかに下方方にのび、口縁部で屈曲しやや外反する。端部は丸い。  | 天井部上面ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。        | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.80%  | A-3 |
| 178 | #  | #          | 口 径 (11.4)   | 天井部上半は欠損。下半は緩やかに湾曲し端部に至る。端部はやや尖がる。                       | 内、外面ともヨコナデ。                 | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.5%   | A-3 |
| 179 | #  | #          | 口 径 (12.2)<br>器 高 (3.3)                            | 天井部上面はほぼ平坦で直線的に下外方にのび口縁で屈曲し垂下する。端部は丸い。                   | 天井部上面はヘラ切り後、若干のナデを行なう。      | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.40%  | A-4 |
| 180 | #  | #          | 口 径 (11.6)<br>器 高 3.3                              | 天井部上面は中央部がやや凹む。体部との境には粘土痕を残し、緩やかに湾曲して底部に至る。端部は丸い。        | 天井部上面ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。        | A.茶灰色<br>B.硬 質<br>C.40%  | A-1 |
| 181 | #  | #          | 口 径 (12.0)<br>器 高 3.2                              | 天井部上面は平坦で中央はやや凹む。体部はほぼ直線的にのび底部でやや屈曲する。端部は丸い。             | 天井部上面はヘラ切り未調整。他はヨコナデ。       | A.茶灰色<br>B.硬 質<br>C.45%  | A-1 |
| 182 | #  | #          | 口 径 (12.0)<br>器 高 3.3                              | 天井部上面は平坦で中央はやや凹む。体部との境には粘土痕を残し、体部は湾曲し口縁で屈曲しやや内傾する。端部は丸い。 | 天井部上面ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。        | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.40%  | A-4 |
| 183 | #  | #          | 口 径 11.7<br>器 高 3.4                                | 天井部上面は平坦。体部は緩やかに降下し口縁で屈曲しやや外反する。端部は丸い。                   | 天井部上面ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。        | A.茶灰色<br>B.硬 質<br>C.60%  | A-3 |
| 184 | #  | #          | 口 径 (11.2)<br>器 高 3.4                              | 天井部は平坦で、体部は直線的にのび口縁で屈曲しやや内傾する。端部は丸い。                     | 天井部上面は粗い手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。    | A.深茶褐色<br>B.硬 質<br>C.40% | A-4 |
| 185 | #  | #          | 口 径 (12.0)<br>器 高 3.7                              | 天井部は平坦で中央部は凹む。体部は緩やかに下外方に湾曲し口縁部で屈曲し外反する。端部は尖り気味。         | 天井部上面はヘラ切り未調整。他はヨコナデ。       | A.淡茶灰色<br>B.硬 質<br>C.45% | A-3 |
| 186 | #  | #          | 口 径 (11.8)<br>器 高 3.5                              | 天井部は平坦。体部は緩やかに下外方にのび端部で屈曲する。端部は丸い。                       | 天井部上面はヘラ切り未調整。他はヨコナデ。       | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.35%  | A-1 |
| 187 | 壺身 | #          | 口 径 (10.0)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 (12.2)<br>器 高 3.1 | 立ち上がりは強く内傾し、端部は丸い。受け部はほぼ水平に外方にのび端部は丸い。底部は丸い。             | 底部中央はヘラ切り後若干のナデを行なう。他はヨコナデ。 | A.青灰色<br>B.硬 質<br>C.55%  | A-2 |
| 188 | #  | #          | 口 径 (10.8)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 (12.8)<br>器 高 2.4 | 立ち上がりは内傾し、端部はやや尖がる。受け部は上外方にのび端部は丸くなる。底部はほぼ平坦。            | 底部は手持ちヘラケズリ。内面底部はナデ。他はヨコナデ。 | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.20%  | A-2 |

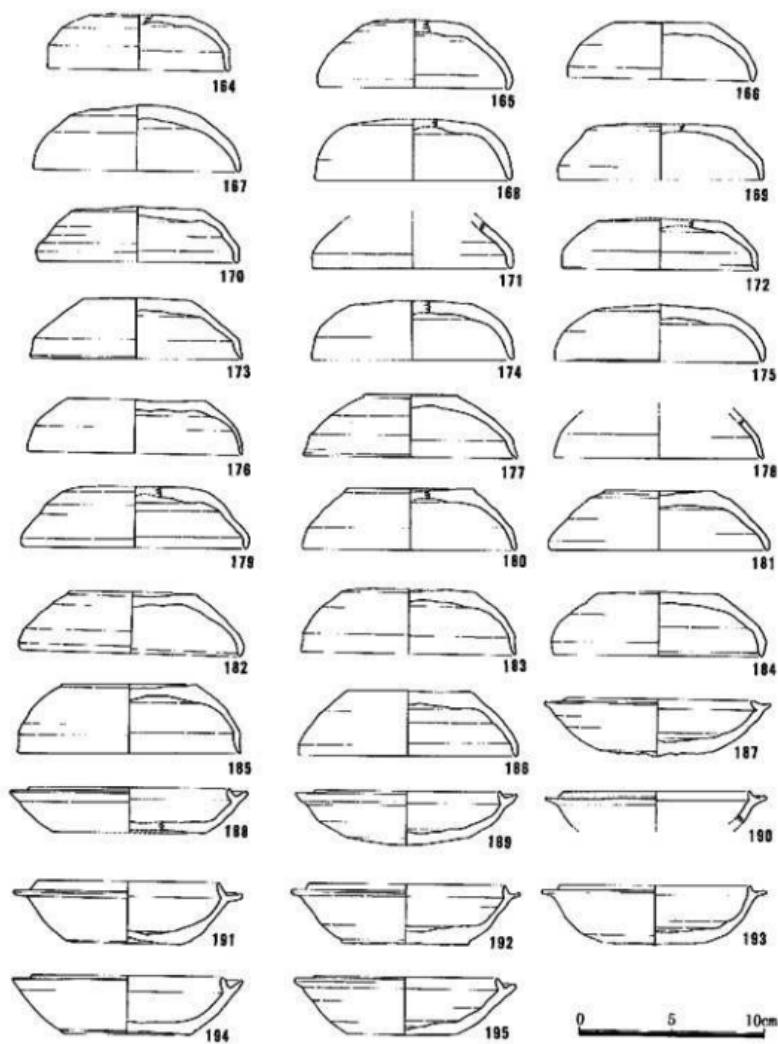


圖15 A地區 1號土堆下層出土土器實測圖 (1) (S-1%)

A地区1号上塙下層出土土器観察表

| No. | 器種 | 出土地点   | 法 直  | 形 狀   | 技 法                               | 備 考                                 | 分類  |
|-----|----|--------|--|---|-----------------------------------|-------------------------------------|-----|
| 189 | 环身 | 1号土塙下層 | 口 径 (9.0)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 12.0<br>器 高 2.9    | 立ち上がりはやや内傾し、端部は尖り氣味。受け部は上外方にのび、やや尖り氣味。体部はやや湾曲し、底部は九くなる。           | 底部は粗い手持ちヘラケズリ。<br>内面底部はナデ。他はヨコナデ。 | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.50%              | A-1 |
| 190 | "  | "      | 口 径 (10.0)<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 (12.0)            | 立ち上がりは内傾し、端部はやや尖る受け部は上外方にのび、端部は角ばる。体底部は欠損。                        | 内、体面ともヨコナデ。                       | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.15%              | A-2 |
| 191 | "  | "      | 口 径 (9.6)<br>立ち上がり高 0.6<br>受け部径 (12.4)<br>器 高 3.3  | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は水平に外方にのび端部は丸い。立ち上がり高は高い。底部はほぼ平坦で中央部は凹む。       | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデを行う。             | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.30%              | A-5 |
| 192 | "  | "      | 口 径 (10.6)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (12.4)<br>器 高 3.2 | 立ち上がりはほぼ直立し、端部は尖る。受け部は上外方にのび、端部は方形をなす。底部は平坦で体部との境は粘土柄を残す。底部は肥厚する。 | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデを行う。             | A.(表)褐色<br>(裏)淡灰色<br>B.硬質<br>C.30%  | A-5 |
| 193 | "  | "      | 口 径 (10.2)<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 (12.2)<br>器 高 3.1 | 立ち上がりはほぼ直立し、端部はやや角ばる。受け部はほぼ水平に外方にのび端部は丸い。体底部は丸い。                  | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデを行う。             | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.40%              | A-5 |
| 194 | "  | "      | 口 径 (10.2)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 (12.4)<br>器 高 3.1 | 立ち上がりは内傾し、端部は角ばる。受け部は体部から直線的に上外方にのび端部は尖り氣味。底部はほぼ平坦になる。            | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデ。                | A.(表)淡灰色<br>(裏)暗灰色<br>B.硬質<br>C.40% | A-6 |
| 195 | "  | "      | 口 径 10.0<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 12.0<br>器 高 3.1     | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は体部から直線的に上外方にのびる。端部は丸い。底部は平底になる。               | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデを行う。             | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.70%              | A-6 |
| 196 | "  | "      | 口 径 (8.4)<br>立ち上がり高 0.1<br>受け部径 (10.4)<br>器 高 3.3  | 立ち上がりは大きく内傾し、端部は尖り氣味。受け部は上外方にのび、端部は丸くなる。体底部は丸く、上半はやや直線的にのびる。      | 体底部下半はヘラ切り未調整。他はヨコナデ。             | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.25%              | A-1 |
| 197 | "  | "      | 口 径 (8.4)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 (10.4)<br>器 高 2.5  | 立ち上がりは途中屈曲して内傾し、端部はやや尖る。受け部は上外方にのび、端部は角ばる。底部は平底で、体部は直線的。          | 底部ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。                 | A.暗灰色<br>B.硬質<br>C.25%              | A-3 |
| 198 | "  | "      | 口 径 (9.0)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 (10.6)<br>器 高 2.5  | 立ち上がりは内傾し、端部は尖り氣味である。受け部は上外方にのび端部は丸い。底部は平底で、体部との境には一条の沈線を有する。     | 底部ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。                 | A.灰 色<br>B.硬質<br>C.20%              | A-3 |
| 199 | "  | "      | 口 径 (10.0)<br>立ち上がり高 0.6<br>受け部径 (11.6)<br>器 高 2.5 | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部はほぼ水平に外方にのび、端部は角ばる。体部は直線的にのび、底部は中央部が凹む。        | 底部ヘラ切り未調整。他はヨコナデを行う。              | A.灰 色<br>B.硬質<br>C.45%              | A-2 |
| 200 | "  | "      | 口 径 9.2<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 10.9<br>器 高 2.8      | 立ち上がりは外反気味に内傾する。端部は丸い。受け部は上外方にのび、端部は尖る。底部はほぼ平底で、体部との境はやや不明確。      | 底部はヘラ切り後若干ナデを行なう。他はヨコナデ。          | A.暗茶褐色<br>B.硬質<br>C.50%             | A-2 |
| 201 | "  | "      | 口 径 (9.4)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 (11.2)<br>器 高 2.5  | 立ち上がりはやや内傾し、端部はやや尖り氣味。受け部は体部からほぼ直線的に聞き、端部は丸い。底部は中央部が大きく凹む。        | 底部ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。                 | A.灰 色<br>B.硬質                       | A-6 |

A 地区 1号上塙下層出土土器観察表

| No. | 器種 | 出土地点   | 法 量   | 形 築   | 技 法                            | 備 考                                 | 分類  |
|-----|----|--------|---|---|--------------------------------|-------------------------------------|-----|
| 202 | 杯身 | 1号上塙下層 | 口 径 (9.4)<br>立ち上がり高 0.1<br>受け部径 (11.0)<br>器 高 2.9   | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は体部から直線的にのび、端部は角ばる。                              | 底部粗い手持ちヘラケズリ。他はヨコナデを行う。        | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.60%              | A-1 |
| 203 | "  | "      | 口 径 9.4<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 11.8<br>器 高 3.1       | 立ち上がりはやや内傾し、端部は尖り気味。受け部は上外方にのび、端部は丸い。底部は平坦で、体部との境は粘土痕を残す。           | 底部ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。              | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.55%              | A-2 |
| 204 | "  | "      | 口 径 (10.0)<br>立ち上がり高 0.6<br>受け部径 (11.6)<br>器 高 3.3  | 立ち上がりはほぼ直立し、端部は尖り気味。受け部はほぼ水平に外方にのび、端部は方形をなす。底部は中央がやや凹み、体部は直線的にのびる。  | 底部ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。              | A.灰 色<br>B.硬質<br>C.25%              | A-5 |
| 205 | "  | "      | 口 径 (9.6)<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 (11.6)<br>器 高 (2.9) | 立ち上がりは内傾し、端部は尖り気味となる。受け部は上外方にのび、端部は角ばる。底部は平坦で、体部は直線的にのびる。           | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデを行なう。         | A.灰 色<br>B.硬質<br>C.20%              | A-2 |
| 206 | "  | "      | 口 径 (9.2)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 (11.0)<br>器 高 3.2   | 立ち上がりは外反気味に内傾し、端部は尖る。受け部は上外方にのび、端部は方形をなす。底部は平坦で、体部は直線的にのびる。         | 底部ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。              | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.25%              | A-2 |
| 207 | "  | "      | 口 径 9.6<br>立ち上がり高 0.9<br>受け部径 11.2<br>器 高 3.3       | 立ち上がりはやや内傾し、端部は丸くなる。受け部は水平に外方にのび、端部は方形をなす。底部は平坦で、体部の境には沈線を一束有する。    | 底部粗い手持ちヘラケズリ。他はヨコナデを行う。        | A.赤褐色<br>B.若干軟質<br>C.100%           | A-5 |
| 208 | "  | "      | 口 径 (9.8)<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 (11.8)<br>器 高 (3.2) | 立ち上がりは直立し、端部は丸い。受け部は上外方にのび、端部はやや角ばる。底部は平坦で体部は直線的にのびる。               | 底部粗い手持ちヘラケズリ。他はヨコナデを行う。        | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.45%              | A-2 |
| 209 | "  | "      | 口 径 (9.6)<br>立ち上がり高 0.<br>受け部径 (11.8)<br>器 高 3.0    | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は体部から直線的にのび、端部は丸く、立ち上がりの端部と同一レベルになる。底部は欠損する。     | 内、外面ともヨコナデ。                    | A.(表)灰色<br>(裏)暗灰色<br>B.硬質<br>C.5%   | A-6 |
| 210 | "  | "      | 口 径 10.2<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 12.2<br>器 高 3.1      | 立ち上がりはやや内傾し、端部は丸くなる。受け部は上外方にのび、端部は丸い。底部は平坦で中央部が大きく凹む。               | 底部ヘラ切り未調整。内面底部はナデを行ない。他はヨコナデ。  | A.灰 色<br>B.硬質<br>C.50%              | A-2 |
| 211 | "  | "      | 口 径 (10.4)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 (12.2)<br>器 高 2.9  | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は水平に外方にのび、端部は方形をなす。体部は渦曲し、底部は平坦である。              | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデを行なう。         | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.45%              | A-5 |
| 212 | "  | "      | 口 径 9.8<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 11.8<br>器 高 3.2       | 立ち上がりは内傾し、端部はやや尖る。受け部は水平にのび、端部は方形をなす。底部はほぼ平坦で体部との境に粘土痕を残し、体部はほぼ直線的。 | 底部はヘラ切り未調整。内面底部はナデを行ない。他はヨコナデ。 | A.灰 色<br>B.硬質<br>C.55%              | A-5 |
| 213 | "  | "      | 口 径 10.4<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 12.4<br>器 高 3.2      | 立ち上がりは内傾し、端部は尖る。受け部はほぼ水平にのび、端部は方形をなす。底部はほぼ平坦で、やや凹む。                 | 底部はヘラ切り未調整。内面底部はナデを行ない。他はヨコナデ。 | A.(表)暗灰色<br>(裏)淡灰色<br>B.硬質<br>C.60% | A-5 |
| 214 | "  | "      | 口 径 (10.6)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (12.4)<br>器 高 3.1  | 立ち上がりはほぼ直立し、端部は尖り気味。受け部は上外方にのび、端部は丸い。底部はやや凹む。                       | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデを行なう。         | A.灰 色<br>B.硬質<br>C.50%              | A-2 |

A地区1号土塁下層出土上器観察表

| No  | 器種 | 出土地点  | 法量  | 形態  | 技法   | 備考                                   | 分類  |
|-----|----|-------|---|---|--|--------------------------------------|-----|
| 215 | 环身 | 1号土塁下 | 口径 10.6<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 12.6<br>器高 4.2                      | 立ち上がりは外反気味に内傾し、端部はやや尖り気味。受け部は体部から直線的にのび、端部は丸い。底部は平坦である。                                   | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデを行なう。                               | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.50%              | A-2 |
| 216 | 环蓋 | "     | 口径(蓋) 12.4<br>(身) (9.8)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 (11.6)<br>器高(身) 2.5 | 环蓋は天井部を欠損するが、口縁近くで弧曲し、外反して端部に至る。端部は丸い。环身の立ち上がりはやや内傾し、端部は丸い。受け部は上外方にのび、端部は丸い。底部は平仄で中央部が凹む。 | 环身底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデ。                                 | A.淡灰色<br>B.硬 質<br>C.(蓋)30%<br>(身) 0% | A-3 |
| 217 | 环蓋 | "     | 口径 (10.0)<br>器高 2.7<br>つまみ径 1.6<br>つまみ高 0.5                       | 天井部は丸く、端部でやや屈折し端部は丸い。かえりは垂下し、端部は尖り気味。天井部中央に肩平つなつまみを有する。                                   | 外面頂部は回転ヘラケズリを行ない。この辺は手持ちヘラケズリを行なう。天井部下半と内面はヨコナデを行なう。 | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.70%              | B-5 |
| 218 | "  | "     | 口径 (10.0)<br>器高 (2.2)   | 天井部上面は平坦で、端部でやや盛り上がる。端部は丸い。かえりはやや内傾し、端部は丸い。上面中央部には肩平つなつまみを有すると考えられる。                      | 外面頂部は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。                                 | A.淡灰色<br>B.硬 質<br>C.20%              | B-5 |
| 219 | 环身 | "     | 口径 (9.0)<br>器高 3.1  | 底部は丸く、体部中位で屈曲し、外反気味に端部へと至る。端部は肥大し、やや角ばる。  | 底部は手持ちヘラケズリを行ない。他はヨコナデ。                              | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.40%              | B-2 |
| 220 | "  | "     | 口径 (9.6)<br>器高 3.6  | 底部は平仄で、体部は済曲して立ち上がり、中程で屈曲し直線的に開き端部へと至る。端部は丸い。   | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデを行なう。                               | A.茶褐色<br>B.硬 質<br>C.70%              | B-2 |
| 221 | "  | "     | 口径 (9.0)<br>器高 4.3  | 底部は平坦で、体部はやや湾曲した後直線的にやや開いて端部に至る。端部は丸い。  | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデを行なう。                               | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.40%              | B-3 |
| 222 | "  | "     | 口径 (10.4)<br>器高 3.2   | 底部は平仄で、体部は直線的に開き、口縁部でやや外反する。端部は丸くなる。  | 底部は粗い手持ちヘラケズリを行ない、他はヨコナデ。                            | A.淡灰色<br>B.硬 質<br>C.35%              | B-3 |
| 223 | "  | "     | 口径 (9.8)<br>器高 4.2  | 底部は平仄で体部下半で屈折した後、済曲気味に上外方にのびる。口縫は若干外反し、端部は丸い。   | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデを行なう。                               | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.30%              | B-3 |
| 224 | 高环 | "     | 口径 (11.0)   | 脚欠損。环は中程で大きく屈曲し、外反しながら開く。端部は丸い。   | 内、外面ともヨコナデ。  | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.15%              |     |
| 225 | "  | "     | 口径 12.6   | 脚欠損。环は水平にのびた後、済曲して口縫へとのびる。端部は丸い。  | 外面下端は回転ヘラケズリを行ない。他はヨコナデ。                             | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.40%              |     |
| 226 | "  | "     | 口径 (10.8)   | 脚欠損。环は済曲して上外方にのび、口縫で屈曲し外反気味に端部へ至る。端部は丸い。  | 外面下端は回転ヘラケズリを行ない、脚と接合し一部はヨコナデを行なう。他はヨコナデ。            | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.40%              |     |
| 227 | "  | "     | 脚部 径 9.8<br>脚部 高 (7.2)  | 脚欠損。脚は緩やかに済曲して開き、端部で下位して接地する。端部は方形をなす。  | 内、外面ともヨコナデ。  | A.茶褐色<br>B.硬 質<br>C.脚部100%           | A   |
| 228 | "  | "     | 脚部 径 10.0<br>脚部 高 7.3   | 脚欠損。脚は緩やかに済曲して開き、端部で若干上下にのび接地する。脚中程には一条の沈線を有する。   | 内面上半はシボリ。他はヨコナデ。                                     | A.茶灰色<br>B.硬 質<br>C.脚部 90%           | A   |
| 229 | "  | "     | 脚部 径 (10.2)<br>脚部 高 6.5   | 脚欠損。脚は途中若干屈曲しながら開き、接地して水平にのび端部で若干上方にのびる。  | 内、外面ともヨコナデ。  | A.米灰色<br>B.硬 質<br>C.脚部 90%           | A   |

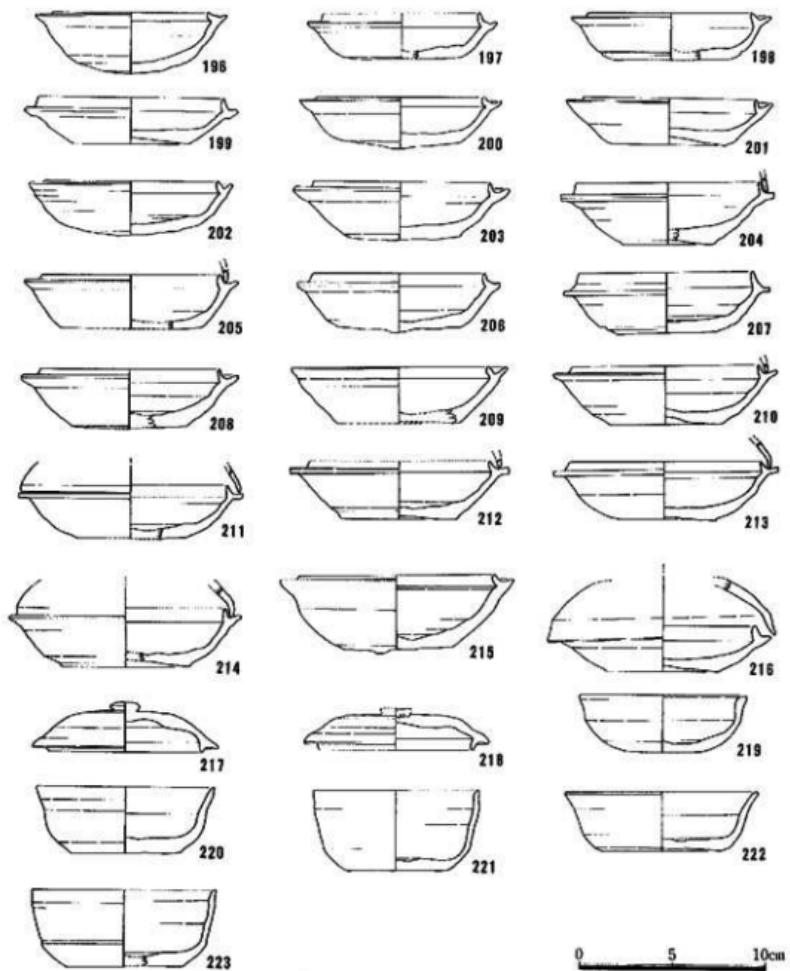


图16 A地区 1号上坡下层出土土器实测图 (2) (S-1)

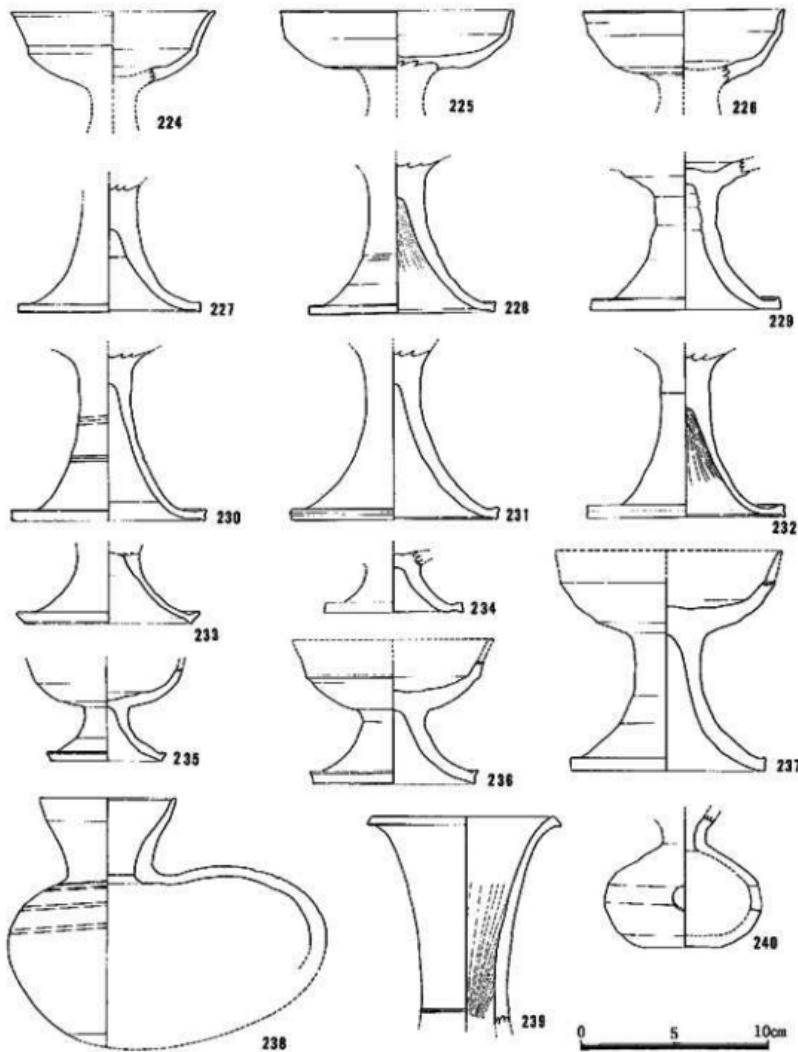
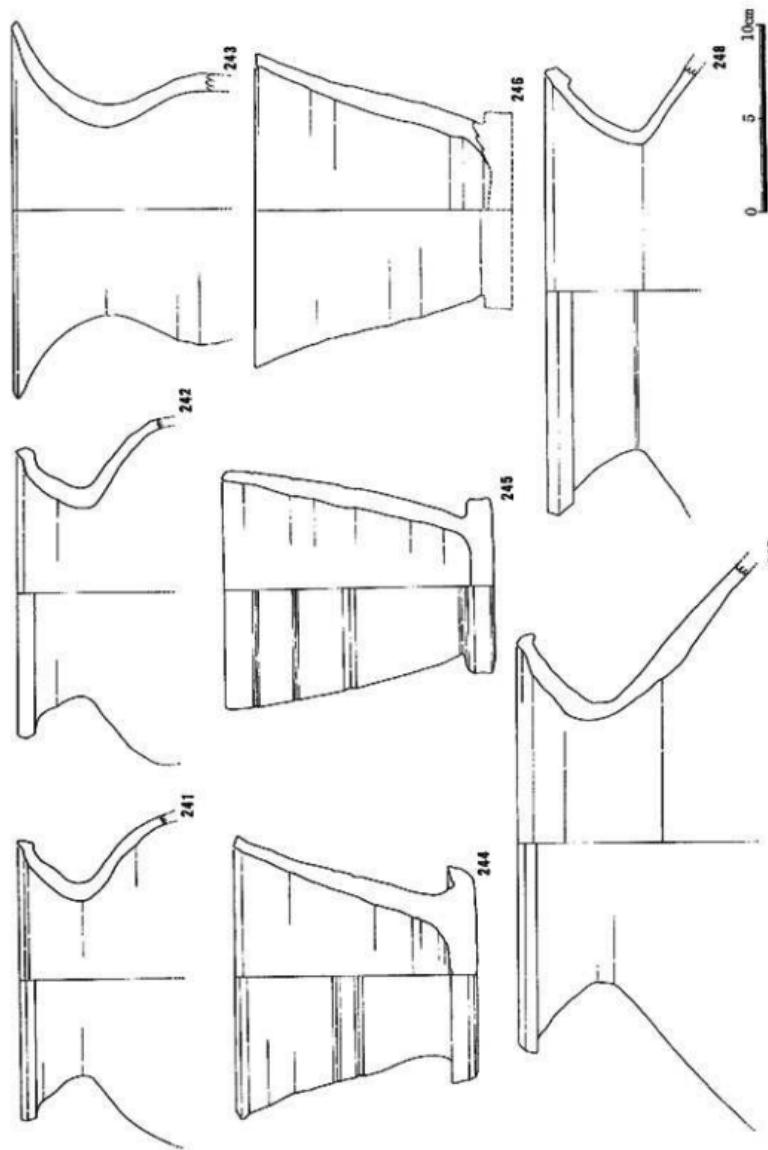


図17 A地区 1号土坑下層出土土器実測図 (3) ( $S = \frac{1}{6}$ )

## A 地区 1号土塙下層、2号土塙出土土器観察表

| No. | 器種          | 出土地点   | 法量                                  | 形態   | 技法                                    | 備考                               | 分類 |
|-----|-------------|--------|-------------------------------------|--|---------------------------------------|----------------------------------|----|
| 230 | 高環          | 1号土塙下層 | 脚部様 10.4<br>脚部高 10.0                | 环欠損。脚は緩やかに開き、端部近くで水平にのび、端部では若干上、下にのび接続する。脚に二条の沈線あり。          | 内、外面ともヨコナデ。                           | A. 茶灰色<br>B. 硬質<br>C. 脚部100%     | A  |
| 231 | "           | "      | 脚部様 11.0<br>脚部高 (9.5)               | 环欠損。脚は緩やかに開き、端部で若干上、下にのび接続する。                                | 内、外面ともヨコナデ。                           | A. 茶灰色<br>B. 硬質<br>C. 脚部100%     | A  |
| 232 | "           | "      | 脚部径 10.6<br>脚部高 8.7                 | 环欠損。脚は直線的にのび、脚でやや水平にのびた後、端部で若干垂下して接続する。                      | 内面が程度シボリを行なう。他はヨコナデ。                  | A. 淡黄褐色<br>B. 若干軟質<br>C. 90%     | A  |
| 233 | "           | "      | 脚部径 (9.8)<br>脚部高 3.9                | 环欠損。脚は大きく下外方にのび、端部で接続し、上外方にのびる。器壁は非常に薄い。                     | 内、外面ともヨコナデ。                           | A. 黄褐色<br>B. やや軟質<br>C. 脚部 70%   | B  |
| 234 | "           | "      | 脚部径 7.4<br>脚部高 2.5                  | 环欠損。脚は直線気味に開き接続した後水平にのび端部に至る。端部は方形をなす。                       | 内、外面ともヨコナデ。                           | A. 灰灰色<br>B. 硬質<br>C. 脚部100%     | B  |
| 235 | "           | "      | 脚部径 6.0<br>脚部高 2.9                  | 环上半欠損。环は緩やかに湾曲して立ち上がる。脚は湾曲して開き、端部で接続して若干上外方にのびる。             | 环外面下端は回転ヘラケズリ。内面中央部はナデを行ない。他はヨコナデ。    | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 50%         | B  |
| 236 | "           | "      | 脚部径 8.8<br>脚部高 3.9                  | 环上半欠損。环は緩やかに湾曲してのび、中程で屈曲し外反して端部に至る。脚は緩やかに開き、端部で若干上、下にのび接続する。 | 内、外面ともヨコナデ。                           | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 80%        | B  |
| 237 | "           | "      | 脚部径 (10.3)<br>脚部高 7.4               | 环上半欠損。环は緩やかに湾曲してのびる。脚は上まで一度縮まり、緩やかに開き端部で接続する。端部は方形をなす。       | 内、外面ともヨコナデ。                           | A. 淡褐色<br>B. やや軟質<br>C. 70%      | A  |
| 238 | 平版          | "      | 口 径 7.4<br>頭部最大径 17.4<br>器 高 (13.4) | 口部は思ひながら開き端部は丸い。体部は頭部に対しやや盛り上がり、底部は丸くなると考えられる。               | 外面上半に五条の刻線を有する。<br>内、外面ともヨコナデ。        | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 70%         |    |
| 239 | 長頭亞         | "      | 口 径 10.4<br>頭部高 10.4                | 口頭部のみで体部欠損。下邊に粗粒状の突起を有し、緩やかに上外方に開く。端部はやや下方にのび端部は角ばる。         | 内面下部が程度はシボリ。他はヨコナデ。                   | A. 淡黄褐色<br>B. 若干軟質<br>C. 口頭部100% | F  |
| 240 | 庖           | "      | 頭部最大径 8.4                           | 口頭部欠損。体部はせぐく、体部中程に最大径をもつ。底部は平坦で、全体にざんぐりした感をもつ。               | 底部外側はナデを行ない。他はヨコナデを行なう。               | A. 淡褐色<br>B. 若干軟質<br>C. 80%      |    |
| 241 | 庖           | "      | 口 径 (15.0)<br>頭部径 (10.4)            | 体部が欠損。口頭部は直線的に上外方にのび、端部でやや張り出し若干上方にのびる。端部は丸い。                | 内、外面ともヨコナデ。                           | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 15%         | B  |
| 242 | "           | "      | 口 径 (15.2)<br>頭部径 (11.2)            | 体部が欠損。口頭部は直線的に上外方にのび、端部でやや張り出し若干上方にのびる。端部は丸い。                | 内、外面ともヨコナデ。                           | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 5%          | B  |
| 243 | "           | "      | 口 径 (20.2)<br>頭部径 (11.3)            | 口頭部は緩やかに外反し、端部は方形をなす。頭部から体部にかけては緩やかなカーブを描き、最大径は口径よりも小さい。     | 内、外面ともヨコナデ。                           | A. 淡黄褐色<br>B. やや軟質<br>C. 30%     | C  |
| 244 | ナ<br>リ<br>鉢 | "      | 口 径 15.2<br>底部径 11.8<br>器 高 13.1    | 底部は平坦で体部との境は沈線が溝状にめぐる。体部はストレートに開き、端部は方形をなす。                  | 底部外面は手持ちヘラケズリ。他はヨコナデで、体部中位に二条の沈線を有する。 | A. 茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 100%       | B  |
| 245 | "           | "      | 口 径 12.0<br>底部径 9.4<br>器 高 14.6     | 底部は平坦で体部は胴部みに端部へとのび、端部は角ばる。                                  | 底部外面は手持ちヘラケズリ。他はヨコナデで体部上半に三条の沈線を有する。  | A. 暗茶灰色<br>B. 硬質<br>C. 50%       | B  |

圖18 A地區 1號地下出土土器實測圖 (4) ( $S=1\%$ )



A地区2号上塙出土土器観察表

| No. | 器種  | 出土地点   | 法量  | 形態   | 技法                               | 備考                           | 分類  |
|-----|-----|--------|---|--|----------------------------------|------------------------------|-----|
| 246 | すり鉢 | 1号土地下層 | 口径 16.8<br>器高 (13.5)                              | 底部欠損。体部はストレートに開き、<br>底部は方形をなす。   | 内、外面ともヨコナデ。                      | A. 淡黄褐色<br>B. やや軟質<br>C. 50% | B   |
| 247 | 甕   | #      | 口径 20.4<br>底部径 15.0                               | 口頭部は外反気味に上外方にのび、端部<br>はやや下方に張り出す。颈部から体部<br>へは直線的にのびる。                              | 口頭部内、外面ヨコナデ。体部<br>外面タタキ、内面同心円タタキ | A. 茶灰色<br>B. 硬質<br>C. 15%    | A   |
| 248 | #   | 2号土地   | 口径 (23.5)<br>颈部径 (17.0)                           | 口頭部は外反気味に上外方にのび、端部<br>は方形に張り出す。体部上端は直線的<br>にのびる。壁部は薄い。                             | 口頭部内、外面ヨコナデ。体部<br>外面タタキ、内面同心円タタキ | A. 茶灰色<br>B. 硬質<br>C. 10%    | A   |
| 249 | 長盞  | #      | 口径 (12.6)<br>器高 (3.4)                             | 天井部は丸味をもち、端部でやや屈曲<br>する。端部は丸い。   | 天井部上面は手持ちヘラケズリ<br>他はヨコナデ。        | A. 茶灰色<br>B. 硬質<br>C. 40%    | A-2 |
| 250 | #   | #      | 口径 (11.0)<br>器高 3.6                               | 天井部は平坦で、体部は直線的にのび<br>端部に至る。端部はやや尖り気味とな<br>る。                                       | 天井部上面ヘラ切り木調整。他<br>はヨコナデ。         | A. 黒色<br>B. 硬質<br>C. 25%     | A-1 |
| 251 | #   | #      | 口径 (11.6)<br>器高 (3.4)                             | 天井部は平坦で、湾曲して端部に至る<br>端部は丸い。  | 天井部上面ヘラ切り木調整。他<br>はヨコナデ。         | A. 淡褐色<br>B. やや軟質<br>C. 25%  | A-1 |
| 252 | 杯身  | #      | 口径 (10.0)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (11.8)<br>器高 3.3  | 立ち上がりはやや内傾し、端部は尖り<br>氣味。受け部は上外方にのび、端部は<br>丸い。体部は湾曲し、底部は平坦であ<br>る。                  | 此部ヘラ切り木調整。他はヨコ<br>ナデ。            | A. 淡茶灰色<br>B. やや軟質<br>C. 45% | A-2 |
| 253 | #   | #      | 口径 (9.0)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 (11.2)<br>器高 (3.4) | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受<br>け部は上外方にのび、端部は角ばる。<br>底部と体部の境は粘土痕を残し、底部<br>にはほぼ平坦になる。          | 底部ヘラ切り木調整。他はヨコ<br>ナデ。            | A. 青灰色<br>B. 硬質<br>C. 10%    | A-1 |
| 254 | #   | #      | 口径 (9.4)<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 (11.4)<br>器高 3.3   | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受<br>け部は上外方にのび、端部は丸い。底<br>部にはほぼ平坦となる。                              | 底部ヘラ切り木調整。他はヨコ<br>ナデ。            | A. 淡褐色<br>B. やや軟質<br>C. 25%  | A-2 |
| 255 | #   | #      | 口径 (9.4)<br>立ち上がり高 0.6<br>受け部径 (11.4)<br>器高 3.3   | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受<br>け部はやや下外方にのび、端部は丸く<br>なる。体部は湾曲し、底部は平坦であ<br>る。                  | 底部ヘラ切り木調整。他はヨコ<br>ナデ。            | A. 青色<br>B. やや軟質<br>C. 20%   | A-2 |
| 256 | #   | #      | 口径 (8.4)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 (10.2)<br>器高 3.3   | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受<br>け部は体部とはほぼ一体化し、やや外方<br>に張り出す程度。底部と体部の境には<br>粘土痕を残し、底部はやや丸味をもつ。 | 底部ヘラ切り木調整。他はヨコ<br>ナデ。            | A. 黒灰色<br>B. 硬質<br>C. 30%    | A-2 |
| 257 | 环唇  | #      | 口径 (10.0)<br>器高 (1.6)                             | 天井部は平坦で湾曲して端部に至り、<br>端部で大きく屈曲し水平に外方へのひ<br>曲。端部は丸い。かえりは大きく内傾<br>し、底部は丸い。            | 天井部上面圓軸ヘラケズリ。他<br>はヨコナデ。         | A. 暗茶灰色<br>B. 硬質<br>C. 20%   | B-4 |
| 258 | #   | #      | 口径 9.4<br>器高 (2.3)<br>つまみ径 1.4                    | 天井部は丸く端部へと至り、端部は丸<br>くなる。かえりは垂下し、端部は尖る。<br>つまみは欠損する。                               | 天井部上約程度は圓軸ヘラケズ<br>リ。他はヨコナデ。      | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 硬質     | B-5 |
| 259 | #   | #      | 口径 (8.6)<br>器高 (1.9)                              | 天井部は丸く端部へと至り、端部はや<br>や尖り気味となる。かえりは一度屈折<br>し端部は尖り気味。つまみは欠損する<br>がおそらく付いていたと思われる。    | 天井部上約程度は圓軸ヘラケズ<br>リ。他はヨコナデ。      | A. 黒色<br>B. 硬質<br>C. 50%     | B-5 |

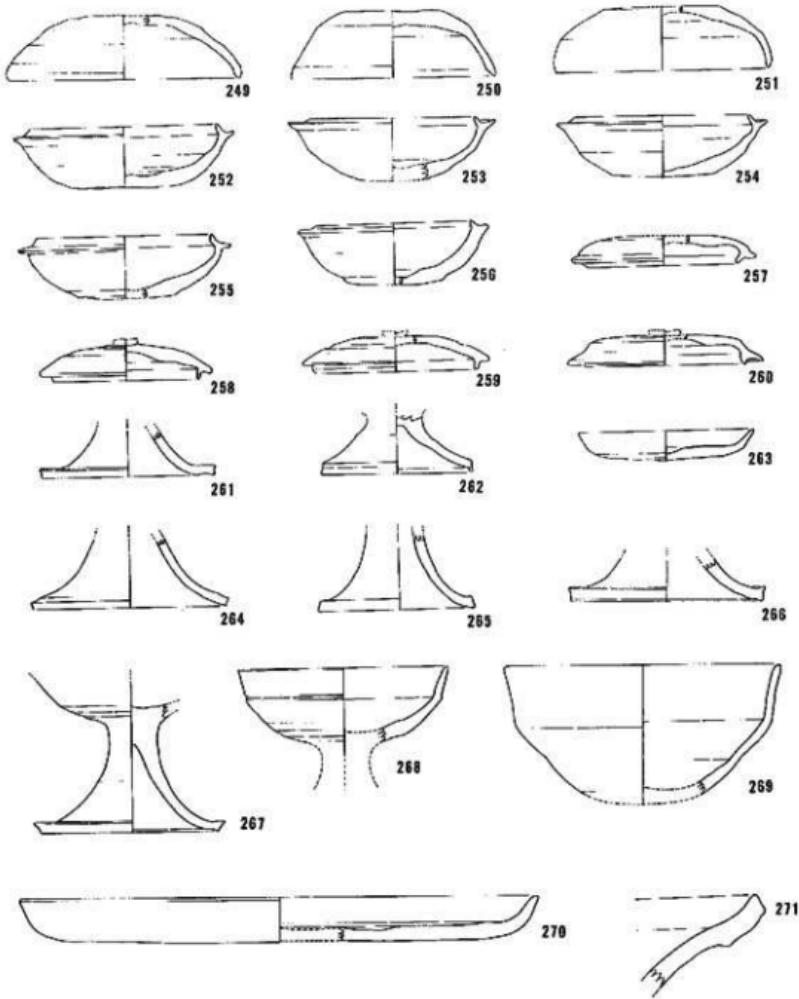


図19 A地区 2号土爐出土土器実測図 (S=1/2)

八地区 2号土塁、2号窓体内、3号窓体内出土上器観察表

| No. | 器種          | 出土地点 | 法<br>量                            | 形<br>態   | 技<br>法  | 備<br>考                          | 分類  |
|-----|-------------|------|-----------------------------------|--|---|---------------------------------|-----|
| 260 | 环盖          | 2号土塁 | 口<br>径 (10.2)<br>器<br>高 (1.9)     | 天井部は平坦で、周囲に端部へ至り、更に端部で外方に屈曲する。端部はやや角ばる。かえりはほぼ垂下し、端部は丸い。つまみが付くと考えられる。                 | 天井部平坦部は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。  | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.30%          | B.5 |
| 261 | 高环          | #    | 脚 部 径 (9.2)                       | 环欠損。脚は大きく開き、接地した後に外方へ水平にのびる。端部は方形をなす。  | 内、外面ともヨコナデ。   | A.暗灰色<br>B.硬質<br>C.脚部30%        | B   |
| 262 | #           | #    | 脚 部 径 8.2<br>脚 部 高 (3.3)          | 环欠損。脚は大きく開き、端部で鋸く屈曲し平下して接地する。端部は丸くなる。  | 内、外面ともヨコナデ。   | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.脚部100%       | H   |
| 263 | 小<br>量<br>? | #    | 口<br>径 (9.4)<br>器<br>高 1.6        | 端部はやや丸味をもち、屈曲した後ストレートに開き端部へ至る。端部は丸い。   | 底面は手持ちヘラケズリ。他はヨコナデを行なう。   | A.茶褐色<br>B.硬質<br>C.45%          |     |
| 264 | 高环          | #    | 脚 部 径 (10.4)                      | 环欠損。脚は緩やかに開き、端部で接地する。端部は方形をなす。   | 内、外面ともヨコナデ。   | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.脚部100%       | B   |
| 265 | #           | #    | 脚 部 径 8.5                         | 环欠損。脚は緩やかに開き、端部で接地する。端部は方形をなす。   | 内、外面ともヨコナデ。   | A.灰 色<br>B.硬質<br>C.脚部80%        | B   |
| 266 | #           | #    | 脚 部 径 10.4                        | 环欠損。脚は大きく開き、端部で接地する。端部は上、下に若干のびる。  | 内、外面ともヨコナデ。   | A.灰 色<br>B.硬質<br>C.脚部30%        | B   |
| 267 | #           | #    | 脚 部 径 9.4<br>脚 部 高 6.2            | 环欠損。脚は緩やかに開き、端部で若干上、下にのび接地する。环は緩やかにカーブしながら立ち上がる。                                     | 环下端は回転ヘラケズリ。他はヨコナデを行なう。   | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.50%          | A   |
| 268 | 高环          | #    | 口<br>径 (11.4)                     | 脚欠損。环は緩やかに上外方へのび、口縁で一条の沈塊を有して屈曲し、直線的に開き端部へ至る。端部は丸い。                                  | 环下端は回転ヘラケズリ。他はヨコナデを行なう。   | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.25%          |     |
| 269 | 杭           | #    | 口<br>径 (15.0)<br>器<br>高 (7.6)     | 端面は丸味が付くが、体部は緩やかに上外方にのび中程で屈曲し直線的にやや開きながら端部へ至る。端部は丸い。                                 | 内、外面ともヨコナデ。   | A.灰褐色<br>B.若干軟質<br>C.30%        | B   |
| 270 | 盤           | #    | 口<br>径 (27.6)<br>器<br>高 (2.5)     | 端面はほぼ平底で、端部は丸い。全体にやや厚い。  | 内、外面ともヨコナデ。   | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.20%          |     |
| 271 | 甕           | #    | -                                 | 端部は外方に張り出して肥厚し、方形をなす。  | 内、外面ともヨコナデを行ない。外面には一条の横筋波状文を施す。   | A.暗灰色<br>B.硬質<br>C.口頂部10%       | B   |
| 272 | 土馬          | 2号窓内 | 頭 部 高 7.2<br>頭 部 長 7.2<br>首 径 3.5 | 土馬。首より上ののみで、胴体、足は欠失する。頭部には耳、目、口、立髪が明確に認められる。特に耳は片方が欠損しているもの、かなり強調されており、他の各部よりかなり目立つ。 | 全体に手すくねによる。耳は後取り付けられている。立髪はつまみ出しにより、口はへラでやナナメに切る感じで表現される。目は若干指圧により凹めた後、目玉の部分だけを更に強調して凹める。 | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.頭部から首<br>95% |     |
| 273 | 甕           | #    | -                                 | 口縁のみで、直線的に上外方に開き、端部で方形に張り出す。   | 内面口唇部下に二条の櫛状波状文を施し、外面も同様である。他はヨコナデを行なう。   | A.淡黄褐色<br>B.若干軟質<br>C.口頭部5%     | B   |
| 274 | 坏           | 3号窓内 | 口<br>径 14.6<br>器<br>高 4.6         | 底面は丸く、緩やかに端部に至り、口縁は若干外反気味。端部は丸くなる。   | 底面回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。   | A.灰茶褐色<br>B.硬質<br>C.80%         |     |
| 275 | 高环          | 2号窓内 | 脚 部 径 9.0<br>脚 部 高 4.4            | 环欠損。脚は緩やかに開き、端部で若干下方にのび接地する。端部はナナメに切られる。   | 内、外面ともヨコナデ。   | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.脚部100%       | B   |

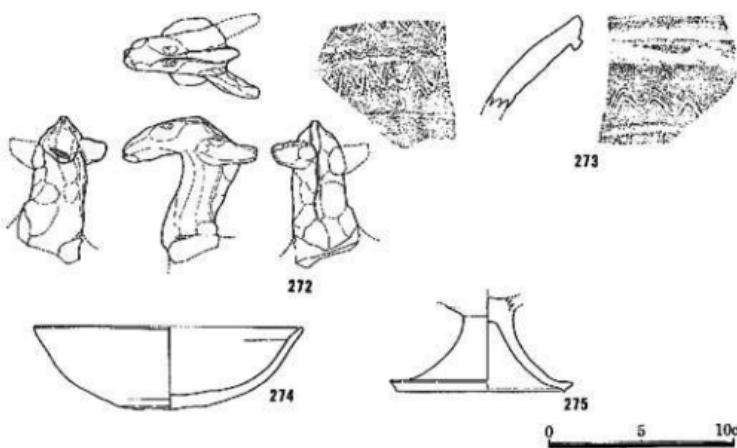


图20 A地区 2号、3号窑址，窑体内出土土器实测图 ( $S = \frac{1}{2}$ )

## 2. B 地 区

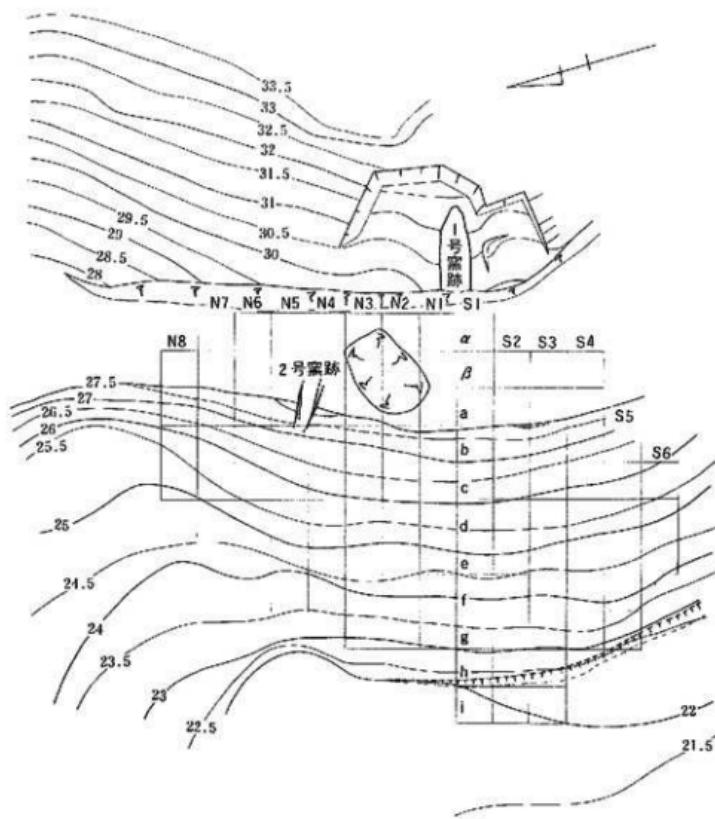


図21 B 地 区 地 形 図 (S=1/300)

### 1号窓

現存長3.7m、床面最大巾1.3mを測る。床面傾斜変換点付近から焚口にかけては農道により削平されて存在しない。また焼成部の上部でもかなりの削平が認められ、煙道は現存しない。全体は推定で長6m前後と思われ、半地下式無階無段の構造を有すると考えられる。床面傾斜は焼成部で25度であり、主軸方向はN-126°25'—Eである。

焼成部はほぼ現存していると考えられるが天井は全て陥没している。また上部ではかなり削平がなされており、煙道付近では地山の被熱によりわずかに形状が確認されるにすぎない。床面傾斜は25度でほぼ直線的である。床面には台石と思われる自然石が検出されたが、原位置は移動していると思われる。内壁はほぼ直線的に平行して延び煙道付近で丸くすぼむ。また焼成部左壁面では部分的な補修が認められ、最低2回以上の操業が考えられる。

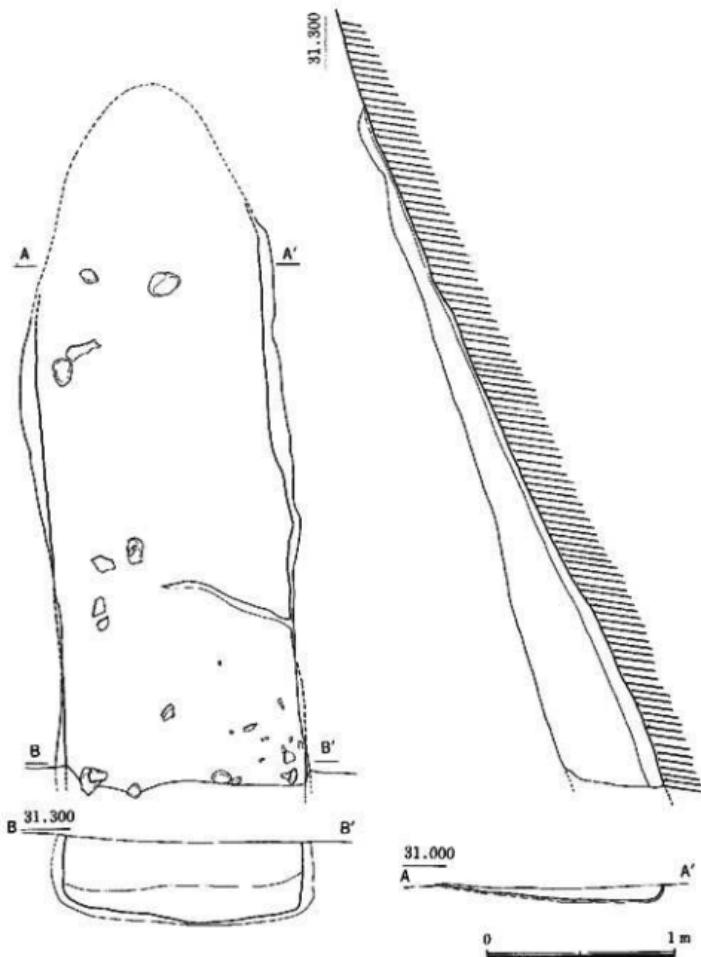


図22 B地区 I号窯跡実測図 ( $S=1/30$ )

## 2号窯

現存長2.8m、巾1.25mを測る。天井部は全て陥没して存在しない。焚口及び、煙道も削平されているが、推定で全長約4m前後の小形窯跡と考えられる。構造は半地下式無階無段登窯と考えられ、主軸方向はN-121°42'-Eである。窯体の断面観察によれば、大きく2次の操業が認められ各々の窯体補修状況からすれば1次、2次合せて5回以上の操業を行っている。

### ① 第1次の操業

窯の補修は3回認められ、横断面でわざかに確認できる。床面は基本的に同一であり、壁面のみの補修を行っている。ただ焼成部床面は途中第2次の床面構築の削り込みで現存しない部分がある。床面傾斜をみると焼成部から焼成部に至る傾斜の変換点は不明瞭で漸移的に変化する。傾斜角は焼成部で22度を測り、第2次の床面との差はほとんどない。

1回目の壁面は焼成部から焼成部途中にかけて確認されたが、焼成部の左側邊の一部では還元部分が甘く、検出しえなかった。床巾は傾斜変換点付近で0.95mを測る。

2回目の壁面は全体的に還元部分が甘いため、確実に把握できたのはごく一部分のみであった。特に右側邊では全く確認されず、1回目の操業の後、ごく部分的な補修が行なわれたと考えられる。

3回目は2号窯の中で最も遺存率が良い。床面最大巾は1.22m、長2.8mを測る1回目に対して床面巾で10cm程度縮少すると考えられる。窯体は焼成部から焼成部にかけてしだいに広がり、焼成部途中で最大巾となる。この3回目と4回目(第2次の操業)の間には最大で約25cmの間隔が認められ、この間隔中より蓋環を中心とした良好な一括資料が得られている。

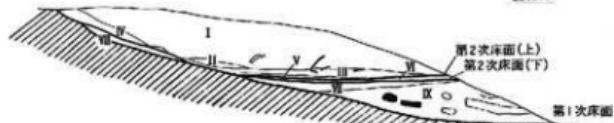
### ② 第2次の操業

第1次の床面との間にはこの様に明確な間層が存在し、さらに床面傾斜変換点が約1m前方に移動することで明らかに区別される。床面は焼成部で第1次のものを若干削り込み、壁面でも大きな改修がなされている。特に右側邊では第1次の壁面を火巾に削り込んで、長さ約0.8mの扁平な自然石を埋込み壁面の補強を行なっている。

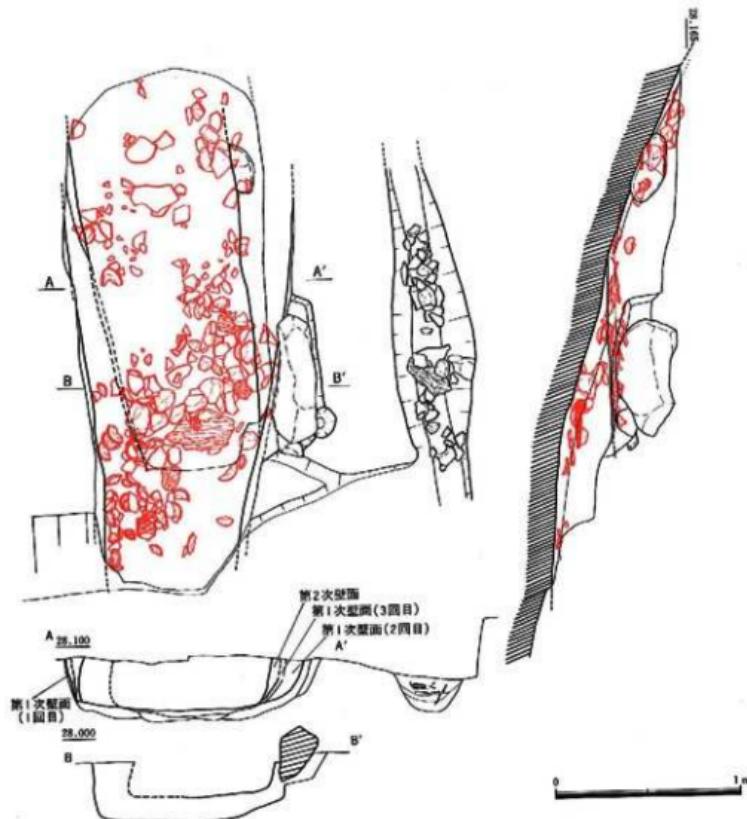
したがって4回目の床面は第1次の操業が終了し、火井部などが陥没して形成された間層をベースとし、この上に粘土を貼って形成されたものと考えられる。床面は床面傾斜の変換点近くで最大に広がり焼成部にかけてややしまる。床面傾斜は焼成部ではほぼ水平であり、焼成部では一度と比較的ゆるやかで途中でやや凹みながら煙道へと至る。焼成部壁面は左側では第1次の壁面を共有し、右側は約10cm内側に作り出しており、床面傾斜変換点での床面最大巾は1.1m程度である。

5回目は焼成部と焼成部の床面に約2~3cm程度粘土を貼り直して補修を行う、床面傾斜は4回目と大差なく基本的に同様である。壁面も4回目と同様であり、右側壁はさらに内側に入り込んで作られている。窯の規模は最少となり床面巾0.8m長2.1m(現存長)を測るにすぎない。

以上見てきたように2号窯では都合5回の操業を確認できた。これらは床面の状況から大きく第1次と第2次に分けられる。第1次では床面の補修は行なわず、壁面のみ部分的な補修を3回にわ



- I 層 赤褐色土 上部は赤味が強く、下部ではやや明るくなる。土層中には天井部礫化部分が多く陥落している。固くしまっていて、地盤をベースとしている。  
 II 層 灰色土  
 III 層 黒褐色土  
 IV 层 黄褐色土  
 V 层 黑灰色土  
 VI 层 青灰色土  
 VII 层 青灰色土  
 VIII 层 黑褐色土  
 IX 层 赤褐色土 第1次採集時の天井部陥落により形成されたもので、遺物を多く含む。
- 粘土層。全く熱を受けておらず、生粘土である。補修用粘土が操業を行なわないまま残ったと考えられる。  
 2次流入土。ややはっている。  
 3次流入土。かなり固くしまった灰岩。遺物を含み、第2次床面の上面に堆積する。  
 4次流入土。下面の間隔、ややしまっている。スサ状。(第2次床面上面)  
 5次流入土。第2次床面の下面に貼られたもので、上部は埋元状態で床面を形成する。(第2次床面下面)  
 6次流入土。第2次床面と考えられ。上部は礫化状態である。(第2次床面)

图23 B地区 2号窓跡実測図 ( $S = 1/30$ )

たって行なう。第2次では床面、壁面ともに補修を行ないほぼ全体にわたる改修を行なっている。特に一部壁面について自然石を用いて補強を行なう。

これら第2次の床面からと第1次の最終床面には比較的良好な一括資料が得られており、各々その時期差が問題となろうが、通常指摘されるような型式差におよぶものではなく、灰原資料を含め同一時期に含まれるものと考えられる。これは1つに当該資料が非常に複雑な変を示す時期に含まれることにも起因しており、基本的には大過ないものと考えられる。

#### 排水溝

2号窯の右約50cmの位置に最大巾0.43m、現存長2.02mにわたり窯に平行して付設される。溝中には窯体片及び土器片が多く検出された。また生粘土が $0.4 \times 0.3$ mの範囲で認められ遺物は全てこれより上のレベルで出土した。窯体との関係については決定的な材料に欠ける点があり即断できない。つまり、出土遺物については、第1次の床面からは豊富な一括資料を得ているが、第2次及び排水溝ではこれに対比しうるセットが検出されていない。また土層観察においても削平がなされている部分が多く、明確な関係を示す状況ではなかった。したがって積極的に両者の関係を指摘しないまでも、出土遺物の特徴から第1次の操業にかかる施設として考えたい。

#### 灰原

B地区では他に比べ比較的良好な状態で灰原の検出がなされたが、それでも灰層の確認範囲は巾約18m、深約4mと狭かった。これは前述の如く農道による1、2号窯の主要部の削平と、灰原の掘に近づくにつれて堆積土が薄くなり、基盤の溶結凝灰岩が露出するといった条件に起因するものである。したがって1、2号窯の灰原の層についても不明瞭であり、B地区では遺物の分布範囲をもって一応の灰原としての把握を行った。その結果、B地区では巾約30m、深約14mにわたり灰原が形成されていたと考えられた。

灰層については、完全なものではなく、風化土に灰を含む状態で堆積しており、最も厚い所では約50mにも達する。土層は基本的に

I層 農園造成時に堆積したと考えられる2次堆積土。

II層 農園造成以前の旧表土層であり暗茶褐色を呈する。遺物の多くはこの層に含まれる。

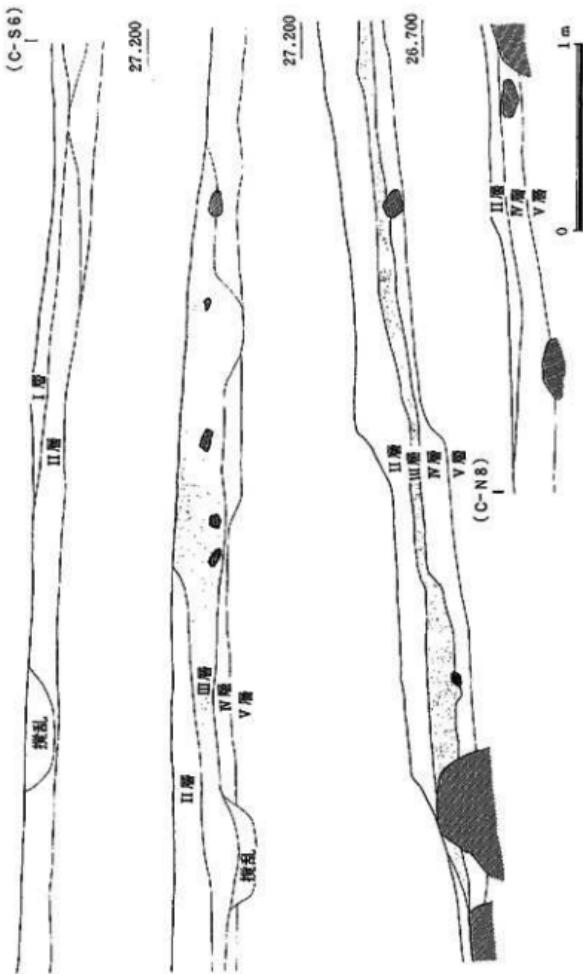
III層 灰層。完全な灰層ではなく旧表土層を多く含み暗茶褐色を呈する。II層からの漸移的変化をみせ、明確には区別しにくい遺物を含む。

IV層 褐色を呈するバイラン土層。地山層である。

V層 基盤。耶馬溪起源と考えられる溶結凝灰岩。

となっており、部分的に焼土層などが存在する。これら灰層と焚口からの関係はいずれも当該部分が削平され存在しないため不明であるが、いずれにせよ灰層は単独でしか存在しない。また、II層(旧表土層)に遺物を多く含む事は、本来地山層を含め上層の堆積が十分でなかったため灰層上に

図24 B 地区灰原土層(1)



露出していたものがその後の堆積や流出によって包含されたものと考えられる。

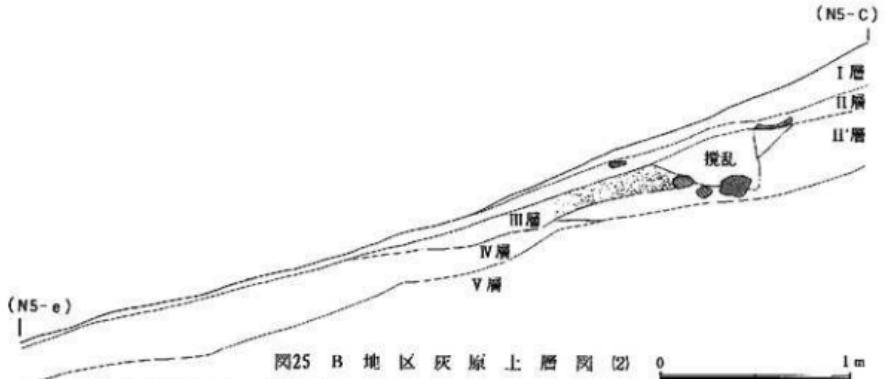


図25 B 地区 灰原上層図 (2)

B地区2号窓体内出土土器観察表

| No. | 器種 | 出土地点           | 法<br>量                  | 形<br>態  | 技<br>法                       | 指<br>考                   | 分類  |
|-----|----|----------------|-------------------------|---|------------------------------|--------------------------|-----|
| 276 | 环状 | 2号窓体内<br>窓1次床面 | 口 径 9.7<br>器 高 3.3      | 天井部は平頂で、体部は下外方に済曲してのび、端部はやや角ぼる。                     | 天井部はヘラ切り後、若干のケズリを行なう。他はヨコナデ。 | A.灰褐色<br>B.硬質<br>C.50%   | A-1 |
| 277 | #  | #              | 口 径 9.5<br>器 高 3.3      | 天井部は平頂で、体部との境に粘土膜を残す。体部は済曲し下外方にのび、端部はやや尖り気味。        | 天井部はヘラ切り後若干のナデを行ない、他はヨコナデ。   | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.50%   | A-1 |
| 278 | #  | #              | 口 径 9.8<br>器 高 3.4      | 天井部は丸く、体部へと連続し端部へと至る。端部は丸い。天井部と体部との境は条線で示す。         | 天井部はヘラ切り後若干ナデを行なう。他はヨコナデ。    | A.灰褐色<br>B.硬質<br>C.50%   | A-2 |
| 279 | #  | #              | 口 径 9.8<br>器 高 (3.1)    | 天井部は平頂で体部は済曲し、下外方へのび端部に至る。端部は丸い。                    | 天井部ヘラ切り後若干ナデを行なう。他はヨコナデ。     | A.茶褐色<br>B.若干軟質<br>C.55% | A-1 |
| 280 | #  | #              | 口 径 9.6<br>器 高 3.4      | 天井部はやや丸味をもち、体部は済曲して下外方へのび端部でやや済曲する。端部は丸い。           | 天井部ヘラ切り後未調整。他はヨコナデを行なう。      | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.50%   | A-1 |
| 281 | #  | #              | 口 径 10.1<br>器 高 3.2     | 天井部は若干丸味をもち、体部との境は段折に粘土膜を残す。体部は済曲しながら下外方へのび、端部は丸い。  | 天井部ヘラ切り後ナデ調整。他はヨコナデ。         | A.青灰色<br>B.若干軟質<br>C.50% | A-1 |
| 282 | #  | #              | 口 径 (10.4)<br>器 高 (3.1) | 天井部は平頂で、体部との境は粘土膜を残す。体部は済曲しながら下外方へのび端部でやや済厚し、端部は丸い。 | 天井部細い手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。        | A.茶褐色<br>B.若干軟質<br>C.40% | A-1 |
| 283 | #  | #              | 口 径 (10.0)<br>器 高 (3.1) | 天井部は平頂で体部は済曲して端部へと至る。端部は丸い。                         | 天井部細い手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。        | A.茶褐色<br>B.硬質<br>C.50%   | A-1 |
| 284 | #  | #              | 口 径 10.0<br>器 高 3.1     | 天井部は平頂で体部との境には粘土膜を残す。体部はやや済曲して端部に至り、端部は丸い。          | 天井部細い手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。        | A.灰茶色<br>B.硬質<br>C.100%  | A-1 |

B地区 2号窯体内出土土器観察表

| No. | 器種 | 出土地点          | 法量  | 形態  | 技法  | 備考                         | 分類  |
|-----|----|---------------|---|---|---|----------------------------|-----|
| 285 | 手盃 | 2号窯内<br>第1次発掘 | 口 径 (10.2)<br>器 高 (3.3)                             | 大井部はやや丸味をもち、体部は湾曲し端部へ至る。端部は丸い。  | 天井部粗い手持ちヘラケズリ。<br>他はヨコナデ。                       | A.淡茶褐色<br>B.若干軟質<br>C.40%  | A-1 |
| 286 | "  | "             | 口 径 10.0<br>器 高 3.3                                 | 大井部はほぼ平坦で、体部は途中若干凹み湾曲して端部へ至る。端部は丸くなる。                                   | 天井部ヘラ切り後若干ナナ子調整。他はヨコナデ。                         | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.50%     | A-1 |
| 287 | "  | "             | 口 径 10.8<br>器 高 2.8                                 | 天井部は平坦で、体部は湾曲し口縁でやや外反して端部へ至る。端部はやや尖り気味。                                 | 天井部ヘラ切り後ナナ子調整。他はヨコナデ。                           | A.淡褐色<br>B.やや軟質<br>C.100%  | A-3 |
| 288 | "  | "             | 口 径 10.5<br>器 高 3.5                                 | 天井部は丸く体部へと連続し、端部で若干屈曲する。端部は丸い。  | 天井部上面有程度はヘラ切り後若干ナナ子を行なう。他はヨコナデ。                 | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.100%    | A-2 |
| 289 | 手舟 | "             | 口 径 8.6<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 10.4<br>器 高 3.1       | 立ち上がりはやや内傾し、断面三角形を呈し端部は丸い。受け部は水平に外方にのびて端部は丸い。底部は平坦で体部へと連続する。            | 底面はヘラ切り後若干ナナ子を行なう。他はヨコナデ。                       | A.暗茶褐色<br>B.若干軟質<br>C.60%  | A-4 |
| 290 | "  | "             | 口 径 8.4<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 10.3<br>器 高 2.8       | 立ち上がりは外反気味に内傾し、端部は丸い。受け部はほぼ水平に外方にのび、端部は若干尖り気味となる。底部はほぼ平坦で、体部との境に粘土塊を残す。 | 底面はヘラ切り後若干ナナ子を行なう。他はヨコナデ。                       | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.100%    | A-2 |
| 291 | "  | "             | 口 径 (8.4)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (10.2)<br>器 高 (3.2) | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部はほぼ水平に外方にのび、端部は丸い。底部は若干丸味をもち、体部は緩やかに湾曲する。            | 底面はヘラ切り後若干ナナ子を行なう。他はヨコナデ。                       | A.茶褐色<br>B.若干軟質<br>C.40%   | A-2 |
| 292 | "  | "             | 口 径 8.7<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 10.5<br>器 高 2.4       | 立ち上がりは内傾し、端部でややくびれる。端部は丸い。受け部は水平に外方にのび、端部は尖り気味。底部は丸味をもち、体部へと連続する。       | 底面ヘラ切り後若干ナナ子。他はヨコナデを行なう。                        | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.90%     | A-2 |
| 293 | "  | "             | 口 径 8.6<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 10.4<br>器 高 2.7       | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部はほぼ水平に外方にのび端部はやや角がある。底部はほぼ平坦で、体部はやや湾曲。               | 底面はヘラ切り後若干ナナ子。他はヨコナデ。                           | A.灰褐色<br>B.硬質<br>C.100%    | A-2 |
| 294 | "  | "             | 口 径 8.9<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 10.7<br>器 高 3.0       | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は水平に外方にのび端部は丸い。底部は丸味をもち、体部へと連続的にのびる。                 | 底面はヘラ切り後若干手持ちヘラケズリを行なう。                         | A.淡茶褐色<br>B.若干軟質<br>C.100% | A-1 |
| 295 | "  | "             | 口 径 8.7<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 10.6<br>器 高 3.3       | 立ち上がりはやや内傾し、端部は丸くなる。受け部はほぼ水平にのび、端部は丸い。体部は湾曲するが、中程で強ぐまる。底部はほぼ平坦。         | 底部ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。                               | A.灰褐色<br>B.硬質<br>C.100%    | A-2 |
| 296 | "  | "             | 口 径 8.6<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 10.3<br>器 高 2.9       | 立ち上がりは内傾し、断面は三角形を呈し端部は尖り気味。底部は丸味をもち体部との境に粘土塊を残し、体部は丸味をもつ。               | 底面ヘラ切り後若干ナナ子を行なう。他はヨコナデ。                        | A.灰褐色<br>B.やや軟質<br>C.100%  | A-2 |
| 297 | "  | "             | 口 径 9.2<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 10.9<br>器 高 2.9       | 立ち上がりは内傾し、端部は尖り。受け部はやや外方にのび、端部はやや角がある。底部はほぼ平坦だが若干凹凸がある。                 | 底面ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。                               | A.淡茶褐色<br>B.若干軟質<br>C.100% | A-2 |
| 298 | "  | "             | 口 径 8.8<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 10.7<br>器 高 2.9       | 立ち上がりはやや内傾し、端部は尖り気味。受け部は外方にのび、端部はやや角がある。底部は丸く体部へと連続してのびる。               | 底面ヘラ切り後若干ナナ子を行ない、体部との境は一条の凹版ヘラケズリが認められる。他はヨコナデ。 | A.淡褐色<br>B.やや軟質<br>C.100%  | A-2 |

B地区2号窓体内出土土器観察表

| No  | 器種 | 出土地点          | 法 量   | 形 素   | 技 法  | 備 考                       | 分類  |
|-----|----|---------------|---|---|--|---------------------------|-----|
| 299 | 环身 | 2号窓内<br>第1次発掘 | 口 径 8.6<br>立ち上がり高 0.6<br>受け部径 10.6<br>器 高 2.9       | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は水平に外方へのび、端部は角ばる。底部は丸味をもち体部との境は枯土痕を残す。           | 底部へラ切り未調整。他はヨコナデ。                              | A.褐色<br>B.やや軟質<br>C.100%  | A-2 |
| 300 | "  | "             | 口 径 8.8<br>立ち上がり高 0.6<br>受け部径 10.8<br>器 高 2.8       | 立ち上がりは外反しながら内傾し、端部は丸い。受け部はほぼ水平に外方へのび、端部はやや角ばる。底部は丸味をもち体部との境は枯土痕を残す。 | 底部へラ切り後若干ナデを行ない、体部との境は一条の回転へラケズリが認められる。他はヨコナデ。 | A.茶褐色<br>B.若干軟質<br>C.100% | A-2 |
| 301 | "  | "             | 口 径 (9.4)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 (11.2)              | 立ち上がりはほぼ直立し、端部はやや尖り気味。受け部はやや上外方にのび端部は丸い。底部は欠損し、体部は中程でやや屈曲する。        | 体部外側下半は粗い回転へラケズリ。他はヨコナデ。                       | A.茶色<br>B.硬質<br>C.30%     | A-1 |
| 302 | "  | "             | 口 径 9.6<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 11.2<br>器 高 3.1       | 立ち上がりはやや内傾し断面は三角形を呈し、端部は丸い。受け部はやや上外方にのび端部は丸い。体部はやや湾曲し底部は平坦。         | 底部へラ切り後若干ナデ。他はヨコナデ。                            | A.灰褐色<br>B.硬質<br>C.100%   | A-2 |
| 303 | "  | "             | 口 径 (8.0)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (10.0)<br>器 高 (2.6) | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は上外方にのび、端部は角がある。体部は直線的で、底部は平坦である。                | 底部はヘラ切り後若干ナデを行なう。他はヨコナデ。                       | A.灰褐色<br>B.硬質<br>C.30%    | A-2 |
| 304 | "  | "             | 口 径 (8.2)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (10.0)<br>器 高 (2.6) | 立ち上がりはやや内傾し断面は三角形を呈し、端部はやや尖り気味。受け部は上外方にのび、端部は丸い。体部は湾曲し、底部はほぼ平坦。     | 底部はヘラ切り後若干ナデ。他はヨコナデ。                           | A.茶褐色<br>B.若干軟質<br>C.40%  | A-2 |
| 305 | "  | "             | 口 径 8.6<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 10.4<br>器 高 2.5       | 立ち上がりはやや内傾し、端部は丸くなる。受け部は上外方にのび、端部は丸い。底部はほぼ平坦であり、体部は直線。              | 底部へラ切り未調整。他はヨコナデ。                              | A.茶褐色<br>B.若干軟質<br>C.100% | A-3 |
| 306 | "  | "             | 口 径 (9.1)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 (10.8)<br>器 高 (2.5) | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は平水に外方へのび、断面は三角形を呈し、端部は丸い。底部はほぼ平坦になる。            | 底部不明。他はヨコナデ。                                   | A.灰褐色<br>B.硬質<br>C.30%    | A-2 |
| 307 | "  | "             | 口 径 9.6<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 10.9<br>器 高 2.5       | 立ち上がりはほぼ直立し、端部は丸くなる。受け部は上外方にのび端部は角がある。体部は湾曲し、底部は平頭である。              | 底部は粗い手持ちへラケズリ。他はヨコナデを行なう。                      | A.茶褐色<br>B.若干軟質<br>C.60%  | A-2 |
| 308 | "  | "             | 口 径 (9.0)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (11.0)<br>器 高 (2.8) | 立ち上がりはやや内傾し、端部は尖り気味。受け部は上外方にのび、端部は角がある。底部は平頭である。                    | 底部粗い手持ちへラケズリ。体部下半は粗い回転へラケズリ。他はヨコナデ。            | A.淡褐色<br>B.やや軟質<br>C.30%  | A-3 |
| 309 | "  | "             | 口 径 9.0<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 11.0<br>器 高 2.8       | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部はほぼ水平に外方へのび、端部は角がある。体部はやや湾曲し、底部は平頭である。           | 底部粗い手持ちへラケズリ。他はヨコナデを行なう。                       | A.淡褐色<br>B.やや軟質<br>C.70%  | A-2 |
| 310 | "  | "             | 口 径 9.0<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 10.8<br>器 高 2.6       | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は上外方にのび端部は角がある。体部は直線的で、底部は平頭。                    | 底部粗い手持ちへラケズリ。他はヨコナデを行なう。                       | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.100%   | A-3 |

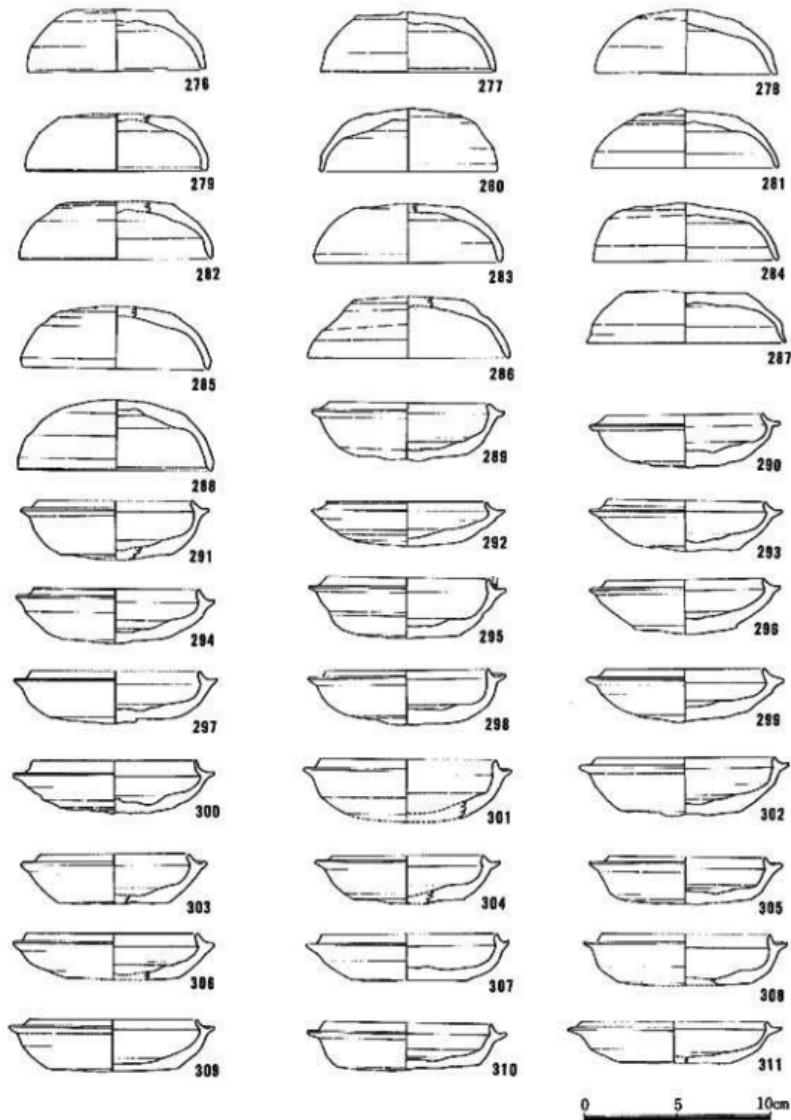


图26 B地区 2号窑  
窑体内出土土器实测图 (1) ( $S = \frac{1}{2}$ )

B地区2号窯体内、排水溝内出土土器観察表

| No. | 器種 | 出土地点           | 法 量  | 形 塘   | 技 法                            | 備 考                          | 分類  |
|-----|----|----------------|--|---|--------------------------------|------------------------------|-----|
| 311 | 环身 | 2号窯体内<br>第1次床面 | 口 径 (10.0)<br>さら上径 0.4<br>受け部径 (11.4)<br>器 高 (2.3) | 立ち上がりは内傾し、端部は角ばる。<br>受け部は上外方にのび、端部は丸い。<br>底部は平坦で休部は若干渋曲する。                | 底部は付着物が多く不明。他はヨコナデ。            | A. 暗灰色<br>B. 硬質<br>C. 30%    | A-3 |
| 312 | 环唇 | #              | 口 径 9.3<br>器 高 2.5<br>つまみ径 1.7<br>つまみ高 0.2         | 天井部は丸く、端部で若干渋曲する。<br>端部は丸い。かえりは内傾し、端部は丸い。<br>頂部は扁平なつまみがつき、<br>つまみ中央は若干凹む。 | 天井部上端程度は回転ヘラケズリ。<br>他はヨコナデ。    | A. 暗褐色<br>B. 若干軟質<br>C. 100% | B-3 |
| 313 | 环身 | #              | 口 径 9.6<br>器 高 3.2                                 | 底部は平坦で休部との境にわずかに粘土痕を残す。体部は渋曲してのび、口<br>縁で強く絞り、外方へ開く。端部は丸い。                 | 底部はヘラ切り後ナダを行なう。<br>他はヨコナデ。     | A. 赤褐色<br>B. 硬質<br>C. 80%    | B-2 |
| 314 | 高环 | 2号窯体内<br>第2次床面 | 口 径 (12.8)   | 脚欠損。环はやや直線的に上外方に開き、口縁部で大きく屈曲し端部へと開く。端部は丸い。                                | 内、外表面ともヨコナデ。                   | A. 暗茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 20%   |     |
| 315 | #  | #              | 口 径 (12.0)   | 脚欠損。环は渋曲して立ち上がり、口<br>縁で大きく屈曲し外反して端部へと開く。端部は丸い。                            | 内、外表面ともヨコナデ。                   | A. 暗灰色<br>B. 硬質<br>C. 20%    |     |
| 316 | #  | #              | 脚 部 径 9.2<br>脚 部 高 (3.5)                           | 脚欠損。脚は継やかに開き、端部でや<br>や肥厚して接地する。その後端部は上<br>外方にややのび、端部は丸い。                  | 内、外表面ともヨコナデ。                   | A. 暗褐色<br>B. 硬質<br>C. 脚部85%  | B   |
| 317 | #  | 2号窯体内<br>第1次床面 | 脚 部 径 (9.4)<br>脚 部 高 (4.5)                         | 脚欠損。脚はストレートに下外への<br>び下端で大きく渋曲し水平にのびた後<br>端部で若干上、下にのび縮地する。                 | 内、外表面ともヨコナデ。脚中位<br>に沈線を1条有する。  | A. 暗茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 脚部40% | B   |
| 318 | #  | 2号窯体内<br>第2次床面 | 脚 部 径 9.6<br>脚 部 高 7.5                             | 脚欠損。脚は中程でやや膨みながら開<br>き、端部で上、下にややのび接地する。<br>脚中位に1条の沈線を有する。                 | 内、外表面ともヨコナデ。                   | A. 暗灰色<br>B. 硬質<br>C. 脚部80%  | A   |
| 319 | 蓋  | 2号窯体内<br>第1次床面 | 口 径 5.9<br>器 高 1.7                                 | 天井部はほぼ平頭で、渋曲して端部に<br>来る。端部は方形をなす。   | 天井部上面手持ちヘラケズリ。<br>他はヨコナデ。      | A. 赤褐色<br>B. やや軟質<br>C. 100% |     |
| 320 | 鉢  | #              | 口 径 17.2<br>器 高 5.0                                | 底部は平頭で、渋曲して端部へ来る。<br>端部は丸い。   | 底部は手持ちヘラケズリ。他は<br>ヨコナデ。        | A. 赤褐色<br>B. やや軟質<br>C. 40%  | A   |
| 321 | 壺  | 2号窯体内<br>第2次床面 | 口 径 13.1<br>底 部 径 10.4<br>側部大径 23.4                | 体部下半欠損。口頭部は底部より外反<br>気味にのび、端部はやや張り出し方形<br>をなす。体部中程に最大径をもつ。                | 内面底部一部ナダを行ない、他<br>はヨコナデ。       | A. 赤褐色<br>B. 若干軟質<br>C. 55%  | A   |
| 322 | 高环 | 1号窯体内<br>床面直上  | 口 径 (11.6)   | 脚欠損。环は渋曲し、口縁部で屈曲し<br>外反気味に端部へ至る。端部はやや尖<br>り気味。                            | 环下端は回転ヘラケズリ。他は<br>ヨコナデ。        | A. 赤褐色<br>B. 硬質<br>C. 端部70%  | A   |
| 323 | 环盖 | 2号窯<br>排水溝上部   | 口 径 10.0<br>器 高 4.15                               | 天井部は丸く、端部へと連続的にのび<br>端部は丸い。   | 天井部上面1/4程度手持ちヘラケ<br>ズリ。他はヨコナデ。 | A. 暗茶褐色<br>B. 若干軟質<br>C. 70% | A-2 |
| 324 | 高环 | #              | 口 径 (11.6)   | 脚欠損。环部は渋曲し、中程で屈曲し<br>若干外反気味に端部へ至る。端部はや<br>や角ばる。                           | 内、外表面ヨコナデ。                     | A. 暗茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 端部40% |     |
| 325 | #  | #              | 口 径 (13.6)   | 脚欠損。环部は渋曲し、中程で屈曲し<br>直線的に開いて端部へ至る。  | 内、外表面ともヨコナデ。                   | A. 暗茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 环部20% |     |

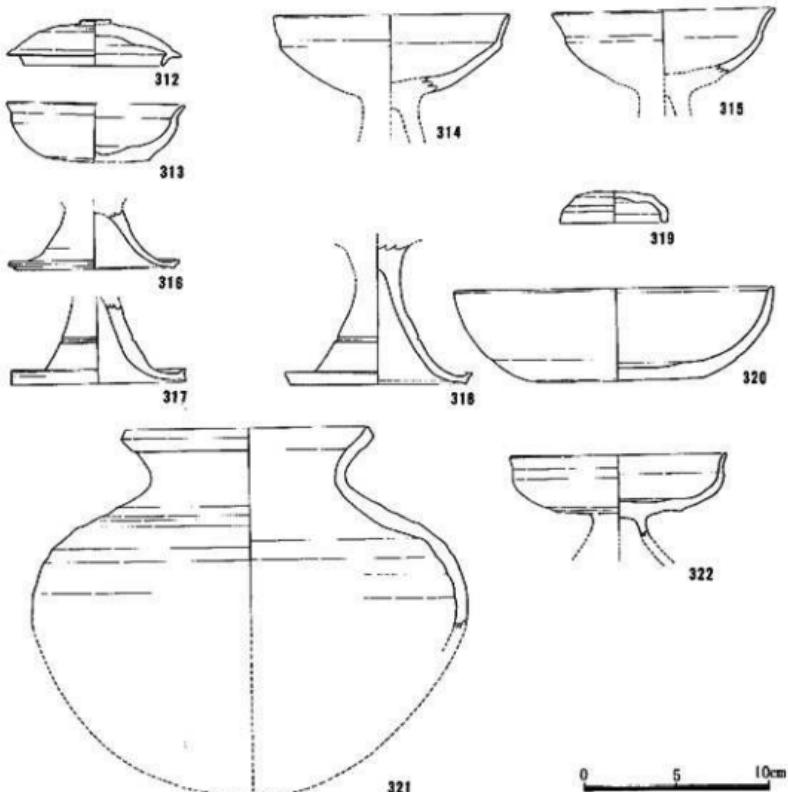


図27・B地区2号窯跡・窯体内出土上器実測図 (S=1%) (2)

B地区2号窯排水溝内出土土器観察表

| No. | 器種                 | 出土地点 | 法 畳                       | 形 素  | 技 法                     | 備 考                       | 分類 |
|-----|--------------------|------|---------------------------|--|-------------------------|---------------------------|----|
| 326 | 高环<br>2号窯<br>排水溝一括 |      | II<br>径 (12.4)            | 脚欠損。环部は湾曲し、口附近近くで屈曲し、直線的に開き端部に至る。端部は丸くなる。        | 内、外ともヨコナデ。              | A.暗茶褐色<br>B.硬質<br>C.环部20% |    |
| 327 | *                  | *    | 口 径 (11.0)<br>环 部 高 4.3   | 脚欠損。环部はやや直線的に開き、口附近近くで屈曲し端部に至る。端部は丸くなる。          | 内、外ともヨコナデ。              | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.环部30% |    |
| 328 | *                  | *    | 脚 部 径 (10.2)<br>脚 部 高 6.5 | 脚欠損。脚上位で一度稍り緩やかに開き、後地した後にやや上外方にのびて若干上下に突出し環溝となる。 | 内、外ともヨコナデで、中程に1条の沈線を施す。 | A.暗灰色<br>B.硬質<br>C.脚部70%  | A  |

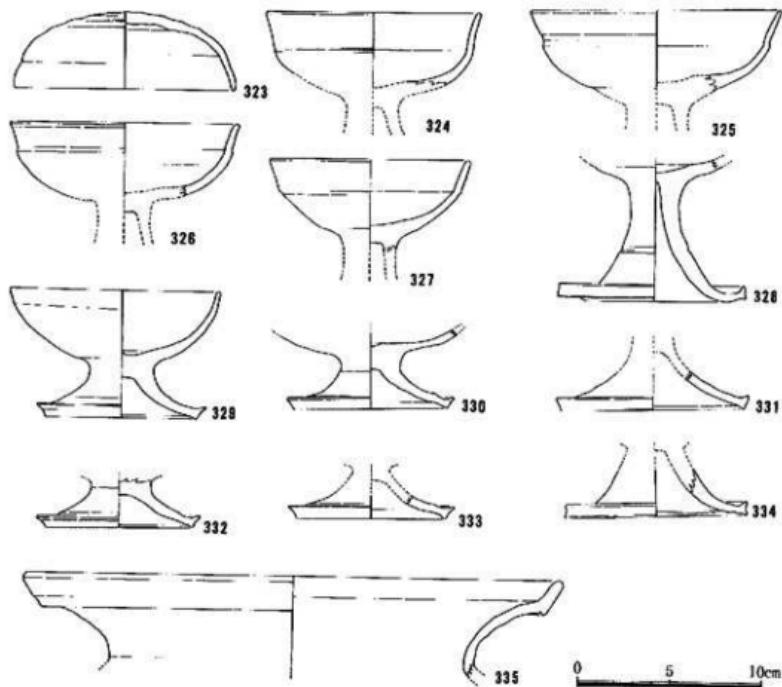


図28 B地区2号窯跡 排水溝出土土器実測図 (S=1%)

B地区2号窯排水溝内出土土器観察表

| No. | 器種 | 出土地点            | 法量   | 形態                                    | 技法          | 備考                          | 分類 |
|-----|----|-----------------|--|---------------------------------------|-------------|-----------------------------|----|
| 329 | 高环 | 2号窯<br>排水溝<br>括 | 口<br>径<br>11.4<br><br>脚<br>部<br>径<br>8.2<br><br>脚<br>部<br>高<br>6.9 | 环は湾曲し脚部はやや角ばる。脚は途中で後を有し、脚部で上下にのび接地する。 | 内、外画ともヨコナデ。 | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 70%   | B  |
| 330 | #  | #               | 脚<br>部<br>径<br>8.4<br><br>脚<br>部<br>高<br>3.0                       | 环欠損。脚は大きく開き、下部で後を有し、脚部で上下にのび接地する。     | 内、外画ともヨコナデ。 | A. 暗灰色<br>B. 硬質<br>C. 50%   | B  |
| 331 | #  | #               | 脚<br>部<br>径<br>(10.4)  | 环及び、脚上部欠損。脚は大きく開き、脚部で上下にのび接地する。       | 内、外画ともヨコナデ。 | A. 青灰色<br>B. 硬質<br>C. 四部40% | B  |

B地区2号窯排水溝内・灰原出土土器観察表

| No  | 器種 | 出土地点            | 法<br>量                        | 形<br>態  | 技<br>法                                    | 備<br>考                    | 分類  |
|-----|----|-----------------|-------------------------------|---|---|---------------------------|-----|
| 332 | 高杯 | 2号窯<br>貯水槽一括    | 脚部 径 8.0<br>脚部 高 2.5          | 环欠損。脚は大きく開き、下部で枝を有した後、端部で上下にのび接着する。           | 内、外面ともヨコナデ。                               | A.暗灰色<br>B.硬質<br>C.脚部100% | B   |
| 333 | #  | *               | 脚部 径 (8.0)                    | 环、脚上部欠損。脚は下部で枝を有し溝部で上下にのび接着する。                | 内、外面ともヨコナデ。                               | A.茶褐色<br>B.若干軟質<br>C.10%  | B   |
| 334 | #  | *               | 脚部 径 (10.4)                   | 环、脚上部欠損。脚は大きく開き端部は七方にのび接着する。                  | 内、外面ともヨコナデ。                               | A.暗茶色<br>B.硬質<br>C.脚部40%  | B   |
| 335 | 甕  | *               | 口 径 (29.0)                    | 口周部は外反気味にのび、口縁で内側に畠出し、底部は丸い。壁部は非常に薄い。         | 内、外面ともヨコナデ。                               | A.茶褐色<br>B.硬質<br>C.5%     | A   |
| 336 | 环甕 | 坂<br>手<br>(2号窯) | 口<br>器<br>径 (9.2)<br>高 (2.8)  | 天井部はほぼ平坦で渦曲して端部へ至り、端部でやや屈曲する。端部はやや角ばる。        | 天井部上面手持ちヘラケズリ。<br>他はヨコナデ。                 | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.30%    | A 4 |
| 337 | #  | *               | 口<br>器<br>径 (9.6)<br>高 (2.0)  | 天井部は平坦で渦曲し端部へ至る。端部付近は垂下し、丸くなる。                | 天井部ヘラ切り未調整。他はヨコナデを行なう。                    | A.灰<br>色<br>B.硬質<br>C.45% |     |
| 338 | #  | *               | 口<br>器<br>径 (9.4)<br>高 (3.0)  | 天井部は平坦で体部との境に粘土痕を残す。体部は渦曲し端部へ至り、端部は丸い。        | 天井部ヘラ切り後若干ナデ。他はヨコナデ。                      | A.茶褐色<br>B.硬質<br>C.40%    | A-1 |
| 339 | #  | *               | 口<br>器<br>径 (9.7)<br>高 (3.5)  | 天井部は丸く、連続して端部に至る。端部は丸い。                       | 天井部ヘラ切り後若干のナデを行ない他はヨコナデ。                  | A.灰褐色<br>B.やや軟質<br>C.50%  | A-2 |
| 340 | #  | *               | 口<br>器<br>径 (10.0)<br>高 (3.6) | 天井部はほぼ平坦で、体部は直線的にのび、口縁で屈曲して垂下し、端部は尖る。         | 天井部ヘラ切り未調整。他はヨコナデを行なう。                    | A.灰<br>色<br>B.硬質<br>C.40% | A 2 |
| 341 | #  | *               | 口<br>器<br>径 (9.6)<br>高 (3.4)  | 天井部は平坦で体部との境は粘土痕を残す。体部は口縁で屈曲し端部は丸くなる。         | 天井部手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。                       | A.茶褐色<br>B.若干軟質<br>C.50%  | A-3 |
| 342 | #  | *               | 口<br>器<br>径 (10.6)<br>高 (3.7) | 天井部がやや凹むが、全体に丸い。端部は丸く、全体的に歪む。                 | 天井部上面ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。                      | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.100%   | A-2 |
| 343 | #  | *               | 口<br>器<br>径 (10.6)<br>高 一     | 体部上平欠損。下半は緩やかに端部へ至り、端部は尖る。壁部は全体的に歪い。          | 内、外面ともヨコナデ。                               | A.灰<br>色<br>B.硬質<br>C.30% | A-2 |
| 344 | #  | *               | 口<br>器<br>径 (10.4)<br>高 一     | 天井部欠損。体部は緩やかに渦曲し、端部でやや内縫に屈曲する。端部は尖り気味。        | 内、外面ともヨコナデ。                               | A.暗灰色<br>B.硬質<br>C.20%    | A-2 |
| 345 | #  | *               | 口<br>器<br>径 (11.2)<br>高 (3.7) | 天井部はほぼ手延に近く、体部との境には粘土痕を残す。体部は渦曲し端部へと至り、端部は丸い。 | 天井部ヘラ切り後ナデを行なう。<br>外面上半は一部クテ方向のナデ。他はヨコナデ。 | A.灰茶褐色<br>B.若干軟質<br>C.35% | A-1 |
| 346 | #  | *               | 口<br>器<br>径 11.0<br>高 3.6     | 天井部は平坦で、体部は外反気味に渦曲へ至る。端部は尖り気味。                | 天井部ヘラ切り後若干ナデ。体部外面上半部分回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。      | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.50%    | A 1 |
| 347 | #  | *               | 口<br>器<br>径 (11.4)<br>高 3.9   | 天井部は平坦で、体部は渦曲して端部へと至る。端部はやや角ばる。               | 天井部ヘラ切り後ナデ。他はヨコナデを行なう。                    | A.淡茶色<br>B.若干軟質<br>C.40%  | A-1 |

B地区灰原出土土器觀察表

| No. | 器種 | 出上地點         | 法<br>量  | 形<br>態   | 技<br>法  | 備<br>考                   | 分類  |
|-----|----|--------------|---|--|---|--------------------------|-----|
| 348 | 环蓋 | 灰原<br>(2号窓)  | 口 径 (11.4)<br>器 高 (4.9)                               | 天井部は平坦で体部は途中でやや凹んだ後端部に至る。端部はやや肥厚し、尖る。                                  | 天井部手持ちヘラケズリ、他はヨコナデ。                                   | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.45%  | A-1 |
| 349 | 环身 | "<br>(1号窓)   | 口 径 (9.8)<br>立ち上がり (0.2)<br>受け部径 (11.8)<br>器 高 (2.8)  | 立ち上がりは内傾し、断面は三角形を呈す。端部は尖り気味。受け部はやや上方にのび、端部は角ぼる。底部は丸味をもつ。               | 底部へラ切り未調整。他はヨコナデ。                                     | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.20%  | A-2 |
| 350 | "  | "<br>(1号窓)   | 口 径 (10.2)<br>立ち上がり (0.5)<br>受け部径 (12.0)<br>器 高 (2.9) | 立ち上がりはほぼ直立し、端部は丸くなる。受け部はやや上方にのび、端部は丸い。底部は平坦である。                        | 底部へラ切り未調整。体部外面下部程度粗い回転ヘラケズリ。他はヨコナデを行なう。立ち上がりは折り込みによる。 | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.20%  | A-2 |
| 351 | "  | "<br>(1号窓)   | 口 径 (9.4)<br>立ち上がり (0.3)<br>受け部径 (11.2)<br>器 高 (2.7)  | 立ち上がりは外反気味に内傾し、端部は方形をなす。受け部はやや上方方にのび、端部は丸い。底部は平頂で中央部はやや凹む。             | 底部へラ切り未調整。内面底部と外側底部下半ナデ。他はヨコナデ。外側底部にヘラ記号「△」。          | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.40%  | A-2 |
| 352 | "  | "<br>(1号窓)   | 口 径 (9.6)<br>立ち上がり (0.2)<br>受け部径 (11.8)<br>器 高 (2.9)  | 立ち上がりは内傾し、端部は尖り気味となる。受け部は上方方にのび端部は角ぼる。底部は平坦で体部はやや直線的。                  | 底部へラ切り後若干ナデ。他はヨコナデ。                                   | A.褐 色<br>B.軟 質<br>C.40%  | A-2 |
| 353 | "  | "<br>(2号窓)   | 口 径 (9.4)<br>立ち上がり (0.2)<br>受け部径 (11.4)<br>器 高 -      | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は上方へのび、端部は丸い。体部は済曲し、底部は欠損。                          | 内、外側ともヨコナデ。   | A.淡灰色<br>B.やや軟質<br>C.20% | A-2 |
| 354 | "  | "<br>(2号窓)   | 口 径 (9.4)<br>立ち上がり (0.1)<br>受け部径 (11.2)<br>器 高 (2.9)  | 立ち上がりは内傾し、端部は方形をなす。受け部は上方にのび、端部はやや尖り気味。底部は平頂で、体部は湾曲する。                 | 底部へラ切り後端部は若干ナデ。他と底との境は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。                 | A.淡灰色<br>B.硬 質<br>C.40%  | A-2 |
| 355 | "  | "<br>(2号窓)   | 口 径 (9.2)<br>立ち上がり (0.4)<br>受け部径 (11.2)<br>器 高 (3.0)  | 立ち上がりはやや内傾し、端部は尖り気味。受け部は上方にのび、端部は方形をなす。底部は平頂で、体部は湾曲する。                 | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナデを行なう。                                | A.茶褐色<br>B.若干軟質<br>C.70% | A-2 |
| 356 | "  | "<br>(2号窓)   | 口 径 (10.8)<br>立ち上がり (0.9)<br>受け部径 (12.0)<br>器 高 (3.0) | 立ち上がりは直立し、端部は尖り気味となる。受け部は水平に外方へのび、端部はやや尖り気味。底部は平頂で、体部はやや直線気味。          | 底部へラ切り未調整。他はヨコナデ。                                     | A.淡灰色<br>B.硬 質<br>C.30%  | A-5 |
| 357 | "  | "<br>(2号窓)   | 口 径 (9.8)<br>立ち上がり (0.4)<br>受け部径 (12.0)<br>器 高 (3.2)  | 立ち上がりは内傾し、肥厚で端部はやや尖り気味。受け部は水平にのび、端部は丸い。底部は平頂で、体部は済曲する。                 | 底部へラ切り未調整。外側下半は若干粗い回転ヘラケズリを行なう。他はヨコナデ。                | A.灰褐色<br>B.若干軟質<br>C.30% | A-5 |
| 358 | "  | "<br>(2号窓)   | 口 径 (9.6)<br>立ち上がり (0.2)<br>受け部径 (11.8)<br>器 高 (3.0)  | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は上方にのび、端部は方形をなす。底部は平頂で、体部はやや直線的のびる。                 | 底部外側ナデ。他はヨコナデ。  | A.淡灰色<br>B.硬 質<br>C.40%  | A-2 |
| 359 | "  | "<br>(1-2号窓) | 口 径 (9.2)<br>立ち上がり (0.4)<br>受け部径 (11.6)<br>器 高 (2.9)  | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部はやや上方にのび、端部は丸くなる。尖部はやや丸味をもつが、体部との境には粘土痕を残す。底部は済曲する。 | 底部へラ切り後若干ナデ。他はヨコナデ。                                   | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.20%  | A-2 |

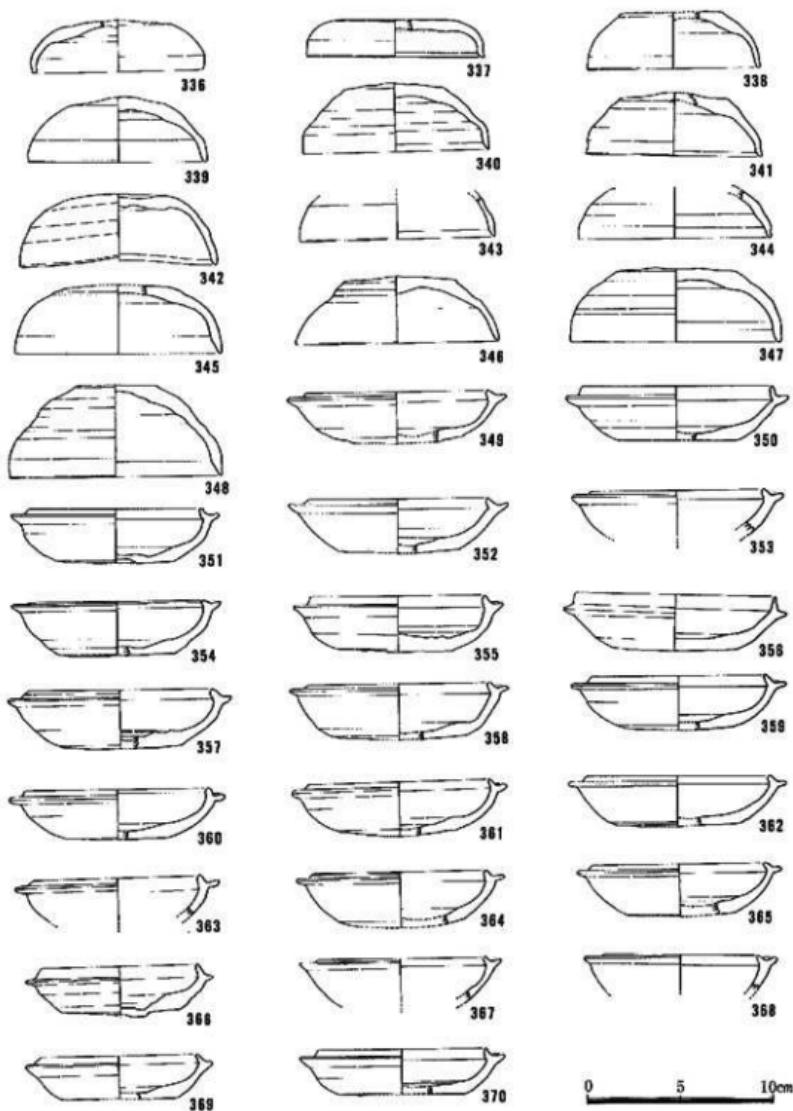


図29 B地区 灰原出土土器実測図 (I) ( $S = \frac{1}{3}$ )

B 地区灰原出土土器観察表

| No. | 器種                   | 出土地点   | 法 量  | 形 態   | 技 法                         | 備 考 | 分類 |
|-----|----------------------|--|--|---|-----------------------------|-----|----|
| 360 | 环身<br>灰 壁<br>(1-2号窓) | 口 径 (9.8)<br>立ち上がり 0.3<br>受け部径 (11.6)<br>器 高 2.7   | 立ち上がりはほぼ直立し、端部は丸くなる。受け部はほぼ水平にのび、端部は丸い。底部は平坦で、体部は緩やかに湾曲。              | 底部へラ切り本調整。体部外側下端は一部タテ方向ナヂ。他はヨコナヂ。                 | A. 茶灰色<br>B. 硬質<br>C. 25%   | A-5 |    |
| 361 | "                    | 口 径 (9.8)<br>立ち上がり 0.3<br>受け部径 (11.6)<br>器 高 (2.9) | 立ち上がりは内傾し、端部はやや尖り気味。受け部は上外方へのび、端部は丸い。底部は丸く体部へと連続してのびる。               | 底部へラ切り後ナヂ調整。他はヨコナヂ。                               | A. 青灰色<br>B. 硬質<br>C. 45%   | A-2 |    |
| 362 | "                    | 口 径 (9.8)<br>立ち上がり 0.3<br>受け部径 (11.8)<br>器 高 (2.6) | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部はほぼ水平にのび、端部は丸い。底部は平坦で体部はやや湾曲する。                   | 底部へラ切り本調整。底部周辺は若干ナヂを行ない、他はヨコナヂ。                   | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 40%    | A-5 |    |
| 363 | "                    | 口 径 (9.0)<br>立ち上がり 0.3<br>受け部径 (11.0)              | 立ち上がりはやや内傾し、端部は丸くなり。受け部はやや上外方にのび、端部は丸い。底部は丸い。底部欠損。                   | 内外面ともヨコナヂ。  | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 30%    | A-5 |    |
| 364 | "                    | 口 径 (9.2)<br>立ち上がり 0.3<br>受け部径 (11.2)<br>器 高 (3.0) | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は上外方にのび、端部は丸い。底部はやや丸味をもつと考えられ、体部は湾曲する。            | 底部へラ切り後若干ナヂ。他はヨコナヂ。                               | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 20%    | A-2 |    |
| 365 | "                    | 口 径 (9.4)<br>立ち上がり 0.3<br>受け部径 (11.0)<br>器 高 (2.8) | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は水平に外方にのび、端部は丸くなる。底部はほぼ平坦と考えられ、体部は湾曲する。           | 底部へラ切り後若干ナヂ。他はヨコナヂ。                               | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 20%    | A-5 |    |
| 366 | "                    | 口 径 (8.2)<br>立ち上がり 0.6<br>受け部径 (10.0)<br>器 高 2.5   | 立ち上がりは内傾し、端部は尖る。受け部は水平に外方にのび、端部は尖り気味。底部はほぼ平坦で、中央部かやや突出する。体部はほぼ直線となる。 | 底部はヘラ切り未調整。他はヨコナヂを行なう。                            | A. 茶褐色<br>B. 若干軟質<br>C. 40% | A-5 |    |
| 367 | "                    | 口 径 (9.0)<br>立ち上がり 0.1<br>受け部径 (10.8)              | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は上外方にのび、端部は角ばる。体部はやや湾曲し、底部欠損。                     | 内、外面ヨコナヂ。   | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 10%    | A-2 |    |
| 368 | "                    | 口 径 (8.2)<br>立ち上がり 0.1<br>受け部径 (10.2)              | 立ち上がりは内傾し、端部はやや尖り気味。受け部は上外方にのび端部は丸い。底部欠損。                            | 内、外面ヨコナヂ。   | A. 茶灰色<br>B. 若干軟質<br>C. 5%  | A-2 |    |
| 369 | "                    | 口 径 8.6<br>立ち上がり 0.4<br>受け部径 10.0<br>器 高 2.3       | 立ち上がりは内傾し、端部は角ばる。受け部はやや上外方にのび、断面三角形で端部は尖り気味。底部は平坦で、端部は湾曲する。          | 底部へラ切り未調整。底部周辺回転へラケズリ。他はヨコナヂ。                     | A. 茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 50%   | A-3 |    |
| 370 | "                    | 口 径 (9.0)<br>立ち上がり 0.3<br>受け部径 (11.0)<br>器 高 (2.4) | 立ち上がりは内傾し、端部は尖り気味となる。受け部は上外方にのび、端部は丸い。底部は平坦で、体部はやや湾曲する。              | 底部はヘラ切り後若干ナヂ。外側下半は粗い回転へラケズリ。他はヨコナヂを行なう。立ち上がりは折込み。 | A. 茶褐色<br>B. 若干軟質<br>C. 35% | A-3 |    |
| 371 | "                    | 口 径 9.8<br>立ち上がり 0.2<br>受け部径 10.4<br>器 高 2.4       | 立ち上がりは内傾し、断面三角形で端部は尖る。受け部は上外方にのび、端部は角ばる。底部は平坦で、体部はストレートにのげる。         | 底部はナヂを行ない、内面底面一部ナヂ。他はヨコナヂ。                        | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 40%   | A-2 |    |
| 372 | "                    | 口 径 (7.6)<br>立ち上がり 0.2<br>受け部径 (9.6)<br>器 高 2.1    | 立ち上がりは内傾し、端部は尖る。受け部は上外方にのび、端部は尖る。底部は丸味をもち、体部との境に若干粘土痕を残す。体部はやや湾曲。    | 底部へラ切り本調整。体部外側下半は粗い回転へラケズリかもしれない。他はヨコナヂ。          | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 40%   | A-1 |    |

B地区灰原出土土器観察表

| No  | 器種               | 出土地点  | 法<br>量   | 形<br>態                              | 技<br>法                    | 備<br>考 | 分類 |
|-----|------------------|---|--|-------------------------------------|---------------------------|--------|----|
| 373 | 环身<br>坛<br>(1号窓) | 口 径 (9.4)<br>立ち上がり高 0.1<br>受け部径 (11.0)<br>器 高 (3.5) | 立ち上がりはやや内傾し、端部は丸くなる。受け部は体部から一体化して上方にのび、端部は丸い。底部は丸く連続して体部へとづぶく。           | 底面はヘラ切り未調整。体部外面上約程度は指ナデ。他はヨコナデを行なう。 | A.暗灰色<br>B.硬質<br>C.30%    | A-1    |    |
| 374 | "<br>(2号窓)       | 口 径 (9.4)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 (11.8)<br>器 高 (3.3) | 立ち上がりは内傾し、断面三角形で端部丸く気味。受け部は上方にのび端部は丸い。底部は丸味をもち、体部はやや消済する。                | 底面外側はナデ。他はヨコナデ。                     | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.30%   | A-2    |    |
| 375 | "<br>(2号窓)       | 口 径 (10.2)<br>立ち上がり高 0.8<br>受け部径 (11.9)             | 立ち上がりはやや内傾し、端部は丸くなる。受け部は断面三角形で水平にのび、端部は丸い。体部は直線的にのび受け部との境は明確でない。底部欠損。    | 内、外側ともヨコナデ。                         | A.淡灰褐色<br>B.硬質<br>C.15%   | A-2    |    |
| 376 | "<br>(2号窓)       | 口 径 (9.6)<br>立ち上がり高 0.1<br>受け部径 (11.2)              | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は体部から一体化してのび端部は丸い。体部は直線的にのび、受け部との境は明確でない。底部欠損。        | 内、外側ともヨコナデ。                         | A.淡灰褐色<br>B.若干軟質<br>C.10% | A-6    |    |
| 377 | "<br>(1号窓)       | 口 径 (9.0)<br>立ち上がり高 0.6<br>受け部径 (10.8)              | 立ち上がりは外反気味に内傾し、端部は尖る。受け部は体部から一体化してのび端部は丸い。体部は直線的で受け部との境は明確でない。底部欠損。      | 内、外側ともヨコナデ。                         | A.暗灰色<br>B.硬質<br>C.10%    | A-8    |    |
| 378 | "<br>(2号窓)       | 口 径 (9.2)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 (10.8)<br>器 高 (2.5) | 立ち上がりは外反気味にやや内傾し、端部は丸くやや消済する。受け部は上方にのび、端部はやや角ばる。底部は平坦で体部は直線的。            | 底面粗い手持ちヘラケズリ。他はヨコナデを行なう。            | A.暗茶褐色<br>B.硬質<br>C.40%   | A-2    |    |
| 379 | "<br>(2号窓)       | 口 径 (9.4)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 (11.0)<br>器 高 (3.6) | 立ち上がりは内傾し、端部は丸くやや消済する。受け部はほぼ水平にのび、端部は丸い。底部は丸く、体部との境には枯木痕を残すが、体部へ連続してのびる。 | 底面粗い手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。                | A.青灰褐色<br>B.硬質<br>C.15%   | A-1    |    |
| 380 | "<br>(2号窓)       | 口 径 (9.0)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (10.8)<br>器 高 (2.7) | 立ち上がりはやや内傾し、断面三角形で端部は尖る。受け部は上方にのび、端部は丸く。                                 | 底面粗い手持ちヘラケズリ。他はヨコナデを行う。             | A.淡灰褐色<br>B.硬質<br>C.15%   | A-2    |    |
| 381 | "<br>(2号窓)       | 口 径 (8.2)<br>立ち上がり高 0.4<br>受け部径 (10.2)<br>器 高 (2.5) | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部はやや上方にのび、端部は丸くなる。底部は丸く、体部へと連続してのびる。                   | 底面粗い手持ちヘラケズリ。他はヨコナデを行う。             | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.20%    | A-1    |    |
| 382 | "<br>(1号窓)       | 口 径 (8.2)<br>立ち上がり高 0.7<br>受け部径 (10.0)<br>器 高 (3.5) | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は断面三角形を呈し、水平にのび端部はやや尖り気味。体部は消済し、底部は欠損する。              | 内、外側ともヨコナデ。                         | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.20%   | A-1    |    |
| 383 | "<br>(1号窓)       | 口 径 (8.0)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 (10.0)<br>器 高 (2.9) | 立ち上がりは内傾し、端部は尖り気味受け部はやや上方にのび、端部は丸くなる。底部は丸味をもち、体部はストレートにのびる。              | 底面ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。                   | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.45%   | A-2    |    |
| 384 | "<br>(1号窓)       | 口 径 8.8<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 11.0<br>器 高 3.2       | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受け部は上方にのび、端部はやや角ばる。底部は平坦で、体部は消済する。                       | 底面ヘラ切り未調整。他はヨコナデ。                   | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.45%   | A-2    |    |

B地区灰原出土土器観察表

| No. | 器種 | 出土地点         | 法量  | 形態   | 技法  | 備考                        | 分類  |
|-----|----|--------------|---|--|---|---------------------------|-----|
| 385 | 平身 | 灰原<br>〔2号窯〕  | 口 径 9.1<br>立ち上がり 0.3<br>受け部径 11.5<br>器 高 3.4        | 立ち上がりは内傾し、端部は丸くかな<br>り厚い。受け部は上外方にのび端部は<br>丸い。底部は丸底をもち、体部は直線<br>的で途中屈曲する。         | 底部へラ切り後ナナ子調整。他は<br>ヨコナナ。                  | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 70% | A-2 |
| 386 | "  | "<br>〔2号窯〕   | 口 径 (10.4)<br>立ち上がり 0.3<br>受け部径 (12.8)              | 立ち上がりは大きく内傾し、端部はや<br>やや尖る。受け部は水平に外方へのび、<br>端部は丸い。体部は均曲するが、底部<br>は欠損する。           | 内、外面ともヨコナナ。                               | A. 茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 5%  | A-2 |
| 387 | "  | "<br>〔1号窯〕   | 口 径 (11.4)<br>立ち上がり 0.4<br>受け部径 (13.6)<br>器 高 (3.7) | 立ち上がりは内傾し、断面三角形で、<br>端部は丸い。受け部はやや上外方にの<br>び、端部は丸い。体部は直線的にのび<br>底部はほぼ欠損。          | 底部は粗い手持ちヘラケズリ。<br>他はヨコナナ。                 | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 35% | A-2 |
| 388 | "  | "<br>〔1-2号窯〕 | 口 径 (10.6)<br>立ち上がり 0.2<br>受け部径 (12.4)<br>器 高 2.5   | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受<br>け部は水平に外方へのび端部は丸い。<br>底部は平底で、体部は緩やかに曲曲す<br>る。                | 底部へラ切り未調査。他はヨコ<br>ナナ。                     | A. 茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 25% | A-5 |
| 389 | "  | "<br>〔1号窯〕   | 口 径 (9.6)<br>立ち上がり 0.2<br>受け部径 (11.8)               | 立ち上がりは内傾し、端部は尖り氣味<br>受け部は水平に外方へのび端部は丸い。<br>体部は均曲し、底部は欠損する。                       | 内、外面ともヨコナナ。                               | A. 茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 5%  | A-2 |
| 390 | "  | "<br>〔1号窯〕   | 口 径 (10.6)<br>立ち上がり 0.3<br>受け部径 (12.2)<br>器 高 (2.5) | 立ち上がりは内傾し、端部は尖る。受<br>け部はやや上外方にのび、端部は丸く<br>なる。底部は平底で、体部は緩やかに<br>曲曲する。             | 底部へラ切り未調査。他はヨコ<br>ナナ。                     | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 30% | A-2 |
| 391 | "  | "<br>〔1号窯〕   | 口 径 (11.4)<br>立ち上がり 0.5<br>受け部径 (13.0)<br>器 高 (2.9) | 立ち上がりは内傾し、端部は尖る。受<br>け部はほとんど体部と一体化し、わず<br>かに外方へ突出するにすぎない。底部<br>はほぼ平底で、体部は直線的になる。 | 底部へラ切り後若ヨコナナ。他は<br>ヨコナナ。                  | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 35%  | A-8 |
| 392 | "  | "<br>〔1号窯〕   | 口 径 (10.8)<br>立ち上がり 0.3<br>受け部径 (12.8)<br>器 高 (2.8) | 立ち上がりは大きく内傾し、端部は尖<br>る。受け部はやや上外方にのび端部は<br>やや尖り氣味。底部は平底で、体部は<br>緩やかに渦曲する。         | 底部へラ切り後未調査。底部下端<br>は粗い回転ヘラケズリ。他はヨ<br>コナナ。 | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 20%  | A-2 |
| 393 | "  | "<br>〔1号窯〕   | 口 径 (11.1)<br>立ち上がり 0.2<br>受け部径 (12.6)<br>器 高 (2.3) | 立ち上がりは内傾し、端部は尖る。受<br>け部は体部より一体化し上外方へのび<br>端部は尖る。底部は平底で、器壁は厚<br>くなる。              | 底部へラ切り未調査。他はヨコ<br>ナナ。                     | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 20%  | A-7 |
| 394 | 壺  | "<br>〔1号窯〕   | 口 径 (13.6)<br>器 高 (2.3)                             | 天井部はほぼ平底で屈曲して直線的に<br>端部へ至る。端部は丸い。かえりは内<br>傾し、端部はやや角ばる。                           | 天井部平底面回転ヘラケズリ。<br>他はヨコナナ。                 | A. 茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 15% |     |
| 395 | 片蓋 | "<br>〔1号窯〕   | 口 径 (10.0)<br>器 高 1.9                               | 天井部上面は平底で、緩やかに下方へ<br>陥れし、端部で屈曲して開く。端部は<br>丸い。かえりは内傾し端部は丸い。                       | 天井部外面上端は回転ヘラケ<br>ズリ。他はヨコナナ。               | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 20%  | B-4 |
| 396 | "  | "<br>〔1号窯〕   | 口 径 (10.6)<br>器 高 (1.8)                             | 天井部上面は平底で、弯曲して下外方<br>に陥れし、端部で屈曲し水平に開く。<br>端部は丸くかえりは内傾し端部は丸い。                     | 天井部外面上端は回転ヘラケ<br>ズリ。他はヨコナナ。               | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 10% | B-4 |
| 397 | "  | "<br>〔1号窯〕   | 口 径 (10.6)<br>器 高 (2.1)                             | 天井部は丸く、端部で屈曲し開く。端<br>部は丸い。かえりは内傾し、端部はや<br>や尖る。                                   | 天井部外面上端は回転ヘラケ<br>ズリ。他はヨコナナ。               | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 30% | B-4 |

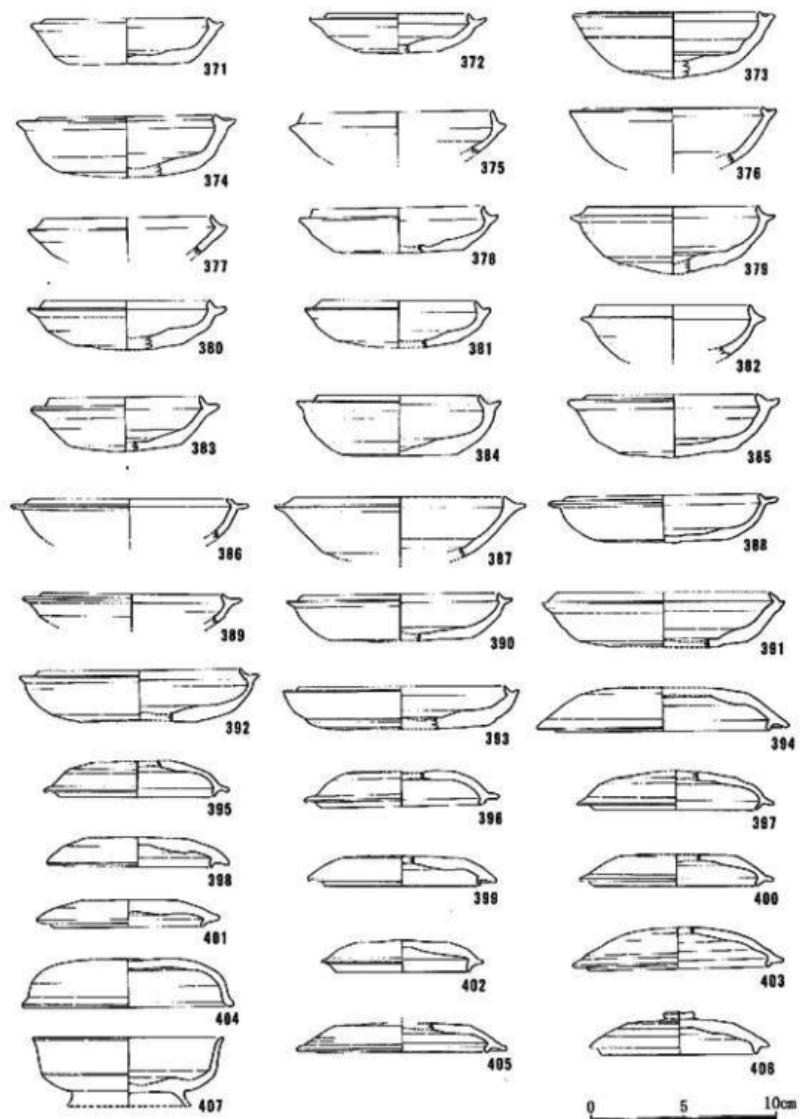


图30 B地区 灰原出土土器実測図 (2) ( $S = \frac{1}{2}$ )

B地区灰原出土土器観察表

| No. | 器種 | 出土地点        | 法量  | 形態   | 技法                         | 備考                       | 分類  |
|-----|----|-------------|---|--|----------------------------|--------------------------|-----|
|     |    |             |   |  |                            |                          |     |
| 398 | 蓋  | 灰原<br>〔1号窯〕 | 口 径 (9.8)<br>器 高 1.5                                | 天井部上面は平坦で、縁やかに凸曲して下し端部に至る。端部は丸い。かえりは内傾し端部は丸い。                        | 天井部外側平坦部はへラ切り未調整。他はヨコナデ。   | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.20%  |     |
| 399 | "  | "<br>〔1号窯〕  | 口 径 (10.2)<br>器 高 (1.6)                             | 天井部上面は平坦で、縁やかに凸曲して下し端部に至る。端部は丸い。かえりは直下し端部は丸い。器壁は天井部に対して垂直に直い。        | 内、外側ともヨコナデ。                | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.40%  |     |
| 400 | "  | "<br>〔1号窯〕  | 口 径 (10.4)<br>器 高 (1.7)                             | 天井部上面は平坦でストレートにのび端部に屈曲して開く。端部は丸い。かえりは直下し端部は丸い。                       | 天井部平世面へラ切り未調整。他はヨコナデ。      | A.青灰色<br>B.硬 質<br>C.15%  |     |
| 401 | "  | "<br>〔1号窯〕  | 口 径 (9.8)<br>器 高 1.6                                | 天井部上面は平坦で内傾して端部に至る。端部は丸い。かえりは外反気味にやや内傾し、端部は尖る。                       | 内、外側ともヨコナデ。                | A.略灰色<br>B.硬 質<br>C.35%  |     |
| 402 | "  | "<br>〔1号窯〕  | 口 径 8.8<br>器 高 1.7                                  | 天井部上面は平坦で凸曲してのび端部で屈曲して開く。端部はやや尖り気味でかえりは内傾し、断面三三角形で端部は尖る。             | 内、外側ともヨコナデ。天井部上面の外面は不明。    | A.灰褐色<br>B.硬 質<br>C.25%  |     |
| 403 | 环蓋 | "<br>〔1号窯〕  | 口 径 (11.4)<br>器 高 (2.2)                             | 天井部は丸く、端部で内傾して開き、端部は丸い。かえりは内傾し端部は丸くなる。                               | 天井部外側上面回転へラケズリ。<br>他はヨコナデ。 | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.30%  | B-5 |
| 404 | 蓋  | "<br>〔落ち込み〕 | 口 径 (11.4)<br>器 高 2.5                               | 天井部は平坦で凸曲し、端部で内傾し、外方へ開く。端部は丸い。                                       | 天井部外面平坦部手打ちへラケズリ。他はヨコナデ。   | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.30%  |     |
| 405 | 环蓋 | "<br>〔2号窯〕  | 口 径 (11.4)<br>器 高 (1.8)                             | 天井部は平坦でストレートに下し端部に至る。端部は丸い。かえりは内傾し、端部は丸い。                            | 天井部外面平坦部回転へラケズリ。他はヨコナデ。    | A.青灰色<br>B.硬 質<br>C.30%  | B-5 |
| 406 | "  | "<br>〔2号窯〕  | 口 径 (9.6)<br>器 高 2.3<br>つまみ径 1.7<br>つまみ高 0.4        | 天井部は平坦で、やや凸曲し端部へと至る。端部は丸い。かえりは直下し断面三三角形で端部は丸い。天井部底部には瘤状なつまみを有する。     | 天井部外面上程度回転へラケズリ。他はヨコナデ。    | A.青灰色<br>B.硬 質<br>C.30%  | B-5 |
| 407 | 环  | "<br>〔落ち込み〕 | 口 径 (10.2)<br>器 高 (3.7)<br>高 台 径 (6.5)<br>高 台 高 0.9 | 此部には高台を有し、高台は外方へ開き、端部は方形をなすと考えられる。体部は緩やかに開き、途中で屈曲し外反気味に端部へ至る。端部は丸い。  | 内、外側ともヨコナデ。                | A.青灰色<br>B.硬 質<br>C.30%  |     |
| 408 | 环蓋 | "<br>〔2号窯〕  | 口 径 (8.0)<br>器 高 (1.8)                              | 天井部は丸く、緩やかに下外方へ降下し、端部で内傾して開く。端部は丸い。かえりはやや内傾し、端部は尖り気味となる。             | 天井部外面上程度回転へラケズリ。他はヨコナデ。    | A.青灰色<br>B.若干軟質<br>C.35% | B-1 |
| 409 | "  | "<br>〔2号窯〕  | 口 径 (8.4)<br>器 高 (1.4)                              | 天井部上面はほぼ平坦で、下外方に緩やかに降下し端部へ至る。端部は丸くなる。かえりは直下し端部は尖る。天井部中央には瘤状なつまみを有する。 | 天井部外面上程度回転へラケズリ。他はヨコナデ。    | A.青灰色<br>B.硬 質<br>C.25%  | B-1 |
| 410 | "  | "<br>〔2号窯〕  | 口 径 8.2<br>器 高 1.8<br>つまみ径 1.6<br>つまみ高 0.2          | 天井部はほぼ平坦で、途中若干屈曲して直線的に端部へ至る。端部はやや尖る。かえりは直下し端部は尖る。天井部中央には瘤状なつまみを有する。  | 天井部外面上程度回転へラケズリ。他はヨコナデ。    | A.青灰色<br>B.硬 質<br>C.50%  | B-1 |
| 411 | "  | "<br>〔2号窯〕  | 口 径 8.6<br>器 高 (1.7)<br>つまみ径 (1.6)<br>つまみ高 (0.2)    | 天井部は丸く、途中やや屈曲する。端部はやや角張る。かえりは直下し、端部はやや尖り気味。天井部中央にはつまみ孔を有する。          | 天井部外面上程度回転へラケズリ。他はヨコナデ。    | A.青灰色<br>B.硬 質<br>C.50%  | B-1 |

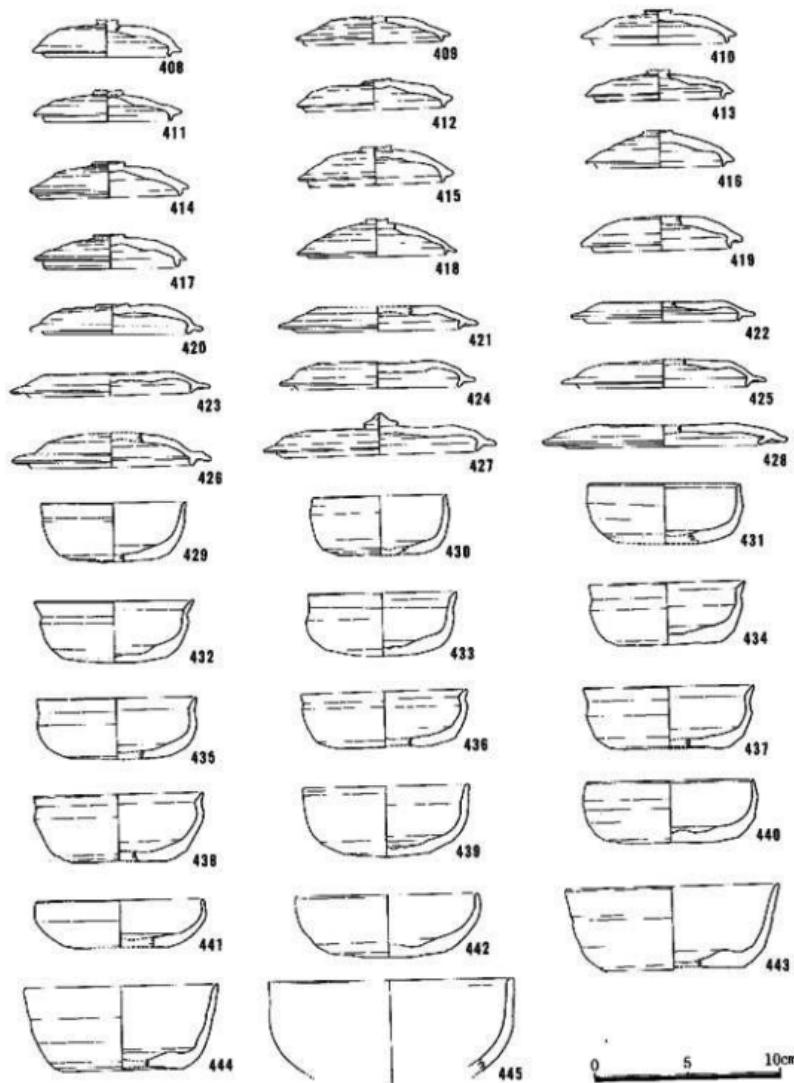


図31 B地区 灰原出土土器実測図 (3) ( $S = \frac{1}{2}$ )

B地区灰原出土土器觀察表

| No  | 器種                         | 出土地点        | 法<br>景   | 形<br>態   | 技<br>法                          | 指<br>標                  | 分類  |
|-----|----------------------------|-------------|--|--|---------------------------------|-------------------------|-----|
| 412 | 口盤<br>器高<br>つまみ径<br>つまみ高   | 灰原<br>(2号窯) | 口 径 8.4<br>器 高 1.6<br>つまみ径 1.6<br>つまみ高 0.1       | 全体に歪むが、天井部はほぼ平坦で端部でやや屈曲し外方に開く。端部は丸い。かえりは垂下し端部は丸い。天井部中央には扁平なつまみがつく。   | 天井部外面上1/2程度回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。      | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.50%  | B-1 |
| 413 | 口 径<br>器 高<br>つまみ径<br>つまみ高 | "<br>(2号窯)  | 口 径 8.0<br>器 高 (1.8)<br>つまみ径 (1.2)<br>つまみ高 (0.2) | 天井部は丸く、端部で屈曲し下外方にびる。端部はやや尖る。かえりは垂下し、やや外反気味で端部は尖る。天井部にはつまみを有すると考えられる。 | 天井部外面上1/2程度回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。      | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.50%  | B-1 |
| 414 | 口 径<br>器 高<br>つまみ径<br>つまみ高 | "<br>(2号窯)  | 口 径 8.6<br>器 高 1.9<br>つまみ径 1.7<br>つまみ高 0.2       | 天井部は丸く、端部はやや尖り気味。かえりは垂下し、端部は尖る。天井部中央には扁平なつまみを有する。                    | 天井部外面上1/2程度回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。      | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.40%  | B-1 |
| 415 | 口 径<br>器 高<br>つまみ径<br>つまみ高 | "<br>(2号窯)  | 口 径 8.4<br>器 高 (2.1)<br>つまみ径 (1.8)<br>つまみ高 0.2   | 天井部は丸く、端部はやや角ぼる。かえりはやや内傾し、端部は尖る。天井部中央にはつまみを有すると考えられる。                | 天井部外面上1/2程度回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。      | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.50%  | B-1 |
| 416 | 口 径<br>器 高<br>つまみ径<br>つまみ高 | "<br>(2号窯)  | 口 径 8.0<br>器 高 2.0<br>つまみ径 1.6<br>つまみ高 0.2       | 天井部は直線的に下外方にのり、端部はやや角ぼる。かえりは内傾し、端部は尖り気味。天井部中央には扁平なつまみを有す。            | 天井部外面上1/2程度回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。      | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.55%  | B-1 |
| 417 | 口 径<br>器 高<br>つまみ径<br>つまみ高 | "<br>(2号窯)  | 口 径 8.2<br>器 高 1.8<br>つまみ径 1.7<br>つまみ高 0.2       | 天井部は丸く、端部で屈曲し下外方に開く。端部は尖る。かえりは垂下し端部は尖る。天井部中央には扁平なつまみを有す。             | 天井部外面上1/2程度回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。      | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.60%  | B-1 |
| 418 | 口 径<br>器 高                 | "<br>(2号窯)  | 口 径 (8.6)<br>器 高 (2.0)                           | 天井部は丸く、端部はやや角ぼる。かえりは若干内傾し、端部は尖る。全体に器壁は薄く、天井部中央には扁平なつまみを有すと考えられる。     | 天井部外面上1/2程度回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。      | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.40%  | B-1 |
| 419 | 口 径<br>器 高                 | "           | 口 径 (8.8)<br>器 高 (1.9)                           | 天井部上面は平坦で、直線的に下外方へ降下し端部へとれる。端部は丸い。かえりは外反気味に内傾し、端部は尖る。つまみの有無は不明。      | 外面は付着物が多く不明。内面はヨコナデ。            | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.25% | B-1 |
| 420 | 口 径<br>器 高<br>つまみ径<br>つまみ高 | "<br>(2号窯)  | 口 径 9.4<br>器 高 1.7<br>つまみ径 1.8<br>つまみ高 0.1       | 天井部は丸く、端部で屈曲して外方へ開く。端部は丸い。かえりは内傾し、端部はやや尖る。天井部はやや凹み中央には扁平なつまみを有する。    | 天井部外面上1/2程度は回転ヘラケズリを行なう。他はヨコナデ。 | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.100% | B-2 |
| 421 | 口 径<br>器 高                 | "<br>(2号窯)  | 口 径 (10.8)<br>器 高 (1.3)                          | 天井部上面は平坦で、直線的に下外方へ降下し、端部へとれる。端部は丸い。かえりは内傾し、端部は尖る。                    | 天井部外面平坦部手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。        | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.20%  | B-2 |
| 422 | 口 径<br>器 高                 | "           | 口 径 (10.0)<br>器 高 1.1                            | 天井部上面は平坦で、直線的に下外方へ降下し端部でわずかに屈曲し崩く。端部は丸い。かえりは内傾し、端部はやや尖る。             | 天井部外面平坦部手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。        | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.40%  | B-2 |
| 423 | 口 径<br>器 高                 | "           | 口 径 (10.8)<br>器 高 1.2                            | 天井部上面は平坦で、直線的に下外方へ降下し、端部で屈曲し開く。端部は丸い。かえりは内傾し、端部は尖り気味。                | 天井部外面平坦部手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。        | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.45% | B-2 |
| 424 | 口 径<br>器 高                 | "           | 口 径 10.6<br>器 高 1.4                              | 天井部上面は平坦で凹曲して降下し、端部で屈曲して崩く。端部は丸い。かえりは内傾し、端部は丸い。                      | 天井部外面平坦部手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。        | A.淡青灰色<br>B.硬質<br>C.95% | B-2 |

B地区灰原出土土器観察表

| No. | 器種 | 出土地点        | 法<br>量                                      | 形<br>態   | 技<br>法                            | 備<br>考                  | 分類  |
|-----|----|-------------|---|--|-----------------------------------|-------------------------|-----|
| 425 | 环盃 | 灰原<br>〔埴込み〕 | 口 径 (11.0)<br>高 (1.5)                       | 天井部はほぼ平坦で、消費して降下し端部で冠曲して開く。端部は丸い。かえりは内傾し端部は尖り気味。全体に器壁は薄い。          | 天井部外面平坦部手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。          | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.30%  | B-2 |
| 426 | #  | #           | 口 径 (10.8)<br>高 (1.9)                       | 天井部は丸く、端部で屈曲して開く。端部は丸い。かえりはやや内傾し、端部は丸い。                            | 天井部外面上端部回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。           | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.25% | B-2 |
| 427 | #  | #           | 口 径 12.6<br>器 高 2.2<br>つまみ径 1.8<br>つまみ高 0.7 | 天井部上面は平坦で弯曲して降下し、端部で屈曲して開く。端部は丸い。かえりは内傾し、端部は尖り気味。天井部中央には宝珠つまみを有する。 | 天井部外面上端部回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。           | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.50%  | B-3 |
| 428 | #  | #           | 口 径 (13.2)<br>器 高 (1.2)                     | 天井部上面は平坦で、直線的に縦やかに降下し端部は丸い。かえりは大きく内傾し、端部は丸い。                       | 天井部外面上端部回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。           | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.20% | B-3 |
| 429 | 环身 | #<br>〔2号室〕  | 口 径 7.8<br>高 3.2                            | 底部はほぼ平坦で、縱やかに上外方に弯曲してのび、端部はやや尖り気味。                                 | 底部外面手持ちヘラケズリ。底部周辺は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。 | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.50%  | B-1 |
| 430 | #  | #<br>〔2号室〕  | 口 径 (7.6)<br>器 高 (3.2)                      | 底部は平坦で、体部は弯曲して上外方にのび、口縁でやや内傾する。端部は丸い。                              | 底部外面手持ちヘラケズリ。底部周辺は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。 | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.35%  | B-1 |
| 431 | #  | #<br>〔2号室〕  | 口 径 8.2<br>器 高 (3.3)                        | 底部はほぼ平坦で、体部は弯曲して上外方にのび、口縁でやや内傾する。端部は尖り気味。                          | 底部外面手持ちヘラケズリ。底部周辺は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。 | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.60%  | B-1 |
| 432 | #  | #<br>〔2号室〕  | 口 径 8.6<br>器 高 3.3                          | 底部はほぼ平坦で体部は弯曲して上外方にのび口縁で屈曲して外方へ開く。端部は尖る。                           | 底部外面および体部外面下端部回転ヘラケズリ。            | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.40% | B-2 |
| 433 | #  | #<br>〔2号室〕  | 口 径 8.0<br>器 高 3.4                          | 底部は丸味をもつ、体部は弯曲して上外方へのび口縁で屈曲して開く。端部は丸い。                             | 底部は手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。               | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.50%  | B-2 |
| 434 | #  | #<br>〔2号室〕  | 口 径 8.4<br>器 高 3.4                          | 底部は平坦で、体部は弯曲して上外方にのび口縁で屈曲して外方へ開く。端部に尖る。                            | 底部外面手持ちヘラケズリ。底部周辺回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。  | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.50%  | B-2 |
| 435 | #  | #<br>〔2号室〕  | 口 径 (8.6)<br>器 高 (3.3)                      | 底部はほぼ平坦で、体部は上外方へ弯曲してのび、口縁で屈曲して外方へ開く。端部は尖る。                         | 底部外面手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。              | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.35%  | B-2 |
| 436 | #  | #<br>〔1号室〕  | 口 径 (9.0)<br>器 高 (3.0)                      | 底部はほぼ平坦で、体部はやや弯曲して上外方へのび、口縁で屈曲して外方へ開く。端部は丸い。                       | 底部外面手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。              | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.30% | B-2 |
| 437 | #  | #<br>〔2号室〕  | 口 径 (9.2)<br>器 高 (3.2)                      | 底部は平坦で、体部は弯曲して上外方へのび、口縁で屈曲して外方へのびる。端部はやや尖る。                        | 底部外面手持ちヘラケズリ。底部周辺は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。 | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.40%  | B-2 |
| 438 | #  | #<br>〔2号室〕  | 口 径 (9.2)<br>器 高 (3.6)                      | 底部は平坦で体部はやや直線的に上外方へのび口縁で屈曲して外方へ開く。端部は尖る。                           | 底部外面手持ちヘラケズリ。底部周辺は回転ヘラケズリ。他はヨコナデ。 | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.50%  | B-2 |
| 439 | #  | #<br>〔2号室〕  | 口 径 9.0<br>器 高 3.8                          | 底部は丸く、体部へ連続的に弯曲してのび、端部でわざかに開く。端部は丸い。                               | 底部外面手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。              | A.灰 色<br>B.硬 質<br>C.70% | B-3 |
| 440 | #  | #<br>〔2号室〕  | 口 径 9.0<br>器 高 3.3                          | 底部はほぼ平坦で体部は弯曲して上外方へのび端部でやや内傾する。端部は尖る。                              | 底部外面手持ちヘラケズリ。他はヨコナデ。              | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.30%  | B-1 |

B地区灰原出土土器觀察表

| No. | 器種 | 出土地点        | 法<br>量      | 形<br>態              | 技<br>法   | 備<br>考                                     | 分類                           |     |
|-----|----|-------------|-------------|---------------------|--|--|------------------------------|-----|
| 441 | 环身 | 灰原<br>(2号窓) | 口<br>径<br>高 | 径 (9.2)<br>高 (2.6)  | 底部は平坦で体部は湾曲し端部でやや内傾する。端部は丸い。                               | 底部外側は手持ちヘラケズリ。<br>底部周辺は回転ヘラケズリ。他<br>はヨコナデ。 | A. 青灰色<br>B. 硬質<br>C. 30%    | B-1 |
| 442 | "  | "<br>(2号窓)  | 口<br>器      | 径 10.0<br>高 3.4     | 底部はやや丸味をもつ。体部は湾曲して上外方にのび口縁は直立気味、端部は丸い。                     | 底部外側手持らへラケズリ。他<br>はヨコナデ。                   | A. 茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 50%    | B-1 |
| 443 | 碗  | "<br>(2号窓)  | 口<br>器      | 径 (11.6)<br>高 (4.4) | 底部はやや上げ底で、体部は直線的に上外方へのび端部へ至る。端部は丸くなる。                      | 底部へラ切り後若干干ナデ。他<br>はヨコナデ。                   | A. 青灰色<br>B. 硬質<br>C. 20%    | A   |
| 444 | "  | "<br>(2号窓)  | 口<br>器      | 径 (10.4)<br>高 4.5   | 底部はやや上げ底氣味で、体部は直線的に上外方にのび、端部は丸い。                           | 底部へラ切り後若干干ナデ。底部<br>周辺は回転ヘラケズリ。他はヨ<br>コナデ。  | A. 青灰色<br>B. 硬質<br>C. 40%    | A   |
| 445 | "  | "<br>(2号窓)  | 口           | 径 (13.2)            | 底部欠損。体部は湾曲して上外方にのび口縁では直立する。端部は丸い。                          | 体外側下半は低いへラケズリか<br>? 他はヨコナデ。                | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 30%    | B   |
| 446 | 高环 | "<br>(1号窓)  | 口           | 径 (12.4)            | 脚欠損。环は上外方へ援やかにのび、中程で屈曲し外反して開く。屈曲点には1条の沈線を有する。              | 环外側下端は回転ヘラケズリ。<br>他はヨコナデ。                  | A. 茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 环部20%  |     |
| 447 | "  | "           | 口           | 径 (11.6)            | 脚欠損。环は援やかに湾曲して上外方にのび、口縁で端部へ向く。端部は丸い。                       | 环外側下端回転ヘラケズリ。他<br>はヨコナデ。                   | A. 茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 环部30%  |     |
| 448 | "  | "           | 口           | 径 (11.2)            | 脚欠損。环は援やかに湾曲して上外方にのび、口縁で端部へ向く。端部は丸い。                       | 环外側下端回転ヘラケズリ。他<br>はヨコナデ。                   | A. 茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 环部45%  |     |
| 449 | "  | "<br>(2号窓)  | 口           | 径 (12.2)            | 脚欠損。环は援やかに湾曲して上外方にのびる。中程に1条の沈線を有し、端部は丸い。                   | 内、外側ともヨコナデ。                                | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 环部10%  |     |
| 450 | "  | "<br>(2号窓)  | 口           | 径 (12.2)            | 脚欠損。环は援やかに湾曲して上外方にのびる。端部は丸い。                               | 环外側下端回転ヘラケズリ。<br>他はヨコナデ。                   | A. 茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 环部30%  |     |
| 451 | "  | "<br>(1号窓)  | 脚 部         | 径 10.4<br>高 6.8     | 环欠損。脚は援やかに開き、端部で接地する。端部はやや上方にのびる。                          | 内面上半はシボリ。他はヨコナ<br>デ。                       | A. 茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 脚部50%  | A   |
| 452 | "  | "<br>(1号窓)  | 脚 部         | 径 (9.8)<br>高 (6.5)  | 环欠損。脚は中程でやや膨しながら開き、接地してから上外方にのび、端部でやや上下に張り出す。脚下に1条の沈線を有する。 | 内面上半はシボリ。他はヨコナ<br>デ。                       | A. 青灰色<br>B. 硬質<br>C. 脚部70%  | A   |
| 453 | "  | "<br>(1号窓)  | 脚 部         | 径 9.2<br>高 7.0      | 环欠損。脚は援やかに開き、接地した後やや上外方にのびながら下削して再び接地する。端部は尖る。中程に1条の沈線を有す。 | 内面上半シボリ。他はヨコナ<br>デ。                        | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 脚部80%  | A   |
| 454 | "  | "<br>(2号窓)  | 脚 部         | 径 11.2<br>高 5.5     | 环欠損。脚は援やかに開き、端部でやや下方に張り出し接地する。端部は丸い。                       | 内面上半シボリ。他はヨコナ<br>デ。                        | A. 青灰色<br>B. 硬質<br>C. 脚部100% | A   |
| 455 | "  | "<br>(1号窓)  | 脚 部         | 径 10.2<br>高 7.2     | 环欠損。脚は援やかに開き、端部で上<br>下にのび接地する。                             | 内、外側ともヨコナデ。                                | A. 茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 脚部80%  | A   |
| 456 | "  | "<br>(1号窓)  | 脚 部         | 径 (11.6)<br>高 6.3   | 环欠損。脚は援やかに開き、端部で上<br>下にのび接地する。                             | 内面上半はシボリ。他はヨコナ<br>デ。                       | A. 茶褐色<br>B. 硬質<br>C. 50%    | A   |

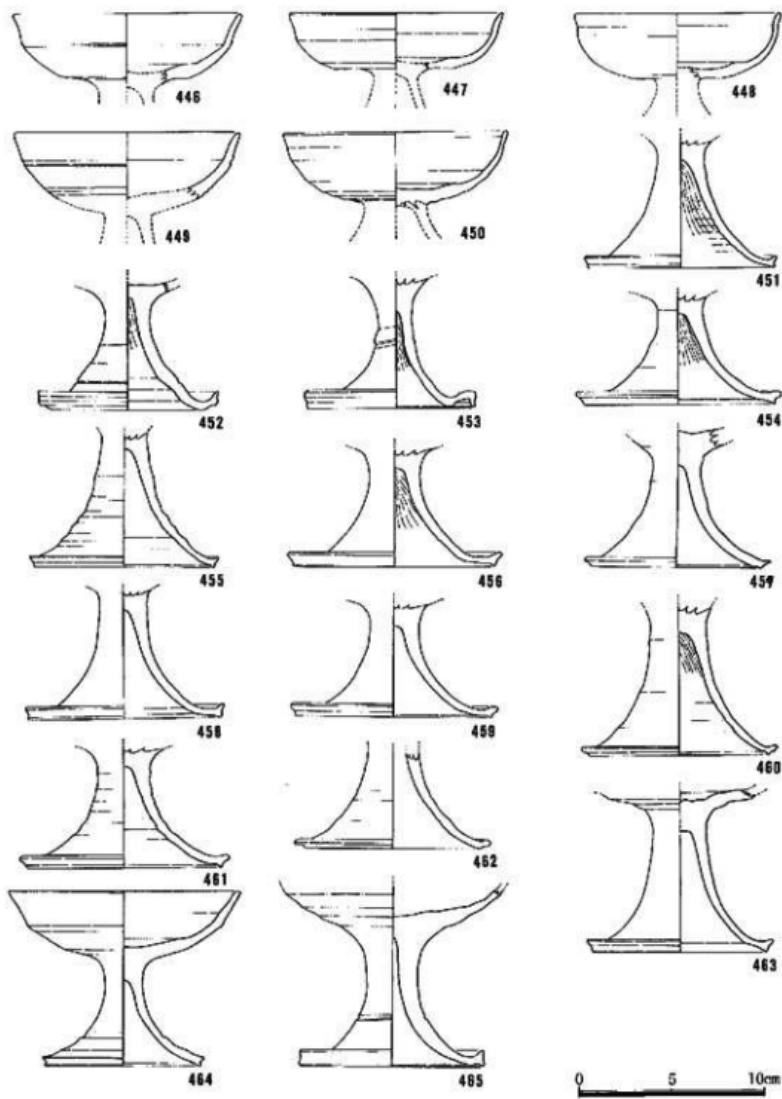


图32 B地区 灰原出土土器実測図 (4) ( $S = \frac{1}{6}$ )

B地区灰原出土土器観察表

| No. | 器種                | 出土地点       | 法量                                 | 形態  | 技法                               | 備考                           | 分類 |
|-----|-------------------|------------|------------------------------------|---|----------------------------------|------------------------------|----|
| 457 | 高环<br>灰原<br>(1号窯) |            | 脚部径 10.0<br>脚部高 6.0                | 环欠損。脚は緩やかに開き、端部で接地し、さらに外方へのびる。                                    | 内、外面ともヨコナデ。                      | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.脚部80%     | A  |
| 458 | "                 | "<br>(2号窯) | 脚部径 (10.7)<br>脚部高 6.7              | 环欠損。脚は緩やかに開き、縦に屈曲しや水平にのび端部で上下に突出し接地する。                            | 内、外面ともココナデ。                      | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.脚部40%     | A  |
| 459 | "                 | "<br>(2号窯) | 脚部径 11.2<br>脚部高 5.5                | 环欠損。脚は大きく屈曲して開き、端部で若干下方に張り出し接地する。端部は丸い。                           | 内、外面ともヨコナデ。                      | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.脚部100%    | A  |
| 460 | "                 | "<br>(1号窯) | 脚部径 (10.6)<br>脚部高 7.8              | 环欠損。脚は緩やかに開き、端部で若干下方に張り出し接地する。                                    | 内面上少しご程度シボリ。他はヨコナデ。              | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.脚部60%     | A  |
| 461 | "                 | "<br>(2号窯) | 脚部径 11.3<br>脚部高 6.4                | 环欠損。脚は大きく開き、端部でやや下方に張り出し、端部は方形をなす。                                | 内、外面ともヨコナデ。                      | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.脚部70%     | A  |
| 462 | "                 | "<br>(2号窯) | 脚部径 (10.6)                         | 环欠損。脚は緩やかに開き、端部で接地した後、若干上方へのびる。端部は丸い。                             | 内、外面ともヨコナデ。                      | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.脚部40%     | A  |
| 463 | "                 | "<br>(1号窯) | 脚部径 10.0<br>脚部高 8.0                | 环欠損。脚は緩やかに開き、端部で上下にやや張り出し接地する。                                    | 环下邊は圓軸へラケズリ。他はヨコナデ。              | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.脚部80%     | A  |
| 464 | "                 | "<br>(2号窯) | 口<br>器<br>脚部<br>高<br>径<br>高<br>5.7 | 脚は緩やかに開き、端部で二又に開き接地する。脚中程に1条の沈線を有する。环は上外方にのび、中程で屈曲し端部へと至る。端部は角ばる。 | 环外下面半は粗い回転へラケズリ。内面中央部はナデ。他はヨコナデ。 | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.40%       | A  |
| 465 | "                 | "<br>(2号窯) | 脚部径 10.0<br>脚部高 7.5                | 环上半欠損。脚は緩やかに開き、端部で上下にのび接地する。环は上外方にのびる。                            | 环外下面半は粗い回転へラケズリ。他はヨコナデ。          | A.灰<br>色<br>B.硬質<br>C.60%    | A  |
| 466 | "                 | "<br>(1号窯) | 脚部径 8.0<br>脚部高 3.0                 | 环欠損。脚は大きく開き、端部で下方に張り出し接地する。端部は尖る。                                 | 内、外面ヨコナデ。                        | A.暗灰色<br>B.硬質<br>C.脚部100%    | B  |
| 467 | "                 | "<br>(1号窯) | 脚部径 8.6<br>脚部高 3.3                 | 环欠損。脚は大きく開き、端部で屈曲し下方にのび接地する。端部は方形をなす。                             | 内、外面ともヨコナデ。                      | A.灰<br>色<br>B.硬質<br>C.脚部100% | B  |
| 468 | "                 | "<br>(2号窯) | 脚部径 (9.3)<br>脚部高 (2.7)             | 环欠損。脚は大きく開き、端部で接地する。端部は方形をなす。                                     | 内、外面ともヨコナデ。                      | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.脚部60%     | B  |
| 469 | "                 | "<br>(1号窯) | 脚部径 7.0<br>脚部高 1.8                 | 环欠損。脚は大きく開き、端部で接地して上外方に若干のびる。端部は尖り気味。脚部窓は非常に低い。                   | 内、外面ともヨコナデ。                      | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.脚部100%    | B  |
| 470 | "                 | "<br>(2号窯) | 脚部径 7.8<br>脚部高 2.7                 | 环欠損。脚は大きく開き、接地した後若干外方へのびる。端部は若干上下し張り出す。                           | 内、外面ともヨコナデ。                      | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.脚部100%    | B  |
| 471 | "                 | "<br>(2号窯) | 脚部径 7.4<br>脚部高 3.3                 | 环欠損。脚は大きく開き、端部で接地する。端部は方形をなす。                                     | 内、外面ともヨコナデ。                      | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.脚部100%    | B  |
| 472 | "                 | "          | 脚部径 7.4<br>脚部高 2.0                 | 环欠損。脚は大きく開き、端部でわずかに上下にのび接地する。                                     | 内、外面ともヨコナデ。                      | A.灰<br>色<br>B.硬質<br>C.脚部100% | B  |

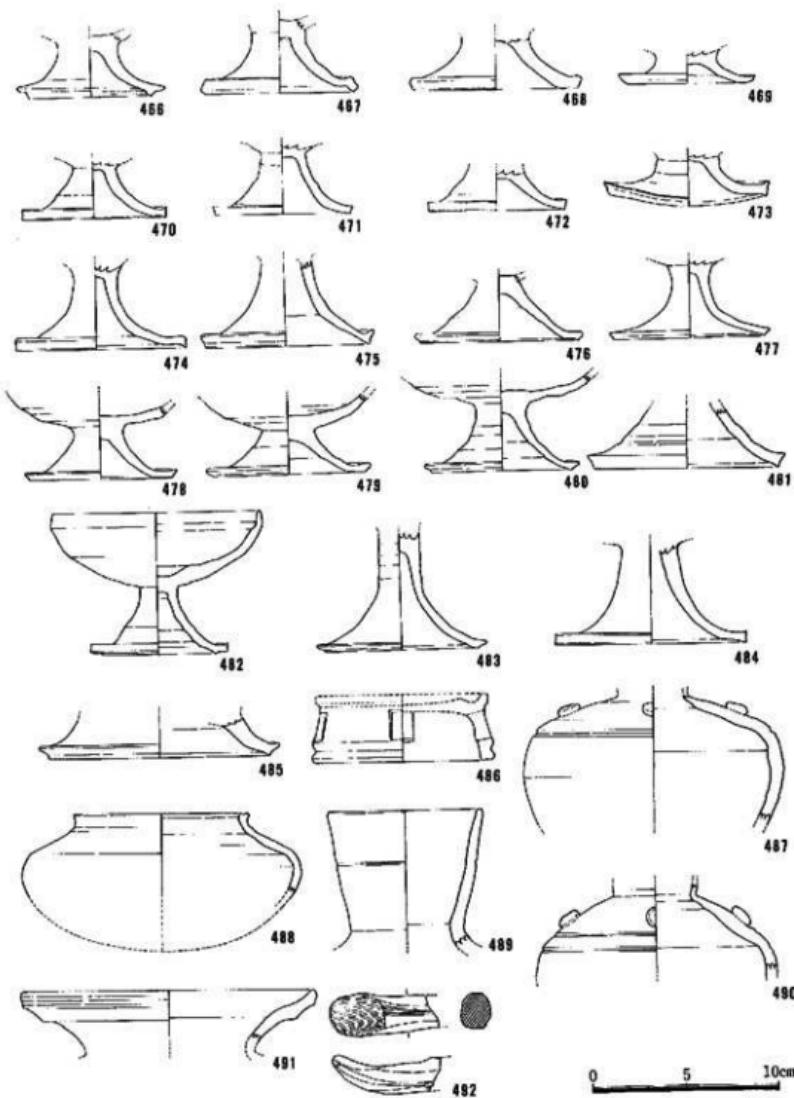


図33 B地区 灰原出土土器実測図 (5) ( $S = \frac{1}{2}$ )

B地区灰原出土土器観察表

| No  | 器種 | 出土地点        | 法<br>量  | 形<br>態  | 技<br>法                 | 備<br>考                    | 分類 |
|-----|----|-------------|---|---|------------------------|---------------------------|----|
| 473 | 高杯 | 灰原<br>(2号窓) |   | 环欠損。全体に毛が著しい。脚は大きく開き、端部で上下に若干のびて接地すると考えられる。                       | 内、外面ともヨコナデ。            | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.脚部100% | B  |
| 474 | #  | #<br>(2号窓)  | 脚部径 9.2<br>脚部高 4.5                              | 环欠損。脚は大きく開き、窓でやや水平にのび、端部でやや重しで接地する。                               | 内、外面ともヨコナデ。            | A.灰色<br>B.硬質<br>C.脚部100%  | B  |
| 475 | #  | #<br>(2号窓)  | 脚部径 (9.4)<br>脚部高 (5.3)                          | 环欠損。脚は緩やかに開き、端部で接地した後上方へ屈曲してのびる。                                  | 内、外面ともヨコナデ。            | A.暗灰色<br>B.硬質<br>C.脚部50%  | B  |
| 476 | #  | #<br>(2号窓)  | 脚部径 9.1<br>脚部高 3.2                              | 环欠損。脚は直線的に開き、窓で彎曲し水平にのびた後、わずかに下方へ張り出しで接地する。端部は丸い。                 | 内、外面ともヨコナデ。            | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.脚部100% | B  |
| 477 | #  | #<br>(2号窓)  | 脚部径 8.6<br>脚部高 3.9                              | 环欠損。脚は大きく開き、端部でわずかに下方へ張り出しで接地する。                                  | 内、外面ともヨコナデ。            | A.灰色<br>B.硬質<br>C.脚部100%  | B  |
| 478 | #  | #<br>(1号窓)  | 脚部径 7.6<br>脚部高 3.0                              | 环上半欠損。脚は緩やかに開き、窓で彎曲し水平にのび若干下方へ張り出しで接地する。环は上方へのびる。                 | 环下端回転ヘラケズリ。他はヨコナデを行なう。 | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.脚部100% | B  |
| 479 | #  | #           | 脚部径 9.0<br>脚部高 2.4                              | 环下半欠損。脚は大きく開き、窓で彎曲し水平にのび接する。端部は丸くなる。环は上方へのびる。                     | 环下端回転ヘラケズリ。他はヨコナデを行なう。 | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.脚部60%  | B  |
| 480 | #  | #<br>(1号窓)  | 脚部径 8.4<br>脚部高 3.6                              | 环下端欠損。脚は緩やかに開き、接した後端部はやや外方にのびる。环は上方へのびる。                          | 环下端回転ヘラケズリ。他はヨコナデを行なう。 | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.脚部60%  | B  |
| 481 | #  | #<br>(1号窓)  | 脚部径 10.6  | 环及上半欠損。脚は大きく開き、端部で接地する。端部は方形をなす。                                  | 内、外面ともヨコナデ。            | A.灰茶褐色<br>B.硬質<br>C.脚部60% | B  |
| 482 | #  | #<br>(2号窓)  | 口 径 (11.2)<br>器 高 7.6<br>脚 部 径 7.4<br>脚 部 高 3.6 | 脚は緩やかに開き、接した後水平に外方へのびる。端部は方形をなす。环は大きく上外方へ開き、端部で直立気味となる。端部は丸い。     | 内、外面ともヨコナデ。            | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.50%    | B  |
| 483 | #  | #<br>(1号窓)  | 脚部径 9.2<br>脚部高 6.3                              | 环欠損。脚は重しした後緩やかに開き端部で後進しさらに若干外方へのびている。                             | 内、外面ともヨコナデ。            | A.灰色<br>B.硬質<br>C.脚部100%  | A  |
| 484 | #  | #<br>(1号窓)  | 脚部径 (10.3)<br>脚部高 (5.3)                         | 环欠損。脚は緩やかに開き、端部で接地する。端部は方形をなす。                                    | 内、外面ともヨコナデ。            | A.茶褐色<br>B.硬質<br>C.脚部80%  | B  |
| 485 | 脚控 | #           | 脚部径 (13.0)<br>脚部高 (2.5)                         | 脚部欠損。脚は緩やかに開き、端部で上下にのび接地する。                                       | 内、外面ともヨコナデ。            | A.茶灰色<br>B.硬質<br>C.脚部40%  | C  |
| 486 | 円瓶 | #<br>(1号窓)  | 脚部径 (9.8)                                       | 碗面は欠損。脚部は直線的に開き、端部で凸縁を有する。5面に孔を穿つ。但し位置は変形と思われる。                   | 内、外面ともヨコナデ。            | A.灰色<br>B.硬質<br>C.脚部40%   |    |
| 487 | 壺  | #<br>(1号窓)  | 張 部 径 (3.8)<br>脚部大径 (14.0)                      | 体部下半及び口部欠損。体部は直線的にのび上位で彎曲し済曲する。肩部には長1cm程度の粘土粒を4個貼りつけ直下に1条の凹縫を有する。 | 内、外面ともヨコナデ。            | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.20%    | D  |
| 488 | 壺  | #<br>(2号窓)  | 口 径 (9.4)<br>脚 部 径 (9.2)<br>脚部小径 (15.0)         | 体部下半欠損。口部は短く垂直に立ち上がり、体部は大きく済曲し中程で最大となる。端部は方形をなす。                  | 内、外面ともヨコナデ。            | A.暗茶灰色<br>B.硬質<br>C.20%   |    |

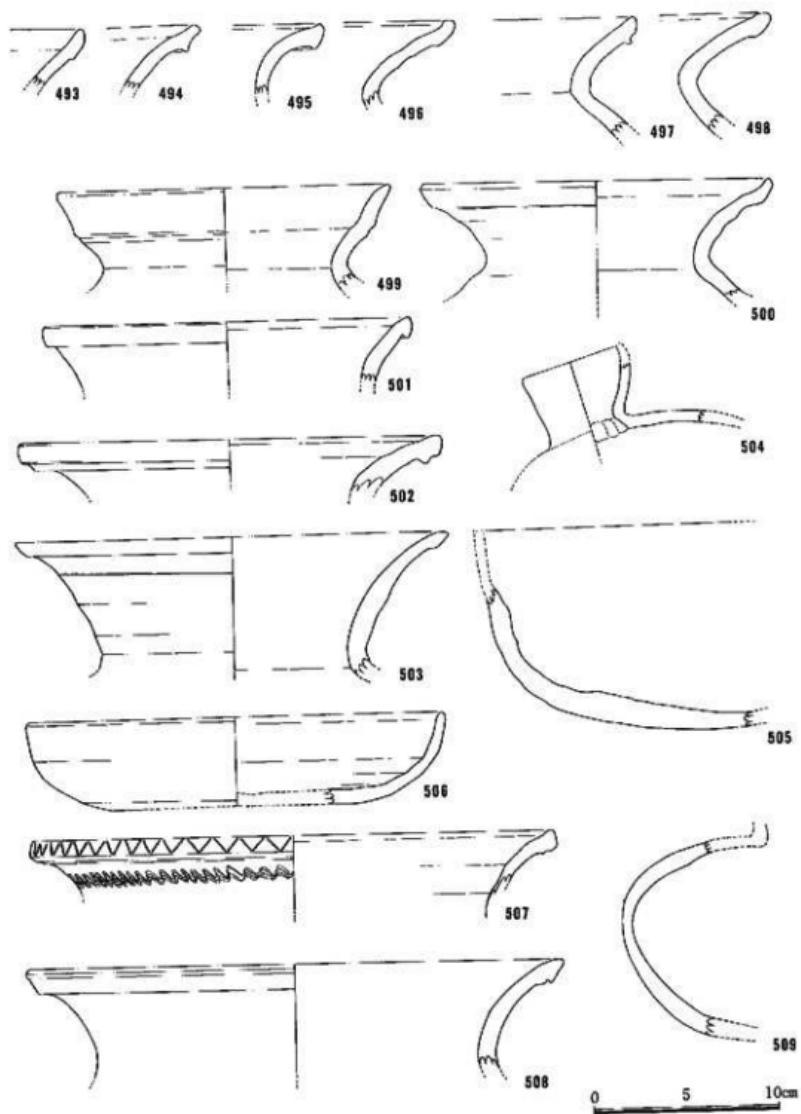


図34 B地区 灰原出土土器実測図 (6) ( $S = \frac{1}{2}$ )

B 地区灰原出土土器觀察表

| No. | 器種  | 出上地点        | 法<br>量  | 形<br>態   | 技<br>法                            | 備<br>考                     | 分類 |
|-----|-----|-------------|---|--|-----------------------------------|----------------------------|----|
| 489 | 直口壺 | 灰原<br>(1号窯) | 口 径 8.4<br>口 頭部 高 6.4<br>底 部 径 6.0                | 口頭部のみ。口頭部は中程で若干膨み氣味で上外方に開く。端部は丸い。中程に1条の沈線を有する。                           | 内、外面ともヨコナデ。                       | A.暗茶灰色<br>B.硬質<br>C.口頭部50% | E  |
| 490 | 壺   | 同上          | 頸 部 徑 (4.4)<br>腹 部 大 徑 (12.9)<br>(1号窯)            | 口縁部及び、体部下半は欠損。体部は直線的に下外方へのび、中程から済曲する。肩部には長1cm程度の粘土粒を4個貼りつけ、直下に2条の沈線を有する。 | 内、外面ともヨコナデ。                       | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.25%     | D  |
| 491 | 壺   | 同上          | 口 径 (16.0)  | 口頭部のみ、口頭部は大きく上外方に開き、途中済曲し端部に至る。端部は角ばる。                                   | 内、外面ともヨコナデ。                       | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.口頭部30%  | A  |
| 492 | 瓶   | 同上          | 直 徑 1.9<br>(1号窯)                                  | 把手のみ。把手は水平にのび、先端でやや上方に反り上がる。先端はやや尖り気味。                                   | 全体にヘラケツリによる。                      | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.-       |    |
| 493 | 壺   | 同上          | -   | 口縁のみ。口縁は上外方へのび、端部でやや肥厚する。端部は丸い。  | 内、外面ともヨコナデ。                       | A.灰色<br>B.硬質<br>C.口頭部10%   | A  |
| 494 | "   | 同上          | -   | 口縁のみ。口縁は外反して開き、端部で断面三角形の突帯を有す。端部は方形をなす。                                  | 内、外面ともヨコナデ。                       | A.暗灰色<br>B.硬質<br>C.口縁10%   | A  |
| 495 | "   | "           | -   | 口縁のみ。口縁は大きく外反して端部へと至る。端部はやや上下に張り出す。                                      | 内、外面ともヨコナデ。                       | A.暗灰色<br>B.硬質<br>C.口縁10%   | A  |
| 496 | "   | 同上          | -   | 口縁のみ。口縁は直線的に上外方へのび、端部でやや肥厚する。端部は丸くなる。                                    | 内、外面ともヨコナデ。                       | A.暗灰色<br>B.硬質<br>C.口縁10%   | A  |
| 497 | "   | 同上          | -   | 口頭部のみ。口頭部はやや外反して上外方へのび、端部で突帯を有す。端部は丸い。                                   | 内、外面ともヨコナデ。                       | A.灰色<br>B.硬質<br>C.口頭部15%   | A  |
| 498 | "   | 同上          | -   | 口頭部のみ。口頭部は直線的に大きく上外方へのび、端部でやや肥厚して丸くなる。                                   | 内、外面ともヨコナデ。                       | A.暗灰色<br>B.硬質<br>C.口頭部20%  | A  |
| 499 | "   | "           | L1<br>頸 部 徑 (18.0)<br>底 部 徑 (13.2)<br>底 部 高 (5.1) | 口頭部のみ。口頭部は上外方へのび、中程で一度済曲し1条の沈線を有す。端部はやや尖り気味。                             | 内、外面ともヨコナデ。                       | A.青灰色<br>B.硬質<br>C.口頭部20%  | A  |
| 500 | "   | L2<br>(2号窯) | 口径 (19.0)<br>頸 部 徑 (12.0)<br>底 部 高 4.1            | 口頭部のみ。口頭部はやや外反して上外方へのび、端部で済曲しさらに上方へのびる。端部は方形をなす。                         | 内、外面ともヨコナデ。                       | A.灰色<br>B.硬質<br>C.口頭部30%   | A  |
| 501 | "   | 同上          | 口 径 (20.0)  | 口縁部のみ。口縁部は外反し、端部でやや垂下する。   | 内、外面ともヨコナデ。                       | A.灰色<br>B.硬質<br>C.口縁部20%   | A  |
| 502 | "   | 同上          | 口 径 (22.8)  | 口縁部のみ。口縁部は大きく外反し、端部で断面三角形の突帯を有す。端部は方形をなす。                                | 内、外面ともヨコナデ。                       | A.灰色<br>B.硬質<br>C.口縁部20%   | A  |
| 503 | "   | 同上          | 口 径 (23.4)<br>底 部 徑 (14.2)<br>底 部 高 6.1           | 口頭部のみ。口頭部は緩やかに外反し端部へ至り、端部でやや肥厚する。端部は尖り気味。                                | 内、外面ともヨコナデ。                       | A.淡灰色<br>B.硬質<br>C.口頭部40%  | H  |
| 504 | 平瓶  | "           | 底 部 徑 4.3   | 口頭部のみ。口頭部は中程で膨み、端部は欠損する。   | 体部と口頭部の接合部はヘラカキ上げ。体部内面はナデ。泡はヨコナデ。 | A.灰色<br>B.硬質<br>C.10%      |    |

B 地区灰原出土土器観察表

| No. | 器種   | 出土地点            | 法量                  | 形態  | 技法  | 備考                           | 分類 |
|-----|------|-----------------|---------------------|---|---|------------------------------|----|
| 505 | 縁取灰原 |                 | —                   | 体部約程度が残る。                                       | 外面焰子状タキ。内面同心円タキを行なう。                              | A. 黄茶褐色<br>B. やや軟質<br>C. 20% |    |
| 506 | 皿    | 口<br>#<br>(1号窓) | 径 (22.6)<br>高 (4.8) | 底部はほぼ平坦で、連続して緩やかに立ち上がり、端部は丸い。                   | 底部外面手持ちヘラケズリ。内面中央部ナデ。地はヨコナデ。                      | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 15%     |    |
| 507 | 盤    | 口<br>#<br>(1号窓) | 径 (28.4)            | 口縁部のみ、口縁部は大きく外反して開き、邊部で肥厚して角ばる。口唇部直下に一条の沈線を有する。 | 外面口唇部は「八」の字状の連続した粗櫛文を施し、さらに口縁中程には櫛振波状文を施す。地はヨコナデ。 | A. 咀灰色<br>B. 硬質<br>C. 口縁部30% | A  |
| 508 | #    | 口<br>#<br>(2号窓) | 径 (29.0)            | 口縁部は大きく外反し、邊部でやや肥厚し、邊部は断面三角形を構成する。口唇部に一条の沈線。    | 内・外面ヨコナデ。   | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 口縁部30%  | A  |
| 509 | 平底   | #<br>(2号窓)      | —                   | 体部約程度が残る。                                       | 外面底部ヘラケズリ。地はヨコナデ。                                 | A. 青灰色<br>B. 硬質<br>C. 20%    |    |

### 3. J 地 区

灰原のみが部分的に検出されている。同地区は試掘時点より窓体が存在する可能性は薄いと考えられており、調査も頭初から灰原の確認を第1に考えた。しかし調査の結果、灰原自体の遺存度は予想以上に悪く、灰原前方を農園造成による削平で、掘を水田開発による削平でそれぞれ失っていた。したがって灰原はわずかにベルト状に残されていたにとどまり、その範囲は巾29m、縱は最大で6mにすぎなかった。灰原の堆積についても完全な灰層は存在せず、若干灰を含む土層の広がりとこれに伴う遺物の分布をもって灰原範囲を想定した。

また窓体については、灰原前方の斜面を全体的に表土剥ぎを行ないその確認に努めたが、前述のごとく削平によりすでに失なわれたものと判断した。

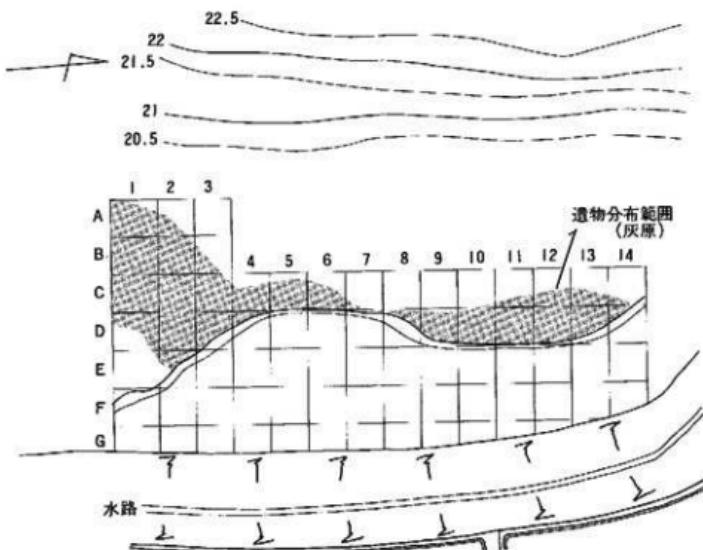


図35 J 地 区 地 形 図 (1/300)

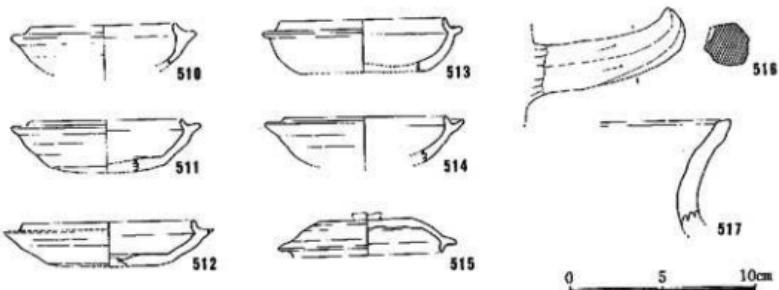


図36 J地区 灰原山土器実測図 ( $S=1/8$ )

J地区灰原出土土器観察表

| No  | 器種   | 出土地点 | 法量  | 形態   | 技法                            | 備考                            | 分類  |
|-----|------|------|---|--|-------------------------------|-------------------------------|-----|
| 510 | 环身灰原 |      | 口径 (7.6)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 (10.0)             | 立ち上がりは内傾し断面は三角形を保<br>する。端部は丸い。受け部は上方への<br>び端部はやや角ばる。底部欠損。                        | 内、外面ヨコナデ。                     | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 5%      | A-2 |
| 511 | #    | #    | 口径 (8.0)<br>立ち上がり高 0.3<br>受け部径 (10.2)<br>器高 (2.8) | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受<br>け部はやや上方へのび端部は丸い。<br>体部は湾曲し底部はやや丸くなる。                        | 内、外面ともヨコナデ。底部は<br>不明。         | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 20%      | A-2 |
| 512 | #    | #    | 口径 (9.0)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 (11.3)<br>器高 (2.4) | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受<br>け部はやや上方へのび端部は丸い。<br>体部は湾曲し底部は平坦である。                         | 底面部外へラ切り未調整。他は<br>ヨコナデ。       | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 35%     | A-2 |
| 513 | #    | #    | 口径 (9.0)<br>立ち上がり高 0.5<br>受け部径 (10.8)<br>器高 (2.8) | 立ち上がりは内傾し、端部は丸い。受<br>け部はやや上方へのび端部は丸い。<br>体部は湾曲し底部は平坦である。                         | 内、外面ともヨコナデ。底部は<br>不明。         | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 5%      | A-3 |
| 514 | #    | #    | 口径 (8.8)<br>立ち上がり高 0.2<br>受け部径 (10.8)<br>器高 -     | 立ち上がりは内傾し、端部は尖り気味<br>となる。受け部は大きく上方へのび<br>端部は方形をなす。体部は直線的にの<br>びる。底部欠損。           | 内、外面ともヨコナデ。                   | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 5%      | A-2 |
| 515 | 环盖   | #    | 口径 (9.7)<br>器高 (2.3)                              | 天井部上面は平坦で湾曲して降下した<br>後、端部で屈曲して外方へ開く。端部<br>は丸い。かえりは内傾し端部は尖る。<br>天井部中央にはつまみ接合部を有す。 | 天井部外面平坦部回転へラケズ<br>リ。他の部はヨコナデ。 | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 20%     | B-5 |
| 516 | 瓶    | #    | 直径 2.2  | 把手は枝り上がり気味にのび、端部で<br>は尖る。  | ヘラケズリにより仕上げる。                 | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. —       |     |
| 517 | 甕    |      |   | 口縁のみ。口部は外反してのび、端<br>部はやや肥厚し尖り気味。   | 内、外面ともヨコナデ。                   | A. 茶褐色<br>B. 若干軟質<br>C. 口縁 5% | A   |

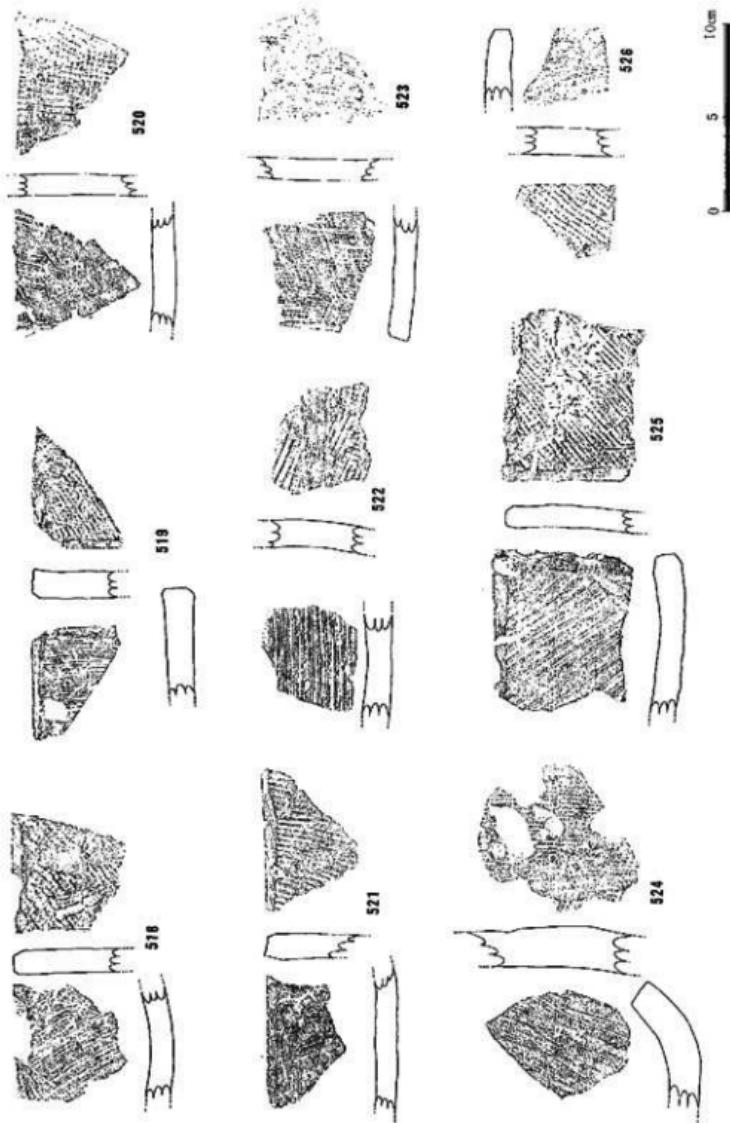
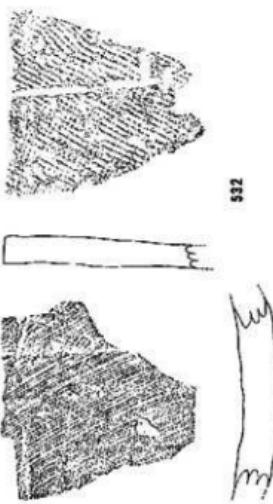
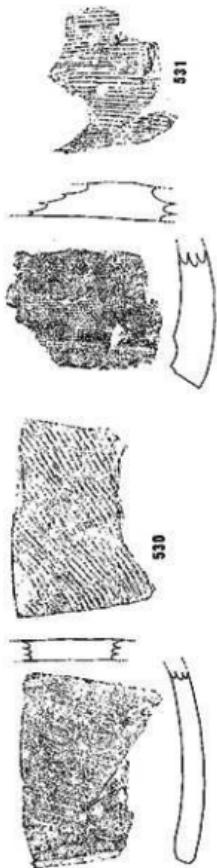
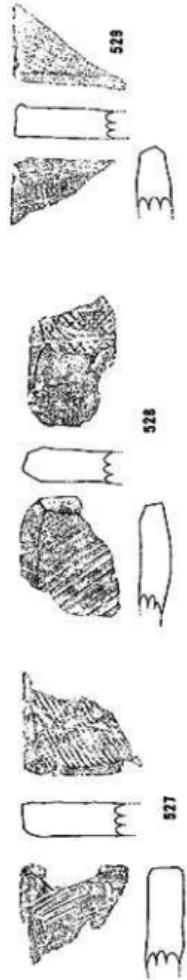


图37 J地区 灰陶(出土瓦实测图 (1) ( $S = 1\%$ )



0 5 10cm

图38 J地区灰陶出土瓦类制图 (2) ( $S = \frac{1}{3}$ )

## 4. O 地区

トレーナ方式の調査により包含層の範囲と、不明土塁2基、さらに主要部分について遺物の遺存状態の確認を行った。

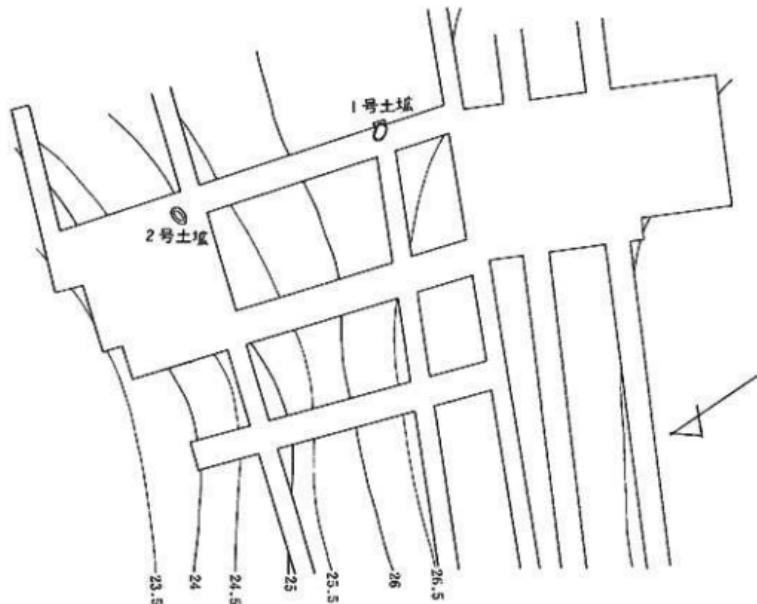
### 1号土塁

調査区北側斜面で検出された。85×65cmの隅々方形を呈し、整面はややオーバーハングする。土層は1層は地山の流入によるレンズ状の堆積をみせ2層は焼土に炭化物を含む。壁面は被熱をうけ赤褐色を呈するが床面には認められない。また含土中からは遺物は検出されなかった。

### 2号土塁

1号土塁の北側約12mの斜面で検出された。110×85cmの楕円形に近い形状を呈する。断面形は床面向ってゆるやかに傾斜し、床面はほぼフラットである。1号土塁と同じく、壁面は被熱をうけ焼上化するが、床面は地山土そのままである。土層についても同様でありやはり遺物は含まない。

この様に1、2号土塁は規模、特徴とも極めてよく類似するが、その性格や時期については不明であった。しかし、昨年大分日本電気関係で大分瓦斯(株)のガス供給基地建設に伴い跡地を調査したところ、同様な遺構が検出され、中から横瓶が丁度逆立した状態で出土した。このことは、こ



これらの構造がその遺構内で火を用いている事実と関連して考えた場合、何らかの祭祀もしくは葬送儀礼に伴うものとして捉えることが出来、特殊な例として注目されるものである。また、時期についても他地区とは異なることが明らかであり、木製跡群の中では別個に考える必要があろう。

#### 包含層

包含層については調査区東側においてその分布が認められその在り方は丘陵上部では薄く、北側斜面に向いしだいに厚くなりながら広がりをみせる。上層面の観察によれば表上層につづいて上、下2層の包含層が認められ上層では須恵器、下層では弥生式土器が検出されている。分布範囲は東西20m以上、南北25m程度と考えられ、東側については調査区外にまで及ぶため不明である。

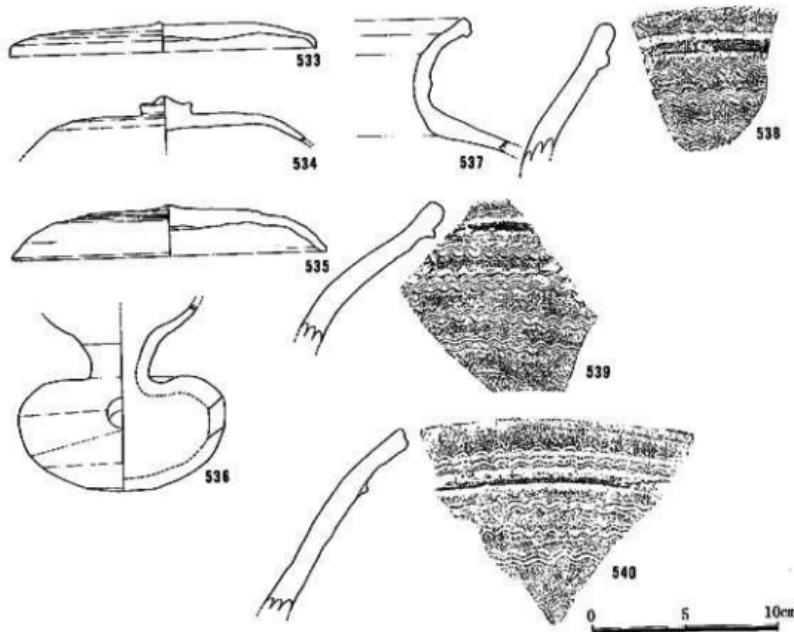


図40 O地区出土土器実測図 ( $S = \frac{1}{5}$ )

## ○地区包含層出土器觀察表

| No. | 器種 | 出土地点        | 法量                                   | 形態   | 技法                                       | 備考                           | 分類  |
|-----|----|-------------|--------------------------------------|--|--|------------------------------|-----|
| 533 | 蓋  | aトレンチ       | 口 径 16.4<br>器 高 1.6                  | 大井部は若干丸味をもちらながら、端部で扁曲しほば垂下する。端部は丸い。  | 天井部外面は程度圓転へラケズリ。施はヨコナデ。                  | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 85%    |     |
| 534 | 平蓋 | aトレンチ       | つまみ径 2.8<br>つまみ高 1.0                 | 大井部上面は平坦で湾曲し縁部へ向う中央部には宝珠つまみを有する。   | 天井部外面は程度圓転へラケズリ。他はヨコナデ。                  | A. 淡黄褐色<br>B. やや軟質<br>C. 40% | B-6 |
| 535 | 蓋  | 第 2<br>トレンチ | 口 径 (16.8)<br>器 高 2.8                | 天井部は丸く、縁部へと連続する。端部は丸い。   | 天井部外表面は程度圓転へラケズリ。他はヨコナデ。                 | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 50%    |     |
| 536 | 底  | aトレンチ       | 体部最大径 11.0<br>体 部 高 6.1<br>頭 部 径 3.1 | 口縁部欠損。口頭部は大きく上外方へ開く。体部は口原部との境で凹み肩部で盛り上がり、灣曲して底面へ至る。底面は丸い。孔は体部や上方から下方へ向けて斜めに穿たれる。 | 体部外表面下部は稍い手持ちヘラケズリを行なう。施はヨコナデ。           | A. 灰色<br>B. 硬質<br>C. 80%     |     |
| 537 | 表  | 第 1<br>トレンチ | —                                    | 口頭部は大きく上外方へのび、端部に突帯をもち方形をなす。   | 内、外表面ともヨコナデ。                             | A. 淡灰色<br>B. 硬質<br>C. 口頭部10% | A   |
| 538 | 口  | 第 1<br>トレンチ | —                                    | 口頭部は大きく上外方へのび、端部に突帯をもち方形をなす。   | 外表面口部に1条と、口頭部4条の横擗波状文を施す。他はヨコナデ。         | A. 青灰色<br>B. 硬質<br>C. 口頭部5%  | B   |
| S39 | #  | 第 1<br>トレンチ | —                                    | 口頭部はやや直線的に上外方へのび、途中画面三角形の突帯を有し、端部は方形をなす。   | 外表面突帯をはさみ上位に1条、下位に3条の横擗波状文を施す。他はヨコナデ。    | A. 暗灰色<br>B. 硬質<br>C. 口頭部5%  | B   |
| 540 | #  | gトレンチ       | —                                    | 口頭部は直線的に上外方へのび、端部で半円形の突帯を有し、縁部は丸くなる  | 外表面の突帯をはさみ上位に1条、下位に4条以上の横擗波状文を施す。他はヨコナデ。 | A. 淡茶灰色<br>B. 硬質<br>C. 口頭部5% | B   |

## 第5章 まとめ

### 1. 遺物の分類

#### 1) はじめに

遺物はほとんどが須恵器であり、O地区では若干の弥生式土器を検出している。遺物数は小片まで全て含めるとA地区で18,390点、B地区で18,835点、J地区で1,782点、O地区で2,485点を数え、全体で41,492点にのぼる。ただし、小片を除き、完形品と軽体（全体のほぼ1%以上）についてみるとA地区で280、B地区136、O地区4となり、口縁部だけの数はA地区3461点、B地区4371点、J地区285点、O地区134点となる。

これらの資料のうち、灰原出土のものについては、窯体との関係や不明確なものが多く実測したものについても判断できないものが少なくない。特にA地区では灰原自体が2次堆積であり、3号窯付近では資料の出上りが極端に少ない。またB地区でも灰層の堆積が不十分で、その分布状況により窯との関連を捉えるのが困難である。さらにJ地区では窯自体が現存せず、いずれも資料的に消極的な部分が多い。これらと同様に、窯体内出土資料についても遺存状況は思わずくない。特に各窯とも少からず焚口部分を破壊されており灰原との層序関係が明らかでないことは土器型式の変遷を考える上で致命的である。したがって各窯とも窯の補修等が認められるものの灰層との相対関係は十分に把握されない。この様な状況にあって、B地区2号窯からは良好な一括資料が得られている。このことは木窯跡群の土器型式の変遷をみる上で極めて重要であり、ひとつのキーポイントとなっている。

この他、J地区では須恵器とともに須恵質瓦が検出されている。これらの共伴関係は窯が現存しないため明確には示しえないが、灰原における遺存状況や、近接する踊ヶ迫窯の在り方などからみて共伴する可能性は極めて高い。以上の点を考慮しながら、以下資料について若干の考察を加えた。尚、各細分型式については観察表に記載し、ここでは特に整理番号等は示さない。

#### 2) 須恵器

須恵器は壺、高壺、壺、壺、横瓶、平瓶、碗、すり鉢、瓶、罐、皿類などが検出されている。量的には壺、高壺、壺などが主体的で、壺が次いで多い。この他は極めて散在的であり、多くを認めない。

##### ① 壺

大別してA、Bの2類に分類される。A類は所謂身に「受け部」「立ち上がり部」をもつ古墳時代以来の伝統をひくものである。B類は壺に「つまみ」と「かえり」を有するもので、奈良時代以降盛行する壺形態の初源的な型式である。いずれも口縁の縮少化の傾向は著しく、極小段階と考え

られる。

## A 類

### (环蓋)

#### A-1 類

天井部は平坦で湾曲しながら口縁端部へと至る。端部はやや尖り気味なものと、丸味をもつものとがある。天井部はヘラ切り後未調整のものが多く、若干ナデ調整を行なうものもある。他はヨコナデ調整。

#### A-2 類

天井部は丸味をもち、そのまま湾曲して口縁端部へと至る。端部はやや方形気味のものが多い。天井部はヘラ切り後若干ナデ調整を行なう。他はヨコナデ調整を行なう。

#### A-3 類

類天井部は平坦で体部は直線気味に下方へのび、途中で屈曲しやや外反気味に端部へと至る。端部はやや尖り気味のものが多く認められる。天井部はヘラ切り後未調整のものが多く、他はヨコナア。

#### A-4 類

天井部は丸味をもち、体部はやや湾曲気味にのび口縁近くで屈曲し、やや内傾気味となる。端部は丸味をもつ。天井部はヘラ切り後若干ナデ調整を行なうものが多い。他はヨコナデ。

### (环身)

#### A-1 類

底面は丸味をもち「受け部」は体部との境でやや屈折し上外方にのびる。「立ち上がり」は内傾す、端部はやや尖り気味のものと丸味をもつものがある。底面はヘラ切り後若干のナデ調整を行なうものが多く他はヨコナデ調整による。

#### A-2 類

底面はほぼ平坦で体部は直線気味になる。「受け部」は上外方へのび「立ち上がり」は内傾する。端部は尖り気味で底面はヘラ切り後若干ナデ調整を行なう。他はヨコナデ。底面が平坦なことでA-1 類と区別される。

#### A-3 類

底面は平坦で、体部が湾曲しながらのびることでA-1、2 類と区別される。全体に扁平なイメージをうけ、「立ち上がり高」も低い。「受け部」は上外方へのび、「立ち上がり」は内傾する。端部は丸い。底面はヘラ切り後未調整と、若干ナデ調整を行なうものとがあり、他はヨコナデ。

#### A-4 類

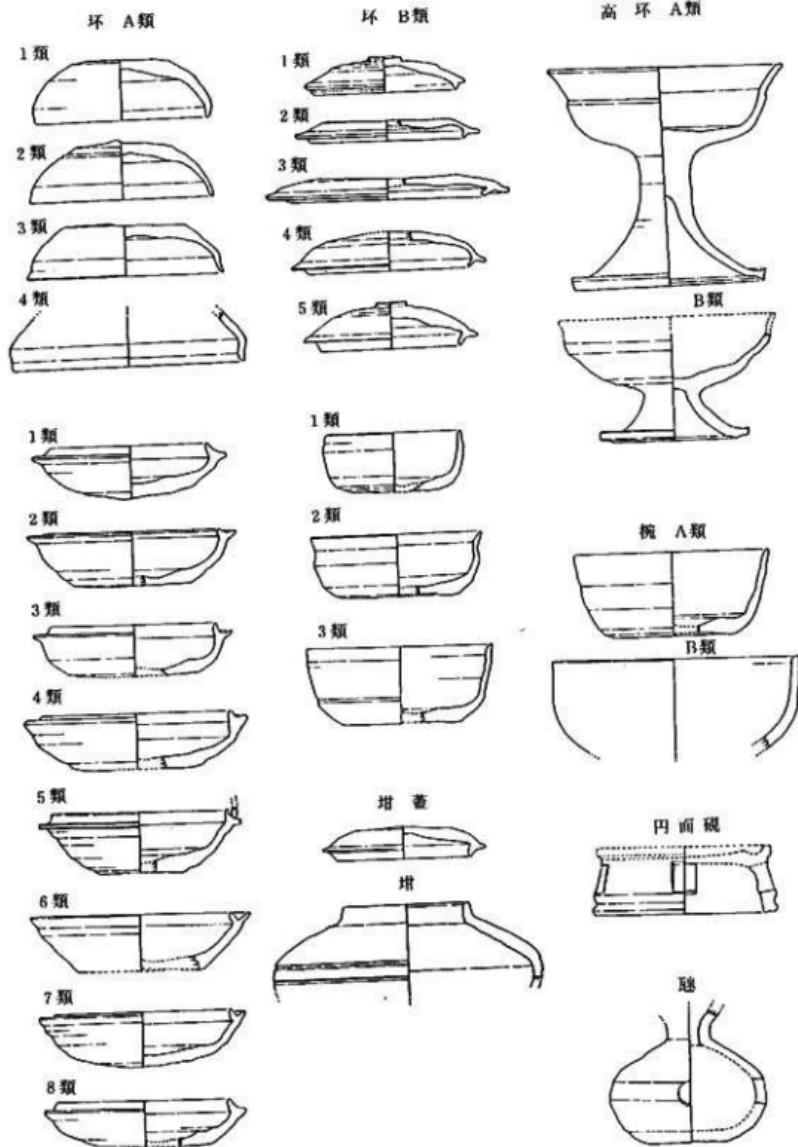


図41 須惠器型式分類図 (1)

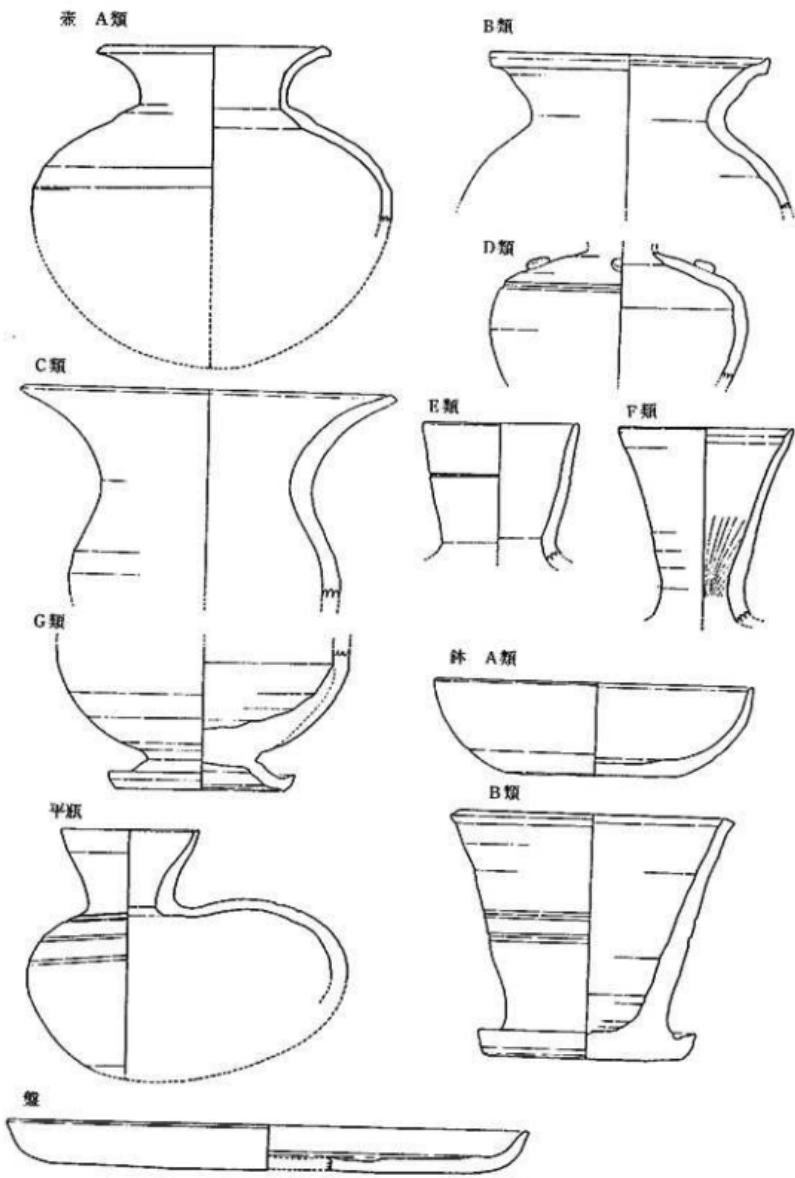


図42 須恵器型式分類図 (2)

底面はやや丸味をもち、体部は直線的なものとやや湾曲するものとがある。他に比べ、「立ち上がり」の断面が三角形になることで区別される。底面はヘラ切り後未調整のものと、若干ナデ調整を行なうものとがある。

#### A-5類

底面は平坦で、体部は直線的にのびるものと、湾曲するものがある、「受け部」が水平に外方へのび、端部が角ばることで他と区別される。「立ち上がり」は内傾し、底面はヘラ切り後未調整と若干ナデ調整を行なうものとがある。

#### A-6類

底面は平坦で、体部が「受け部」を含めほぼ直線的にのびることで他と区別される。「立ち上がり」は内傾し、端部は尖り気味で「受け部」とほぼ水平に近くなる。底面はヘラ切り後未調整のものが多く、他はヨコナデ調整。

#### A-7類

基本的にはA-6類と同様であるが、底面が丸味をもつことで区別される。底面はヘラ切り後若干のナデ調整を行なうものが多い。

#### A-8類

「受け部」ののびがほぼなくなり、「立ち上がり」が内傾することによって「く」の字状の断面形をなすことでききく区別される。

### B類

#### (坏藏)

##### B-1類

口径8~9cm、器高1~2cm程度に集中する一群である。天井部は丸味をもち、端部へと直線的に延びる。端部はやや尖り気味で、かえりは断面三角形のものが多く重複する。天井部中央部は回転ヘラケズリを行ない極めて縮半なつまみを有する。

##### B-2類

器高は1~2cm程度で1類と同様であるが、口径は1~2cm程度大きくなる。天井部は平坦で手持ちヘラケズリを行ない、つまみを有するものはほとんど無い。口縁は一度屈曲して外方へ開き、端部は丸い。かえりは内傾し短い。

##### B-3類

器高は1、2類と同様で口縁の形態は2類と類似するが口径は12cmを越え突出している。天井部はやはり平坦で、宝珠つまみを有するものとそうでないものが存在する。量的には極めて少ない。

##### B-4類

口径10~11cm、器高1.5~2.5cmに集中する一群である。天井部は丸く、口縁は屈曲して水平に

外方へのび端部は丸い。かえりは短く内傾する。形態的にはA-1類の極少段階のものと同様であるが、天井部中央が回転ヘラケズリによる事に注目し、所謂坏の蓋、身の逆転現象が起る段階の形態として特徴づけられる。つまみは無い。

#### B-5類

口径9~10.5cm、器高2~3cmに集中する一群で若干法量に差がある資料も混在する。天井部は丸いものが多く、中央部は回転ヘラケズリを行ない扁平なつまみを有する。口縁部は若干屈曲し端部は丸い。量的には最も多い。

#### B-6類

口径は推定で17cm程度で天井部には宝珠つまみを有する。端部はかえりをもたないと考えられ、他の資料とは明確に区別される。

##### (坏身)

#### B-1類

口径7.5~8cmと9~10cm程度に集中する一群。底部は平坦で体部は湾曲し口縁部は内傾する。底部は手持ちヘラケズリを行ない、体部との境はわずかに回転ヘラケズリを行なう。

#### B-2類

口径8~9cmの一群と9~10cm程度の一群とが存在する。形態的には底部が平坦で口縁部で大きく屈曲し外方へ開く。端部は尖り氣味である。調整は底部を手持ちヘラケズリにより、体部との境を若干の回転ヘラケズリを行なう点でA-1類と同様である。このB-2類については口径で大、小2類に区別可能であるが、形態的に同様であることと、この口径差が明確に区分できないことを考慮し一応同一の分類とした。但し、A、B両地区間の度数分布によれば確かな差違を認めることができ、若干の時間差を考慮する必要がある。

#### B-3類

口径9~10cmの一群で、底部は平坦で体部は直線的に上外方へのびる。底部ヘラ切り木調整と手持ちヘラケズリがみられるが他の如く体部との境に回転ヘラケズリはみられない。量的に少なくまた法量も他と類似するが、調整技法で明確に区別される。

### ② 高坏

高坏は坏に次いで量的に多い。ほとんどは脚部と坏部が破損して出土しており、完形品は全く存在しない。前段階に比べると脚部は低くなっている、10cmを超えない範囲で集約される。この中でさらに脚部高5cmを境に長脚(A類)と短脚(B類)に分けられる。脚部の透しあはほとんど認められず、A地区で1例を見るにすぎない。坏部は半球形を呈するものと途中で屈曲し外方へ開くものとに大別できる。しかし脚部に比べ量的に少ないと良好な資料が少ないとから十分な検討はで

きない。したがってここでは脚部の形態について記述したい。

#### A 類

脚部高がほぼ5~10cm、脚部径9~11.5cm程度に集中する一群である。透しをもつものは認められない。形態的には脚上部が直線的に降下した後に開くものと、大きくラッパ状に開くものなどがある。端部形は方形をなすもの、上下に若干突出するものなどがあり、この他にも若干のバリエーションをもつ。調整技法はヨコナデによるが一部内面をシボリによるものが認められる。

#### B 類

脚部高2~4cm、脚部径6~9.5cmにほぼ集中する一群である。この中でさらに法量により大、小の組分が可能であり、小型のものについてはミニチュア的イメージを想起させる。端部形は上方へ突出するもの下方へ垂下するもの、方形をなすものなどがあり、この他にも若干のバリエーションが認められる。調整技法はヨコナデによりごく數例ではあるが、内面にシボリが見られる例がある。また1例のみであるが透しを有する資料がある。

### ③ 構

形態により2類に分類される

#### A 類

口径10.4~12.2cm程度の一群である。底部は平出で、体部は直線的に開く。途中一条の沈線を有するものもある。底部は手持ちヘラケズリとナデ調整とが認められる。

#### B 類

口径13.2~15cmになるものである。資料的には少なく2例をみるにすぎないが、底部が丸味をもつことと、法量においてA類と区別される。ヨコナデによる。

### ④ 壺

比較的量は多いが、細片が多くあり壺との混同が考えられる。したがって図示したのはわずか13点にすぎない。しかし、個々に特徴を有していることから細分できる。尚、調整技法はほぼヨコナデによる。

#### A 類

口径11.6~13.1cm程度のグループで、脚部中位に最大径をもつ。端部は方形ないしやや尖り気味で、全体に器壁は薄い。

#### B 類

口径15cm程度で、端部が上方へ屈曲することでA類とは異なる。器壁も若干厚い。

#### C 類

口径20.2cmで緩やかなカーブを描き胴部へと至る。端部は方形をなす。最大径は口径部に求めることができ、全体としてアンバランスな形態と考えられる。

#### D 類

口頸部は欠損するが、頸部径4cm前後を測る。最大径は胴部上位に求められ、13~14cm程度となる。したがって胴部上位に肩を張り出した形状となり、この肩部に長1cm程度の階級形の粘土粒4個を貼り付け、1~2条の沈線を有する。

#### E 類

所謂直口壺であるが、口頸部だけが存在する。口径は8.4cmを測り、口頸部中程に1条の沈線を有する。端部は丸い。

#### F 類

所謂、長頸壺である。口頸部のみで全体の形態は知りえない。口径10cm前後で、頸部高10.4cm程度を測る。頸部に細い突帯を持つものも認められ、内面調整はいずれもシボリによる。

#### G 類

台付壺であるが、脚部のみが存在する。脚部径は13cm程で、端部はやや上方に突出する。

#### ⑤ 増

口径6.8cmと9.4cm程である。いずれも体部下半が欠損しており全体の形態は知りえないが、扁平な球形を呈すると考えられる。1例は体部中程に2条の沈線を有する。端部は方形をなし、ヨコナデにより仕上げる。

#### ⑥ 鉢

##### A 類

口径17.2cm、器高5.0cmを測る。端部は丸く、体部は緩やかなカーブを描き底部は平坦である。端部は丸い。底部は手持ちヘラケズリを行ない他はヨコナデ。

##### B 類

所謂すり鉢である。口径は12~16.8cmまでで、器高は13.1~14.6cmの間である。形態は上外方に直線的に聞くものと、やや膨脹になるものとがあり、端部はいずれも方形をなす。胴部には2条ないし3条の沈線を行るものとそうでないものがある。底部は平坦で、手持ちヘラケズリによる。

#### ⑦ 平瓶、横瓶

平瓶を除き、全体を知る資料はない。但し破片個々の特徴から確実に存在する器種である。平瓶は口頸部がほぼ直立気味になるものとやや傾くものとがある。前者は頸部でやや沈んだ後、盛り上がりで扁平な球形の体部をもつ。体部上半には4条の沈線をもち底部は丸くなる。端部は丸い。内面の口頸部の接合部はヘラ状工具によるカキ上げで他はヨコナデによる。後者は全体を示す資料を認めない。

#### ⑧ 頸

全体を知りうる資料は2例認められるが、いずれも口頭部を欠く。1例は全体にずんぐりした感じで、頸部からなで肩状に下り、体部中程で最大径をもつ。底部は平坦となり、ヨコナデにより仕上げられる。体部最大径8.4cm。もう一例はやや大型で体部最大径11cmを測る。口頭部との接合部はやや沈んだ後盛り上がり、扁平な球状を呈する。口頭部は途中屈曲し大きく外方に開くが全体形は明確でない。外面体部下半は粗いヘラケズリによる。

#### ⑨ 盆・皿類

口径22.6~27.6cmまでが認められる。底部は平坦で、若干丸味をもつ資料もある。端部はいずれも丸く、底部手持ちヘラケズリと、ナデ調整を行なうものとがある。

#### ⑩ 円面鏡

2例のみ認められる。いずれも完全ではなく、全体形を知らない。1例は口径15.4cmで鏡面は海から陸へ大きく盛り上がった後、中央部へ向けて凹む。脚部鏡面には2条の突起を有する。他の1例は脚部径9.8cmで透し孔をもつ。鏡面は全く存在しない。

#### ⑪ 瓢

口頭部の高さにより2類の分類が可能である。端部形についてはいくつかのバリエーションがみられるが、多くは方形をなし折り返して下方へ張り出す。A類の中には屈曲して二重口縁状になるものや、端部が尖るものなどが認められる。

#### A類

口頭部が大きく外湾し、口頭部高が低い一群。口径は18~29cmまでで20cm前後が多く認められる。小型の甕と思われるが、全体を知る資料は存在しない。外面の文様はほとんど施されない。端部は外方へ折り返し方形に張り出すものが多いが、いくつかのバリエーションも認められる。

#### B類

口頭部は直線気味に開き、口頭部高が高い一群である。口径は破片が多いため明らかでないが、ほぼ50cm前後からそれ以上と推定される。口頭部には描描波状文が主体的に施され、描文などと組み合される。端部はほとんどが外方へ折り返し方形に張り出しが、A類と同様にいくつかのバリエーションが認められる。絶してA類より大型であり、推定で器高100cm程度が考えられる。

#### ⑫ 蓋、瓶、土馬

蓋は所謂長頸蓋もしくは壺に付隨するものと考えられる。つまみはなく、口径8.8~10.4cm程度で1例のみ13.6cmを測るものがある。調整技法は大井部ヘラ切り未調整もしくはヨコナデで、大型のものは回転ヘラケズリによる。かえりは大きく内傾し、端部との高低差はほとんどない。

瓶は把手のみであり、全体形は全く不明と言わざるえない。把手はほぼ水平に近く、端部で上方に反り上がる形態をとる。外面はヘラケズリにより断面多角形を呈する。

土馬は1例のみ認められ、胴体と脚は欠損し存在しない。首、頭部は子づくねにより整形され口はヘラによりナナメに切り込むことで表現し、目は凹ませて表わす。立髪はつまみ出しにより、耳はかなり誇張され貼り付けによる。全体として比較的リアルに表現されている。

### 3) 瓦

J地区灰原より須恵器とともに須恵質瓦が検出されている。量的には灰面に35箱程度であり、端部を残すものを主体とし16点を図示した。検出された資料はいずれも小片で、全体形などは明らかでない。しかし種類はほとんどが平瓦と考えられ、一部破片のカーブの状態などから丸瓦の可能性をしめすものもあるが断定はできない。瓦当については検出されていない。これらは調査の方法により細分が可能である。

#### A 類

凸面は木目直交平行叩きを行ない、凹面は布目による。

#### B 類

凸面は木目直交格子叩きを行ない、凹面はハケ等によるナデを行う。

#### C 類

凸面は木目直交格子叩きを行ない、凹面は布目による。

#### D 類

凸面は木目直交平行叩きを行ない、凹面はハケ等によるナデを行なう。

#### E 類

凸面は木目直交平行叩きを行ない、凹面は同心円叩きを行なう。

これらの製作技法については、明確な資料を欠く。端部はヘラケズリにより面取りされており、分割界線を認めるることはできない。また、横骨痕は認められるものの、布の合せ目の痕跡は確認されていない。このことからすれば桶巻作りと断定するには若干問題があると考えられるが、近接する桶ケ追窓跡の資料との供給地と推定される中桑野遺跡の出土資料の中にこの製作技法を捕獲するものがある。

## 2. 考 察

### 1. はじめに

今回、伊藤田城山窯跡群で調査した窯跡は、灰原のみのJ地区を含めると都合5基となった。ここではこれら5基の窯跡から検出された須恵器について若干の分析と、それらをもとにした本窯跡群の検討を行ない考察としたい。尚、分析については坏を中心に行ない、中でも量的に安定するA・B地区を対象としたい。

まず、分析に入る前に本窯跡群のもついくつかの特徴を整理しておくこととする。これは前章の遺構の説明で述べたことと重複するが、今一度要約しておくこととする。

第一に窯体と灰原の関係であるが、これらについてはいずれも削平により徒口部分を失っており灰原との関係は明瞭でない。また灰原における灰層の発達も十分でなく遺物の分布によりその範囲を知るにすぎない。さらにA地区においては灰原自体が削平されており、遺物は全て水田中より二次堆積の状態で検出された。但し、出土遺物は同一層序より一括して得られている。

第二に窯全体の操業回数の少なさを上げることができる。これは前章で検証した通り、B地区2号窯を除けば他は窯全体に及ぶ改修は行なわれておらず、せいぜい床面もしくは窓面の部分的な補修にとどまっている。言い換れば、このことが灰層が未発達であることを傍証しているとも考えられ、ひいては操業期間の短かさを示しているとも言える。

第三に灰層の重複について十分な検討ができない。これは前述した通り灰層の発達が十分でないことに起因するもので、B地区では灰原がほぼ残されているにもかかわらず、重複する灰層の前後関係を把握しえない。つまり、B地区では焚口付近では遺物と窯との関連が指摘できるものの、掘部分では不明瞭と言わざるえない。

第四にB地区2号窯の在り方を上げることができる。B地区2号窯では窯体の部分的補修を含め都合5回以上の操業が行なわれ、それらが床面の大巾な改修により大きく2次に区別されることは前章で述べた通りである。こうした在り方は部分的補修による他の窯跡に比べ窯經年を行なう上でのキーポイントとなりうるものである。また、他窯跡が窯体内より良好な資料が得られていないのに対し、B地区2号窯では1次の床面より良好な一括資料が出土している点も見逃せない。

この様な点を考慮し以下分析を行なうこととする。

### 2. 分 析

図43~48は坏A、B類の蓋、身についてその長軸関係を示したものである。まずA類についてみると、A、B地区で若干の差を認めることができる。A地区では蓋は口径10~12cm程度、器高3~4cm程度にはば集中し、身は口径8.5~10.5cm程度、器高2~3.5cm程度に集中する傾向をみせる。これに対し、B地区的蓋は口径9~11cm程度、器高2.5~4cm、身については口径8~10cm、器高2~4cmに集中する傾向がある。これらの値は各灰原でややバラつきをみせるものの、各遺構、特に

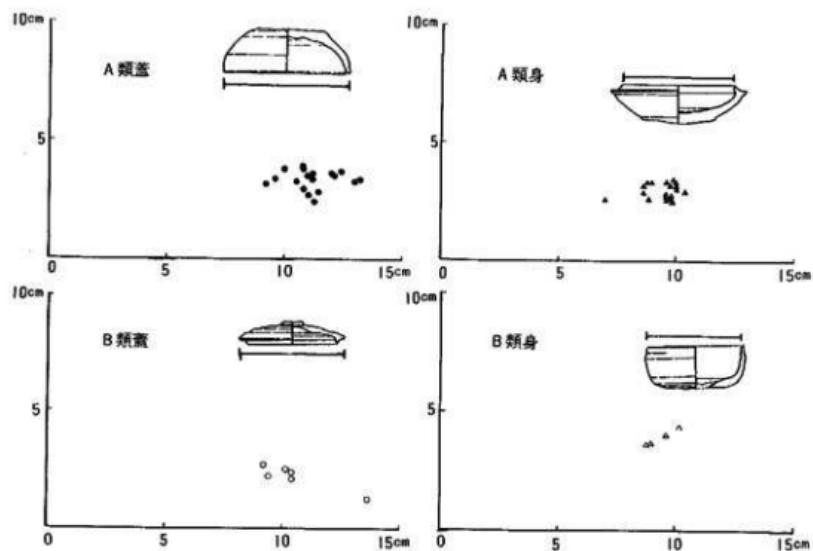


圖43 A地區 灰原、壞長巾指數分布圖

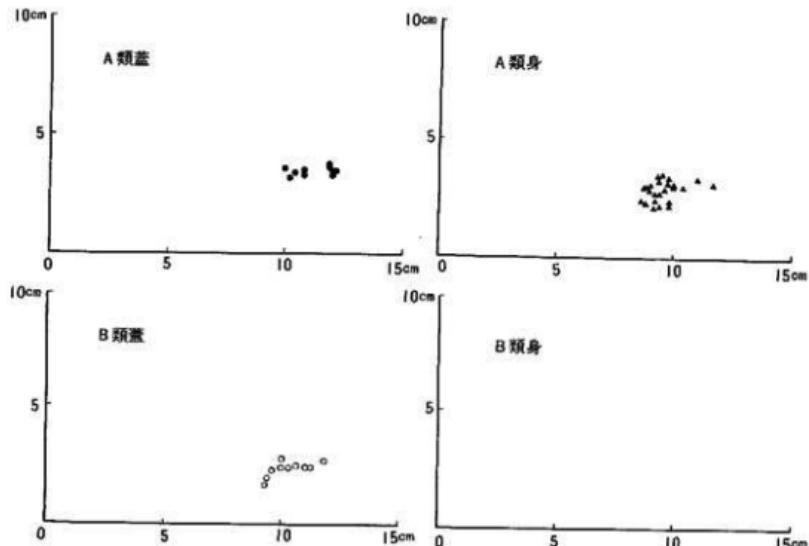


圖44 A地區 1號土坡上層、壞長巾指數分布圖

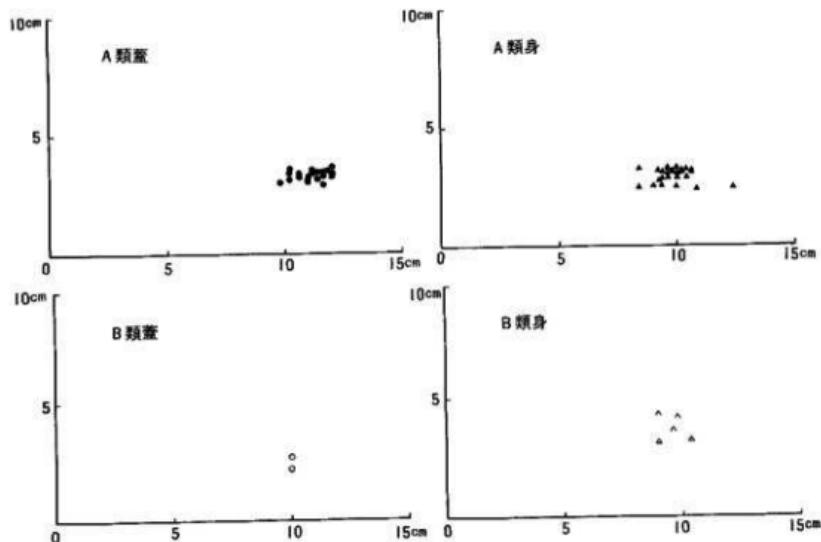


圖45 A地區 1號土壤下層、壞長巾指數分布圖

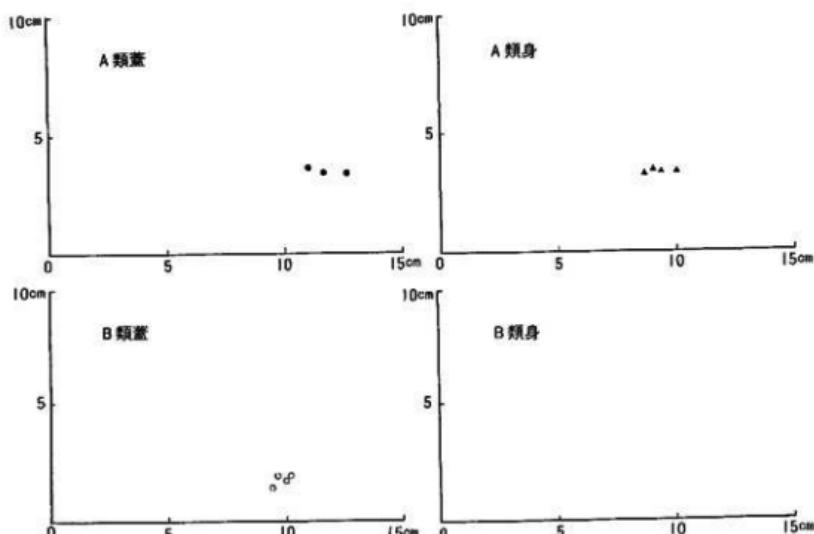


圖46 A地區 2號土壤、壞長巾指數分布圖

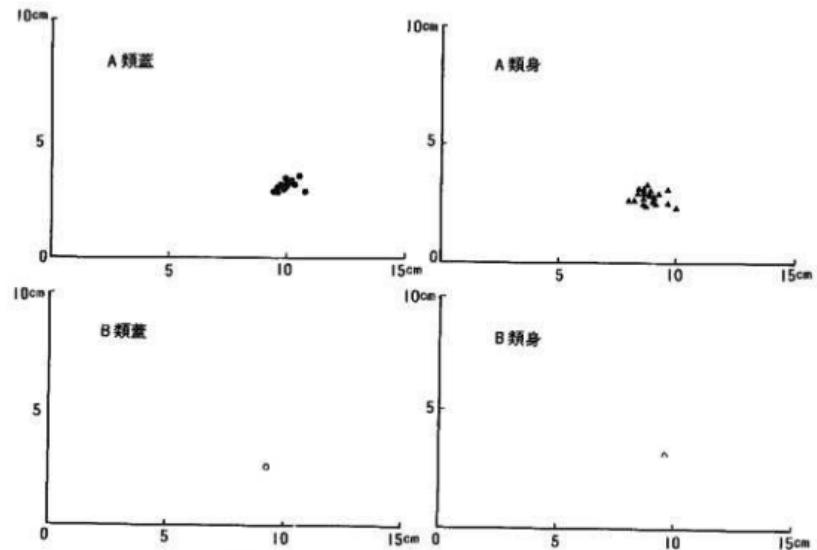


図47 E地区 2号窯体内、坏長巾指数分布図

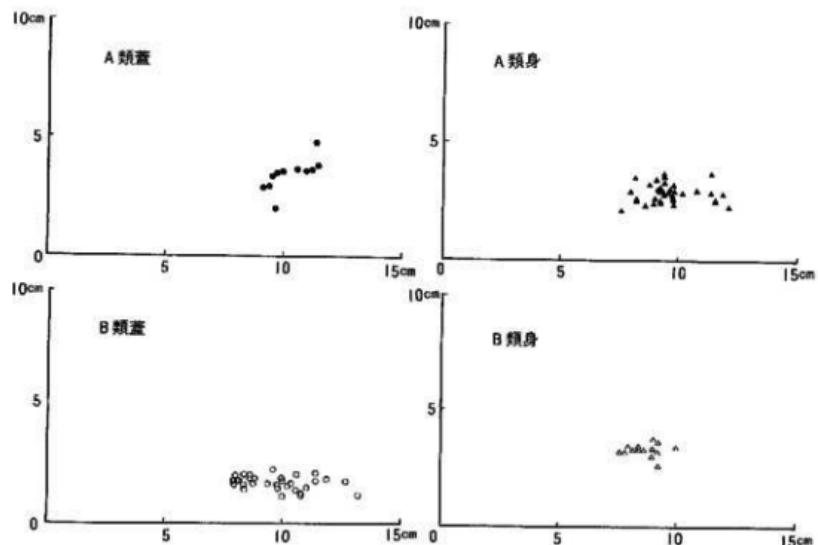


図48 B地区 灰原、坏長巾指数分布図

B地区2号窯ではかなりまとまった状況をみせる。また、器高については大差ないが、口径についてみれば明らかにA地区に対しB地区では縮少化の傾向を認めることができる。これらをさらに細かく見れば、A地区灰原では身が口径8.5~9cmの一群と、9.5~10cmの一群に区別でき、A地区1号土塙上層では蓋が口径10~11cm一群と11.8~12.2cmの一群とに区別できる。またB地区2号窯では蓋は口径9.5~10.5cmではば集中するものの、身はややバラつきをみせる。この他の造構では各々ある程度のまとまりは持つものの、分布状態は明確な区別を認めえず、細分はしえない。但し、B地区灰原では1号窯灰原山上と考えられる資料にかなりバラつきがあり、異なる様相を示す。次に、これらを細分型式の分布でみた場合、各型式毎の集中分布としてはとらえきれず、細分型式による差は認められない。但し、B地区2号窯では蓋でA-1類、身でA-2類が集中的に分布し、高い規格性を示すと考えられよう。

B類については資料数が少ないため全体を一律にみるとことはできないが、量的にはB地区灰原が最も安定するようである。ここでは蓋の分布にややバラつきがあるものの、細分型式ではいくつかのまとまりを指摘できる。まず口径8~9cmの一群としてB-1類を認めることができ、9.4~11.5cmの一群としてB-2・4・5類が含まれる。B-3類は12cm以上となり区別される。こうした細分型式が複合的に検出されたのはこのB地区灰原のみであり、他では若干の混入があるものの、ほぼB-5類のみが検出されている。これはB地区においてA類の分布がやはりバラつきをもち複雑な様相をもっていた点と共通する要素としてとらえられるもので、A地区に比べ、やや異なる在り方を示すようである。最後にB類の身についてであるが、これは他に比べ資料数が最も少ない。図示されていない造構もあるが、これらについては少片ながら一応は認められている。量的に多いのはB-2類であり、B-3類は焼に近いものもある。法量は口径9~10cm程度に集中し、B-1類と、B-2類の一部は7.5~8.6cmの口径をもつものがある。これはB地区灰原で検出されており、蓋のB-1類と対応するものと考えられる。他は概ねB-2、5類の蓋と対応すると考えられるが、B-3類とB-2、5類の一部（口径が11cmを超えるもの）については対応する身が現時点では特定できない。また、B-4類については恐らく、A類の蓋にセット関係を求めることができよう。

### 3. 結 果

以上、A、B地区を中心に基について分析を行なった。分析を行なう上で、資料数がかなり不足している造構など、全体として大まかな分析となつたが、およよその傾向はつかむことができた。これらをもとに以下若干の考察を行ないたい。

まず、基についてはこれまで見てきたように、全体として小型、縮少化の傾向を指摘できる。A類蓋では凡そ口径10~12cm程度、身では8~10cm程度に多くが集中し、B類では蓋が9~11cm、身が8~10cmが主体となっている。但し、B地区灰原のB類蓋はかなりのバラつきを見せこの限りで

はない。このことは1つに該期が古墳時代須恵器から歴史時代須恵器への変換を計るべく、極めて複雑な歴史的背景を持っていたことに起因すると考えられ、製作者の中にはかなりの勘定と試行錯誤があった結果ではないだろうか。こうした在り方の中でA類の調整技法は頂部、底部ともヘラ切り未調整が主体的で、若干のナデ、もしくは粗いヘラケズリを行なうものは少ない。これは技法的にも本窯跡群の資料が古墳時代須恵器の終末的様相を示している1つの要因であり、法量的にもうなずける。特にB地区2号窯では蓋で10cm程度、身で8~9cm程度まで口径が小形化しており、正に極小段階と言ふことができる。さらにこの段階で歴史時代須恵器を象徴するB類の坏が多く検出されている点に注目したい。B類は口径がA類とオーバラップし、さらに小形化する傾向にある。中でもB-1類は最も極小化し蓋で8~9cm、身で8cm前後の分布をみせる。そして調整技法は蓋では頂部を丁寧な回転ヘラケズリを行ない、身では底部を持ちヘラケズリを行なった後、底部周辺を1~2条の回転ヘラケズリを行なうことで象徴される。こうしたB類の坏は現在各地で検出されており、歴史時代須恵器の初源的形態として注意されているものである。

ここで問題となるのはA類とB類の時間的な関係であろう。現在、各地で多くの窯跡が調査され、その縦年研究は年々整備されつつある。そうした中で、ここで言うA類とB類については時間的に一線を画すものとして考えられる傾向が強いと言える。そうした背景にはB類が歴史時代須恵器の初源的形態であるという認識と、あまりにも大きな形態変化であるために型式学的にはどうしても一線を画す必要性があるためと考えられる。したがって本窯跡群でもこれらを2時期の所産として考えるべきであろうが、それにはいくつかの疑問が生じてくる。まず前項でも述べた通り、窯自体の操業回数の少なさを指摘することができる。つまり、B地区2号窯を除けば他は窯自体の大巾な改修が認められず、時期を異にして何回もの操業がなされたとは考えにくい。また、B地区2号窯の状況をみても、明瞭な間層を挟み2枚の床面が認められるものの窯の規模や灰原の状況からみれば両者の間に大きな時間差（型式が変換する程）は考えにくい。これらは前に述べた通り遺物の出土状況や細分型式の分布のあり方からみたとき、より実感として浮んでくるものである。つまり、各窯跡間でみた場合遺物の長巾分布に決定的な差異がなく、わずかにB地区2号窯がやや他と異なるにすぎない。そのB地区2号窯にしても概ねこれらの範囲として考えられよう。したがって、本窯跡群の各窯跡は極めて短かい時期の中で集中的な操業が行なわれたと考えたい。

このような考え方の背景にはB地区2号窯の出土状況の検討が必要となってくる。ここでは唯一窯体内より良好な一括資料が得られており、灰原からもかなりの資料が検出されている。窯体内の一括資料は第1次の床面上から出土し、第2次床面では坏の良好な資料が得られていない。これに対し、灰原では窯の焚口部分が失われているため、灰層の分離はなされていないが、資料はA・B類の坏が混在しており、特にB-1類のセットが焚口付近でまとまって出土している。窯体内第1次床面ではA-1類の蓋とA-2類の身が主体をなし、わずかにB-5類の蓋が1点確実な共伴を示す。このことは本窯跡群の中でA・B類が共伴するという確実な実例であり、極めて重要なボ

イントである。つまり、細分型式の差こそあれ、Ⅰ時期A・B類は共存していたと言うことができ、時期比定をする上で重要である。また灰原でのB-1類のセットが焚口付近から出土している点も重要で、この資料が確実に2号窯で焼成されたことを示している。ではこれらB-1類は第1次、第2次のいずれの床面で焼成されたものであろうか。これについては確實に比定することはできないが、2号窯が前述した如く極めて小型の窯であり、長期間にわたり使用されたとは考えにくいくことや、仮に第2次の床面で焼成されたにせよ、すでにそれ以前の第1次床面でB類が検出されている点から考えれば、両者の間に大きな時間差ではなく、やはりA・B類が共存する形での窯操業が行なわれたと考えるのが妥当ではなかろうか。これについては今1つ、興味深い資料がある。それはB-4類とした蓋の存在である。この資料の特徴は器高が2cm未満と低く、かえりは大きく内傾し、外面頂部を回転ヘラケズリにより仕上げている点にある。所謂、形態はA類身でありますから、古墳時代須恵器の終末期のものとは大きく異なるものである。外面頂部の回転ヘラケズリはB類に共通した「つまみ」の取り付けを意識したものであろうし、かえりの内傾化は蓋としての機能変化の表われとして理解できる。こうした資料の存在は古墳時代須恵器から歴史時代須恵器へと転換する時の過渡的なものとして捉えられるのではないだろうか。

以上の様に、木窯跡群ではA・B類とした坏の在り方により、これらが共存した可能性が強いということができる。その在り方は、A類が主体的であるが、ここに確実にB類が共存しつつ、さらにその中間型ともいべき資料が存在する。またその流れは決して齊一的ではなく、A地区でより古墳時代須恵器の影響が強く、B地区ではこれがさらに薄れて来るようである。したがって、全体の流れとしてA地区→B地区1号窯→B地区2号窯→J地区という関係が想定できる。但し、この流れはあくまでも窯における変遷であり、実際に住居跡などから出土した場合、それらの区別は困難であり、そうした面ではⅠ時期の所産として考えるべきであろう。

次にこれら資料の時期について若干考えてみたい。坏の特徴については前述した通りで、A類は所謂古墳時代須恵器の終末期的様相を示しており、これに歴史的須恵器の初源的な形態と考えられるB類が共存するとすれば、大まかに7世紀を下らない年代が考えられる。さらにこれら坏に伴う資料組成全体で見た場合、①盤、皿の頸が存在すること、②碗をみた場合、かなりすんぐりした型式をもち、一般に7世紀前半に出現する傾向があること、③すり鉢の形態は6世紀代にみられるような底部にやや丸味をもち、体部が湾曲気味なものとは形を異にすること、④高坏では脚部が極端に小型化した一群が認められること、⑤提瓶、横瓶の頸の激減などが認められる。これらを総合的に判断すれば、概ね7世紀前半の範囲として考えられよう。

次にこれら木窯跡群の資料を豊前地方の中で考えてみたい。豊前地方の須恵器の研究は小田富士雄氏の精力的調査によりその骨子が組み立てられている。それらは1977年に刊行された「天照寺窯跡群」の中で集大成がなされており当地方の古墳時代研究を行なう上でのメルクマールとされている。詳細については同書に述べられており、ここでは触れないが、問題となるのはIV、V期である

う。このⅣ、Ⅴ期が本窯跡群の資料と対応することは言うまでもない。従来、Ⅳ期については「大觀寺窯跡群」で良好な資料が得られているが、Ⅴ期については良好な資料が得られておらず、その実態は不明瞭なものとなっている。氏によれば、Ⅳ期においてはなおⅢ期からの占墳時代の伝統的な型式がうけつがれ、これらが次のⅤ～Ⅵ期(7世紀)で歴史時代須恵器への転換を計るとされる。

このⅤ期～Ⅵ期の資料として、伊藤田窯跡群ホヤ池窯跡がその代表的資料とされ、7世紀後半に比定されており、7世紀前半については明確でないとされる。ホヤ池窯跡では有蓋壺、勝付盤など認められ、より歴史時代須恵器としての様相が強い。したがって、こうしたⅣ期、Ⅵ期の傾向からすれば、Ⅴ期の資料は占墳時代からの伝統と、歴史時代へ向う新しい要素が接続するような状況が想定でき、その変化はかなり複雑なものと考えねばならない。この様な点を考慮し、Ⅳ～Ⅵ期に至る伊藤田窯跡群の変遷をみてみたい。

現在伊藤田窯跡群でもいくつかの窯跡が調査されており、該期の資料も検出されている。1984年に調査された夜鳴池窯跡（西地区）では、壺A類が主体をなしB類が若干伴う。平底などの類はほとんどないが、鋸皿の類もなく、壺の口径もA類蓋が12cm前後身が10～11cm程度、B類蓋で8～10cm程度と本窯跡群の資料に比べ、若干大き目となっている。また本窯跡群J地区に隣接し、同じく1985年に調査された草場窯跡では壺B類は検出されていないがA類で蓋の口径12cm前後、身は10.5cm前後を計る。調査技法はいずれもヘラ切り後若干のナデを行なうが、体部との境は明瞭な段を有する。他に壺、甕、などがみられる。こうした在り方は壺A、B類のバランスや、器種組成からみた場合、古墳時代須恵器の終末の様相を示しており、夜鳴池窯跡では歴史時代須恵器が出現していく。これらは1983年に調査された五ヶ迫窯跡とは明らかな差を示すものであり、ここに一応の序列をみることができる。さらに前述した如く、より歴史時代須恵器としての性格が強い城山窯跡群（A地区→B地区1号窯→B地区2号窯→J地区）と時期的に異なる城山窯跡群O区がつづく。

この様に見て来た場合、伊藤田窯跡群の変遷は大まかに、五ヶ迫窯跡→草場窯跡→夜鳴池窯跡（西地区）→城山窯跡群→ホヤ池窯跡→城山O地区との流れが考えられる。さらに夜鳴池窯跡（西地区）をB類の出現を考慮し7世紀初頭と考え、城山窯跡群が若干後出するとすれば、やはり時期としては7世紀前半期と考えたい。但し、A地区ではより初頭に近く、B地区2号窯は中頃に近いものとして考えられ、O地区は7世紀後半以降である。これは壺A類が畿内地域では7世紀前半代まで存続していることや、遺物組成の中に歴史時代須恵器と呼ばれる器種が確実に存在していることなどからすれば妥当性を帯びると考えられよう。

以上、本窯跡群の資料について若干の考察を行なってきた。その結果、豊前地方では7世紀前半代において須恵器は古墳時代からの伝統的な流れが存在しつつ、他方歴史時代須恵器への転換を計るべく新しい波が確実に影響を与えつつあったと考えられる。そうした過渡的な在り方が、該期の須恵器の様相をより複雑なものとし、さらに、地域での特色を生み出していったと考えられる。したがって、伊藤田窯跡群内では7世紀初頭から壺B類が出現し、壺A類との量的バランスを次第に

逆転させながら変化し、7世紀後半には歴史時代須恵器が主体的に成立したと考えられる。

尚、小稿では資料分析について不備な点も多々あり、さらに筑前、筑後の資料については全く検討を行なっていない。よって今後、こうした点について検討を重ねることでより細かな変化を明らかにできるであろう。こうした点を今後の課題としつつも、一応農耕地方における該期の様相の一端を明らかにしたいと思う。光学諸氏の御指導、御鞭撻をお願いする次第である。

- 注 1) 「天徳寺山窯跡群」(1977) 北九州埋蔵文化財調査会  
2) 1) と同じ  
3) 「一般国道10号中津バイパス埋蔵文化財発掘調査概報」(1985) 大分県教育委員会  
4) 3) と同じ  
5) 「一般国道10号バイパス埋蔵文化財発掘調査概報」(1984) 大分県教育委員会  
6) 「牟上り瓦窯跡発掘調査概報」(1983) 宇治市教育委員会

## 付論 1 磁気探査の結果

西 村 康

方法 地磁気には、偏角・伏角・全磁力の三要素がある。このうち、偏角・伏角の経年変化をもとに年代を求める方法が、古地磁気年代測定法であることは、よく知られている。遺構探査では、通常地磁気の全磁力を測定して、磁気の強さの異常分布個所を限定することにより、遺構の規模や形態を推定する。

窯跡や柱跡などを構成する、土壤中に存在する鉄等の強磁性物質は、キューリー温度以上に熱せられたのち、冷却する過程で、外部磁場にしたがって再磁化する。帯磁した結果、その部分は周囲と比較すると、わずかではあるが強い磁気を示して、磁気異常の個所として存在することになる。熱残留磁気を帯びるのである。磁気探査は、この磁気異常部分を発見することにより、遺構の存在を推定するものである。

熱残留磁気を帯びた遺構は、わずかな磁気異常をひきおこしているが、この強さは、鉄の帯びている磁気と比較すると、数千分の1の程度でしかない。磁気探査は、このような微細な磁気変化を測定するのであるから、探査地域の周辺に、強い磁気を発生させる自動車や電車、あるいは高圧線や人家などがあると、正確な磁気測定ができなくなってしまう。このように、測定の妨げになるものを、一般にノイズと呼んでいる。

ノイズの影響を受けない測定法としては、通常2台の磁力計を運動させる方法をとる。1台は定点として固定しておき、他は測定区内を移動して測点毎の地磁気を測定するもので、これら2台は、同時にかつ等量のノイズを受けることを前提にしている。移動点である各測定位置に、磁気異常の原因となるものが無い場合には、両者の測定値の差は一定のはずである。両者を同時に作動させるためには、コードで連結することが多い。

窯跡を対象とする測定では、普通測定点間隔2mを採用している。須恵器窯あるいは瓦窯にしても一般的に最大幅は2m前後あると予想できるからである。もし窯体が小型であると推定できる際には、適宜間隔を狭めめる必要がある。また、窯体の規模や形態を正確に知ることや、残存状況の把握を目的とするときにも、当然狭くする必要があろう。しかしながら間隔は、例えば1mと設定した際には、測点数は2mの場合の千倍となることを考慮しておかねばならない。

今回の測定点間隔は2mである。使用した磁力計は、米国ジオメトリクス社製のプロトンマグネットメーターG-816、G-826型の2台で、測定は二台連動法によった。磁気を感知する部分であるセンサーの高さは、定点が1.8m、移動点は0.6mである。磁気の強さを表わす単位には、ガンマやガウスなどがあるが、ここで記述した値はガンマで、磁力計のもつ読みとり精度は、±1ガンマである。

ある。読定は、各測点1回であるが、異常値を測定した場合には、同一地点で複数回の読み取りをした。またそのような際には、周辺を1m間隔でも測定している。

**結果** 今回の測定は、窓体の存在する可能性のある地区を、A、J、N-1、L、M-1、M-2、N-2に分割して実施したもので、各々の測定区で測定した磁気の絶対値レベルは統一していない。ただし、M-1、M-2とN-1、N-2の測定区は互いに隣接しており、接続するものである。測定に要したH数は合計5回間、測定点数は1,700で、約8,000m<sup>2</sup>の面積を探査したことになる。以下に測定区毎に探査結果を報告する。結果は定点と移動点との差を、磁気コンターマップで表わしているが、図中の太線は相対的に磁気の強いプラス値を、破線はマイナスを示す。

**A区（第49図-1）** この測定区には、探査以前に3箇所の試掘トレンチが設定されていて、そこで2基の窓体の存在がすでに確認できていた。この2基のうち1基は、明確な磁気異常の地点としてとらえることができるが、他はそれ程明確ではない。Aの地点は、トレンチ中に焚口部らしき灰燼を検出している部分の上方斜面にあたっている。周囲と比較して非常に磁気が強く、大きな磁気異常を示している点からみて、窓体が浅い位置にあるのか、または何らかの鉄製品があって、複合した異常となっているものと考えた。北側には磁気の弱い部分が一对となって併なっており、地下造構に起因する磁気異常の、典型的な形態といえる。窓体の長さは約8m、最大幅2mほどと推定した。

Bの地点も、試掘によって窓体の一部が確認できている位置の、上方斜面にあたる。磁気異常は大きく、窓体に起因するものとみられるが、異常の範囲は狭く、形態も等高線と平行方向にのびたものとなっている。また、北側に磁気の弱いマイナス部分が併なっていない。同様にcの箇所も、試掘結果によれば、窓体上とみられる位置にあたっているが、磁気異常は弱い。ただしここでは、北側にマイナスが併なうので、一对となつた磁気異常とみれば、地下造構の存在を推定することは可能である。このB地点は、探査結果のみからでは、積極的に窓体の存在を指摘できないのである。

b、cの地点は、両者ともに同程度の強さの磁気異常である。異常の形態が不整形であることと、その広がりが等高線と平行な方向であることも類似している。また、いずれも北側に磁気の弱い部分を併なっている。このような点から、両者は一体のもので、1基の窓体である可能性を考え、試掘などによって、造構の存在の有無を確認する手段をとる必要のある地点とした。ただし、一休のものであった場合には、長さは10mをこえ、最大幅も3m以上あると想定しなければならない点から、窓体である可能性は少ないと予測した。

dの地点は、他の磁気異常と比較して異常は弱く、その範囲も狭くかつ不整形であるので、窓体である可能性は少ないと考えたが、北側にマイナス部分がわずかではあるが併なっているので、やはり何らかの手段によって、窓体の有無を確認する必要があると判断した。

e の部分は、磁気異常の範囲が、測定区外へ広がっており、その形態も不明であるが、d の地点よりも強い異常を示しているので、やはり要確認の地点と考えた。ここでは、探査中に上方のトレーニング内における十層壁によって、窓体を発見しており、この e 地点が、窓体に起因する磁気異常であることが判明している。

f の部分も、c 同様に異常の範囲が測定区外へ広がっているので、形態や磁気異常の規模は不明である。しかしここも、b, c と同程度の異常であり、また北側にマイナス部分が伴なう点から、遺構の有無を確認する必要のある地点と考えた。

J 区（第49図-2） この区内には、窓体の存在する可能性のあるものとして、積極的に推定できる地点はない。その中では、a の位置が最も磁気異常が強く、北側にマイナス部分を伴なっている点からみて、窓体の存在する可能性のある個所である。窓体とすれば、幅約2m、長さ4mほどであり、残存状態の悪いものか、あるいは平窓かと推定される。いずれにしても、窓体の有無を確認する必要ある地点である。なお、b の地点は、鉄製品に起因する磁気異常で、地上遺構とは関連のないものと推定した。

N-1 区（第49図-3） この区は、地形的な制約があったため、測定区の幅が細くなっていて、探査結果の判定を困難にしている。ここでみる a, b 2 個所の磁気異常は、その範囲がいずれも測定区外へ広がっているため、窓体存在の有無を判断するには、材料不足である。また、両者とも磁気異常は弱い。しかし、窓体である可能性をまったく否定することもできないため、やはり何らかの手段で、遺構の有無を確認しておいた方がよい場所と考えた。なお、c の地点は、現操作業用に設営した、テントを構成する鉄骨材の影響である。

L 区（第50図-1） この測定区には、明確な磁気異常はない。しかし、a の地点のみは、異常の範囲は測定区外へ広がっていて、形態も不明であるが、北側にマイナスが伴なっている点から、窓体の有無を確認しておいた方がよい個所と判断した。またここでは、a の地点よりさらに遺構である可能性は少ないといえ、b 地点もは b と同程度の磁気異常であるので、やはり確認の手続きをとっておいた方がよいと考えた。

M-1 区（第50図-2） この区には、窓体に起因するとみられる磁気異常はない。a 地点は、異常も弱く小範囲でもあり、鉄線入りコンクリート管の影響とみた。同様に b 地点も、鉄製品による異常とみられ、c 地点は、果樹園に使用している鉄線が原因となったものである。

M-2 区（第50図-3） この区内にも、窓体の存在するとみられる地点はない。a とした地点も、可能性は極めて少ないと、念のため確認の手段をとっておいた方がよいという程度にとどまるものである。

N-2 区（第51図） この測定区内には、試掘トレーニングがある、そこで 2 箇の窓体の存在を、すでに確認していた。A・B の地点がそれである。A は、磁気異常の形態は正方形にちかいが、斜面下方方向へやや細長く広がった形になっている。この形態から窓体は、長さ 4 m、最大幅 2 m ほ

どで、あるいは平窓ではないかと推定した。北側にマイナス部を伴なつていて、強い部分とが一対になるこの例は、地下に造構の存在する場合の、典型的な磁気異常といえる。

B地点にも、北側にマイナス部分が対になつていて、磁気異常の形態には集中性がなく、磁気の強い部分が分散している。このような結果になったのは、表土層を除去したトレーンチの影響とみられる。窓体は、長さ6~7m、最大幅2mほどで、主軸は等高線と直交する方向をとるものと推定した。

a・bの地点は、磁気異常の形態が不整形で、かつ等高線と平行な方向に広がるところからみて、窓体である可能性は少ない。しかし、異常の形態はAに類似しており、また異常程度がAよりも強いところから、確認手続きをとる必要のある地点と考えた。磁気異常の形態が、Aあるいはa・bに類似しているものとしては、dの地点もあげておく必要がある。異常の強さはAの半分程度であるが、北側にはわずかながら、磁気の弱い部分を伴なうからである。

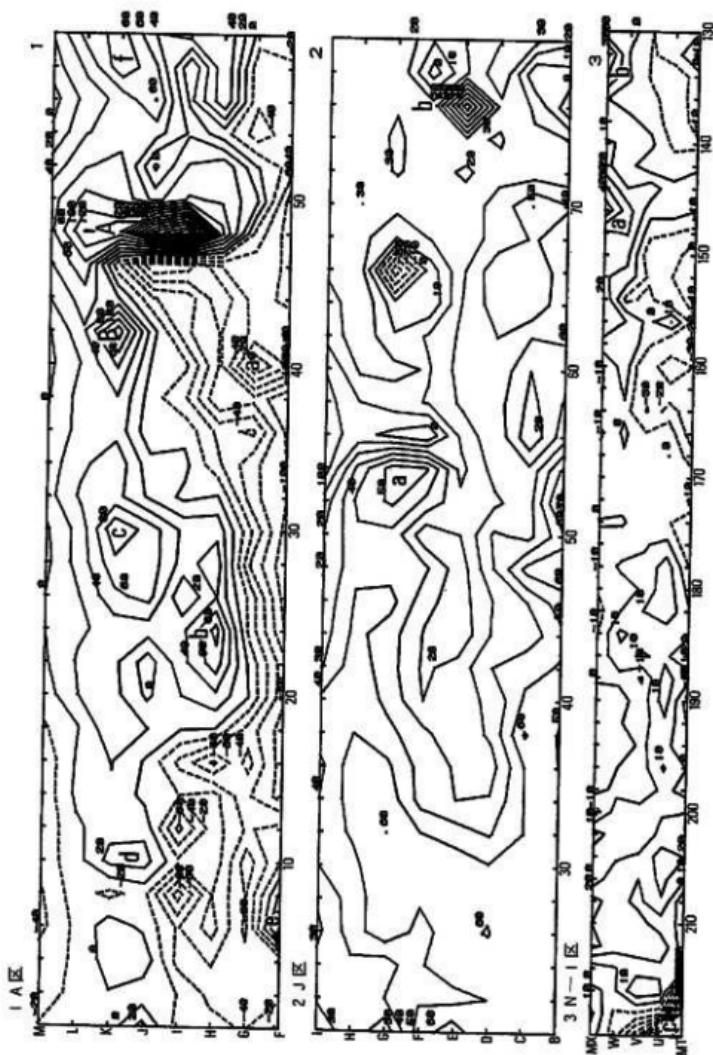
Cの地点は、異常範囲が測定区外へ広がつていて、全体の形態が不明なことと、北側に明確にはマイナス部分が認められないところから、窓体ではなく、鉄製品に起因する磁気異常ではないかと推定した。

磁気探査の結果は以上のような。今回の探査において注目されるのは、いくつかの測定区においては、すでに試掘トレーンチが設定しており、窓体の存在が確認できていたものを含む点にある。そこでは、探査結果の照合は過例と異なり、造構から結果の当否を問うことになった。そして照合結果は、他の測定区における測定成果判定の、基礎データとなつた。磁気探査に限らず、いかなる方法の探査を採用する場合においても、実際の造構と対照できる、基礎データのあることが望ましいのである。

また、探査によって得た結果は、必ず何らかの手段によって確認する必要がある。磁気探査によって、磁気異常の個所が限定できれば、そこに窓体が存在するのかどうかを、点検するのである。たとえ磁気異常部があったとしても、それが鉄入りコンクリート管であったり、鉄製品が埋没している可能性もある。これらが磁気異常の原因となって、窓体の示す異常に類似した結果をもたらした例は少なくない。

以上のように、造構探査では、測定結果と実際の造構と対照できるデータのあること、探査結果は、必ず何らかの手段によって、確認することが必要なのである。

图49 摄查结果 [1]



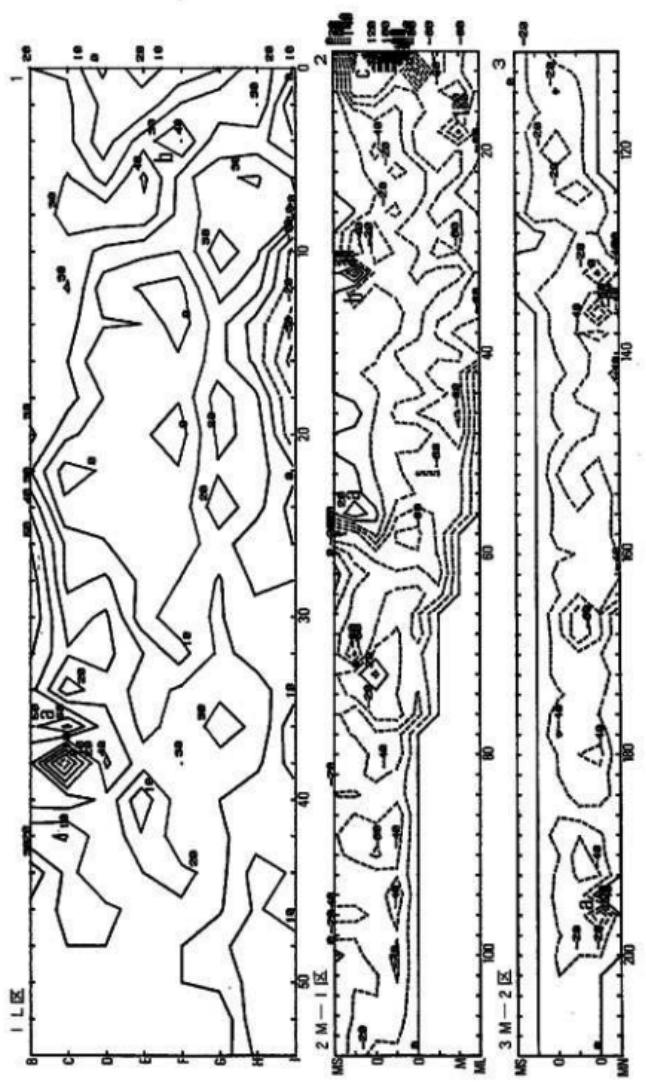
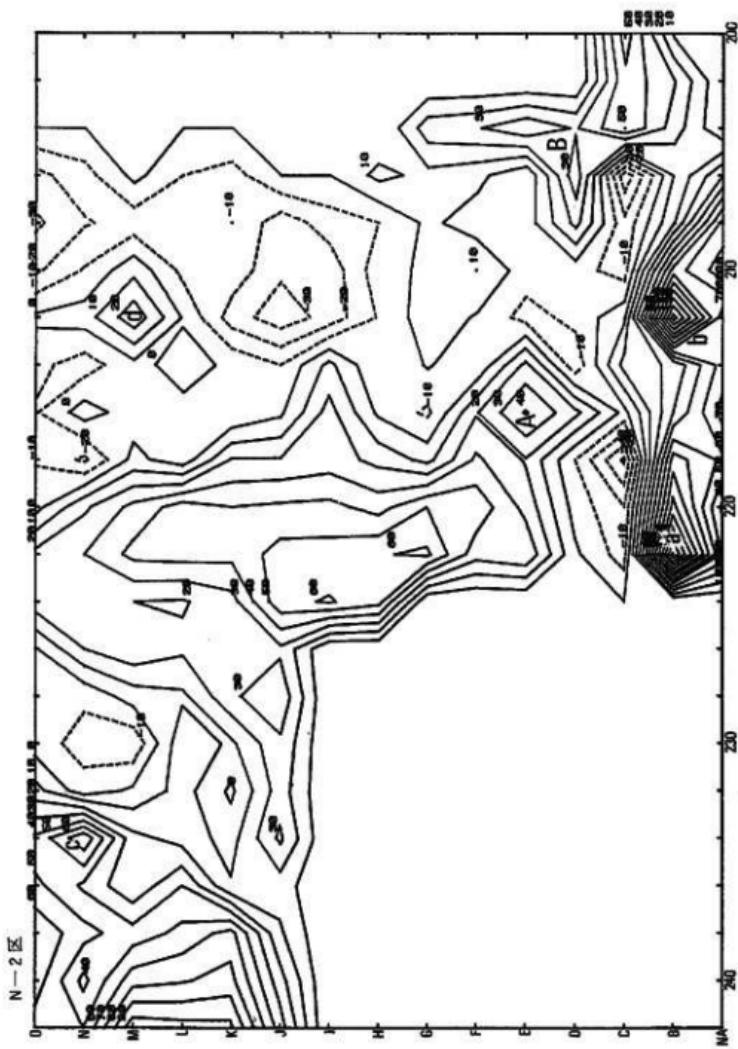


图50 探查結果(2)

圖51 探查結果(3)



## 付論 2 伊藤田城山窯跡A地区2号窯及び3号窯の考古地磁気年代について

時枝克安・伊藤晴明

### 概要

伊藤田城山窯跡に残る二基の須恵器窯、A 2号及びA 3号窯について、窯底の熱残留磁気の方向を、西南日本における地磁気永年変化と比較して、最終焼成年代を推定した。その結果、A 2号窯について A.D.720±20 又 A 3号窯について A.D.750±25 の年代を得た。一方、土器形態の変遷から推定された年代は A 2号について六世紀末、A 3号窯について六世紀末から七世紀前半とされている。したがって、地磁気の変化と上器形態の変遷という二つの異った現象を利用して求められた年代を比較すると、相対年代については両窯では同時代となっている点で一致するが、絶対年代についてみると、考古地磁気年代は土器様式比定年代よりも約百年新しい方へずれている。このように二つの方法によって年代が異なる主要な原因は、地磁気変化の地域差によって、みかけの考古地磁気年代が生じたためと考えられる。年代の食い違いを補正して真の年代を求めるには、瓦窯のような年代を知りうる焼土遺跡の熱残留磁気測定が必要である。

### 窯

A地区 2号窯は半地下式の須恵器登り窯であり、全長約7.5m、最大幅約1.3mである。A地区 3号窯は地下式須恵器窯であり、全長約3.5m、最大幅約1mと A 3号窯に比べて小さい。両窯は南西落ちの緩斜面に、互に約8m離れて、ほぼ平行して築造されている。窯の年代は、窯体中から出土した土器の形態を小田富士雄氏による九州の上器編年と比較して推定されており、A 2号窯について六世紀末、A 3号窯について六世紀末から七世紀前半とされている。

### 試料

A地区 2号窯及び 3号窯の窯底から熱残留磁気測定用の定位試料をそれぞれ16個、合計32個を採取した。試料採取場所は図-52に示されている。試料採取場所における窯底の勾配は、A 2号窯で約20度、A 3号窯で約25度である。

### 測定結果

試料の熱残留磁気の方向を無定位磁力計を用いて測定した。測定結果は図-53に示されている。A地区 3号窯の3個の試料を除くと、両窯の熱残留磁気の方向は大変良くまとまっているのがわかる。これら3個の試料の熱残留磁気の方向が他からそれているのは、試料が帶磁後動かされたためであろう。方向が分散する3個を除いた残りの測定結果は、それぞれの窯の最終焼成時の地磁気の方向を表わしていると考えてよい。A地区 2号及び 3号窯について、平均伏角 (I m)、平均偏角

( $D_m$ )、Fisher の信頼度係数 (K)、95% 誤差角 ( $\theta_{95}$ )、採用した試料の数 (N) を計算する  
と次のようになる。K の値が大きいほど、又  $\theta_{95}$  の値が小さいほど測定結果の信頼性が良い。

|        | $I_m$  | $D_m$   | K   | $\theta_{95}$ | N  |
|--------|--------|---------|-----|---------------|----|
| A 2 号窯 | 55.82° | 10.00°W | 570 | 1.55°         | 16 |
| A 3 号窯 | 52.80° | 7.85°W  | 407 | 2.06°         | 13 |

#### ○考古地磁気年代

図-54のショミットステレオ投影図上に、西南日本における過去2000年間の地磁気永年変化曲線が実線で、又 A 2 号及び A 3 号窯の熱残留磁気の平均方向と誤差の範囲が十印と点線の楕円で示されている。永年変化曲線上で平均方向から最も近い位置の年代が考古地磁気推定年代となる。このようにして得られた A 地区 2 号及び A 地区 3 号窯の最終焼成年代は次のようにある。

A 地区 2 号窯 A.D. 720±20

A 地区 3 号窯 A.D. 750±23

#### ○考 察

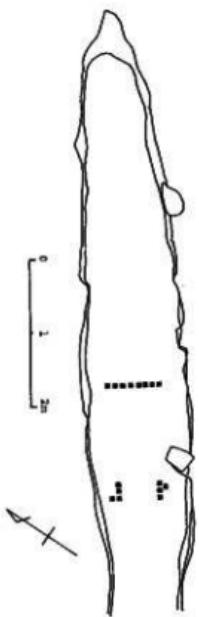
考古地磁気年代と土器様式比定年代とを比較するとと、相対年代については A 地区 2 号窯 A 地区 3 号窯がほぼ同時代であるという点で一致しているが、絶対年代については陶窯で食い違っており、考古地磁気年代が土器様式比定年代よりも約 100 年新しくなっている。推定方法による年代の食い違いは、同じ伊藤田窯跡の瓦ヶ迫 1 号窯についても見られる。<sup>(3)</sup> 瓦ヶ迫 1 号窯では、考古地磁気年代が A.D. 650 であるのに對して、土器様式比定年代は 6 世紀後半～末となっており、この例でも城山窯と同じく前者が後者よりも約 100 年新しくなっている。さて、九州における須恵器窯の熱残留磁気判定例<sup>(4)</sup>は、現在のところ上記の伊藤田古窯跡二例だけである。しかし、これらの三例について、どの窯の測定結果も信頼度が高い。これは熱残留磁気の方向が良くそろっており、又窓体に傾いた形跡が全くないことから言える。したがって、これら三例からの結果は、むしろ北九州の須恵器時代について的一般的な傾向を示していると考えてよい。このように、異なった方法によって推定年代に差が生じるのは、どちらか一方、あるいは双方共に真の年代ではなく、みかけの年代を示していることになる。それでは、みかけの年代がでてくるのは何故だろうか？

まず考古地磁気年代について考えてみると、地磁気の方向は、時間だけでなく場所によっても変化するという事情がある。例えば、1980 年の日本の各地における伏角と偏角を調べると、帯広で  $56^{\circ}20'$ 、 $8^{\circ}16'W$ 、姫路で  $48^{\circ}16'$ 、 $6^{\circ}40'W$  又宮崎では  $44^{\circ}48'$ 、 $5^{\circ}32'W$  となっており、南へいくほど、伏角は浅くなり、偏角は西偏で値が小さくなっている。このことは、一定の場所で観測される地磁気永年変化には地域差があることを意味している。したがって、ある古窯跡の考古地磁気年代を推定しようとする場合、厳密に言うと、その窯の存する場所における地磁気永年変化と比較し

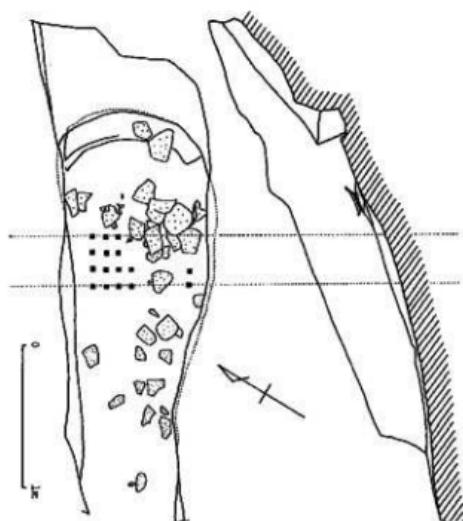
なければならない。伊藤田窯跡の考古地磁気年代を推定するために用いた地磁気永年変化曲線は西南日本における測定結果から組み立てられたものである。<sup>(2)</sup> そして、今問題となっている須恵器時代の曲線は、大阪南部の泉北丘陵に分布する和泉陶邑窯跡の熱残留磁気測定によって導かれたものである。

つまり考古地磁気年代には、伊藤田窯跡と和泉陶邑古窯跡という異った二地点の地磁気の方向を比較しているという点で問題がある。地磁気永年変化の地域差が無視できなければ、眞の年代と異なるみかけの年代が生じ、地域差が大きくなれば年代のずれも大きくなるにちがいない。地磁気永年変化の地域差が問題となつた例を上げると、15世紀から18世紀にかけて東西で偏角が大きく異なり、例えば九州の有田古窯跡の熱残留磁気の方向は、図一54の地磁気永年変化曲線から期待される方向よりも數度西偏していることが報告されている。<sup>(3) (4)</sup> さて、日を転じて土器様式比定年代について考える。須恵器形態の変遷体系については、数多くの考古学調査に基づいて総合的に組み立てられているので、相対年代はしっかりと根柢をもつている。しかし、絶対年代についてみると、現在のところ、須恵器様式に比較的正確な年代をあてはめることができる時代は限られており、九州では、六世紀前半及び七世紀後半以後と考えられる。六世紀前半には、葉紫圓造磐井が反逆し（A.D. 527）翌年葬せられた記録があり、八女市芦戸山古墳が磐井の墳墓とされているので、岩戸山古墳出土の須恵器はこの時代に比定できる。又七世紀後半から、九州では仏教伽藍の建立がはじまり、伽藍の屋瓦と共に須恵器を産した兼業古窯跡の調査を通じて、史料に基づいた古瓦火樣の編年が須恵器の編年<sup>(5)</sup>に利用できる。他の時代については、独自の資料に基づいた年代を知ることが困難なので、代りに、比較的豊富な史料で裏付けされた畿内の須恵器形態変遷と照合して、対応する絶対年代を借用している。<sup>(6)</sup> この場合、考古地磁気年代について考えた時と同様に、須恵器形態の変遷を九州と畿内という異なる地域について比較しているという点で問題が生じる。したがって、同じ形態をもつ須恵器の年代に多少の誤差が生じても不思議ではない。しかし、このような原因のみでは、伊藤田古窯跡にみられる地磁気年代と、上器様式比定年代との約百年という長い年代差を説明するのは無理である。おそらく、前述した地磁気永年変化の地域差が主要な原因であろう。考古地磁気年代を測定する立場から見ると、上述の問題点を解明し、眞の年代を求めるための具体的な方法は、瓦窯のような年代を知りうる燒土遺跡について熱残留磁気測定を行うことである。そして、九州における地磁気永年変化曲線が確定できた時、考古地磁気年代測定は、須恵器時代の焼土遺跡に対する簡便な年代決定法として威力を発揮できるだろう。伊藤田古窯跡は六世紀後半から九世紀にかけて続続的に操業されており、須恵器と瓦類生産の中心地として認められているので、問題点を明らかにするための恰好のフィールドである。最後に、須恵器関係の文献を御教示いただいた人分県教育委員会の村上久和主任と小林昭彦主事に御礼を申しあげ、又試料採取の折にお世話になった中津市及び大分県教育委員会の皆様に心から感謝します。

- 註 (1) 「伊藤田城山窯跡群発掘調査報告書」 (1985) 中津市教育委員会
- (2) 広岡公夫 (1977) 第四紀研究 15、200~203。
- (3) 時枝克史 伊藤晴明 (1984) 瓦ヶ追窯跡一号窯考古地磁気調査  
「一般国道10号バイパス埋蔵文化財発掘調査報告」 上ノ原遺跡群 III、伊藤田窯跡群 II。
- (4) 理科年表 (1980) 東京天文台編纂、丸善
- (5) 広岡公夫 (1978) 自然科学の手法による遺跡・古文化財等の研究、昭和52年次報告書 53~65、  
文部省科学研究費 特定研究「古文化財」 総括班
- (6) 広岡公夫 (1980) 自然科学の手法による遺跡・古文化財等の研究、総括報告書 98~100、  
文部省科学研究費 特定研究「古文化財」 総括班
- (7) 小田富士雄 (1979) 九州の須恵器  
「世界陶磁全集」2、227~233、小学館
- (8) 水野清一、樋口謙康、岡崎 敬 (1953) 「対島」
- (9) 小田富士雄 (1977) 「九州考古学研究」 歴史時代篇 学生社
- 03 「一般国道10号中津バイパス埋蔵文化財発掘調査報告」 上ノ原遺跡群III、伊藤田窯跡群II  
(1984) 大分県教育委員会



A地区 2号窓跡



A地区 3号窓跡

図52 A地区 2号・3号窓跡の試料採取場所

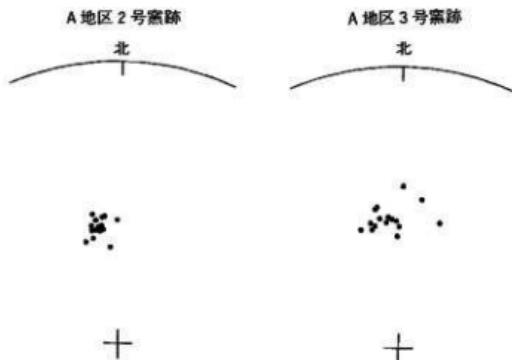


図53 热残留磁器測定結果

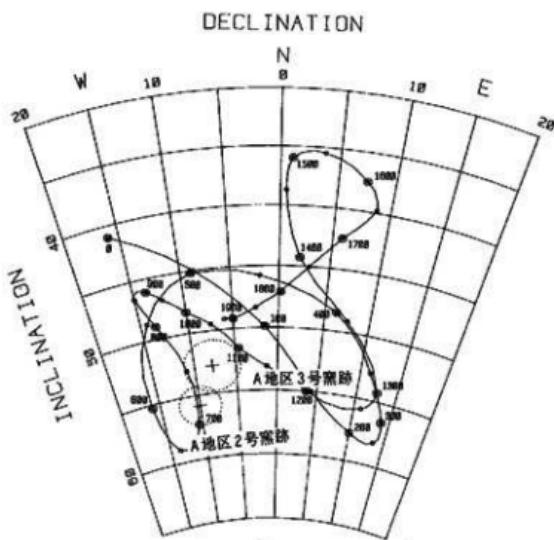
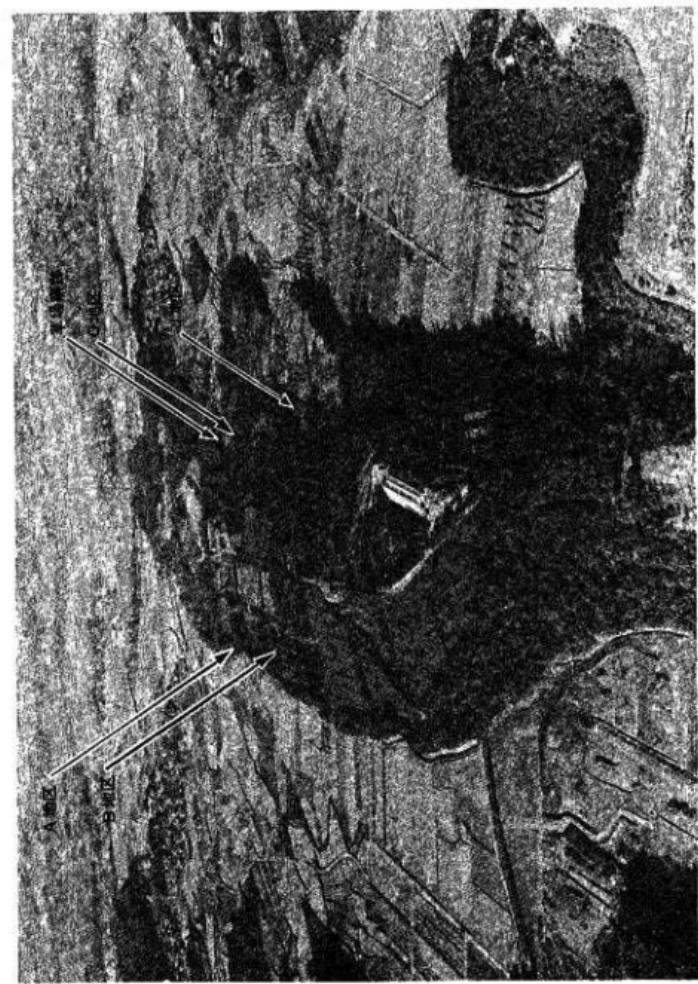
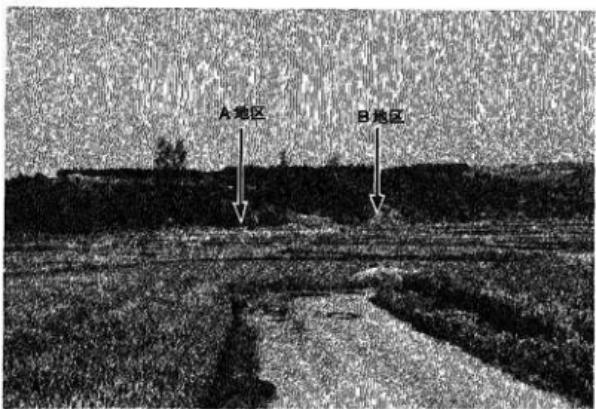


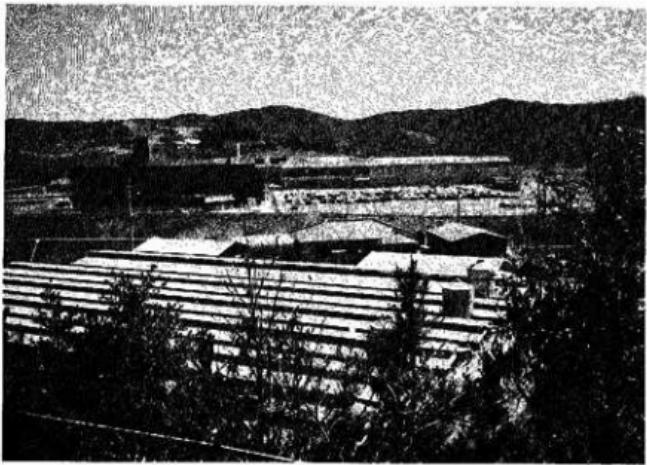
図54 西日本における地磁器永久変化とA地2号及び3号窯跡の熱残留磁気の平均方向



図版1 伊能田城山築跡群全景（南から）



1) 調査前(西から)



2) 現状【大分日本電気株式会社】(北から)



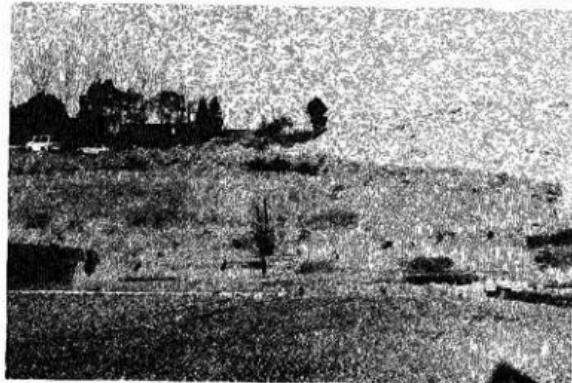
1) 試掘調査



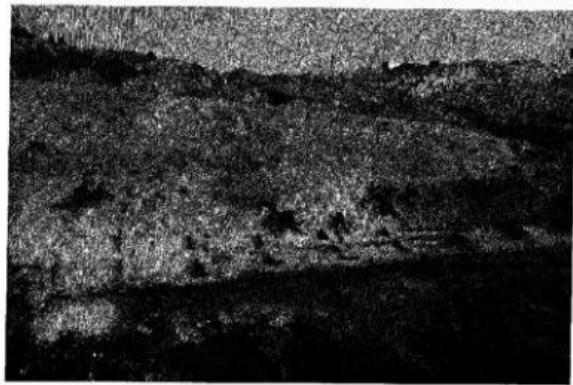
2) 磁気探査



1) A 地区検出状況  
(西から)



2) A 地区完掘状況  
(西から)



3) A 地区灰原 (西から)

図版 4 A 地区の調査(1)



1) A地区 2号窯跡検出状況(西から)



2) A地区 2号窯跡完掘状況(西から)



3) A地区 2号窯跡上馬出十状況

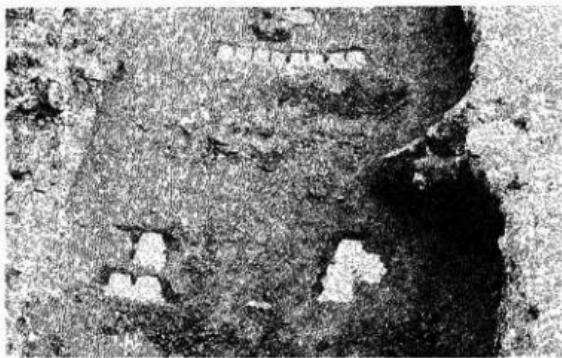
図版5 A地区的調査(2)



1) A地区 3号窓跡検出状況(西から)



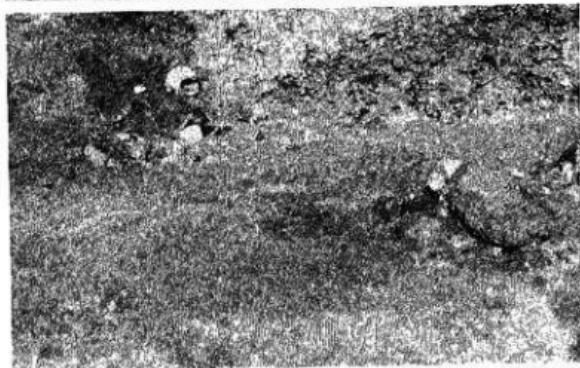
2) A地区 3号窓跡完掘状況(西から)



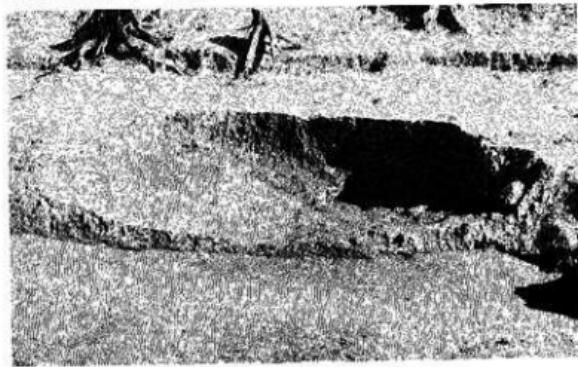
3) A地区 2号窓跡熱残留磁気の測定用サンプル採取状況



1) A地区1号上塙検出状況



2) A地区1号上塙  
(西から)



3) A地区2号上塙完掘状況  
(西から)

図版7 A地区的調査(4)



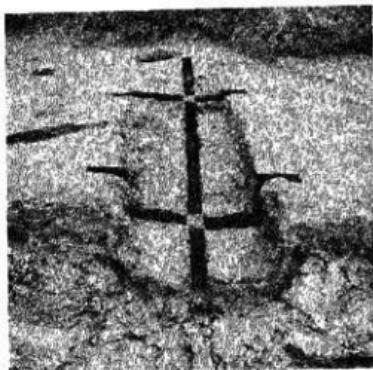
1) B 地区検出状況(西から)



2) B 地区完掘状況(西から)



1) B地区1号窯跡検出状況(西から)



2) B地区1号窯跡完掘状況(西から)

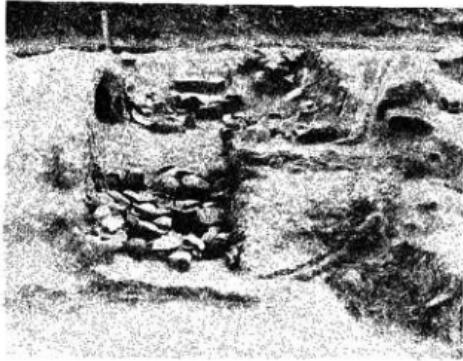


3) B地区1号窯跡窯体断面(西から)

図版9 B地区の調査(2)



1) B地区 2号窯跡遺物出土状況(西から)  
第1次床面と第2次床面



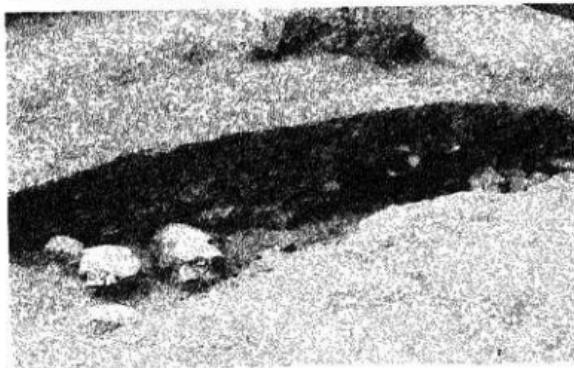
2) B地区 2号窯跡遺物出土状況  
第1次床面と第2次床面(正面から)



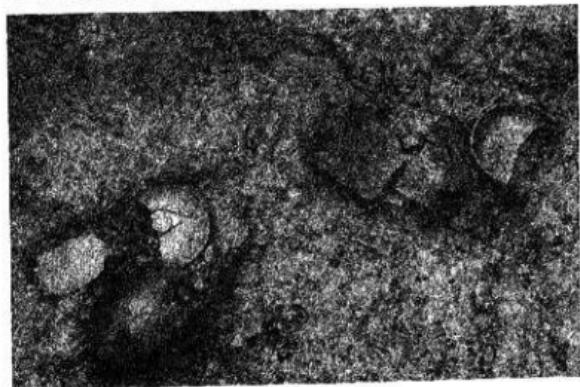
3) B地区 2号窯跡  
第1次床面遺物出土状況



1) B地区 2号窯跡  
土層断面(北から)



2) B地区 2号窯跡  
土層断面(北から)



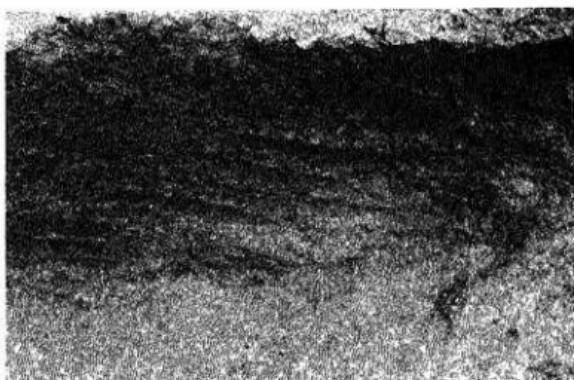
3) B地区 2号窯跡  
第1次床面B類坯  
検出状況

図版11 B地区的調査(4)

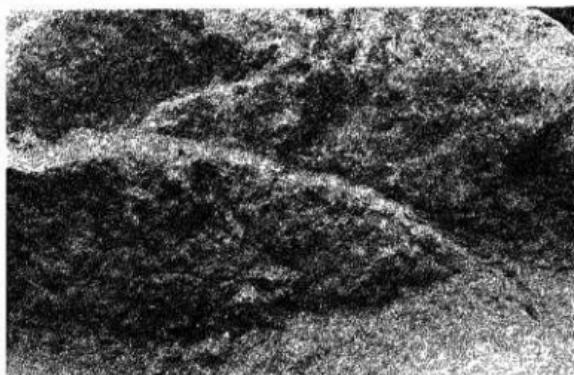


- 1) B地区 2号窯跡  
第2次床面検出状況(西から)
- 2) B地区 2号窯跡  
第1次床面と第2次床面の比較(正面から)
- 3) B地区 2号窯跡  
第1次床面検出状況(西から)

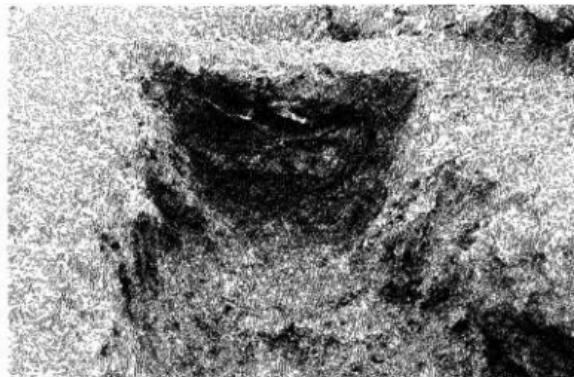
図版12 B地区の調査(5)



1) B地区 2号窯跡  
壁面成形痕(南から)



2) B地区 2号窯跡  
第1次壁面と第2次壁面  
(岩石で代用)の比較(北から)



3) B地区 2号窯跡  
溝土層断面

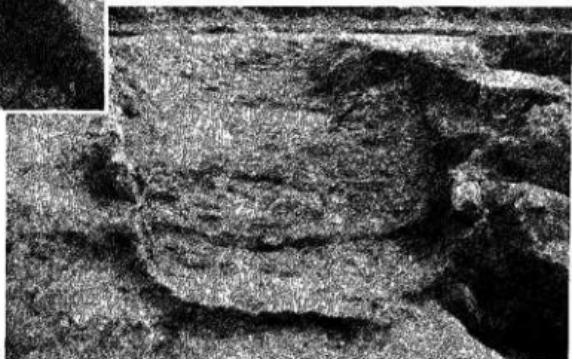
図版13 B地区の調査(6)



1) B地区 2号窯跡及び溝  
完掘状況(西から)



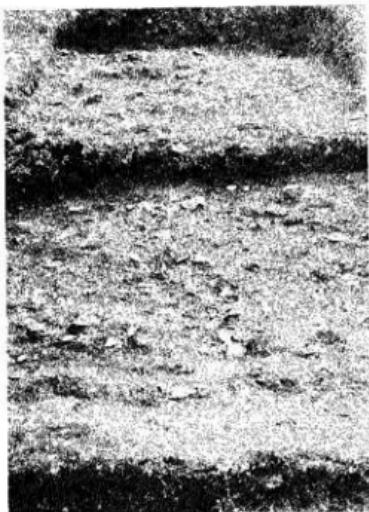
2) B地区 2号窯跡  
第1次床面完掘状況(西から)



3) B地区 2号窯跡  
第1次床面完掘状況(正面から)

図版14 B地区の調査(7)

1) B地区灰原遺物検出状況(西から)



2) B地区 2号窯跡焚口附近  
灰原遺物検出状況



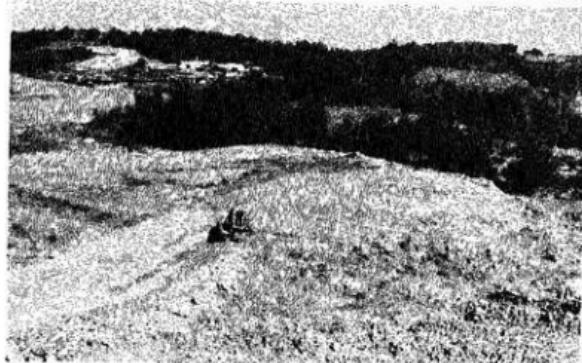
3) B地区 2号窯跡焚口附近  
灰原遺物検出状況



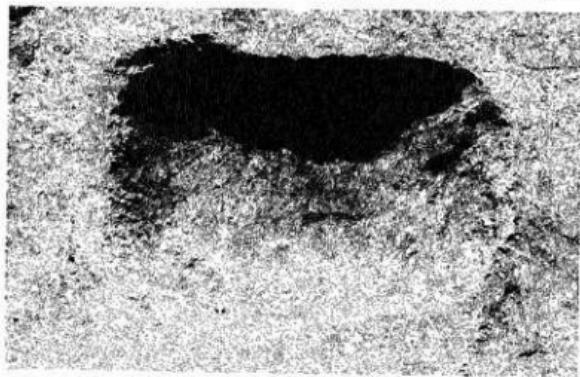
図版15 B地区の調査(8)



1) J地区  
灰原検出状況(北から)

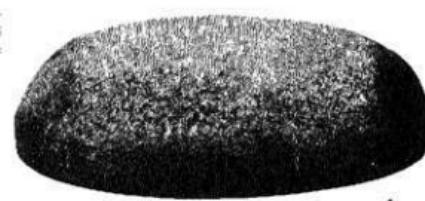


2) O地区全景(西から)



3) O地区  
1号土块検出状況

図版16 J地区、O地区的調査



1



54



21



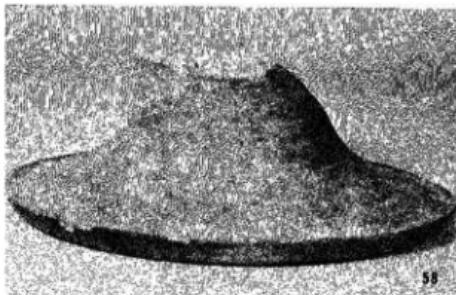
24



57

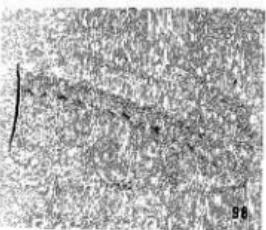
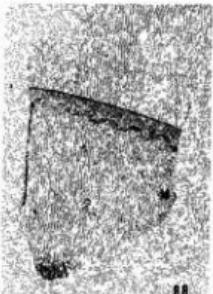
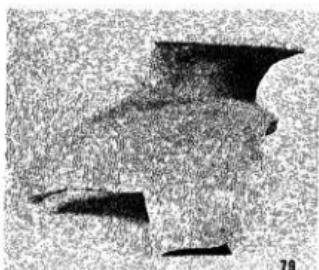
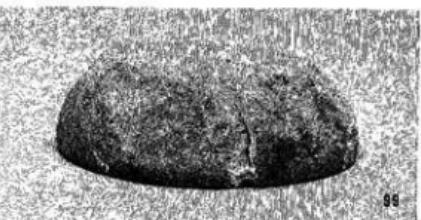
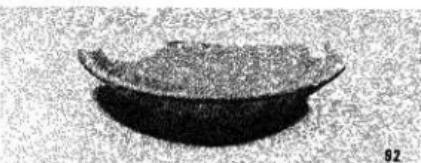
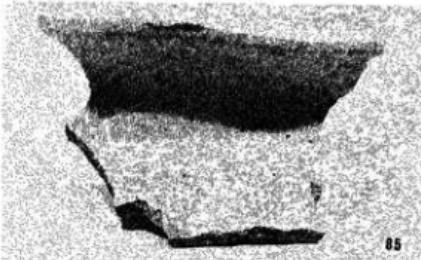
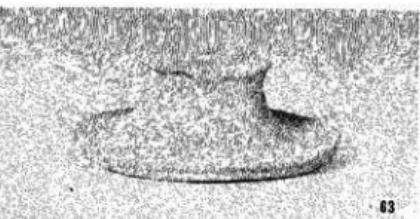
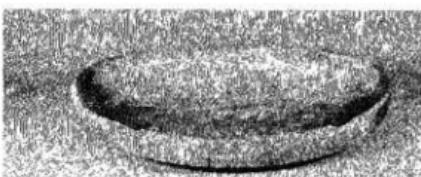
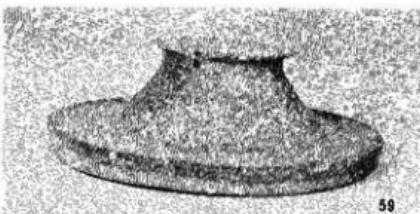


35

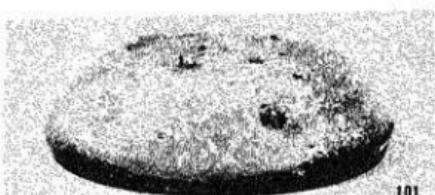


58

圖版17 A 地區出土土器(1)



图版18 A地区出土土器(2)



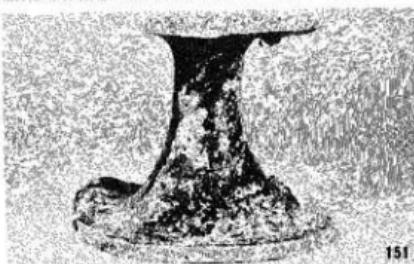
101



145



105



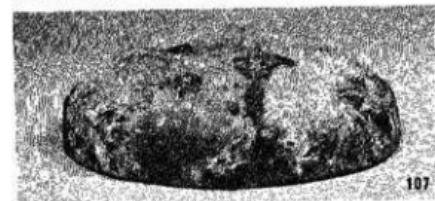
151



106



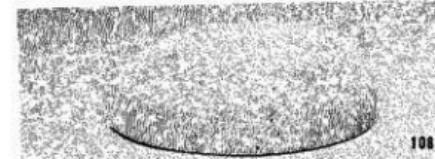
152



107



154



108

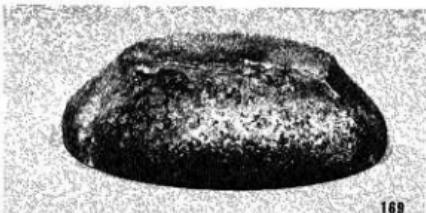


155

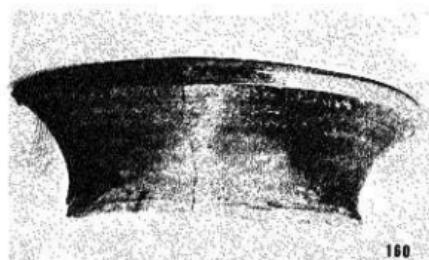
圖版19 A 地區出土上器(3)



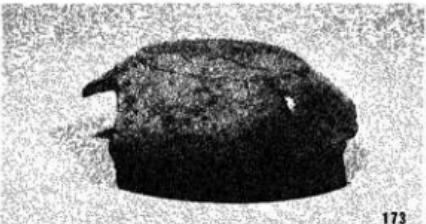
156



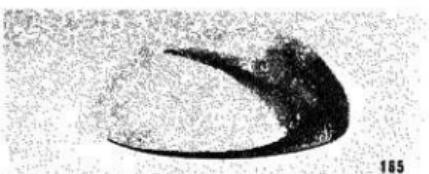
165



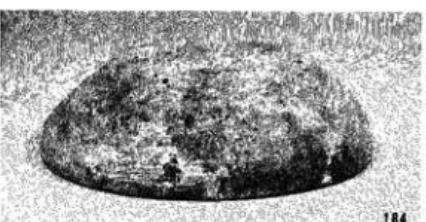
160



173



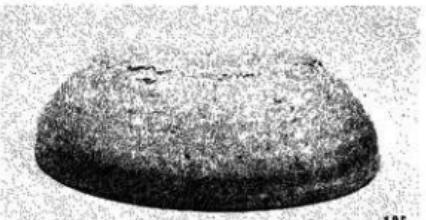
165



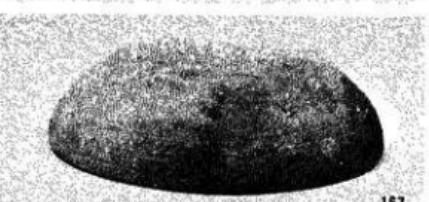
184



166



185

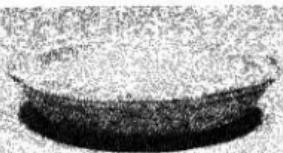


167



187

图版20 A地区出土上器(4)



198



212



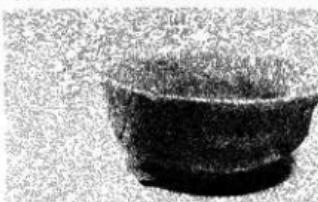
200



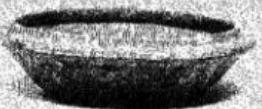
215



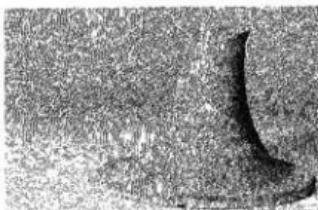
202



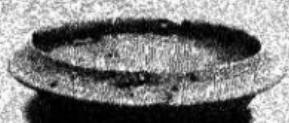
220



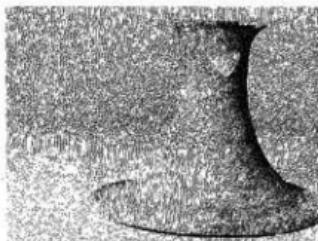
206



227

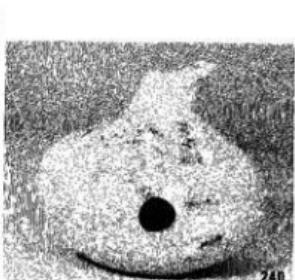
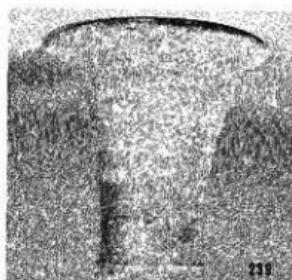
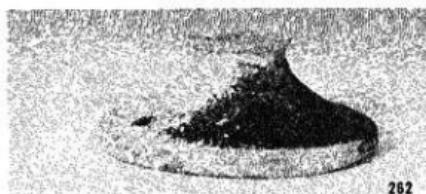
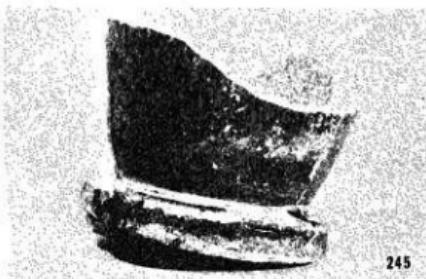
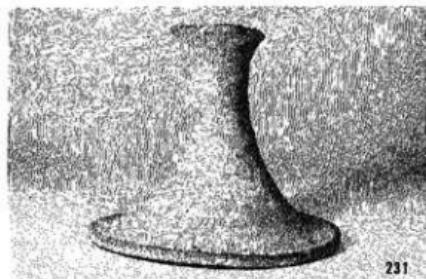


207

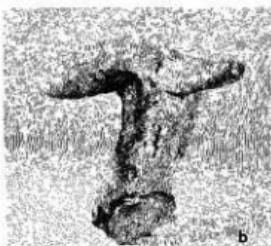


228

圖版21 A地區出土土器(5)



图版22 A地区出土十器(6)



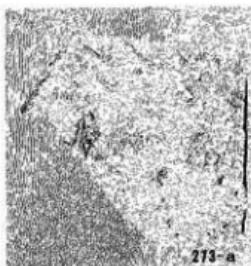
b



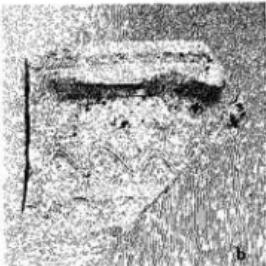
272-a



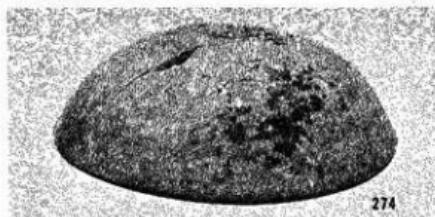
c



273-a



b



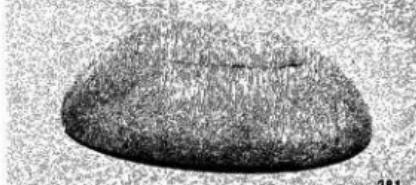
274



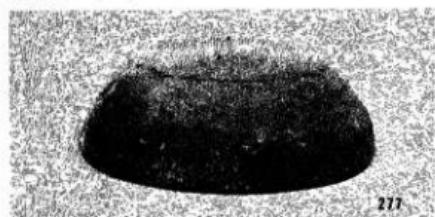
280



276



281

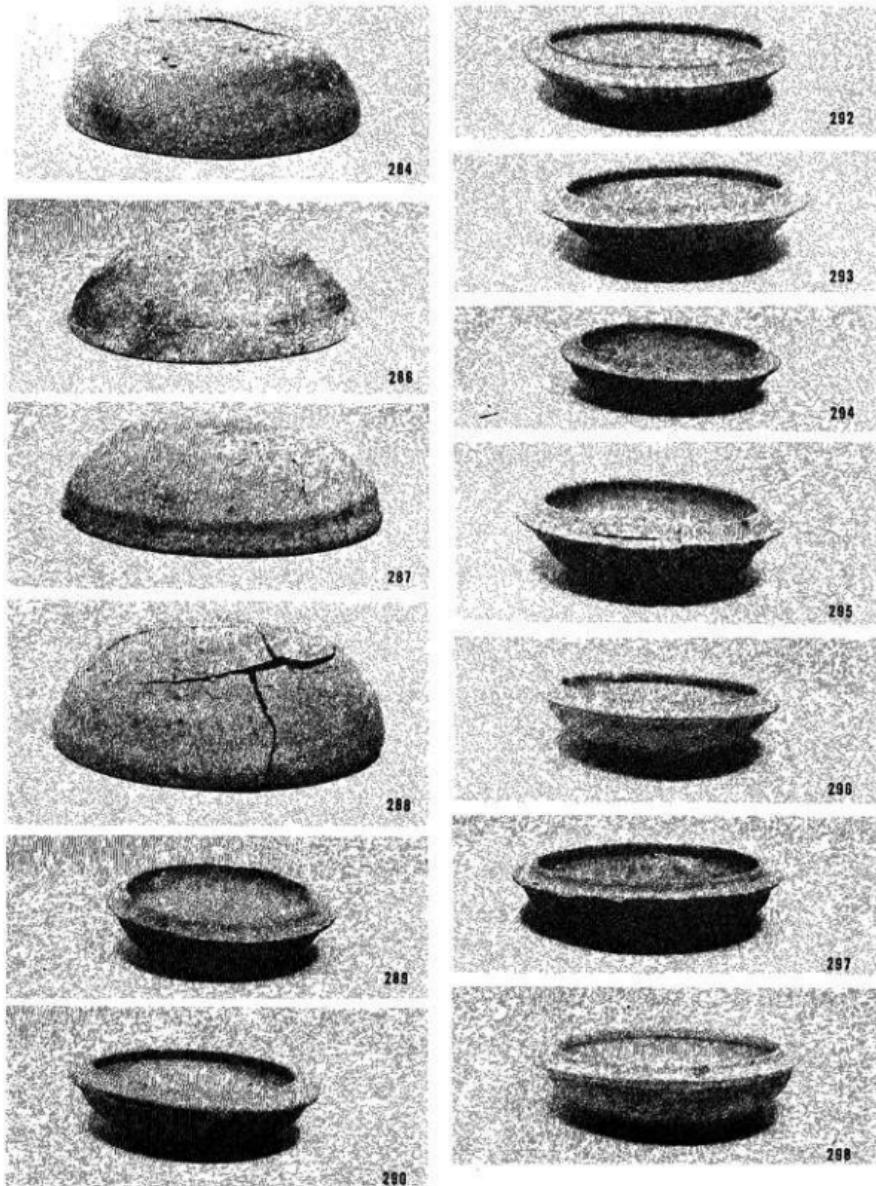


277



282

图版23 A地区出土上器(7) B地区出土上器(1)



图版24 B地区出土十器(2)



299



300



301



302



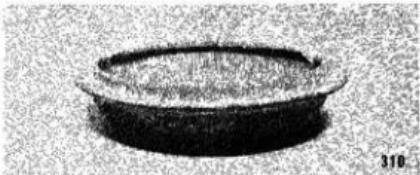
303



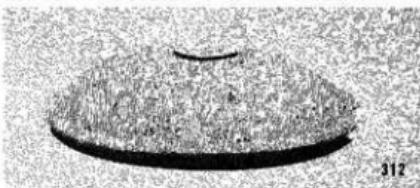
305



308



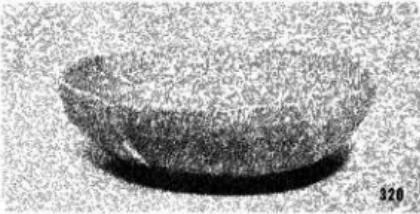
310



312



313

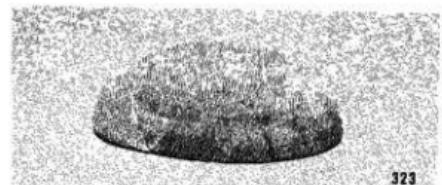


320

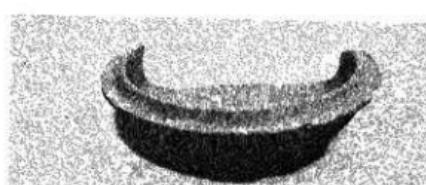


321

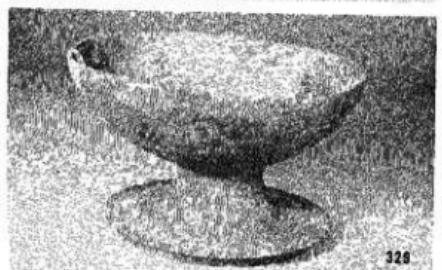
图版25 B地区出土土器(3)



323



355



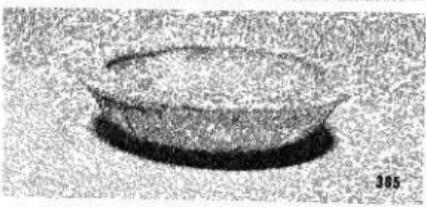
329



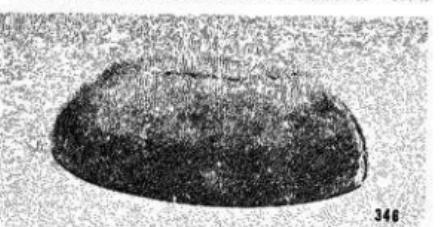
374



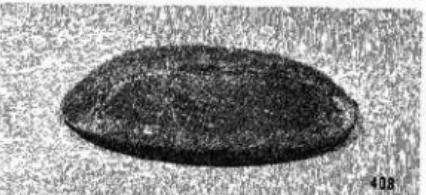
342



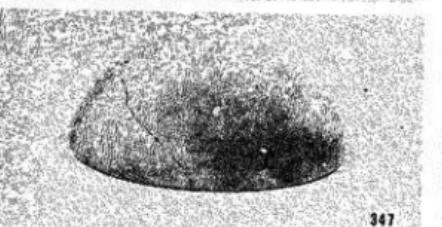
385



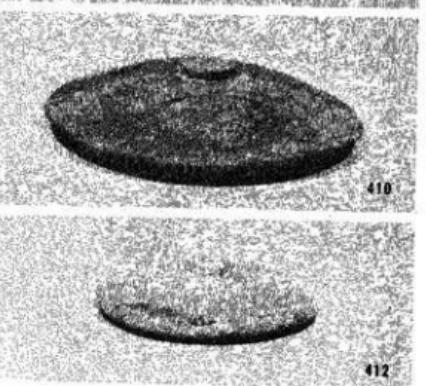
346



408

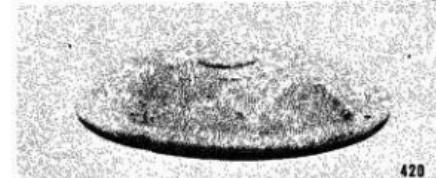
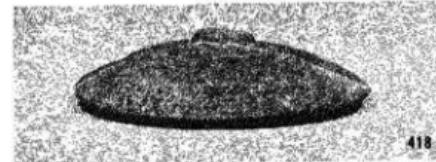
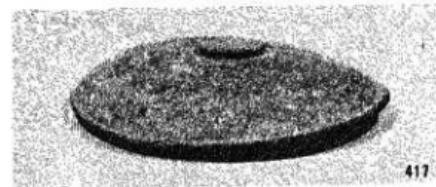
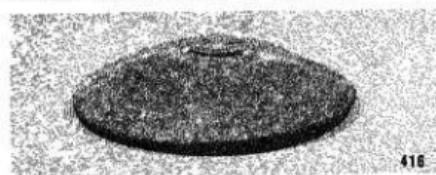
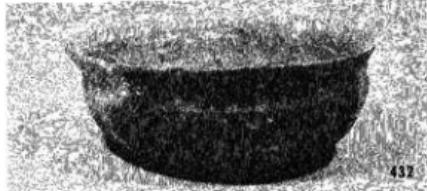
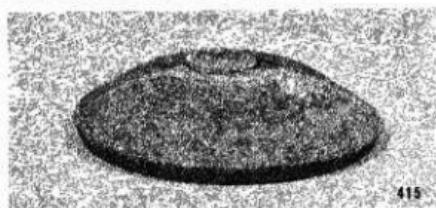
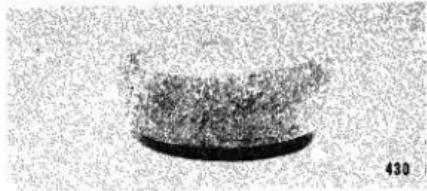
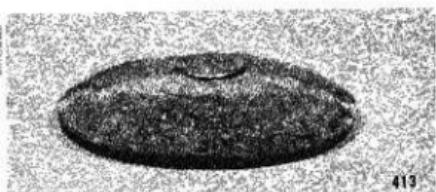


347

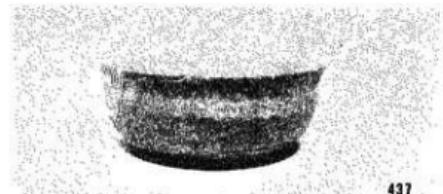


410

圖版26 B地區出土十器(4)



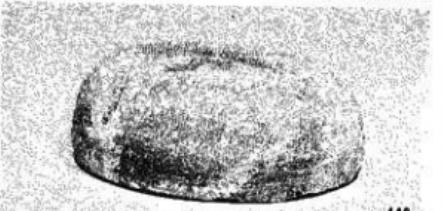
圖版27 B 地區出土土器(5)



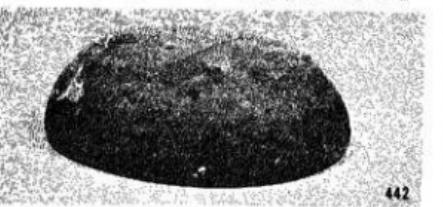
437



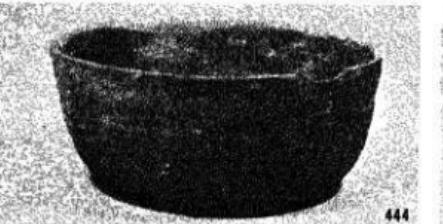
438



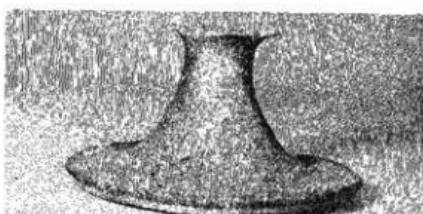
439



440



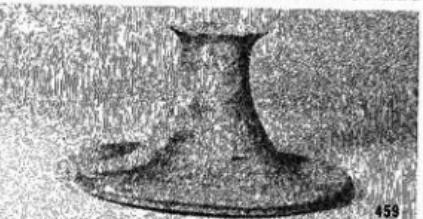
441



454



455



456

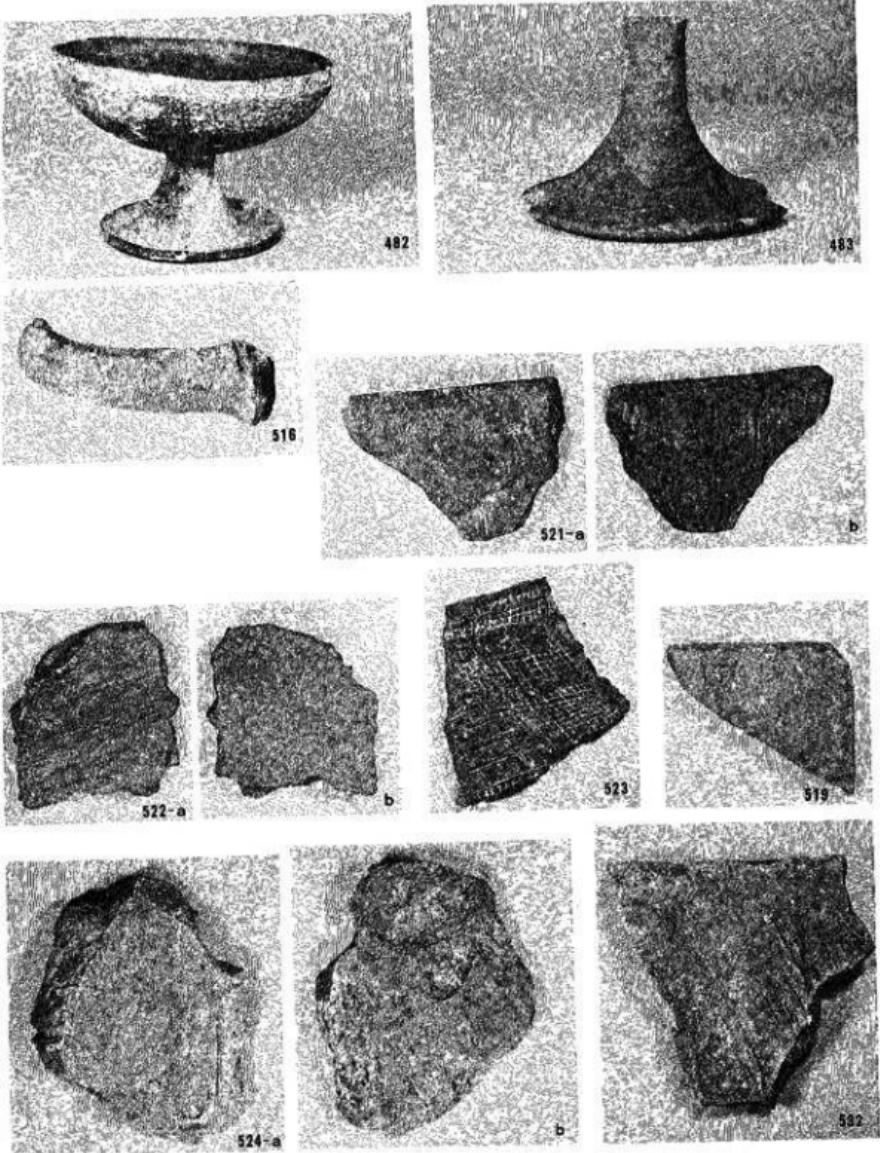


457



458

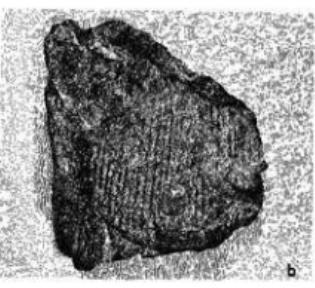
圖版28 B 地區出土土器(6)



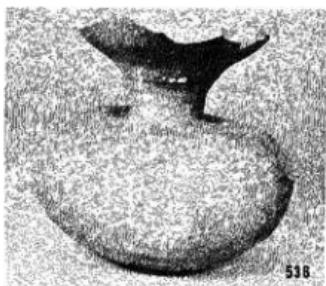
図版29 B地区出土土器(?) J地区出土土器及び瓦(1)



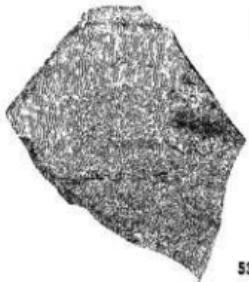
531-a



b



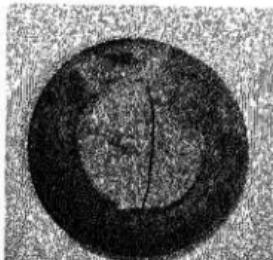
538



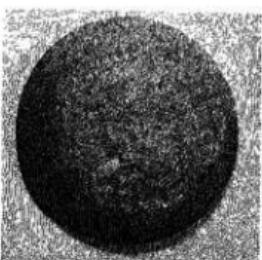
539



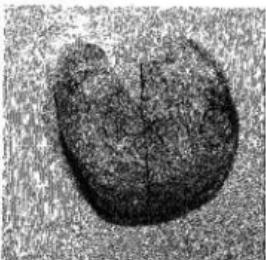
540



ヘラ切り状況



ヘラ記号



ヘラ記号

---

---

伊藤田城山窯跡群

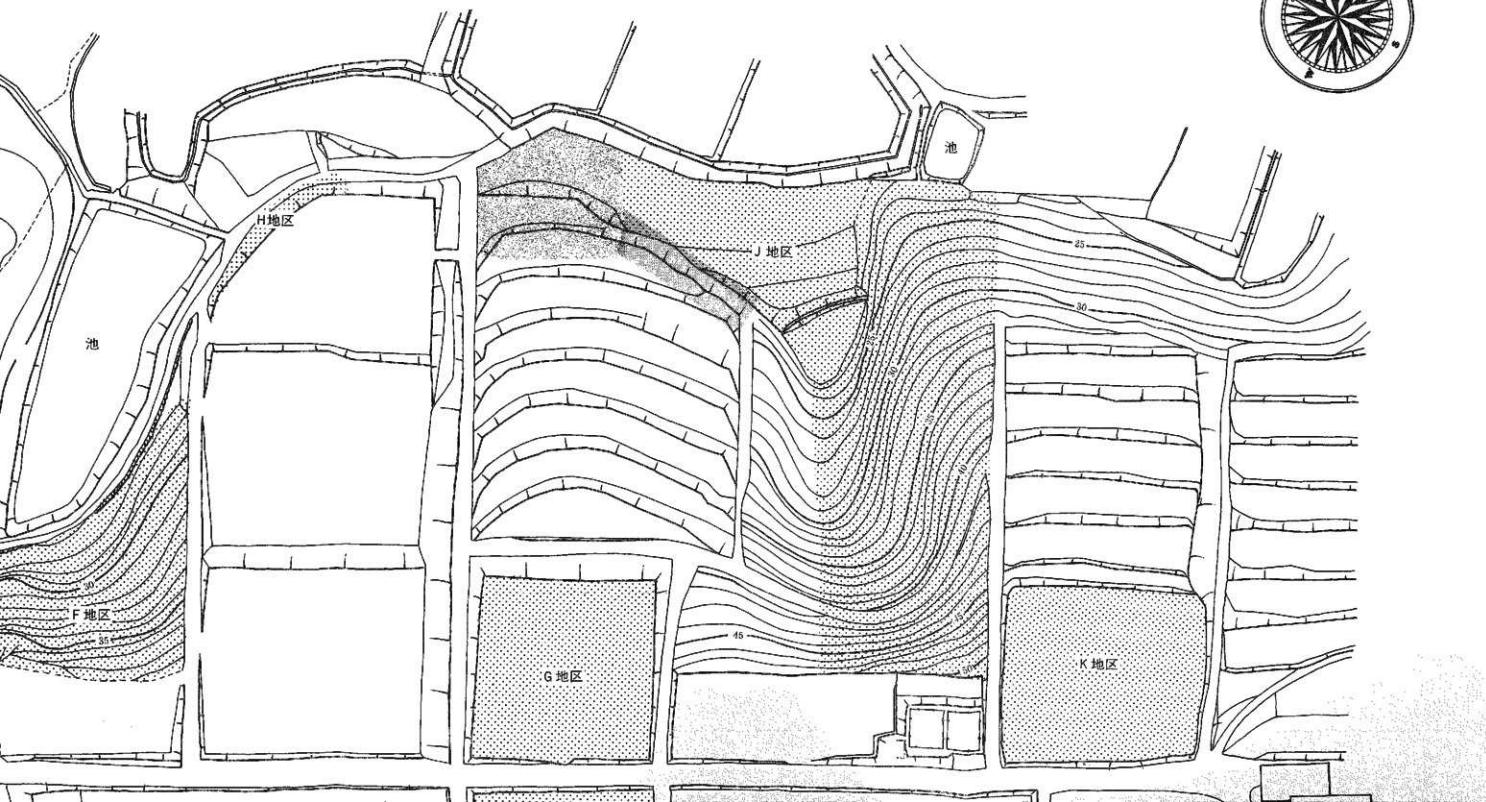
中津市埋蔵文化財調査報告 第5集

昭和 60 年 3 月 31 日

発 行 中津市教育委員会

印 刷 明治印刷株式会社

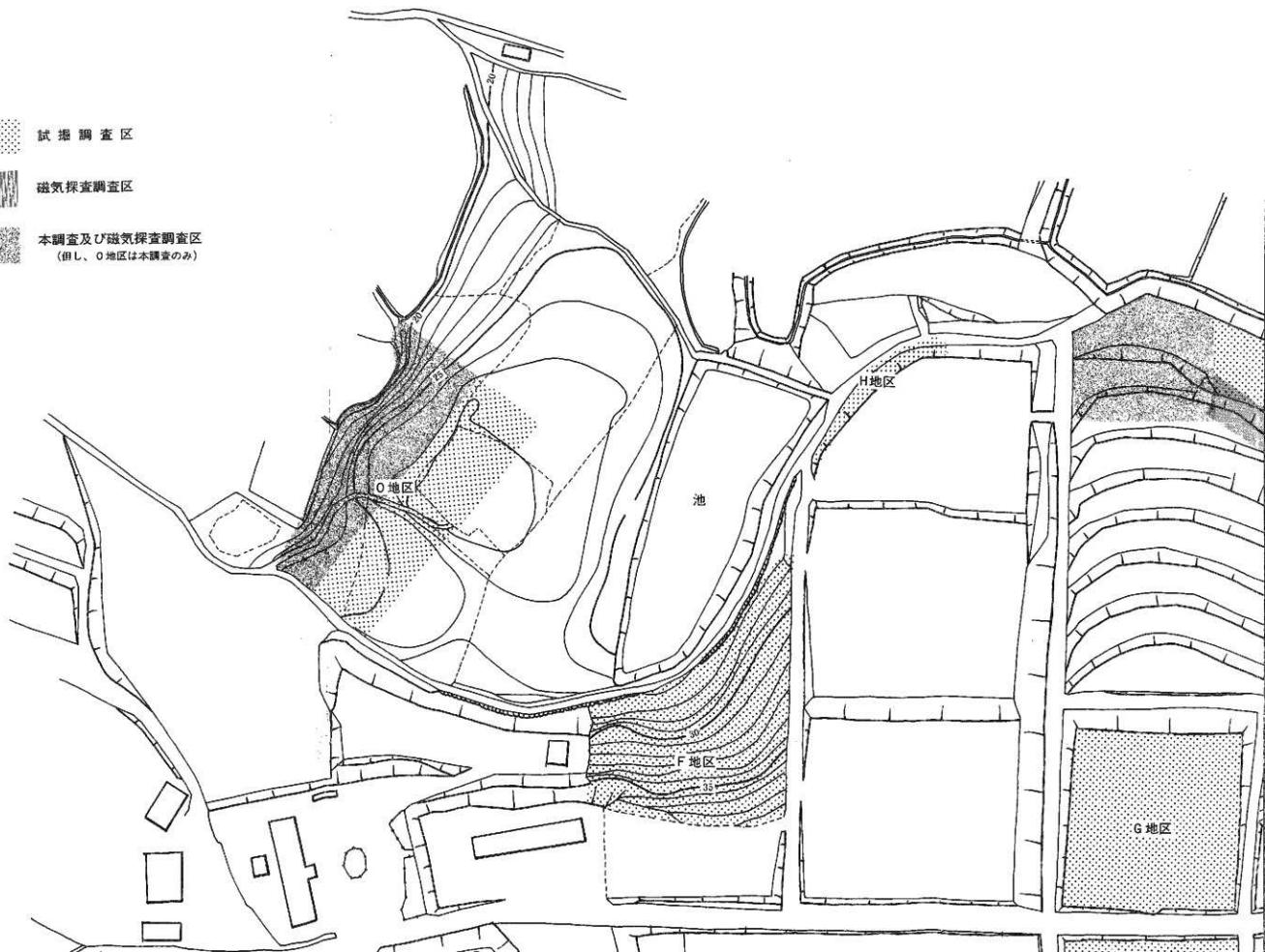
---

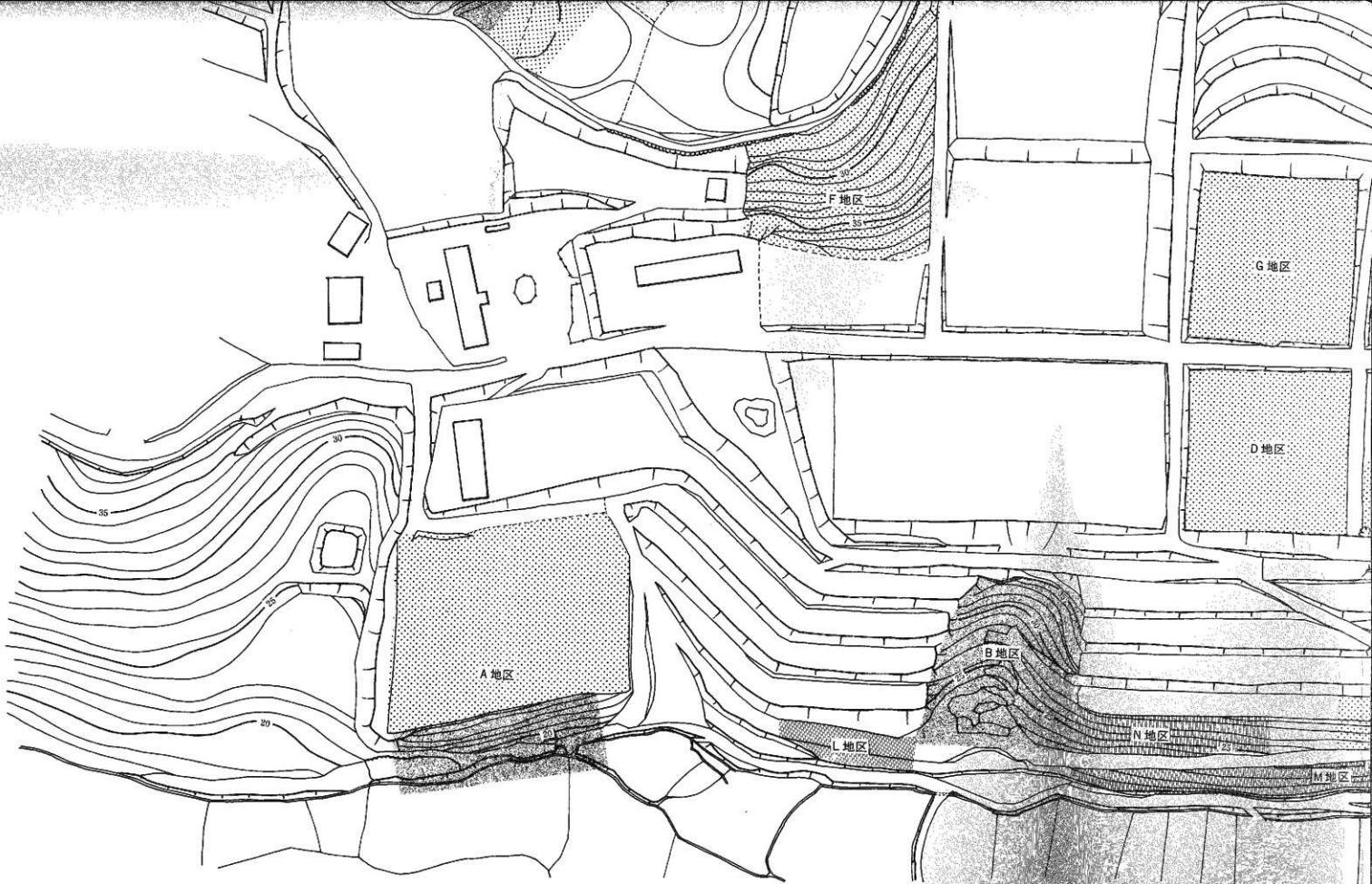


試 塚 調 査 区

磁 気 探 査 区

本調査及び磁気探査調査区  
(但し、O地区は本調査のみ)





別図 伊藤田城山廻跡群地形図 ( $S = 1/1000$ )

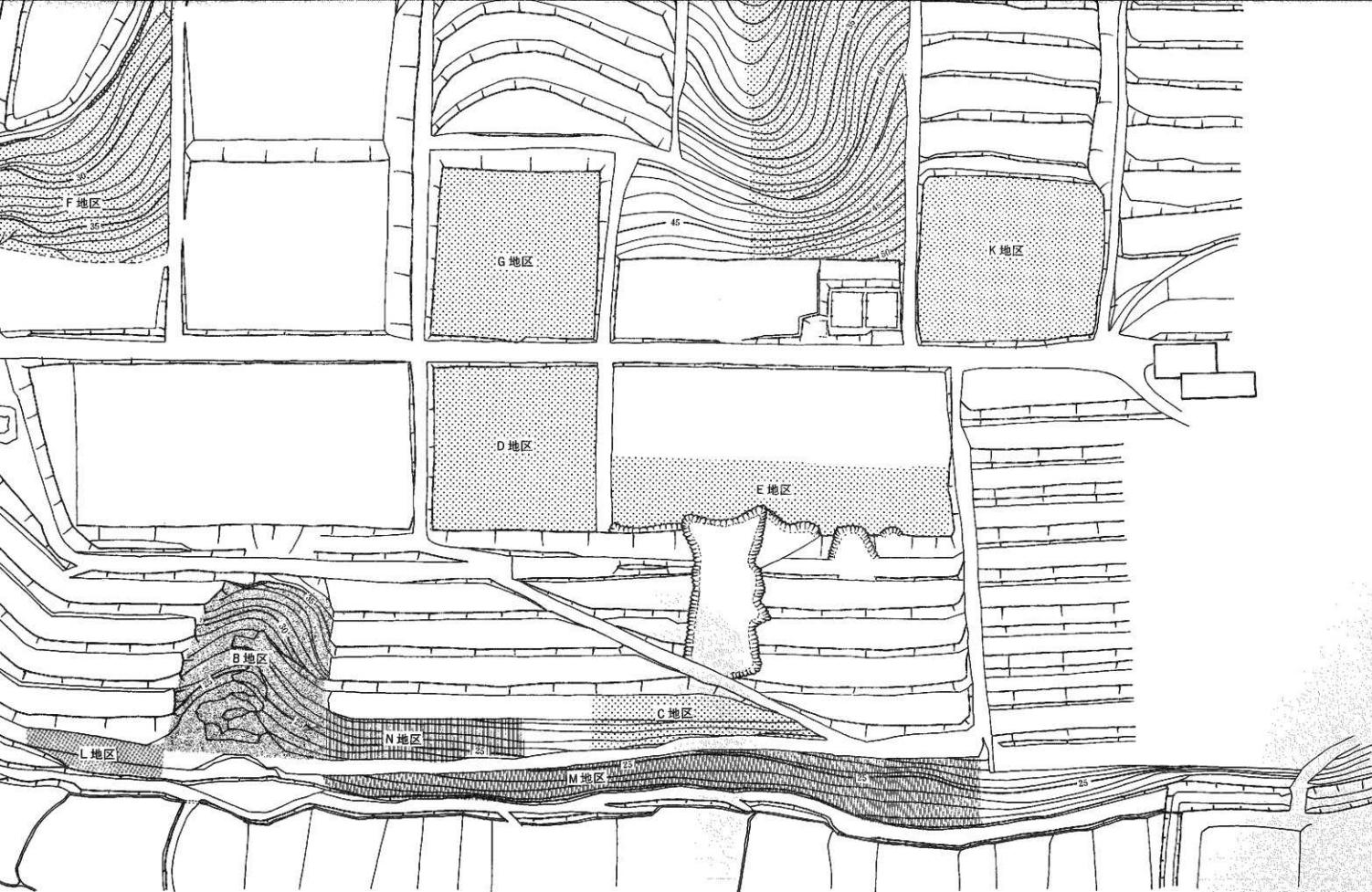


図 伊藤田城山 窠跡群地形図 ( $S = \frac{1}{1000}$ )